



13
468
3止



468
3



冕衣



大裘



衣服儀制珍寶

唐土訓蒙圖彙卷之十

器用之四

冕毳



冕驚



一耀齋芳玉女



小



冕玄夫大卿 冕衮公上 服之燕



弁皮士 冕希孤 冕毳男子



弁爵 弁章 冕希



冕鷩伯侯 端玄 弁皮



皇朝禮記卷十一

大禮

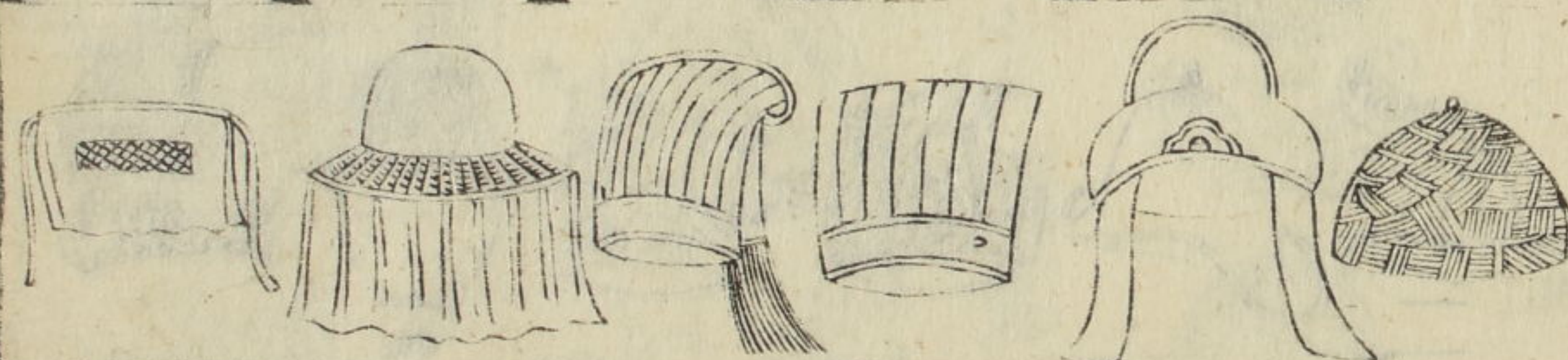
冠緇 弁紮 冕麻 冕周 甫章 遐母



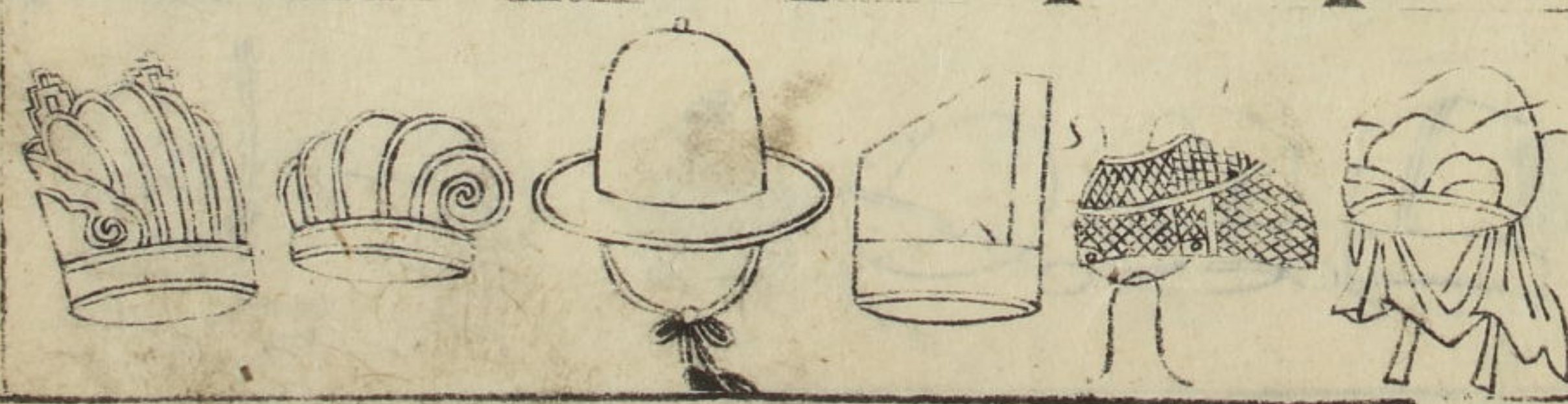
弁雀 弁皮 撮緇 冠積介 貌委 冕漢



衣面 帽帷 巾萬 冠積玉 冠皮 臺



冠清忠 帽葛 帽大 巾儒 巾網 巾幅



服之 容王 白展 衣禪 色黑 先右 祭後 服之 祭の 色青 狄揄

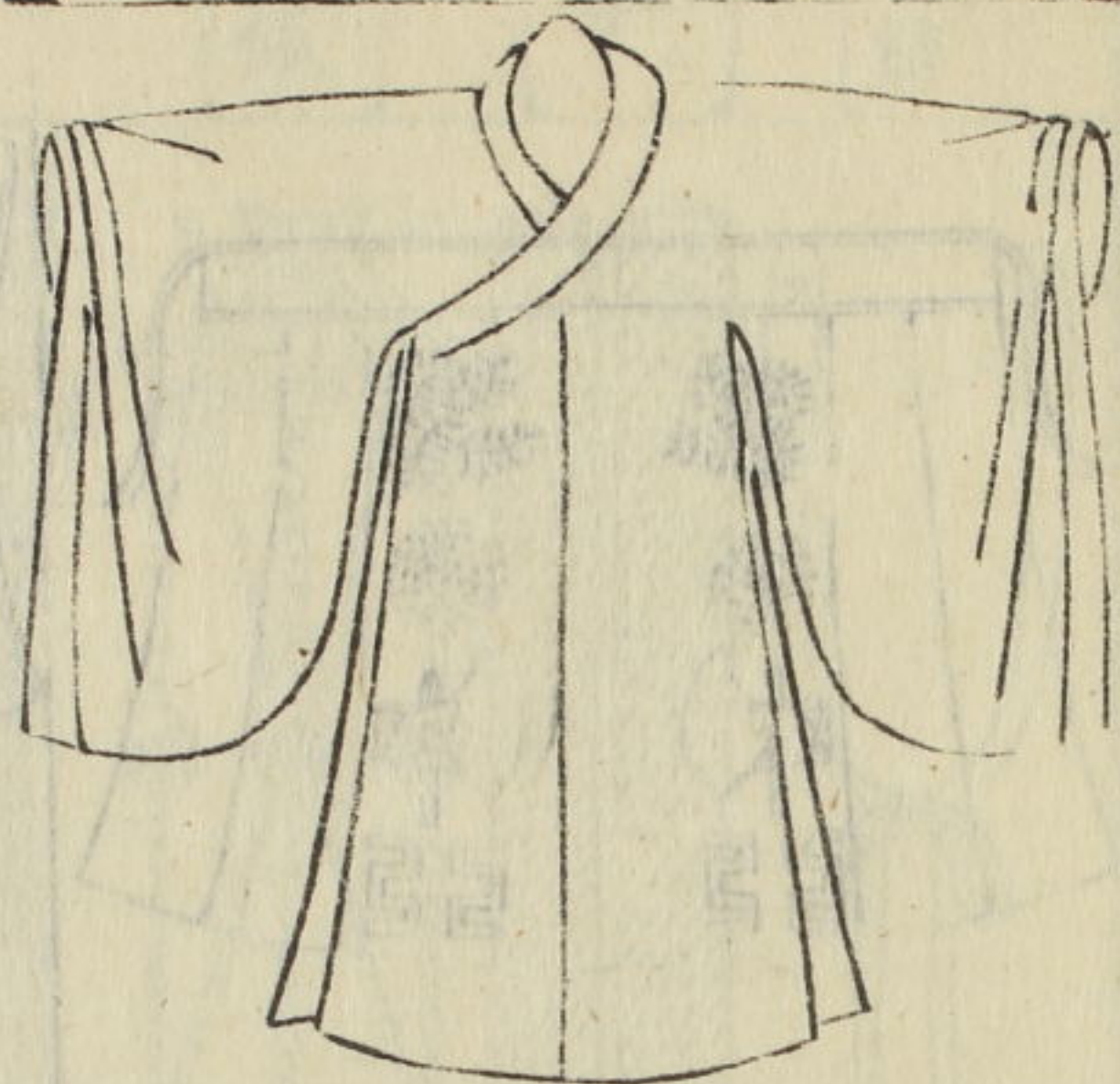
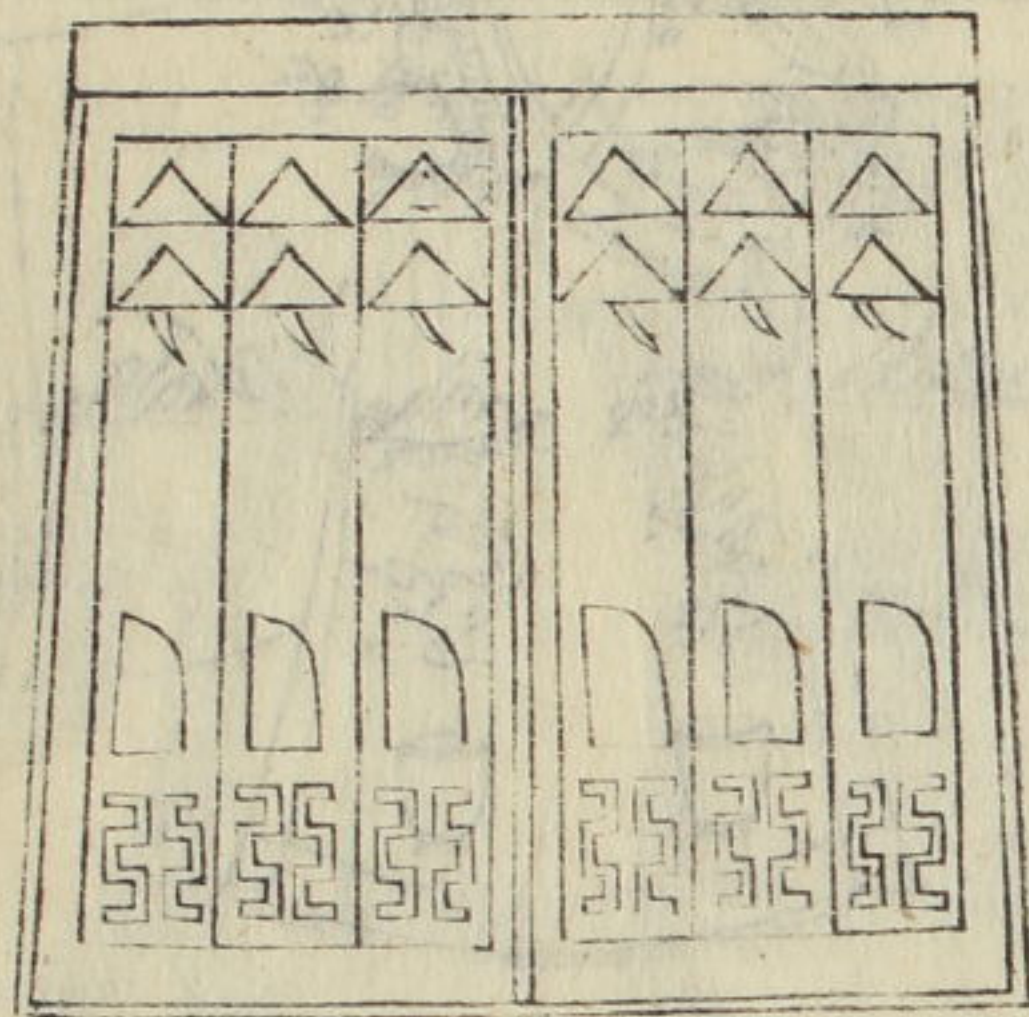


服之 主に 黒色 衣袂 後と 右桑 色黄 衣鞠 後の 小赤 狄關



唐五訓蒙圖卷十

衣のきまの服の裳
裳の下に裳



虞の書 十の二 章



宗彝



山



日



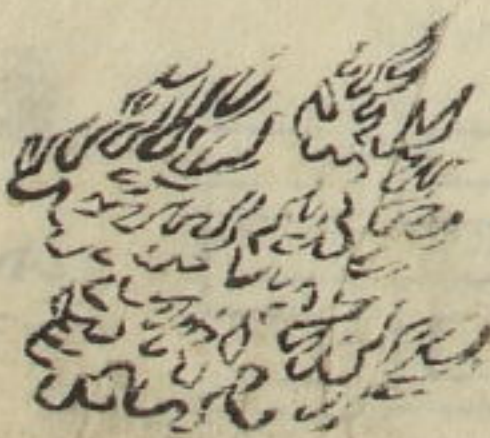
藻



龍



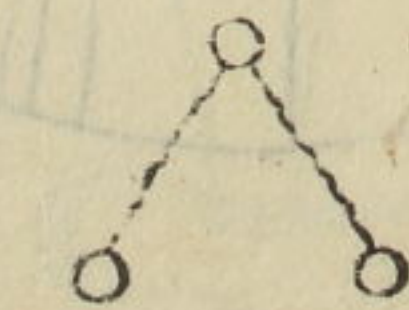
月



火

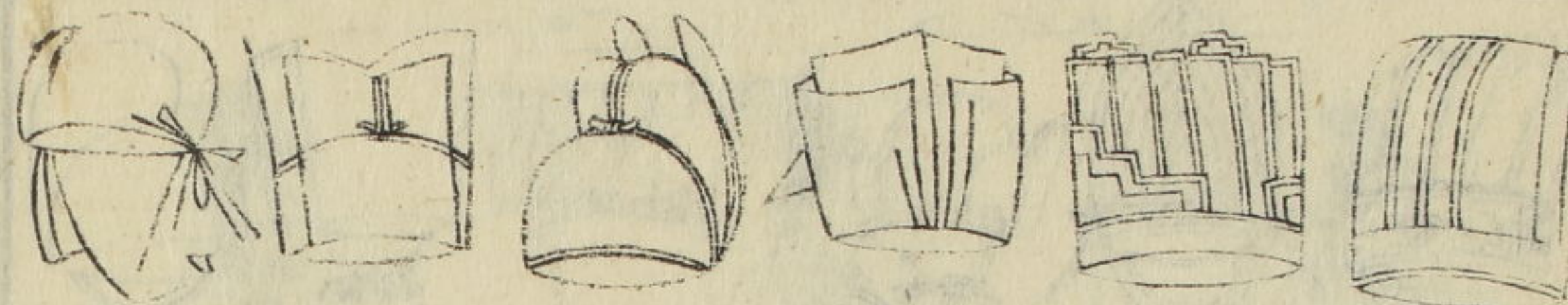


華虫



晨

巾周四 巾之裳 帽紵 巾之裘 巾之雲 巾之五治



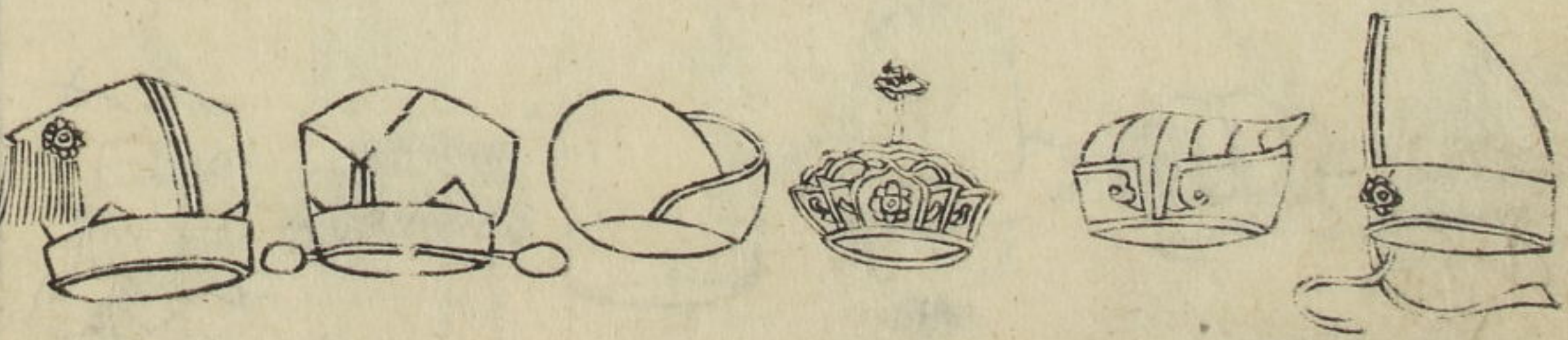
笠鬘 笠翅鳳 巾之結 巾之將 巾之老 巾之陽



帽之韃 笠之檀 帽之山三 冠之髮東 帽之標纏 巾之貂金



帽之隸皂 巾之吏 帽之蓉英 帽之僧 冠之道 巾之雷



御土御衣圖景卷十

三

悦えつ
のちか

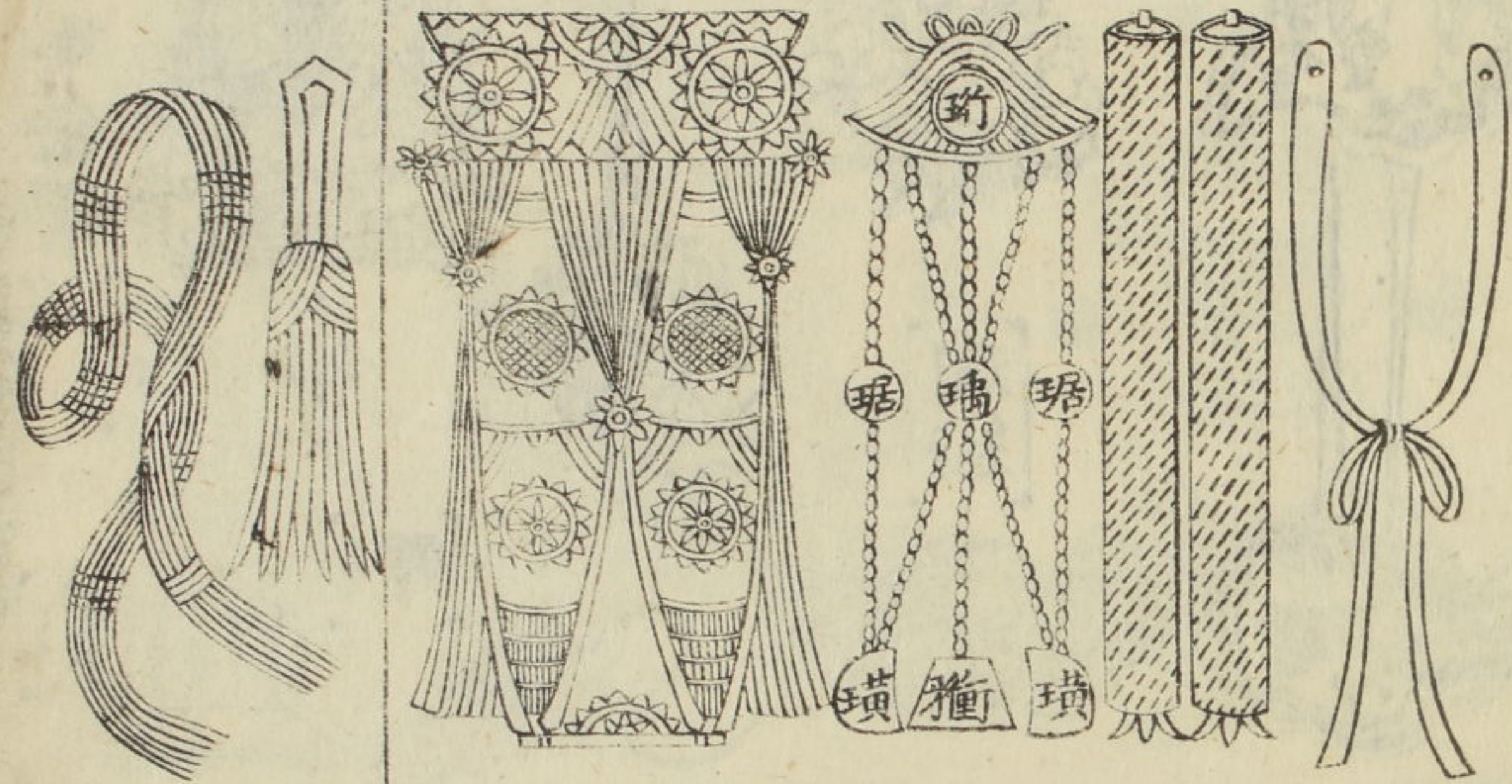
縞いと

綬しゆ

雜佩ざうはい

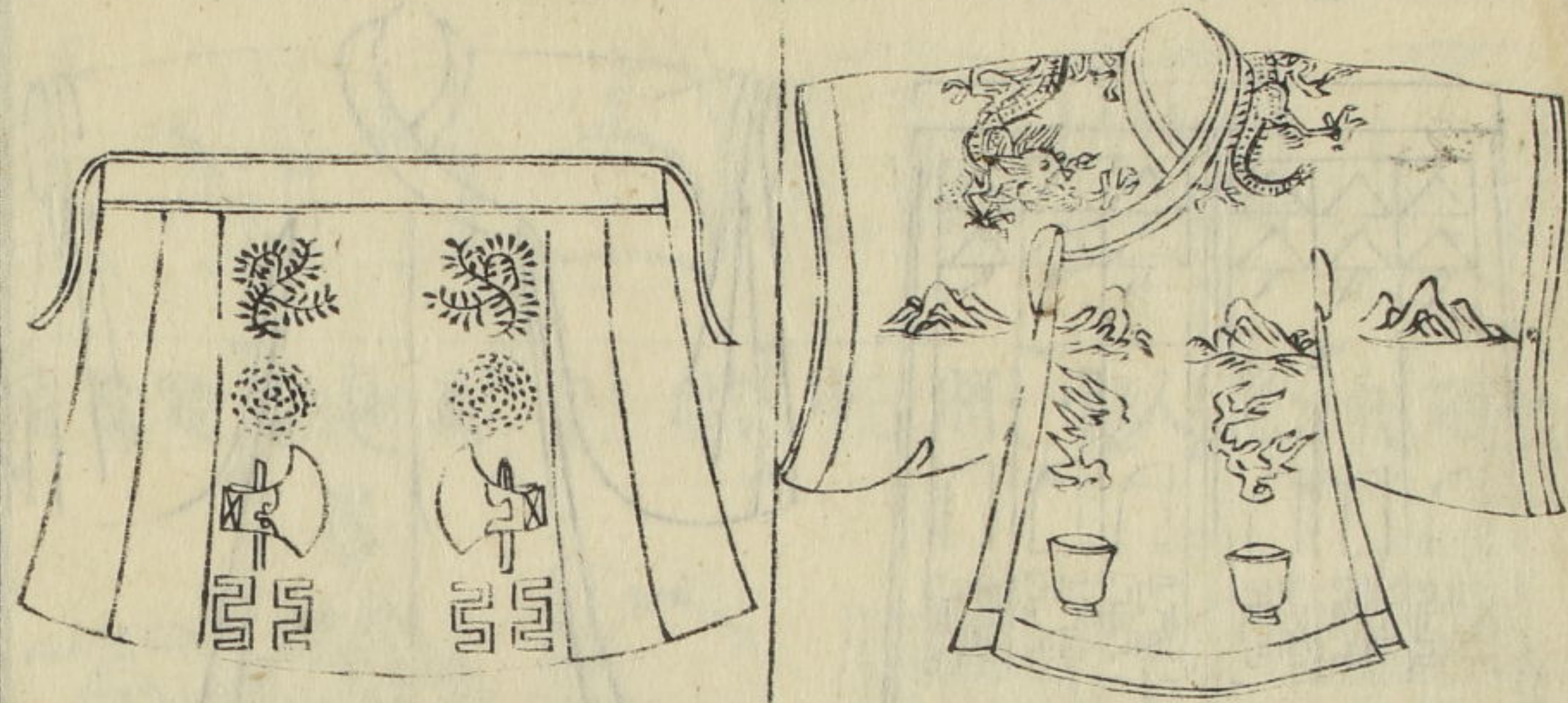
瑱てん

冠綉くわんしゆ



圖ず裳しやう繡しゆ罽き九く

衣いのの天子てんし圖ず衣い衾しん罽き九く

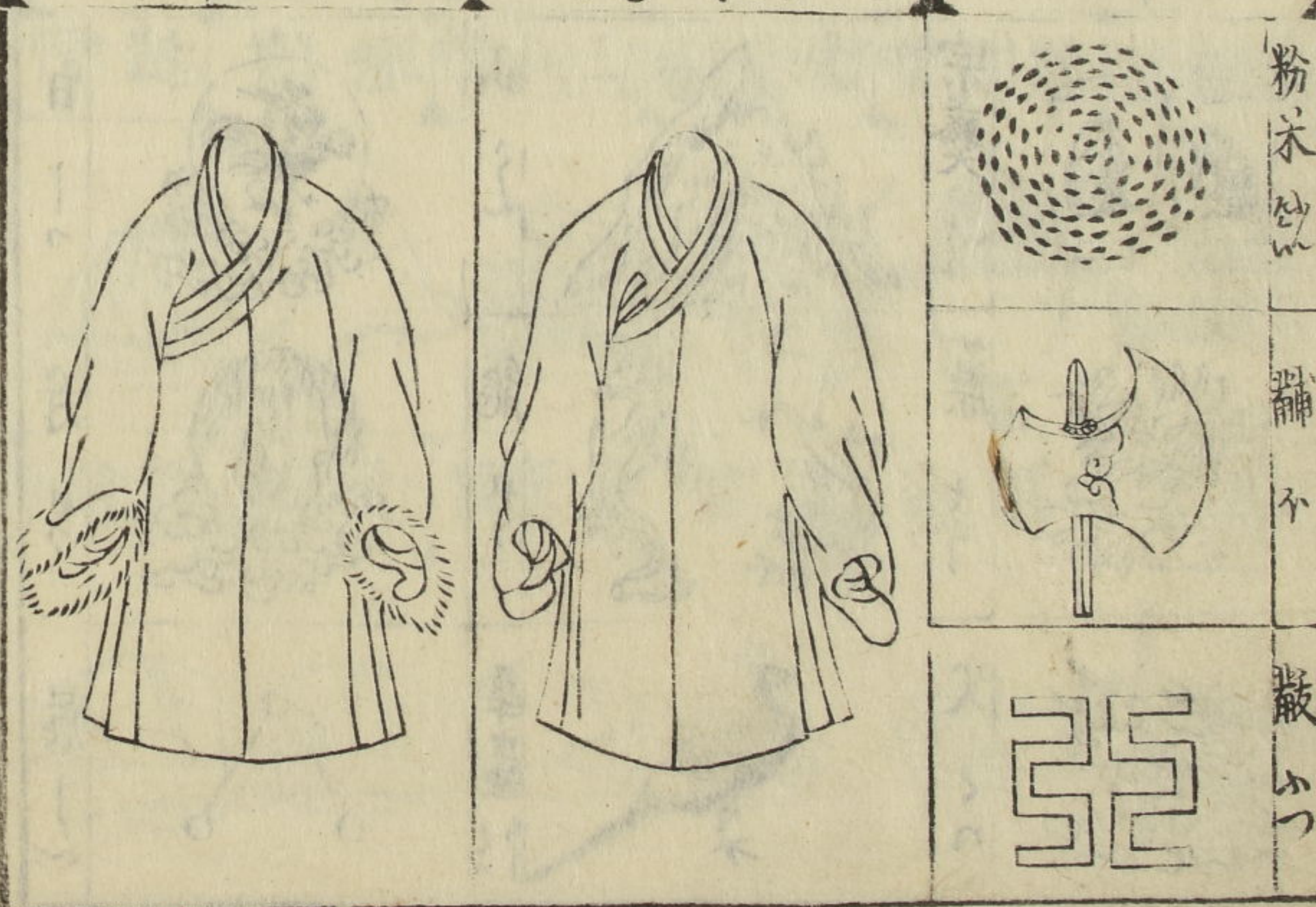


唐土訓蒙圖景卷十

ももころころののふふ裘きう羔かう

ししころころののふふ裘きう狐こ

圖ず服ふく



粉こな木ぎ紗さ

繡しゆ不ふ

罽き不ふ

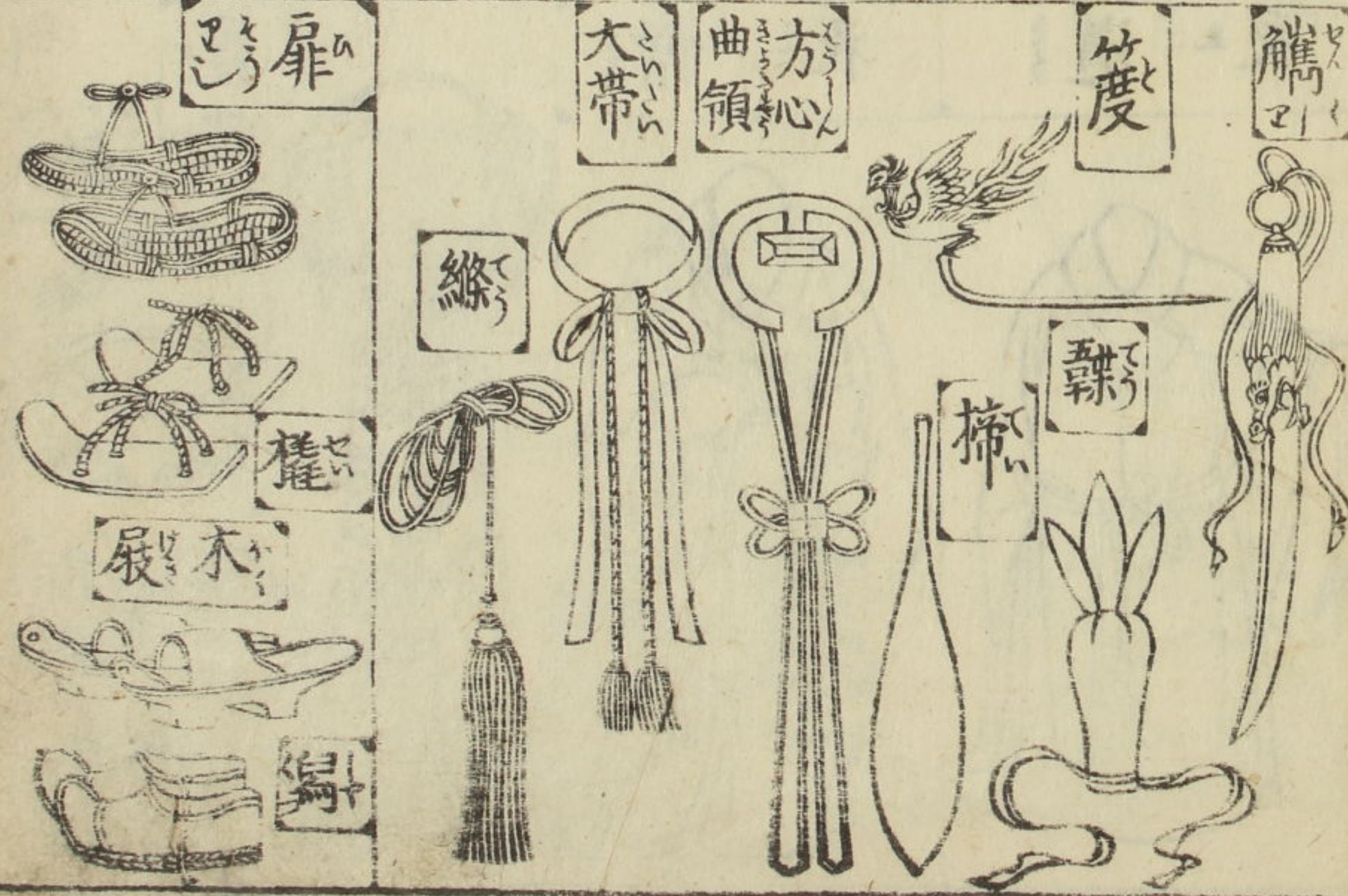
扉ひら

大帶たいたい

方かた心しん
曲まが領りやう

竹たけ度ど

觿けい

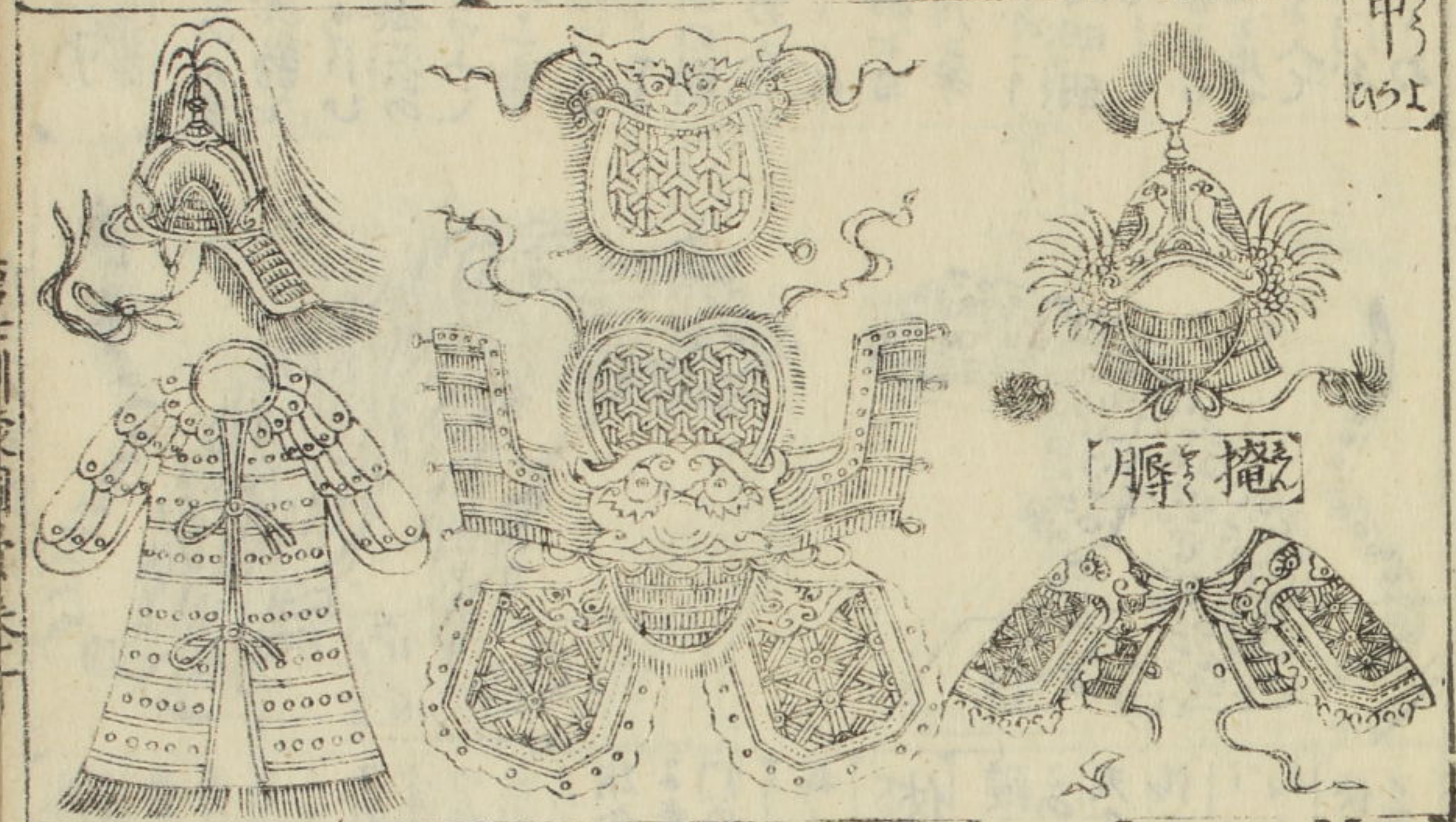


縵まん

鞞ぎん

櫛し

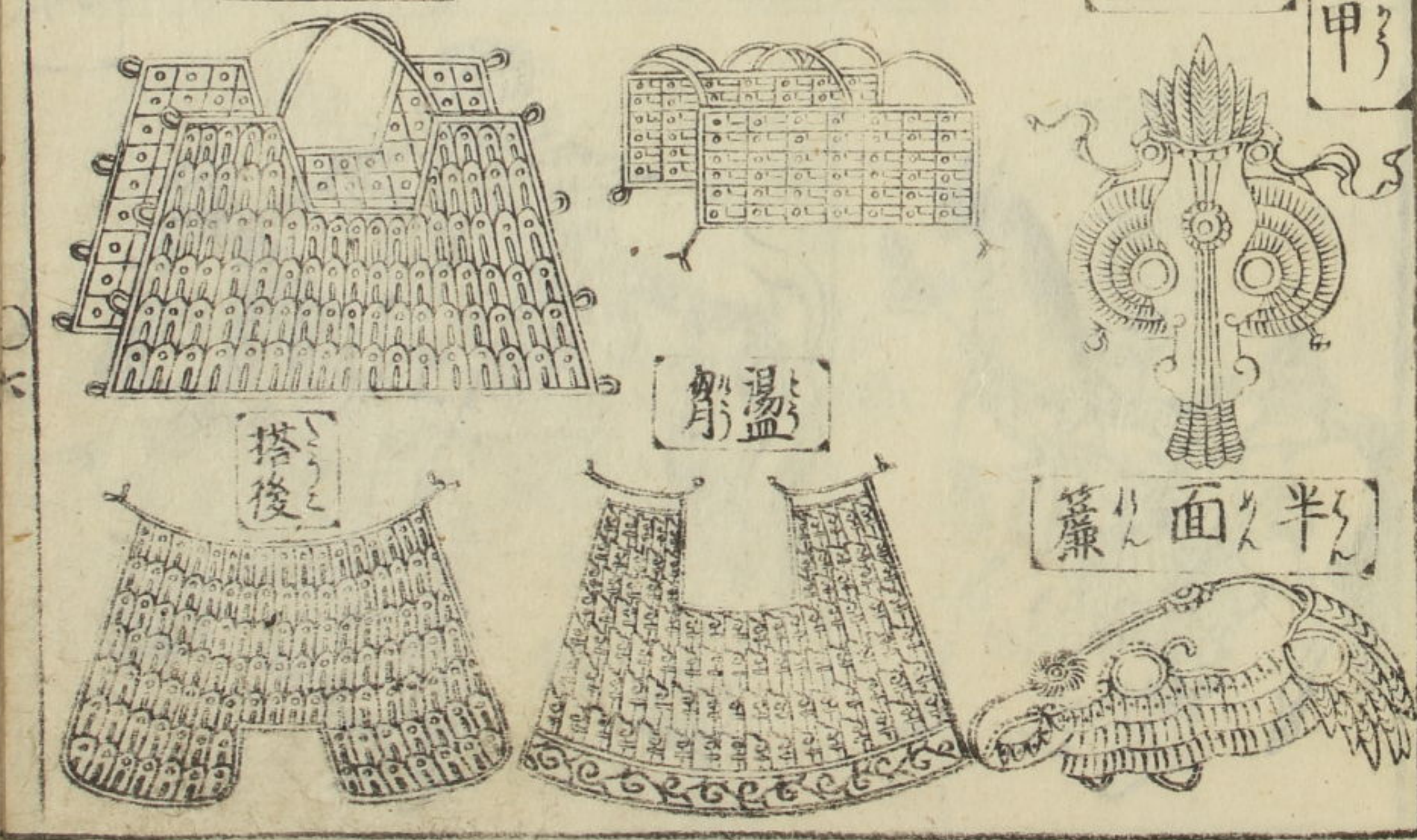
人形 頭 鑿 七 結 頭 項 身 甲 擊 兵 盛 甲 式



馬身甲

鷄項

馬甲 面簾

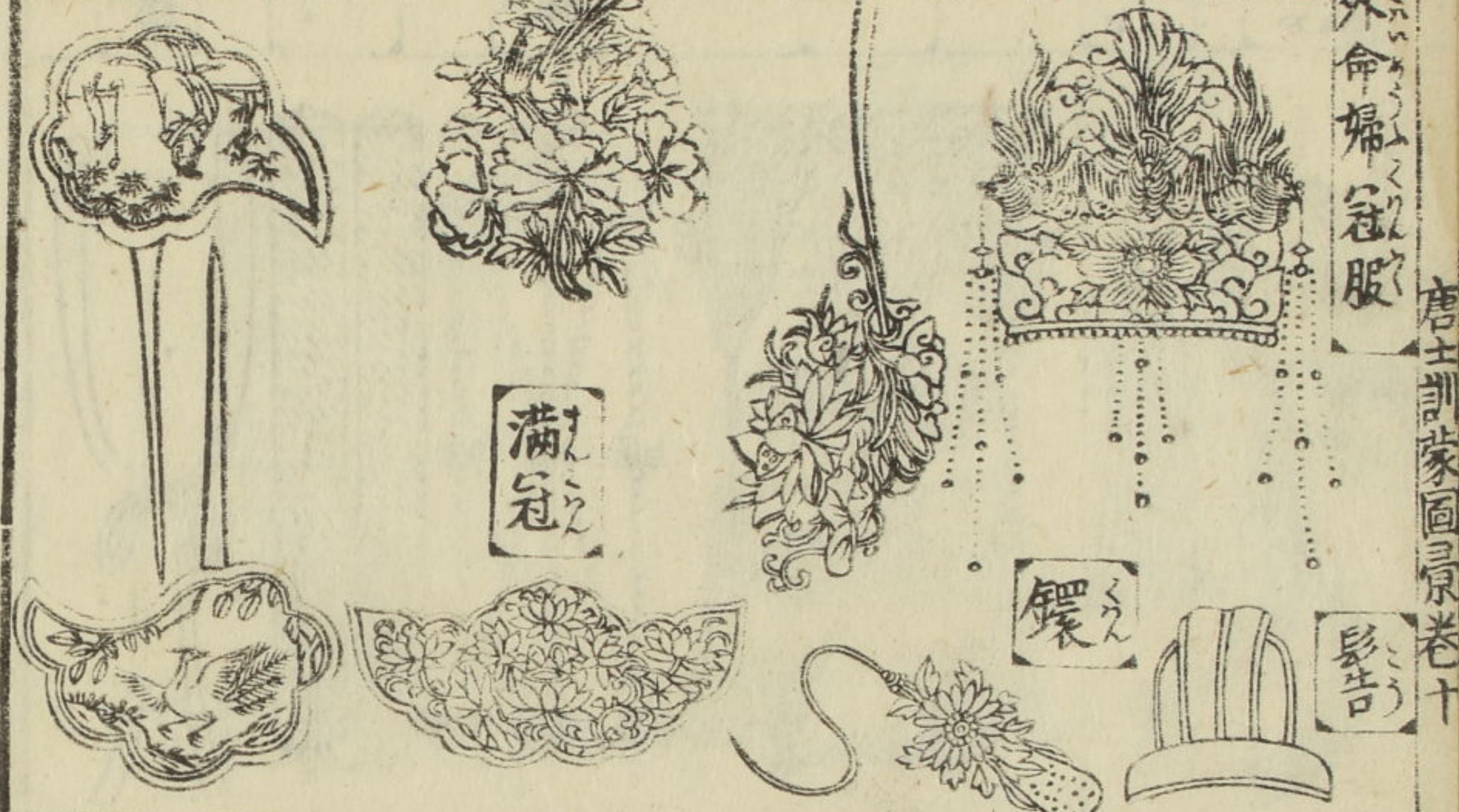


塔後

盤

半面簾

兩博髻 花面 釵 冠 內外命婦冠服



滿冠

釵

髻

道衣 僧衣 霞披 釧



釧

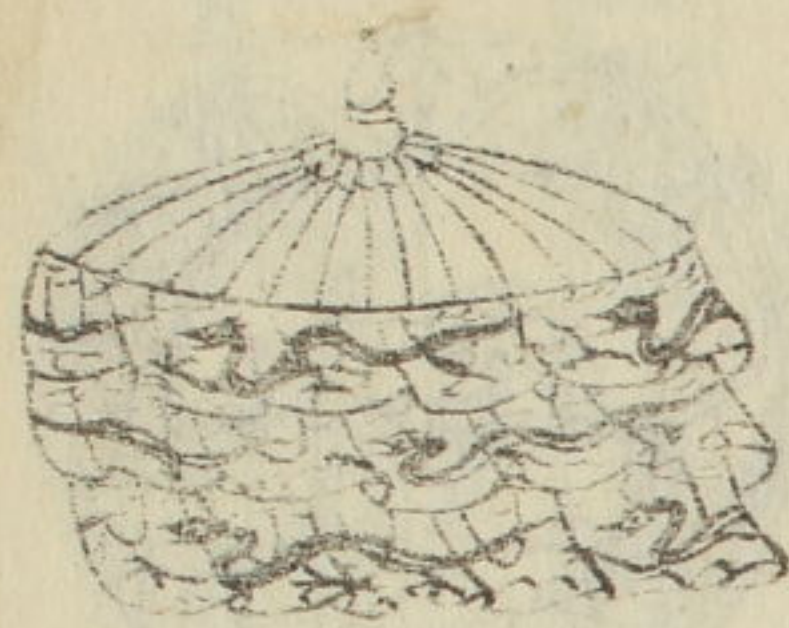
指環

福壽

唐土訓蒙圖景卷十

五

蓋い黄き



髦と儀ぎ



髦と載り



髦と戈が



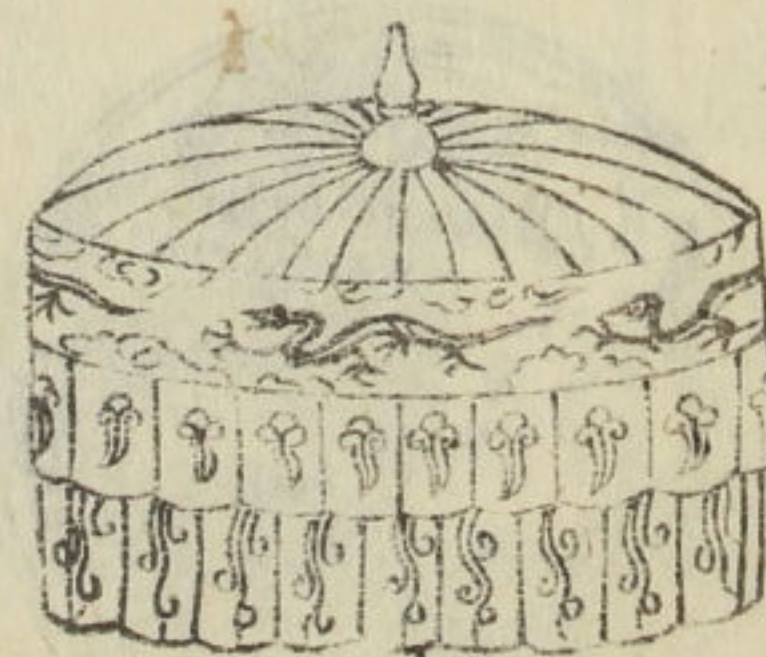
扇あ雉けい



蓋い華か

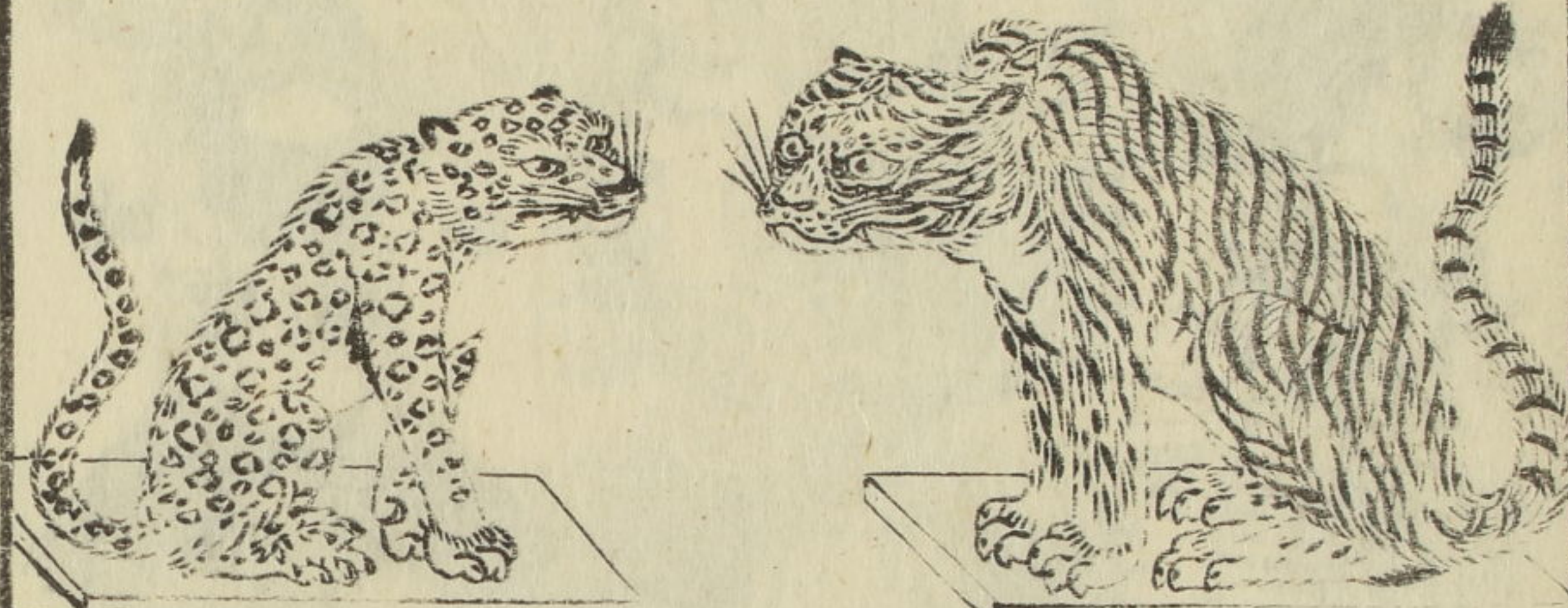


繖い大だい



虎豹

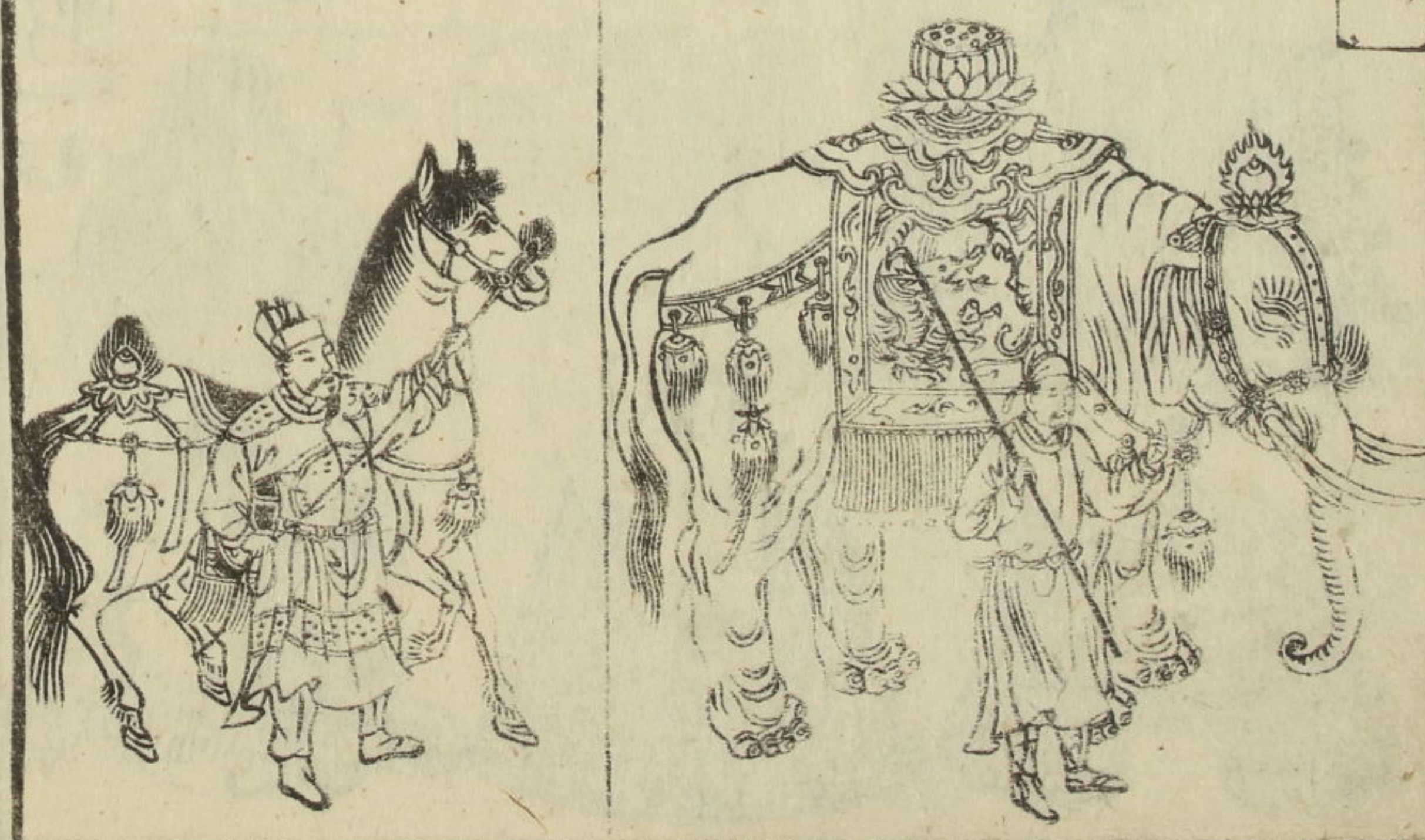
天子の九章
門虎豹と
してちりひ
そとに
ふとひこ
これと帝
乃居
恐淵の制
大
あ
虎豹と日
移月
門の
つ
も
皮豹と各
園檻と用
これとへ
奉天門か
う



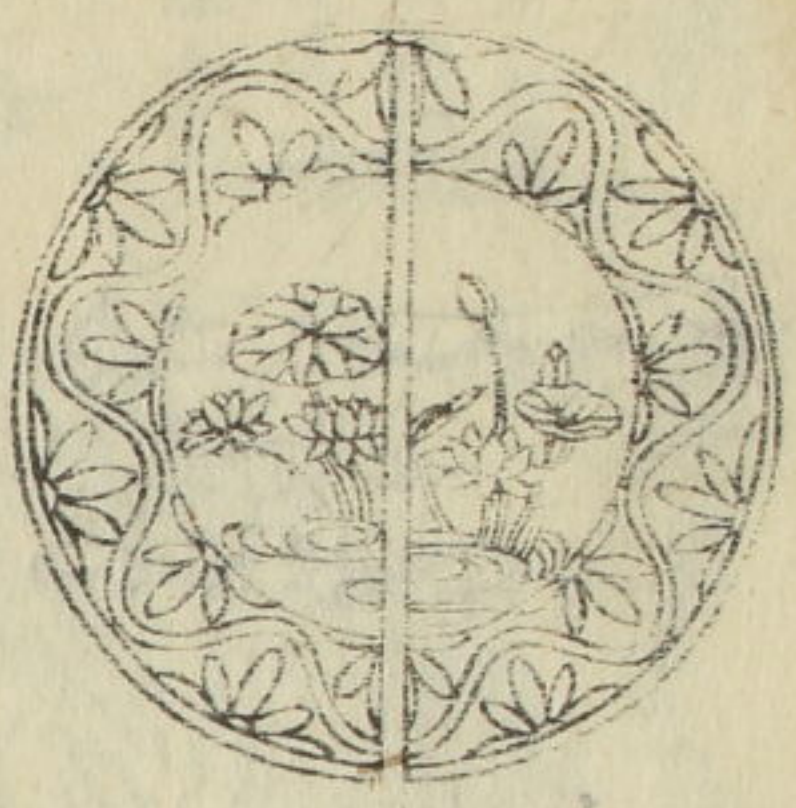
唐土訓蒙圖書卷十

馴象

晋の武
帝の時
有
馴象
これ
の代
は
乃
奉天
門の
あ
伏馬
の
天子の
引
伏兵衛



龍繪



朱雀



武劫



龍龍



白虎



五明



大豹尾



龍頭竿豹尾

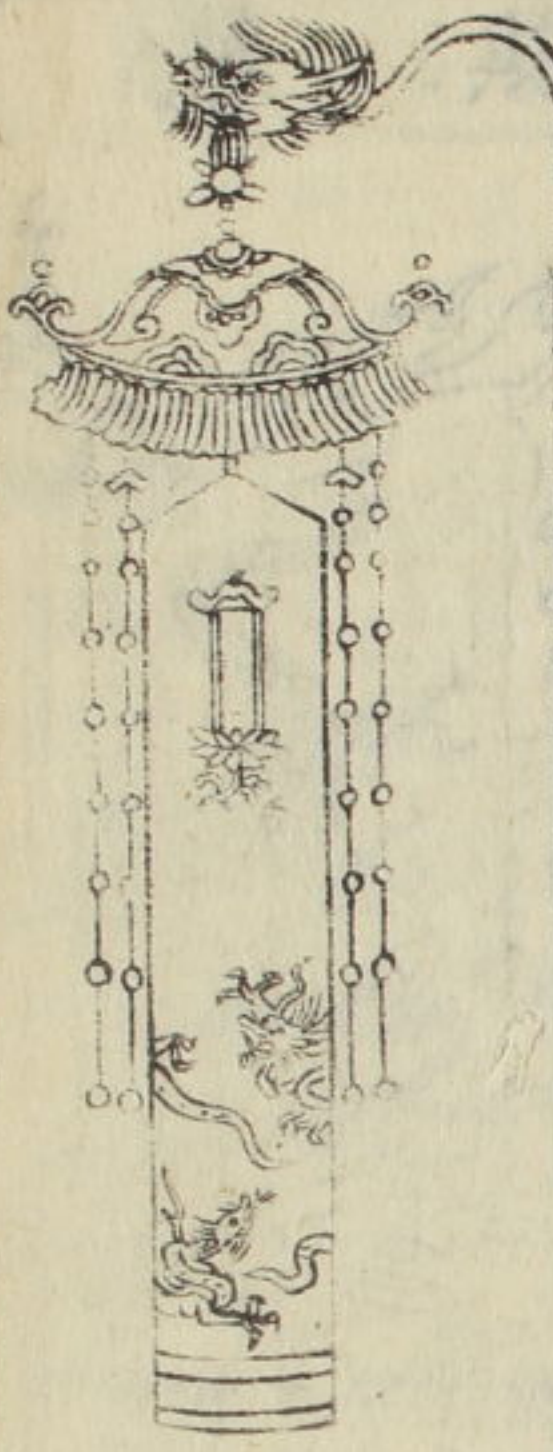


告止

御行止つハ此旗と云らん

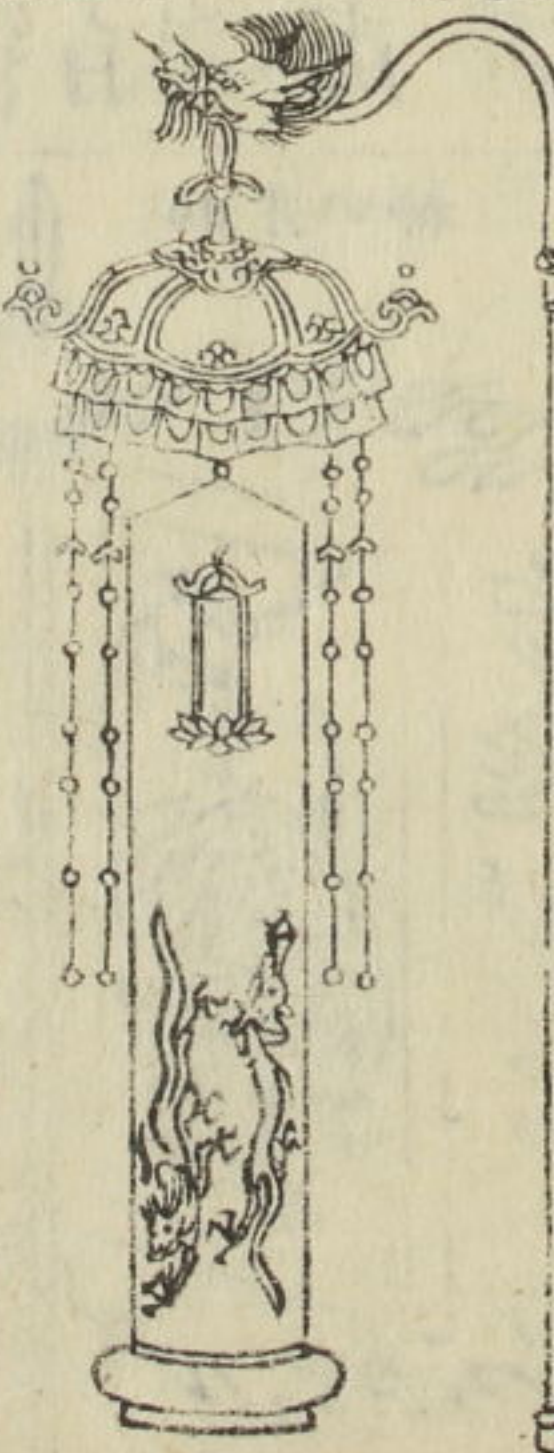
傳教

御行速々令すハ此と用也



信旗

此旗の旗と云つて信と

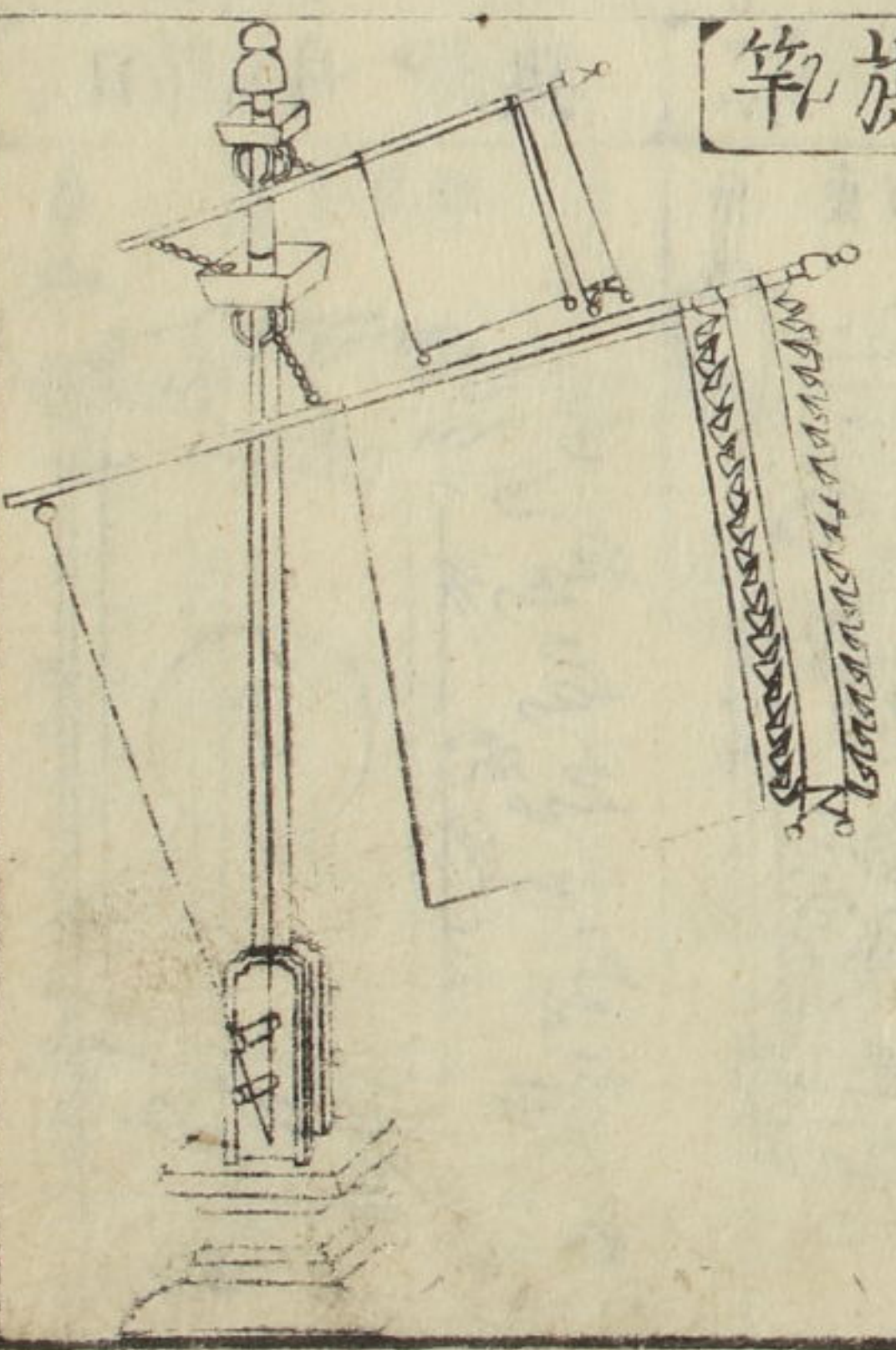


麾旗

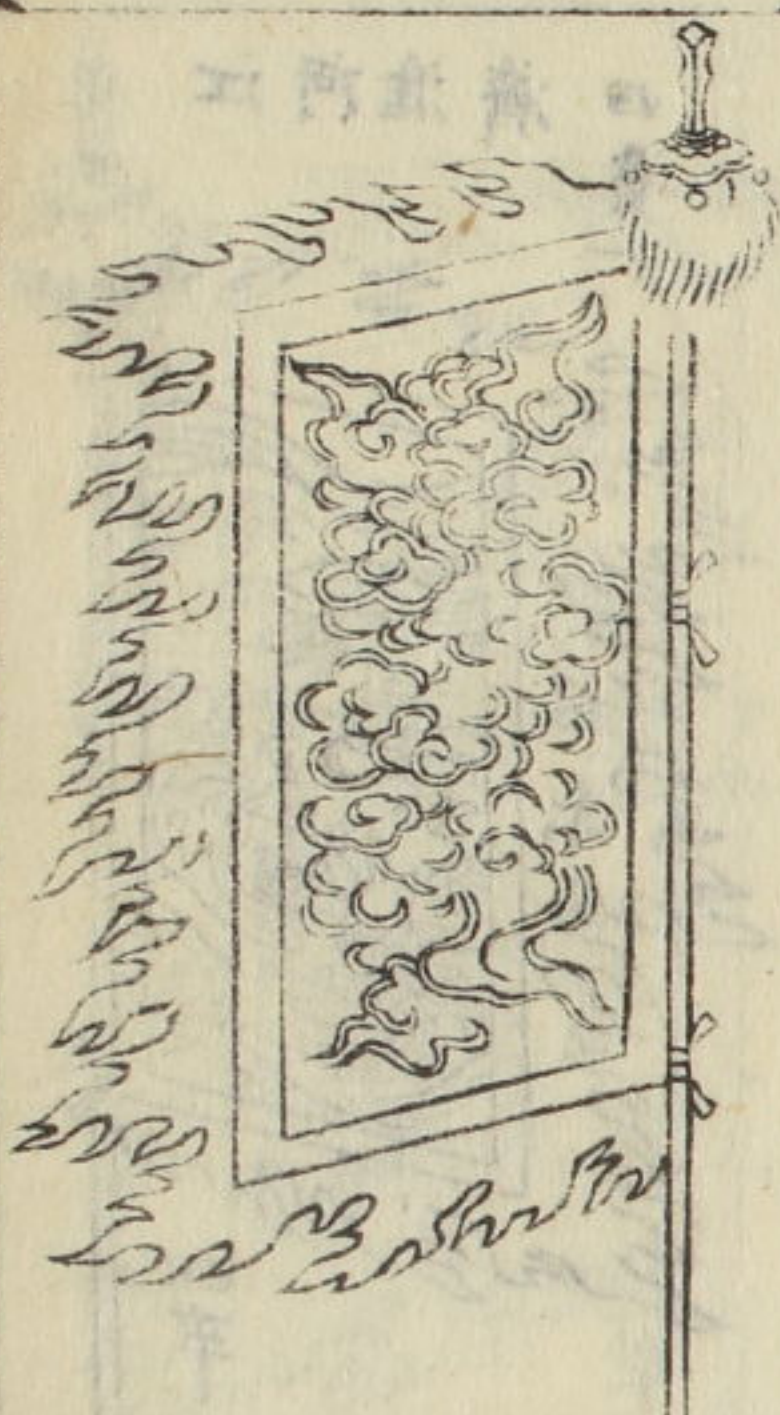
二竿と云ふ此旗と云ふ



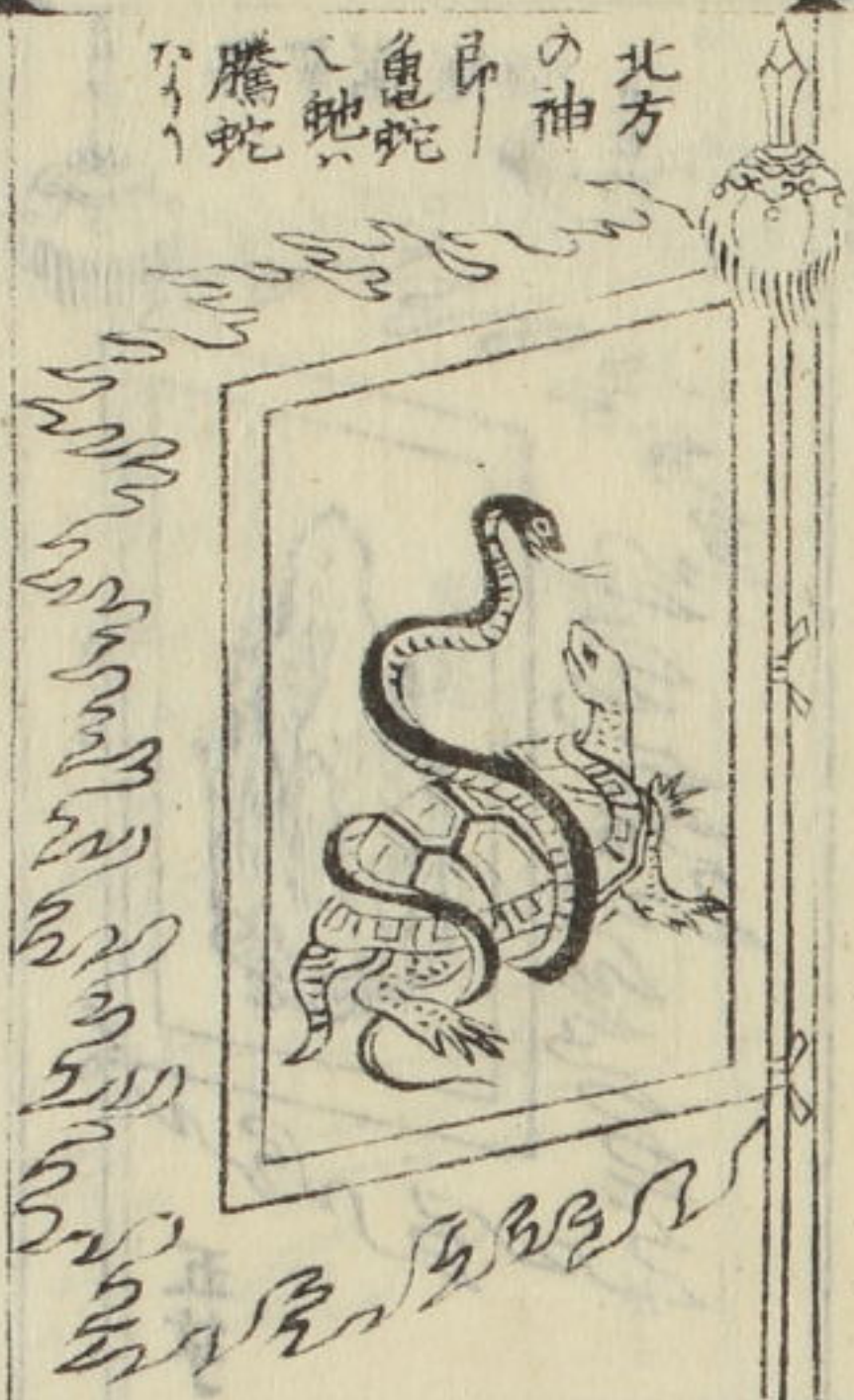
旗



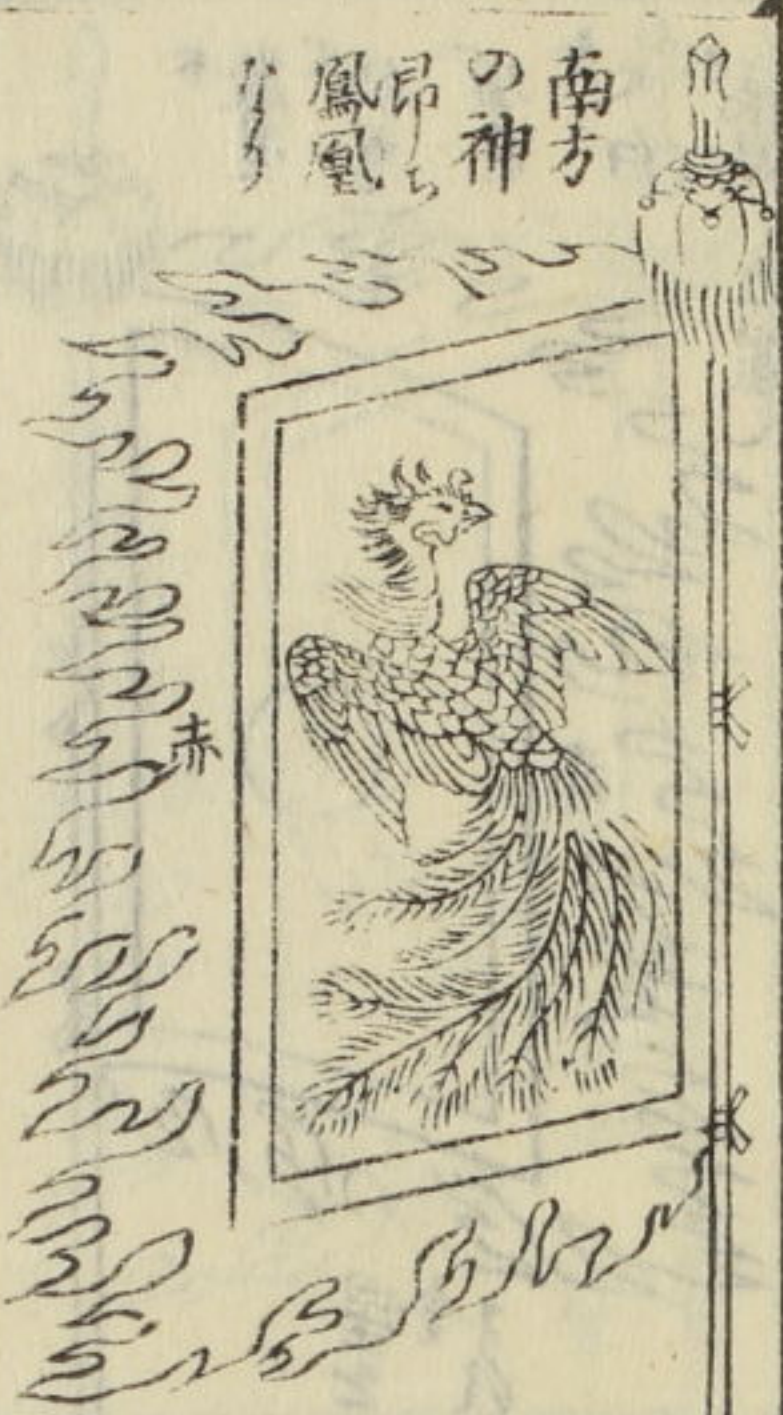
旗 雲



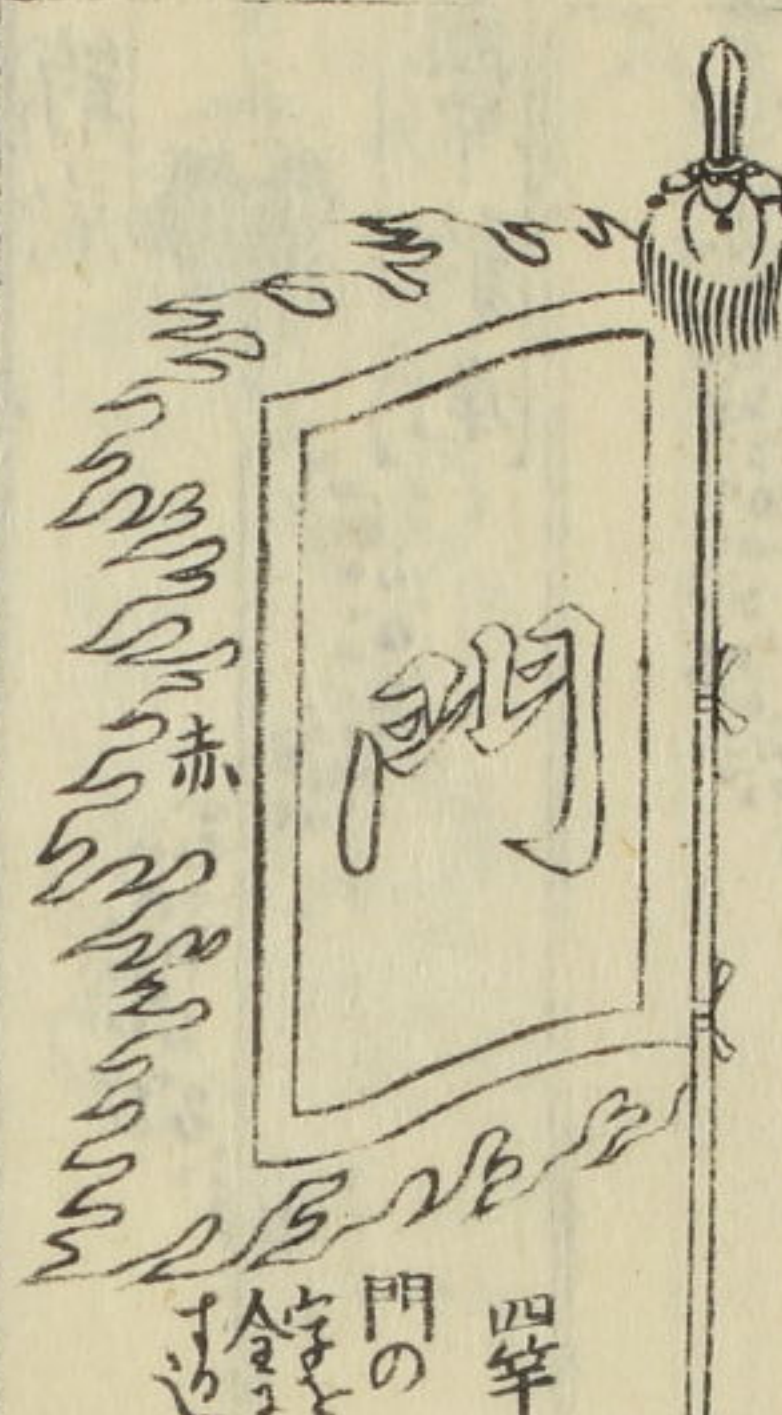
旗 武 玄



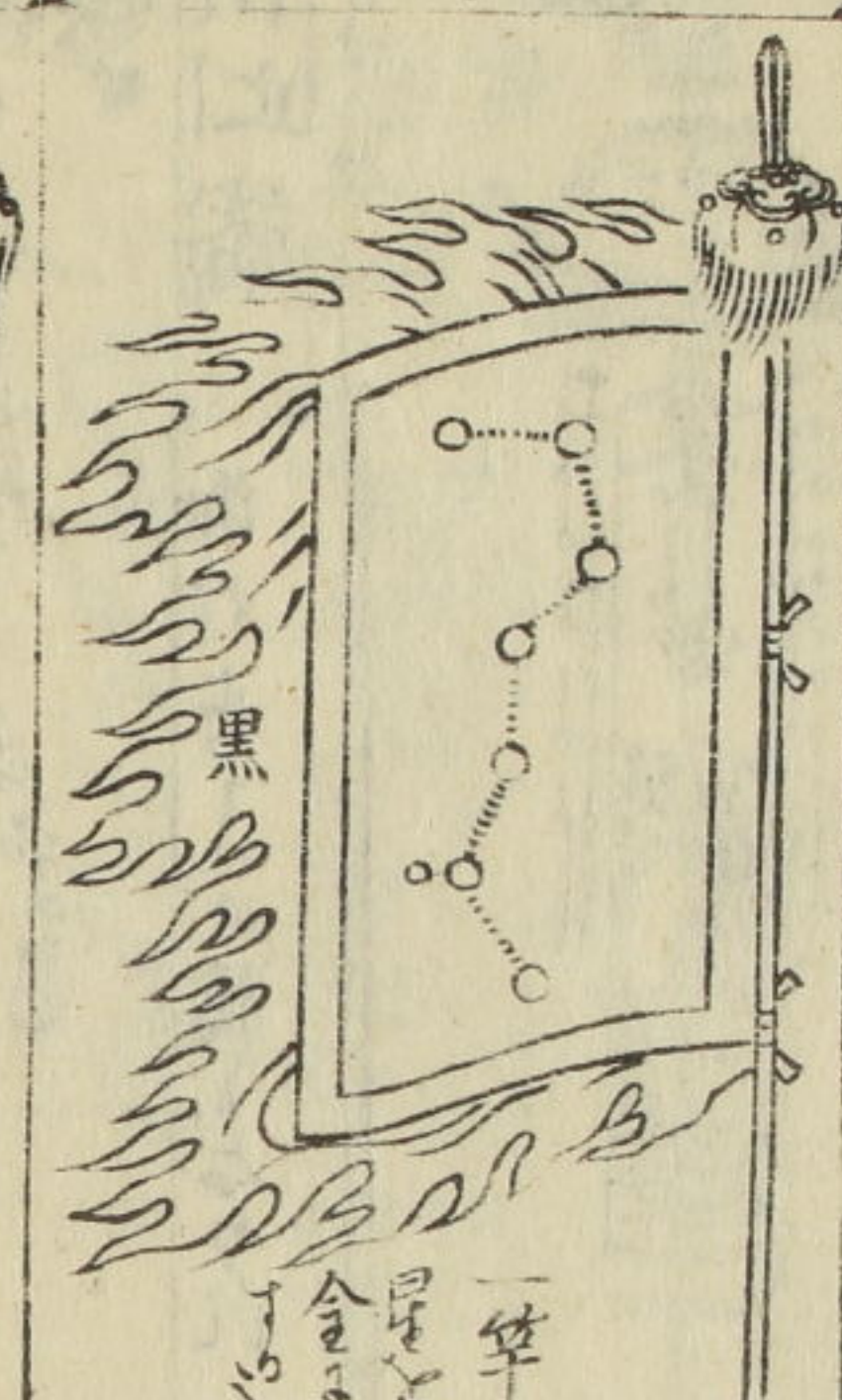
旗 雀 朱



旗 門



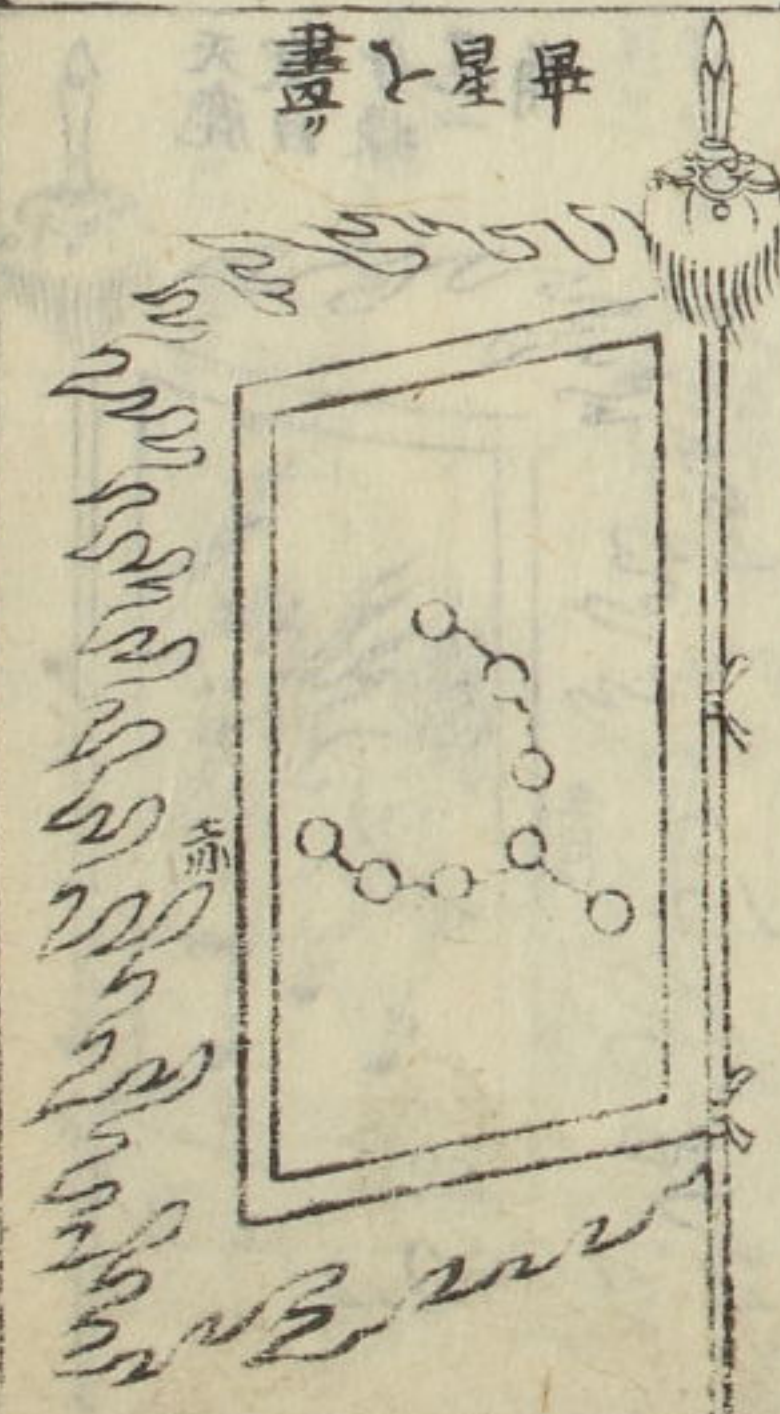
旗 斗 北



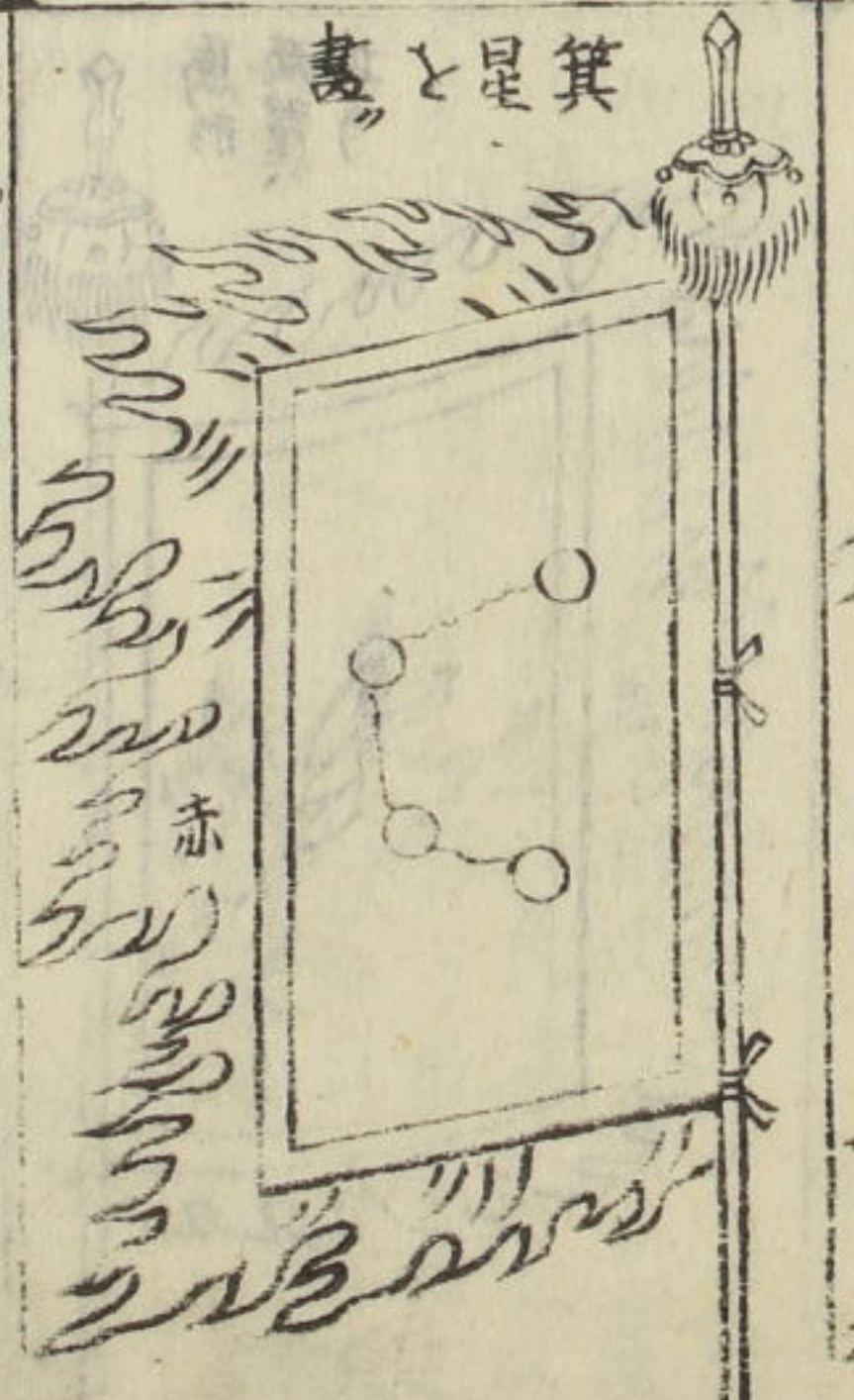
旗 龍



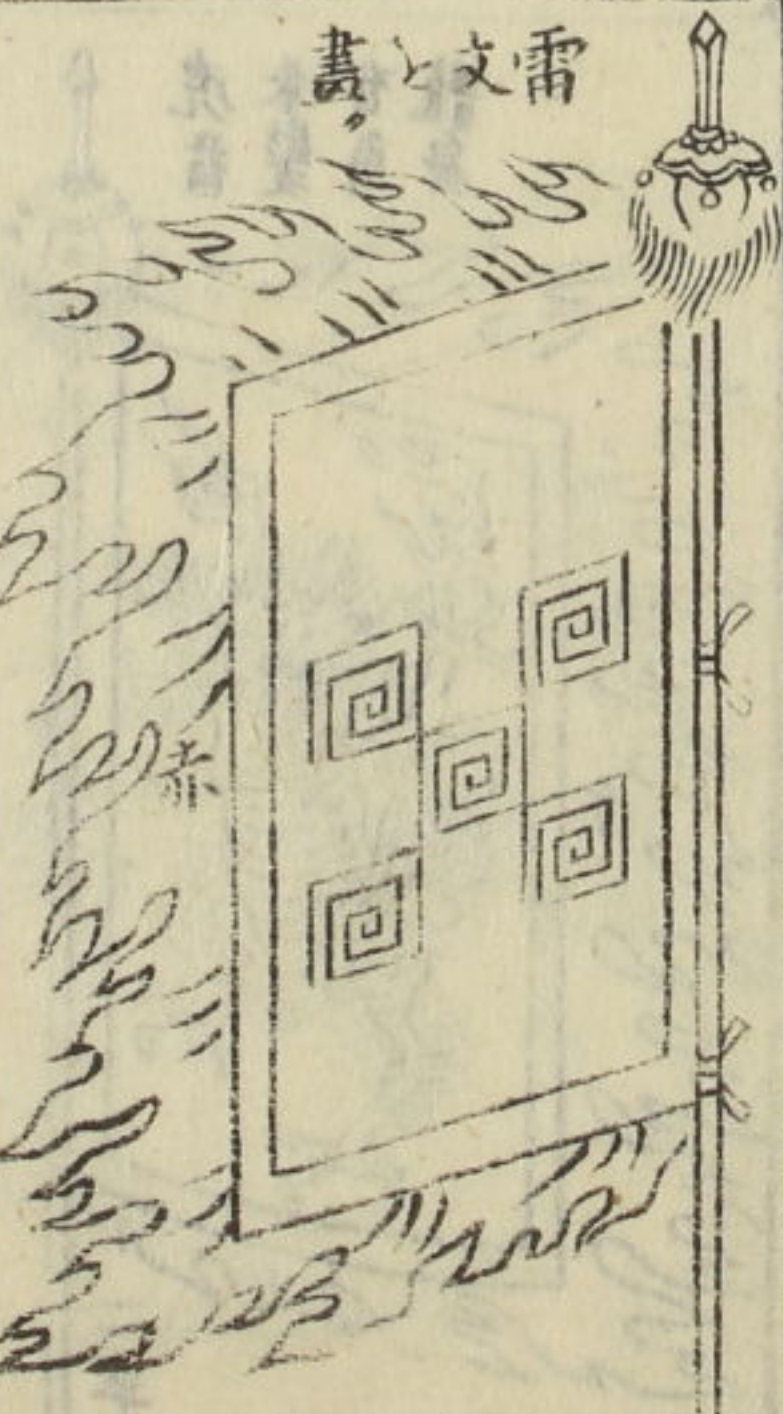
旗 雨



旗 風



旗 雷



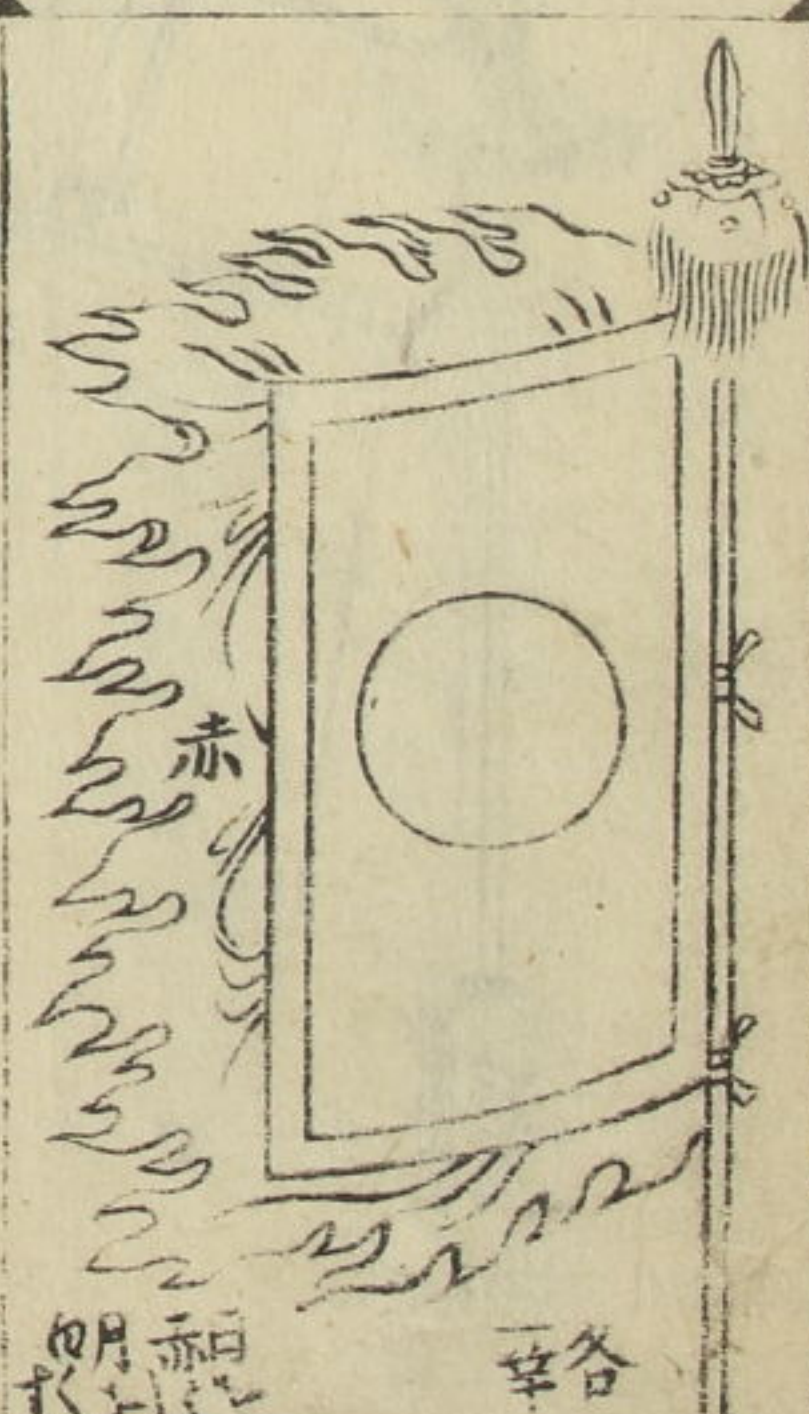
旗 虎 白



旗 龍 青



旗 月 日



北方の神
昂蛇
龜蛇
騰蛇

南方の神
昂鳳

西の方神
門の字
也

北の方神
斗の星
也

東の方神
龍の繪
朱金
漆竿
漆二
槍二
縷二
赤

西の方神

東の方神

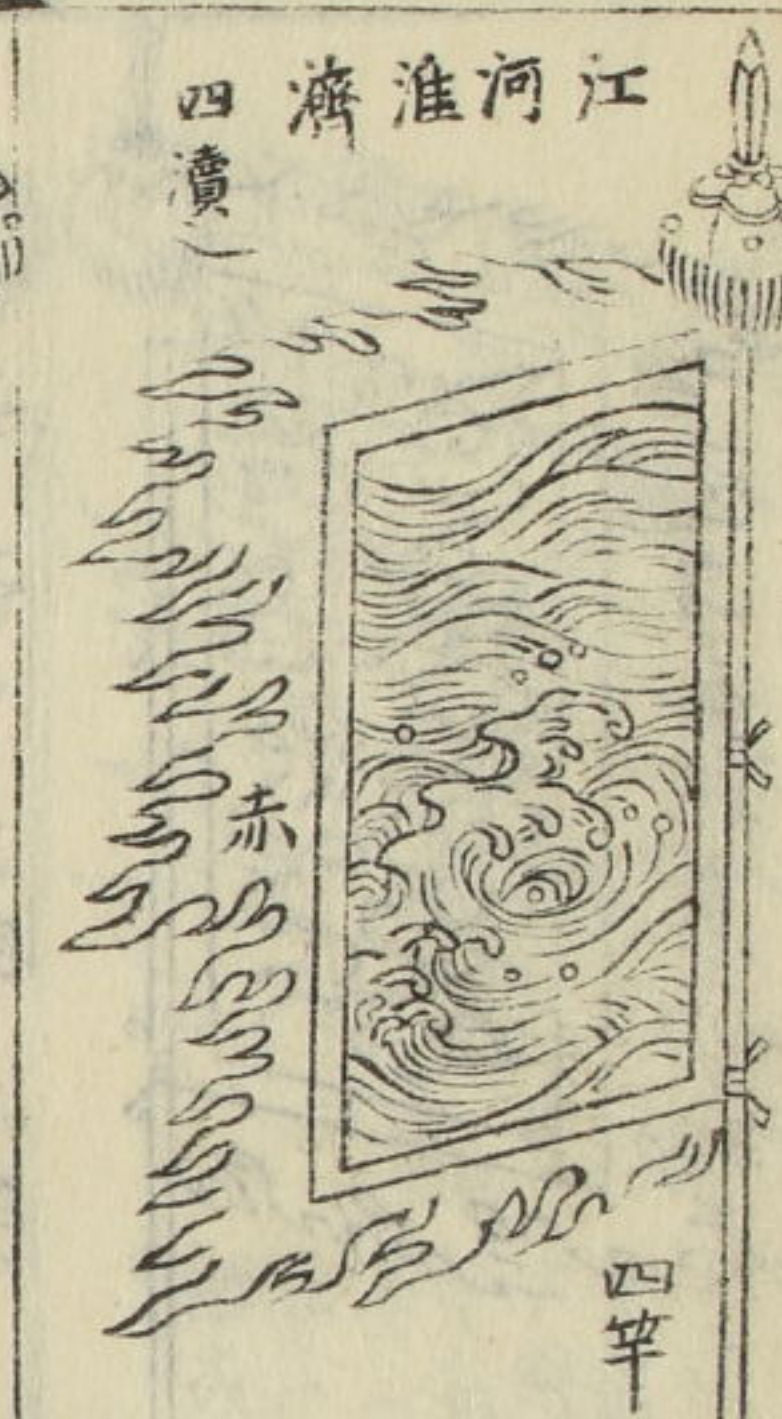
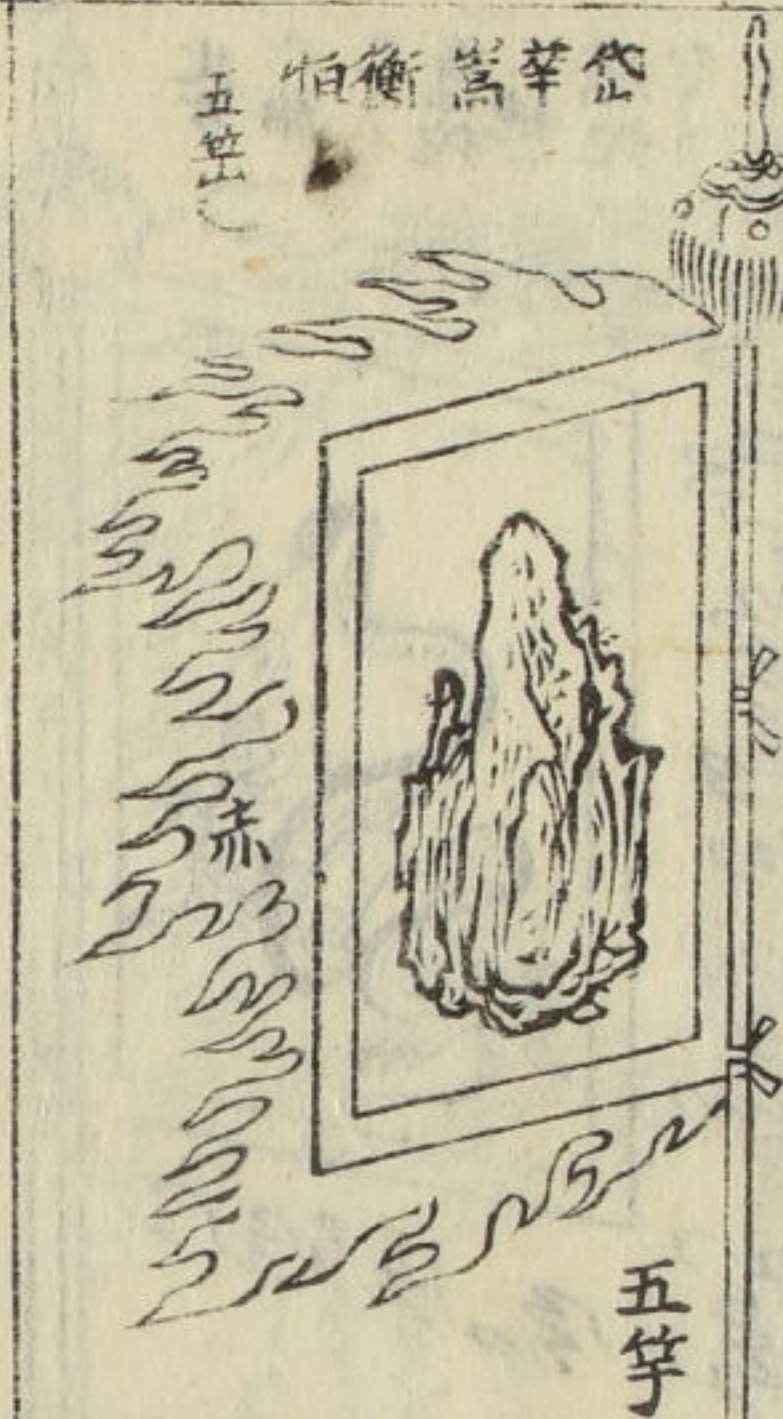
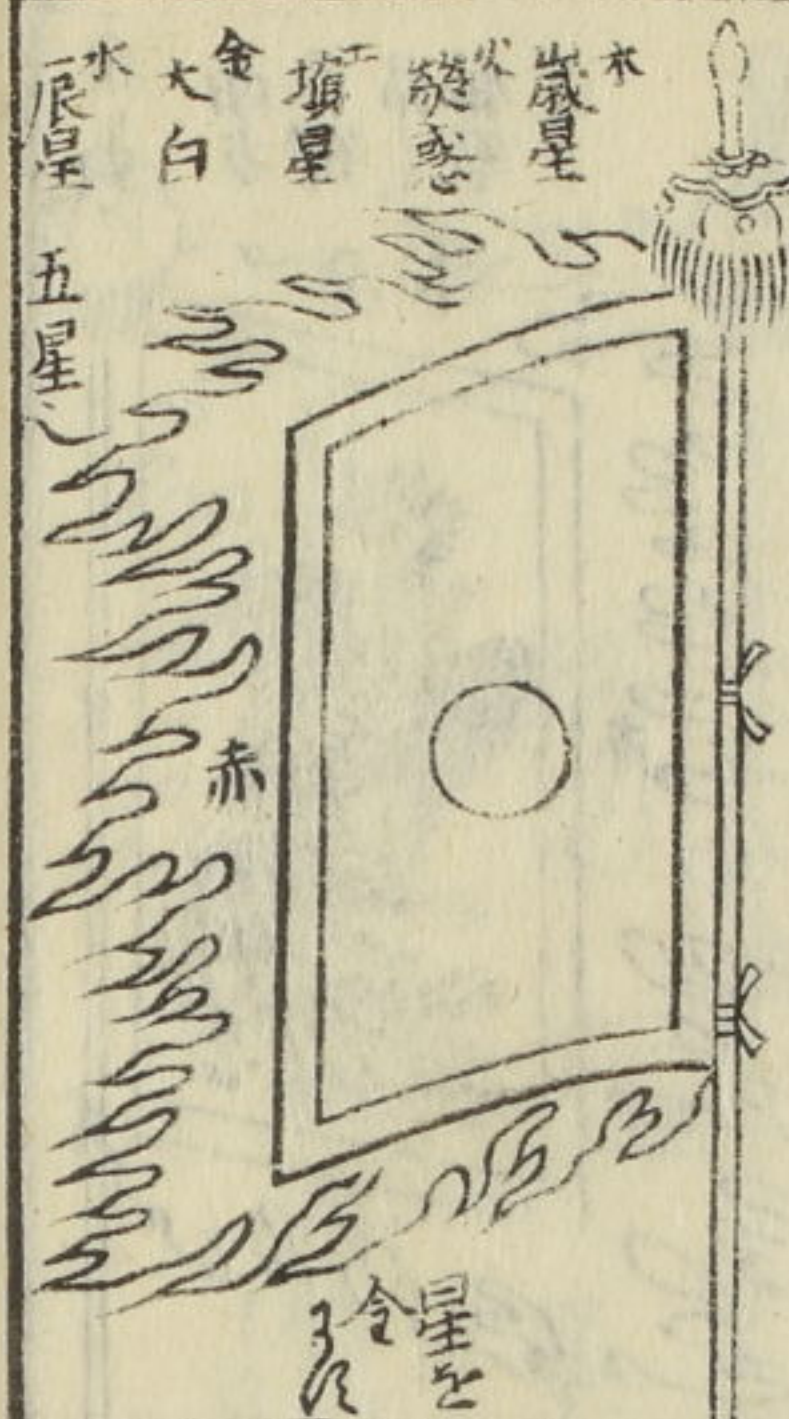
赤白
日月

各

旗 鸞 旗 熊 旗 熊



旗 星 五 旗 嶽 五 旗 濟 四



頭 魁 相 方



方相 禮頭 方相者防喪也自黃帝始
俗號禮道神周禮有方相氏大喪先置
及墓入旗以戈擊四隅方良故葬家以
方相先馳宋朝喪葬令有方相禮頭之
別比皆是其品所當用而世以四目為方相
兩目為禮頭按漢世遂不用禮頭亦方相
之比也

旗 麟



旗 澤 白



旗 馬 天



旗 祿 天



唐書禮志卷第...

珍寶

波斯國出

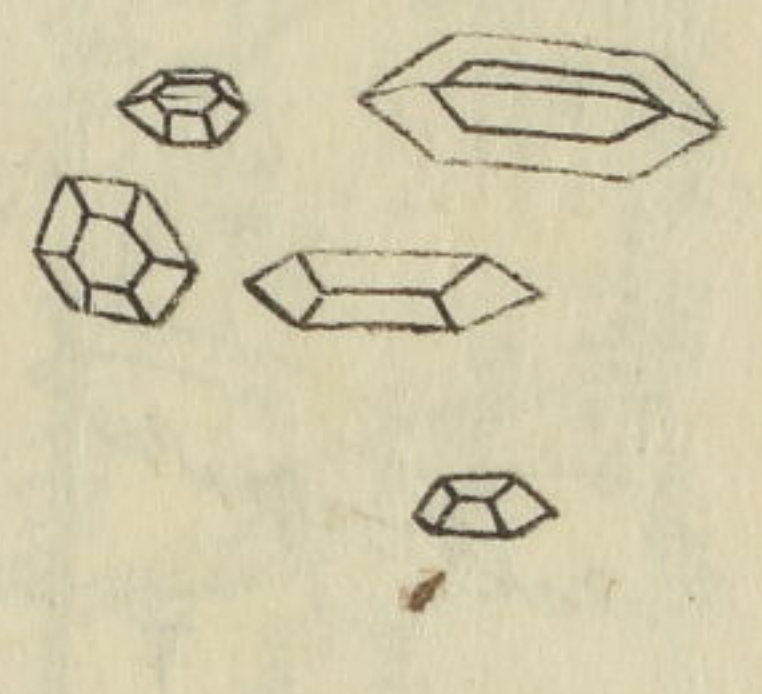
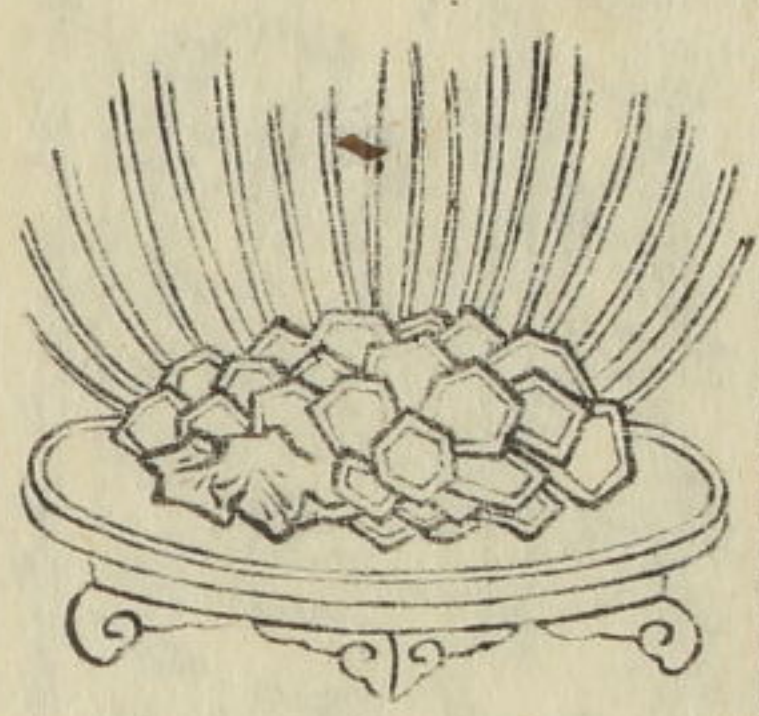
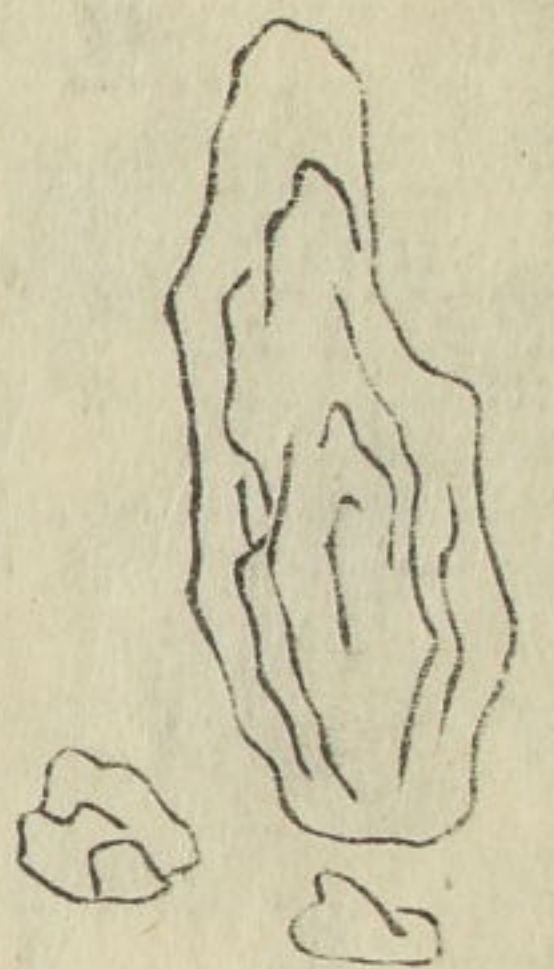
形蕃龍畫
二似くくし
生石銀粉丸
乃成りり

善薩石

鐵晉山公
三三紫白
月中は光を
照ハ御御園
之のつて
貨と後を
東の

白石英

大さ指の如く
三三白面彫
くくくく
光なり 葉赤
青の葉赤
又一種此紫色
とびる英



石高月

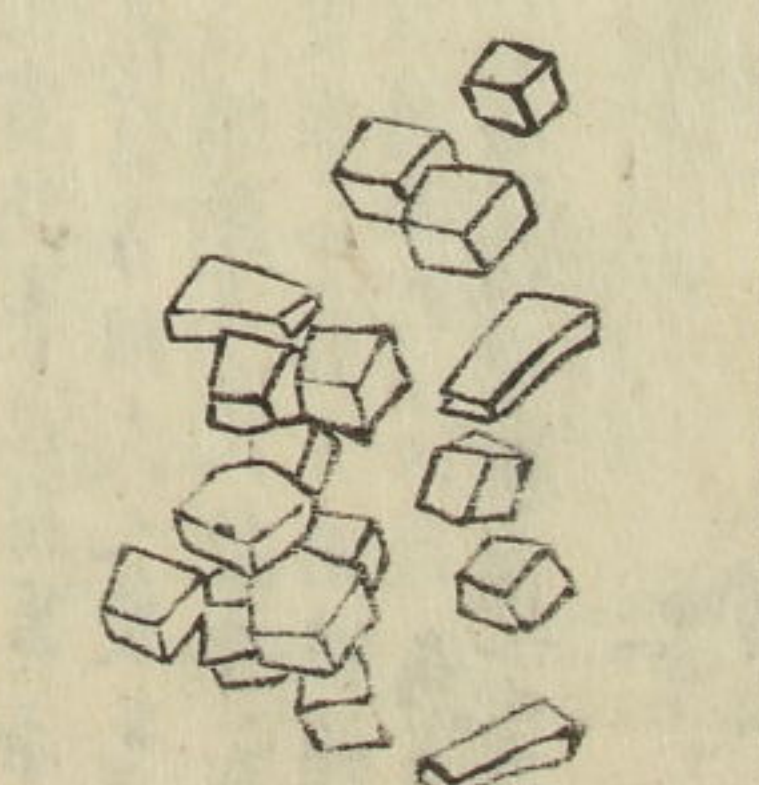
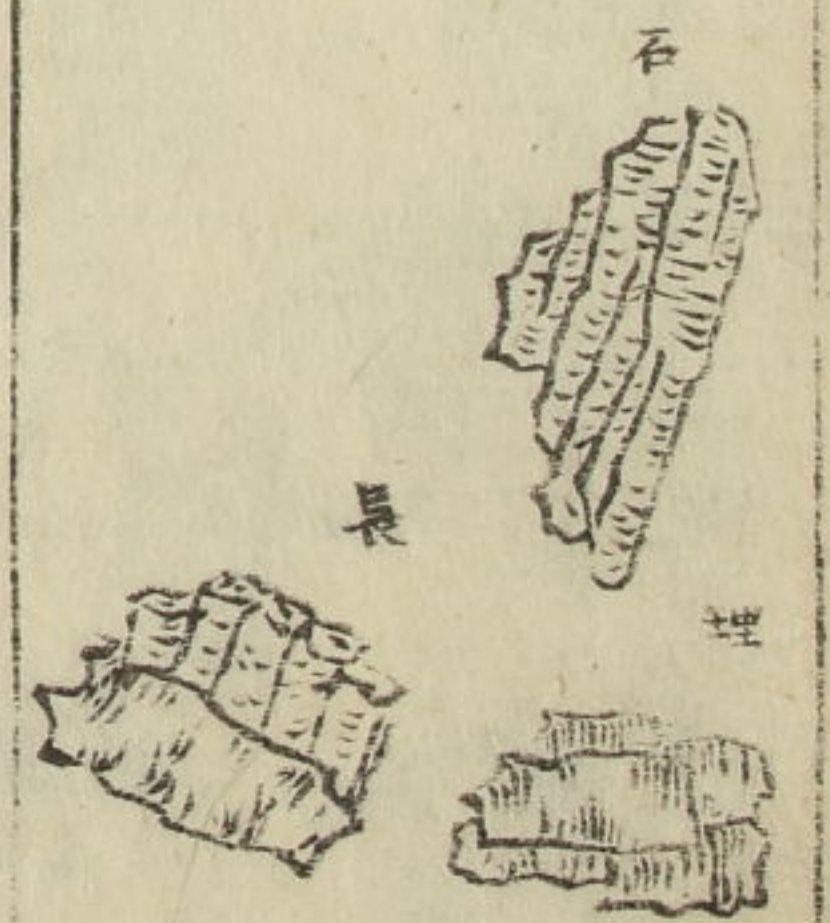
軟硬の二種
あり
理石ハ石膏
の一種理の
よく緻し硬
よめし
長ハ二種

方解石

長石の類
くくくく
くくくく
方石よから
ものしき
石膏の類

不灰木

色白く
形楸木の如
くくくく
又一種膠
出つて葉赤
草のくく
くくくく
すと燐の



無名石

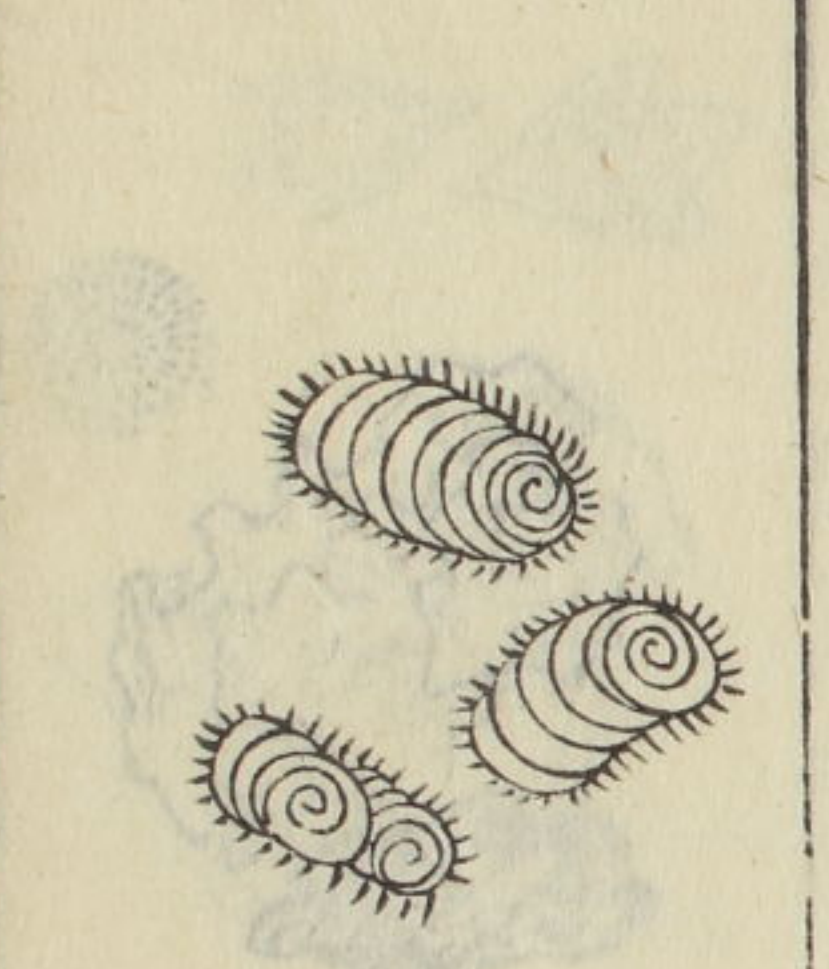
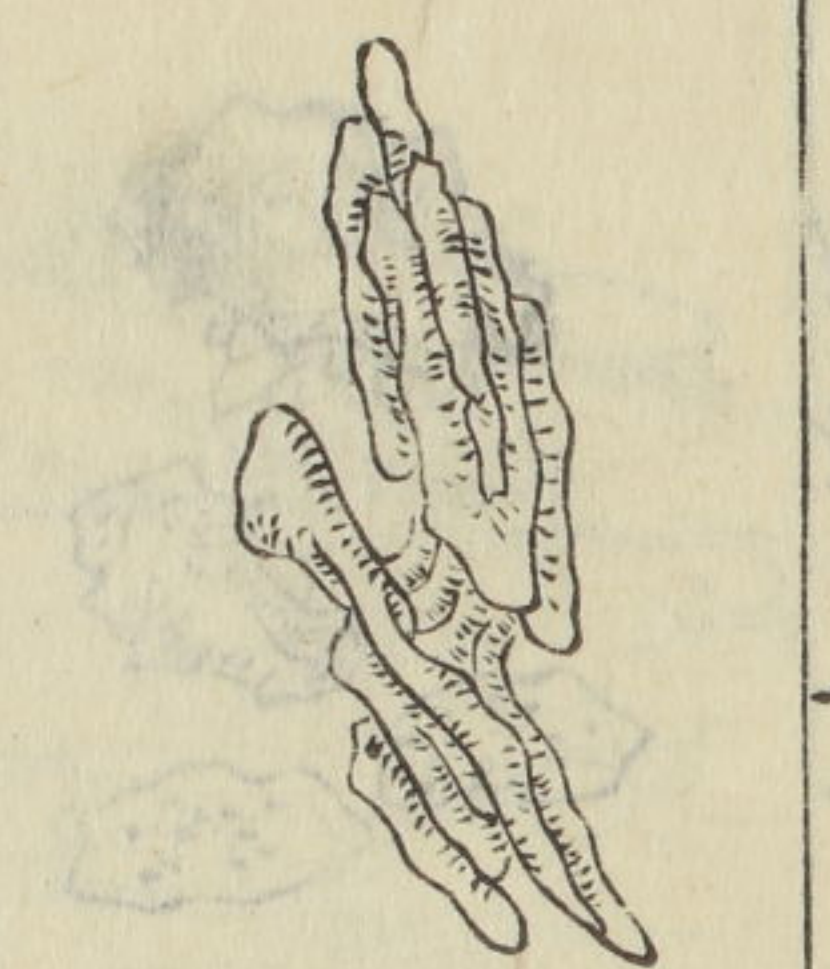
石の子生
状黒炭
のくく
油と以鍊
○か邦はわ
このハく
あなり

井泉石

饒陽郡又
深江城南
出川田の
比と大屋
これと
方と廻

蜜栗子

無名石の類
狀蛇まの
刺あり上
全漆の
おれと
ま



石鐘乳

石の津液の
わつり
とく
石の
○か邦はわ
このハく
あなり

土殷藤

石の津液乃
類して土
穴生
石も
土の
なり

禹餘糧

形牛黄の
中
細末わ
浦の
比入
ま



空王月

昔より今に
分る今今の
掛長らふお
空王月
の紅光
正用

奥石

毒石、穀品
あり、白奥石
茶、奥石、紫岩
紅岩、桃花
金精、銀精
特生、紫、俱
これ一物あり
能取ると以
まるとあり

金牙石

買得、いづ
この、全色
ありて、全
石の、方
あり

薑石

土石の間
生け、狀
の、

夾石

山溪の、
あり、

水中白石

水、溪、
中、
白石、

石蟹

石、蟹、
の、

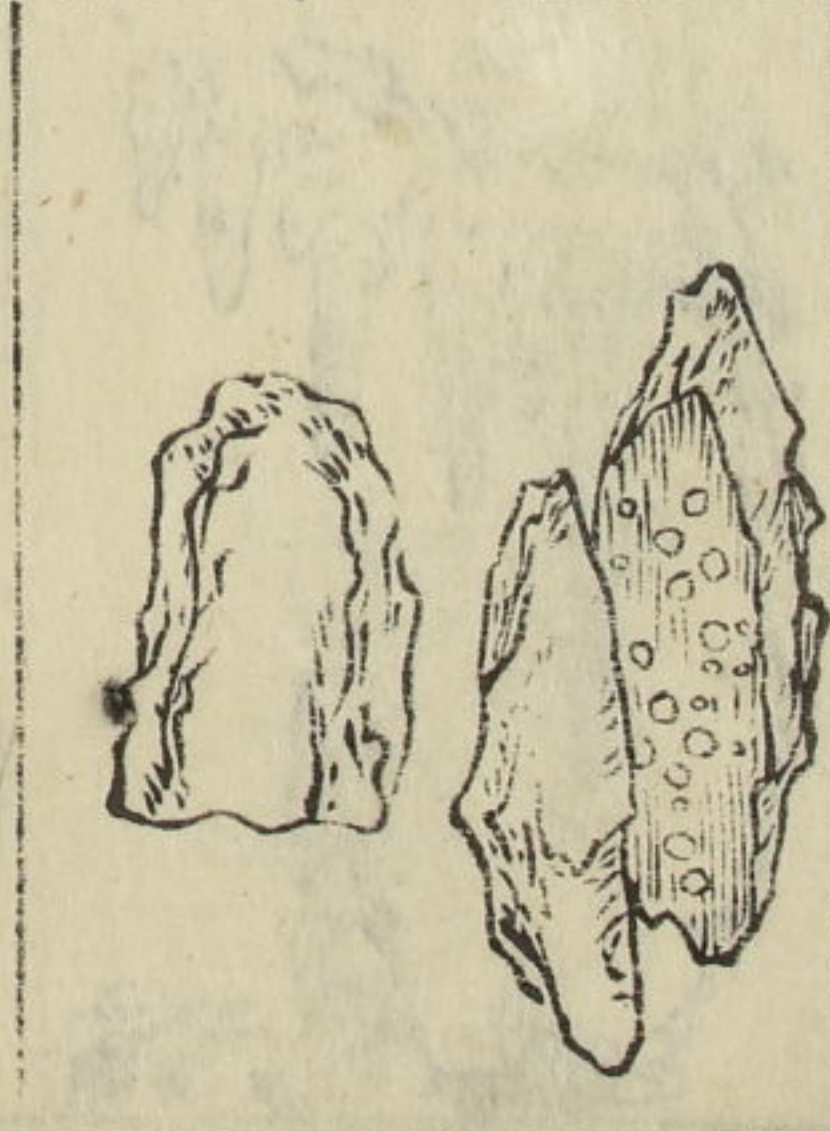


唐土訓夢圖書卷十

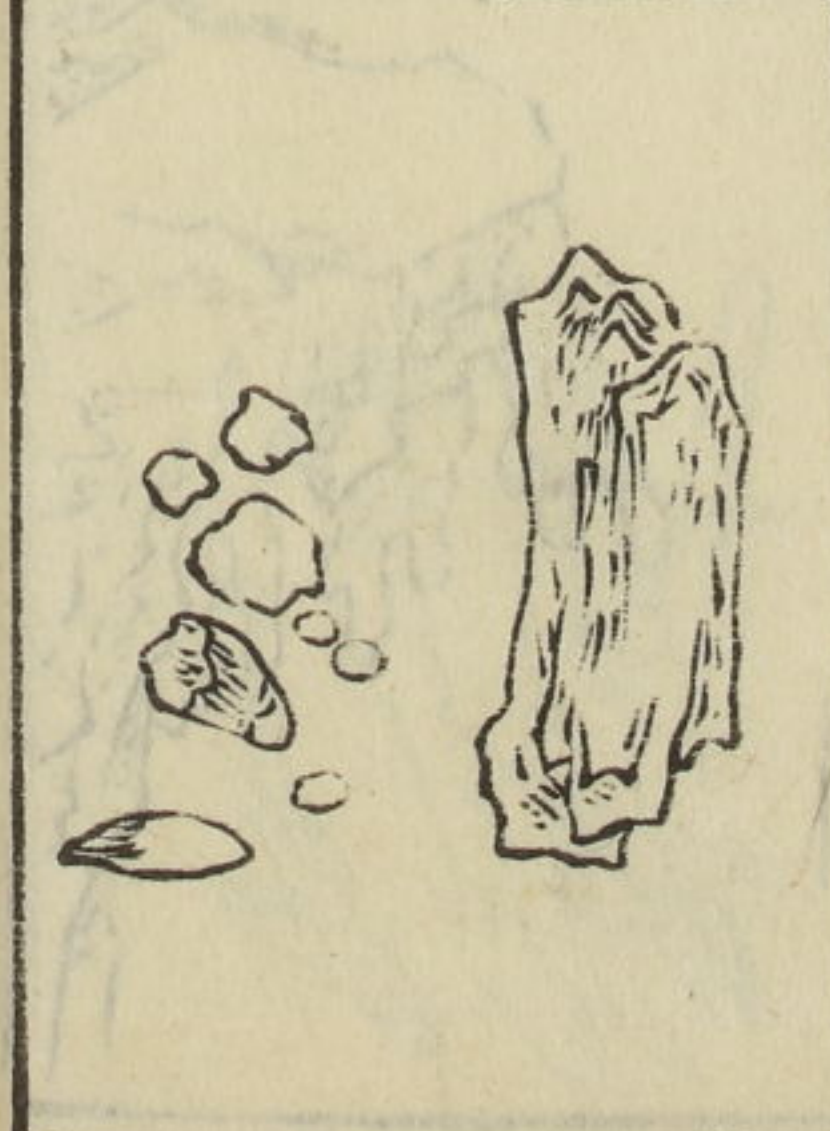
波女洲石
海南、山、
五色、
石、
の、
形、
の、



青礫石
青、白、
の、
石、
の、
形、
の、



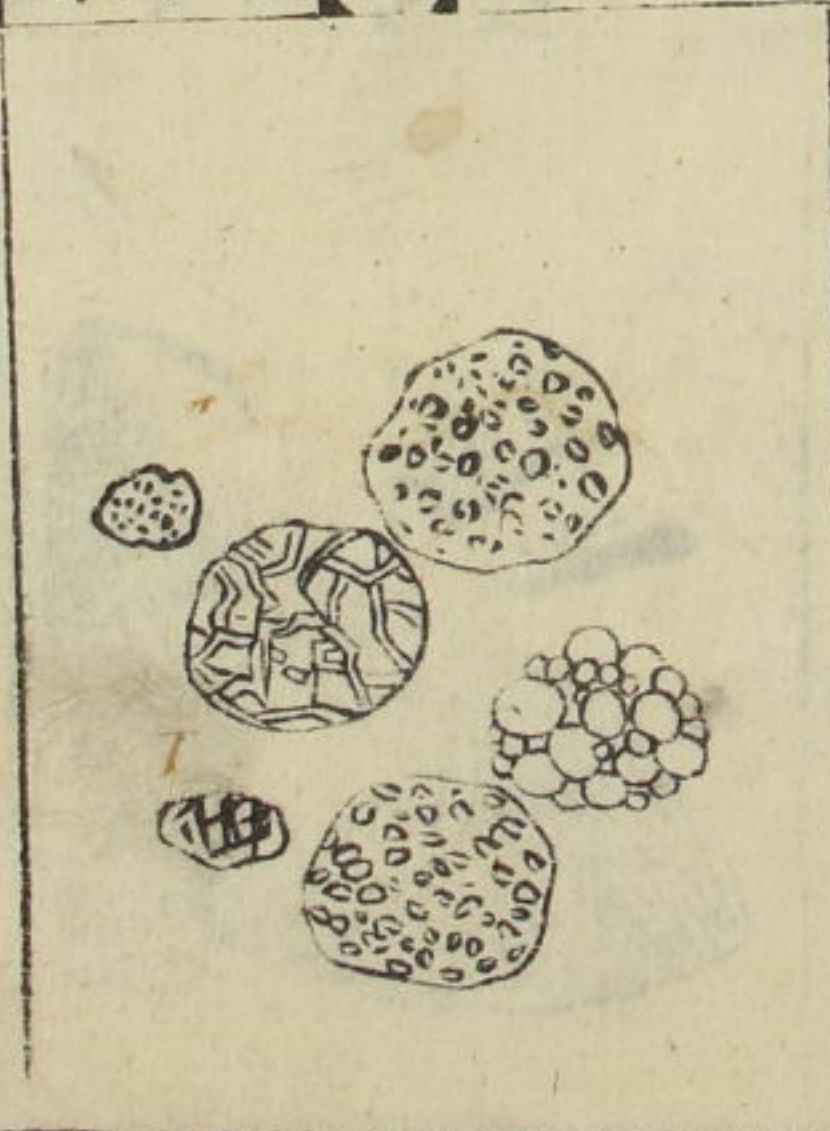
白羊石
白、羊、
の、
石、
の、
形、
の、



石蛇
石、
の、
形、
の、
蛇、
の、
形、
の、



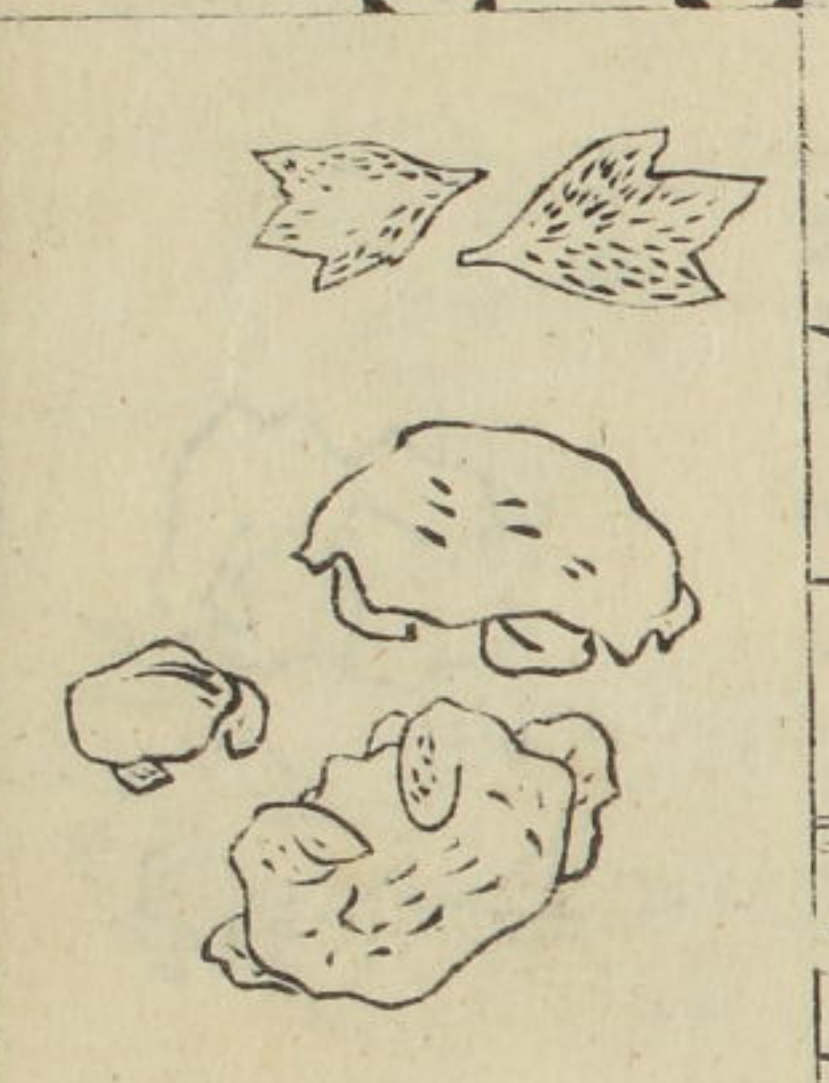
石蟹
石、
の、
形、
の、
蟹、
の、
形、
の、



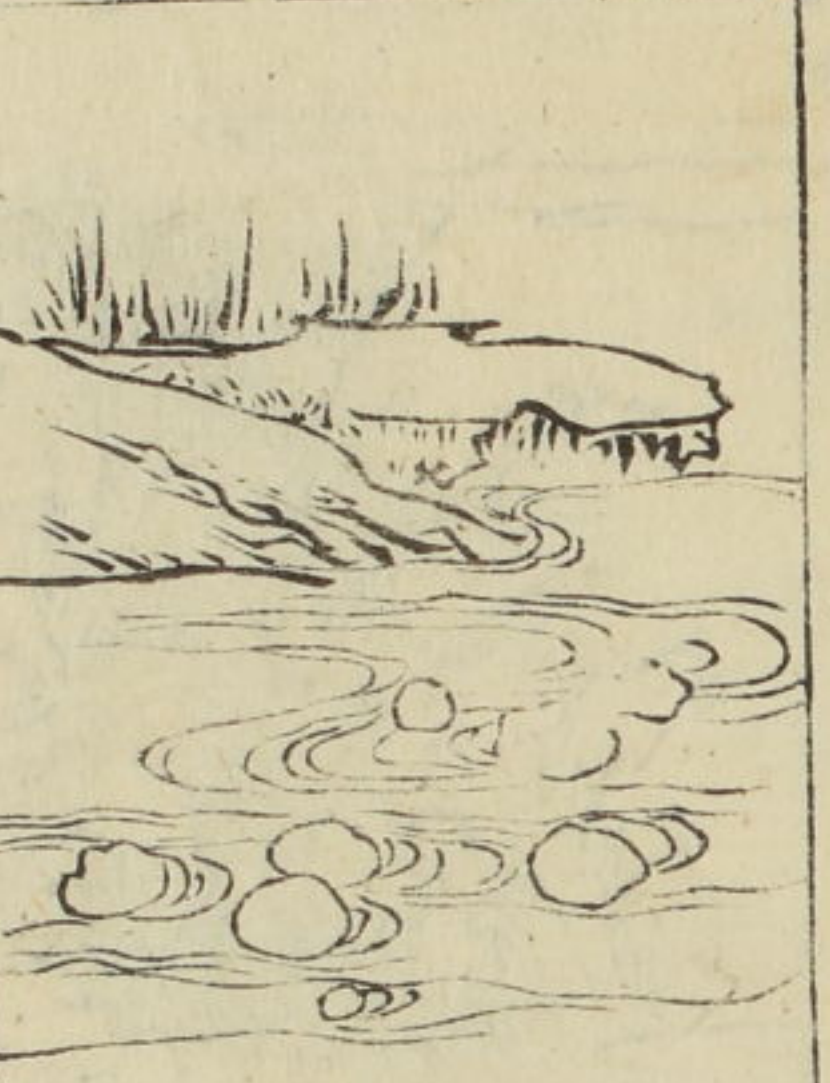
水中白石
水、
中、
白、
石、
の、
形、
の、



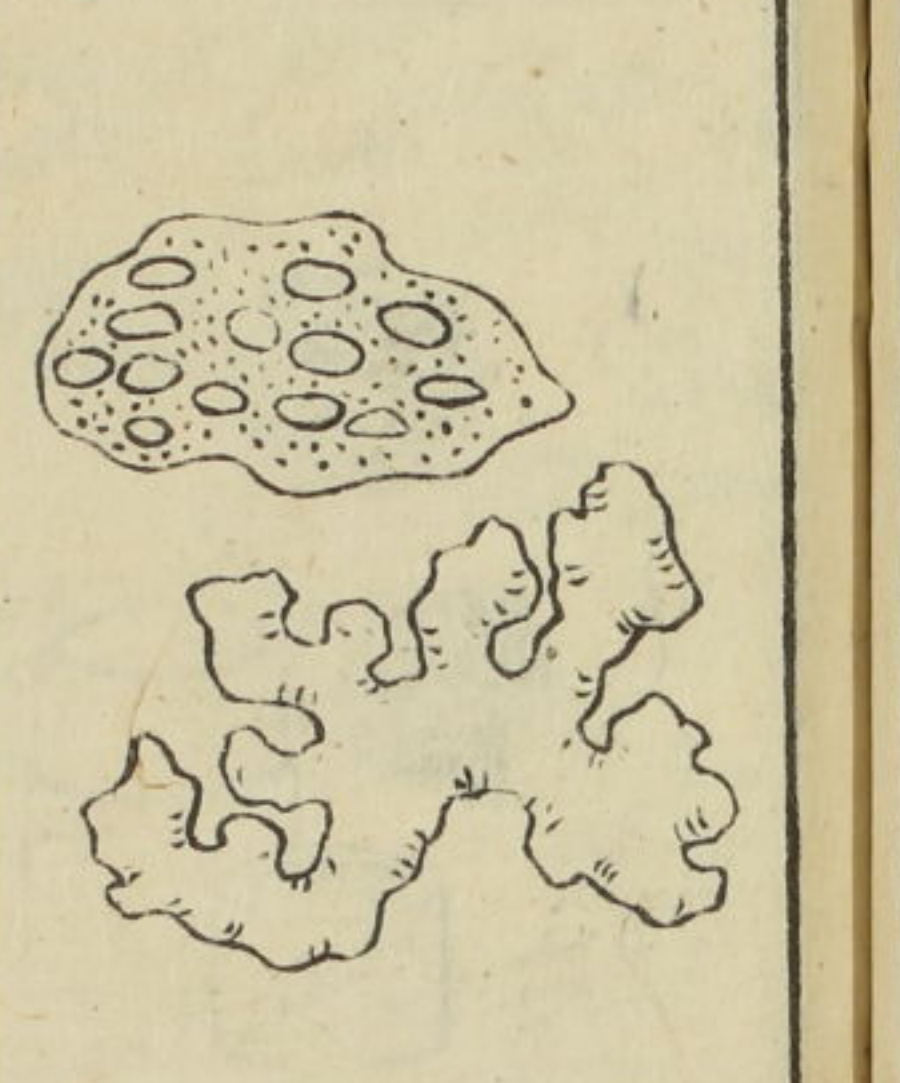
石蟹



石蟹



水中白石



薑石



硝石

硝石の影
硝石は硝石の影
硝石の影は硝石の影

凝水石

色ハ雲母乃
凝水石は色ハ雲母乃
凝水石の影は凝水石の影

當門子

そのつら麻
當門子はそのつら麻
當門子の影は當門子の影



牛黄

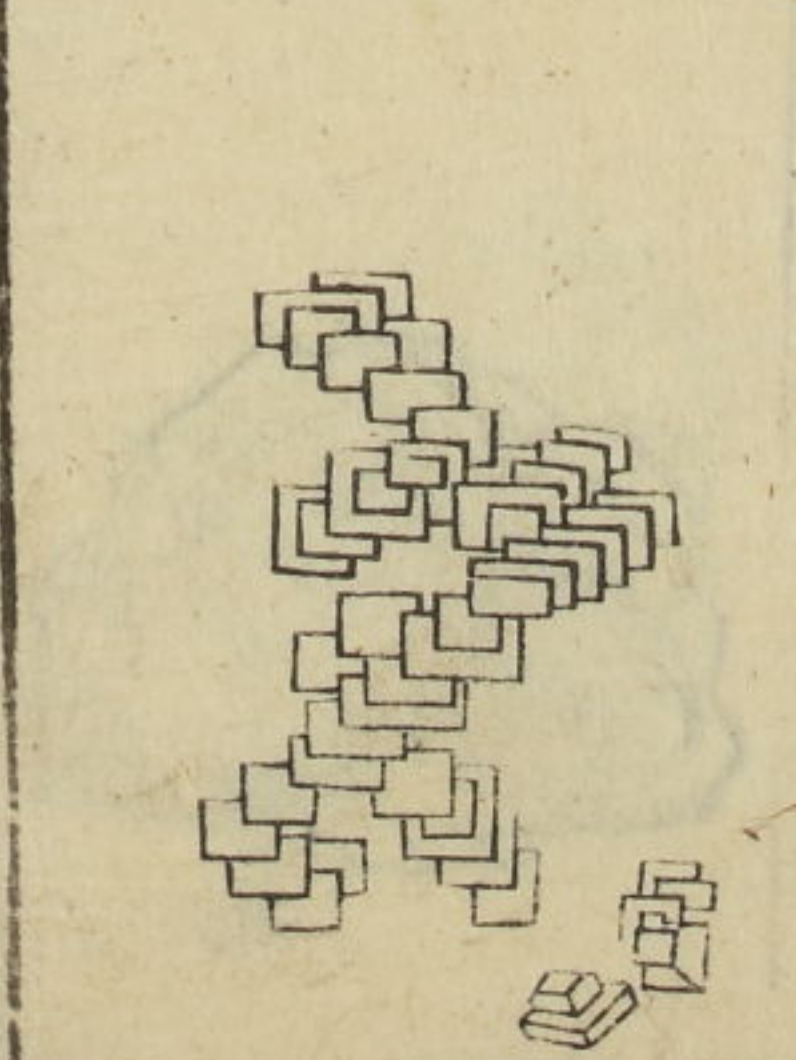
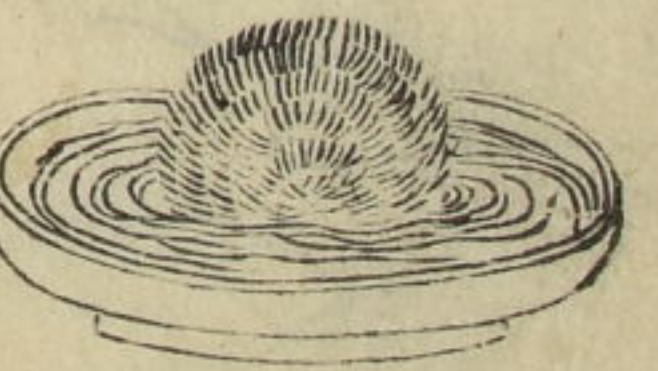
牛黄の生
牛黄は牛黄の生
牛黄の影は牛黄の影

熊膽

熊膽の生
熊膽は熊膽の生
熊膽の影は熊膽の影

我鹽

胡國の河崖
我鹽は胡國の河崖
我鹽の影は我鹽の影



井塩

井塩の生
井塩は井塩の生
井塩の影は井塩の影

池塩

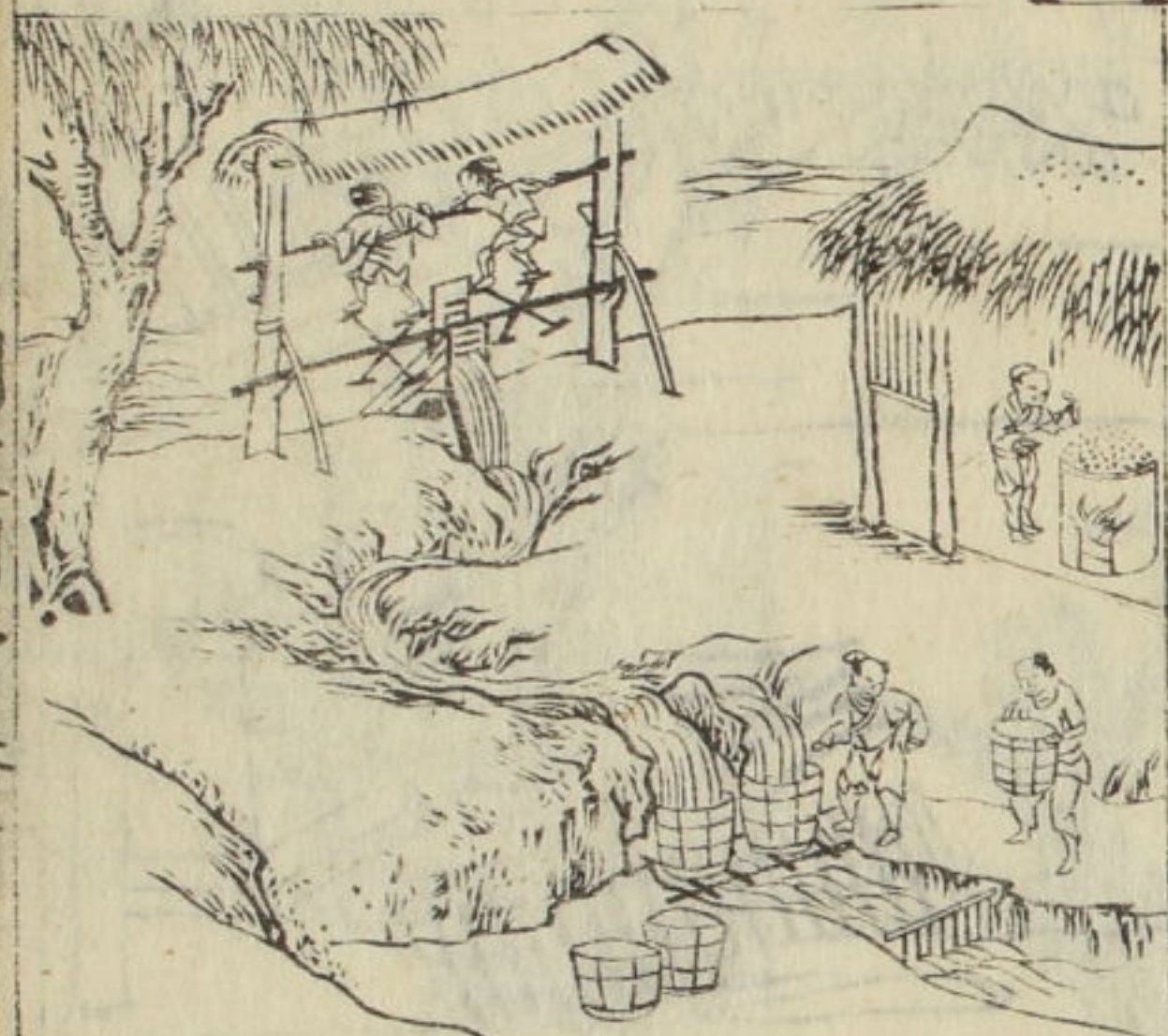
池塩の生
池塩は池塩の生
池塩の影は池塩の影

石塩

石塩の生
石塩は石塩の生
石塩の影は石塩の影

石炭

石炭の生
石炭は石炭の生
石炭の影は石炭の影



黄精 三月

苗生 高二尺人葉竹の如くしていろいとおねずりゆがー白むをいらくみ黍の如く根生善の

菜 性 菜

せくしてよく表白く素まー葉竹の如く葉の間葉とひらくゆがーのこく實と倍し

柴胡 苗生

して甚香ー葉まは葉として葉竹と似たり又蒿に似たり麥門冬に似て短ものなり



和名カラスユリ



唐土 昔家園 卷十

黄芩 叢

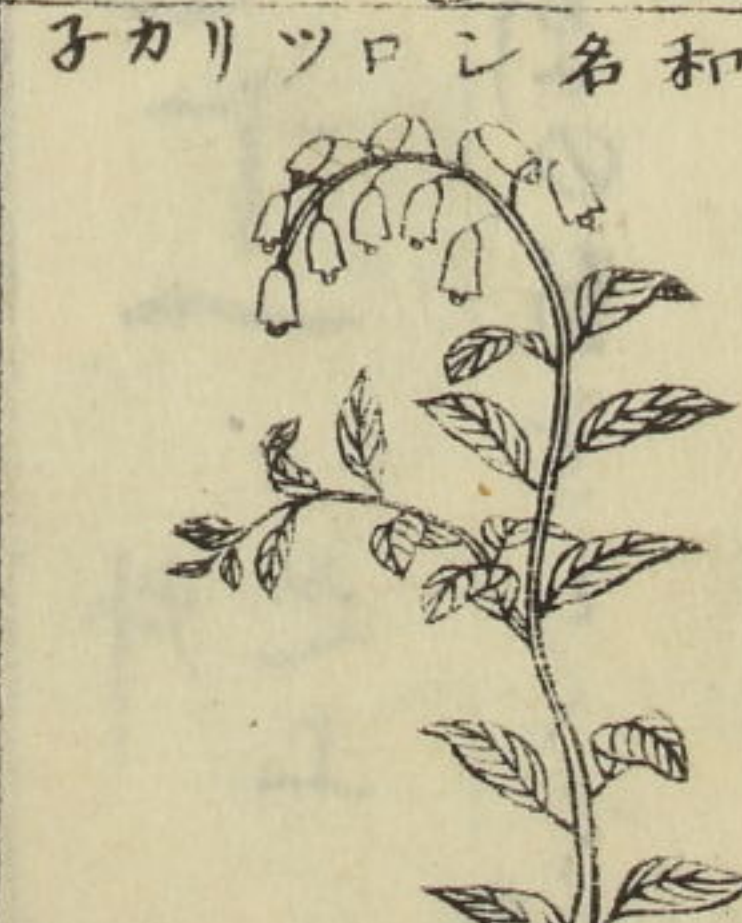
生高一尺二尺又独茎をりもわり葉細長くあおお對に六月葉むと開く根知母乃

天麻 苗の

初て出る苜蓿の独茎と抽て直より高二三尺箭筒のこく故に根葉とあつた茎ま

薺 苗生

都て人參に似て葉小く根異結梗根に似て心へり白あり



黄芩 日 葉

根 似てわー葉はまむといらに小角とびよ又蕨蒸し似たりわり根の毛さ二三尺

人參 春苗

と生して三四月葉細小く紫白色の林りりりて子と借根人の形と神

玄參 春

苗と生は葉紫色色して七月葉と開く葉色し八月葉と開く葉色し



沙參 苗生

して一二尺葉葉崖壁の間にあり葉枸杞に似て又牙あり七月はふと開

丹參 苗生

して高一尺二尺葉葉方稜り葉荷のこくして毛わり三月葉とひらく

紫參 苗長

して一二尺葉葉細葉槐に似たり又羊蹄に似たりもわり五月葉と開く白く又葉の者もわり



大里オ

拳参 葉

羊蹄 似て根ハ海鯨に似て区

杏参 根ハ

小茅根 似たり

甘草 苗生

一七三二尺葉

槐の如く七月迄

花と用く奈に

似り子と後て

角子とケケリ

知母 四月

多と用く

葦の如くハ

月実とハ

根黄色 菅蒲

似て柔阿し

徐長卿 苗の

一七三二尺葉柳

似て細く尖る小

花とひくして尖

角兒とハ根

細辛 似く香

氣も同し

淫羊藿 葉ハ

杏に似て上ノ刺

わりて粟稗乃

四月白をといら

く又此のさそり

もわり

貫衆 苗生

一七赤く葉大

蕨のや 茎幹

三稜葉 綠色小

鶏の翅に似たり



貝母 葉ハ

蓄麦に似て七月

花と用く葉ハ白

色根貝子を

あつひり如し故

よ名つて救急

前胡 苗生

と生一五月白色

蒿に似たり初時

の白芽長三四寸

甚香美し一種

柴胡と當歸

似りあり

升麻 苗生

一七三二尺葉

葉麻に似て三二

月と心とひく

白と葉あり大

小二種あり小ハ

園中よくて上

仙茅 葉

一七三二尺葉

軟に復積溜

一面に縦理

三月花用て施

子の如く実を

ひとく

白頭翁 苗生

状白微のよく

長して莖葉白

毛わり根のをさ

取に白茸ありて

白乳の老翁に似



白及 苗長

一尺許 葉の
蓋に似たり 莖の
端に一室と生し
夏を過し いらくば
七月実と
結ぶ 白毛あり

白鮮 苗生

七高八餘わり
四月に花と用て
淡い色 小蜀葵
に似たり 根ハ蔓
葉月ハ似る 皮の色
黄白あり

白薇 葉柳

葉ハ類ハ六月
紅葉と用く 八月
実と結ぶ 根
黄色 牛膝
類ハ短

胡黄連 胡国

生ハ今處に
あり 初生葉ハ
似たり 乾てハ揚
柳の枯枝ハ似る
心黒く 外黄く

黄連 苗ハ

茶ハ似て 叢生ハ
葉三葉と生し
冬も凋れぬ 花
色ハ所ハ白く
花葉の容ハ

索五口 葉ハ

数冬ハ似て 大
色深き 葉ハ
死し いらく 山崖
岩間ハ多ク
よく 毒とれ

唐土 苗長 同 卷十一

和名 三ノラ



和名 クロエノソウ



和名 エノコ



地榆 宿根

生ハ高三四
尺 葉狭細
鋸葉あり 七月
花といらくあり

平地木 高尺

子甚多 多ハ
散壑 出處に
子よて 生ハ

茅藤果 葉ハ

竹の 子と枝
葉下 生ハ
赤と 丹砂乃
霜雪
雨の 用く

金莖草花 一名

高良 葉紫白 金
葉の 三色あり
花 不得入 仙家
と云

秋牡丹 長

栽て 秋花
初ハ 深紅
淡おつ 菊
似たり 葉ハ 三岐
中ハ 臭あり 実
ありて 生ハ

三七 本名 春苗

生ハ 後者 三
四人 葉ハ 似て
勁厚 秋葉
と いらく 葉ハ
三石 故ハ 三七
と云

和名 レウカモ



和名 マヤタチ



和名 ヤカフジ



萬年青 葉ハ

蕙草ニ似テ短
ク厚シク冬ニ
枯レズト云々
アノニシテ

金星草 葉青

多く背陰の石上
に生レ 葉長二
尺又ニ至テ背
上ニ黄星點子
ト生レ 兩ニお
一金色の

骨碎補 根大

木に生レ 或ハ石
上多クハ背陰の
處ニあり 此レハ
名ハ孫美ト云
折傷ト主ニ
いふ石ニあり

トモヲ名和



金星草名和



骨碎補名和



景天 葉ハ

馬齒莧ニ似テ
葉長クシテ
昔より慎火草ト
一物ト云レ
ラ大ニ根を

紫背金盤 苗の

高三尺くら
葉の背紫ニ
花ハ根を

地錦草 苗葉

細弱シテ蔓
トシテ地ニ遍
一莖赤ク葉
青ニ中夏後
盛ニ

ウソイケン名和



紫背金盤名和



地錦草名和



石莖 莖葉

青クシテ一人
り葉水柳乃
短シ多クハ
河岸沙石の
上に生レ

崖櫻 苗の

高一丈己来四
季ニわり其
根と用

石長生 葉ハ

蕙草ニ似テ又
多ハ山陰石岩
の下ニ生レ
世ニ石長生ト
いふ者あり

サクラシ名和



崖櫻名和



石長生名和



當歸 春

苗ト生一葉
縁シテ三瓣
わり七八月
とひり

肉豆蔻 胡国

より出ツ今嶺南
人家ニこれ
花實豆蔻ニ
似テ圓ク小
紫ニ内の肉辛

白豆蔻 苗ハ

芭蕉ニ似テ
杜若ニ似テ長八
九尺ニシテ光
文ニ夏潤キ
淡黄色ニ



白芷 葉

相對此紫色二
潤三指より
花白く微黄く
伏日に入て実と
結ひ立ぬのら

蓬莪 昂

莪木高二三尺
葉青白色長一
二尺葉荷子類
五月花あり
穂とぬ根ハ生
姜のくくなり

京三稜 春苗

生ハ高三四尺
葉蒲葉に似く
皆三稜わり五
六月花と開く
例草に似り



葶藶 葉

生高三四尺葉
圓く潤二三寸葉
の如く三月白む
と開く七月子と
結ぶ根は子類

鬱金 四月

苗と生一葉黄
く似く花白く實
紅かり実をし
根黄赤く
ゆとゆなり

補骨脂 昂破

故紙かり莖乃
高き三四尺葉
薄荷子似て微
紫色實ハ麻
子に似く圓扁



粟 葉

麻の如くあぐね
對氣ハ麻
蕪の如く七月
花と開く至く
加るなり

獨頭蘭 葉

苗と生一葉
白むと白く赤
赤脚長鬚の如
鬚とさくさく一
なり

茅香 三月

苗と生一葉
又似り五月白
花と開く又草
花にわり又草
わらむとさくさく



木香 葉

羊蹄に似て長
大に花ハ菊の如
く又葉山の芽
乃とく此草と
開く者わり根
形枯骨に似

杜若 江湖

生ハ長葉ハ毒
く似て花赤色根
白く葉ハ赤く
花ハ白く葉ハ
赤くなり

甘沙草 昂

香附子に似
てこれわり葉ハ
三稜に似て根ハ
附子の如く
毛多し



薄荷 莖葉

花は似て光長
冬と春て根取
て干して生ん
夏秋莖葉をと
り暴乾し



蕙香 葉

葉に似て少く
六月より
豆と藿と似る
形似る故し
和ニツルハ藥ニ用テ
ヨロシカラズ



高良薑 春苗
と生れ莖葉萎
苗の如く大なり
高一二尺なり
花は紫色を山
姜の如く



益智 葉

莖葉に似て高
丈餘其根の旁
一小枝を生れ其
花薄荷ハ種と異
子ハ葉の如く



縮沙蜜 苗

高良薑に似て
三四八三月を
と用て根下に
あり五六月実
とる



甘松香 叢

生れ葉細く七
葉草に似る根
極て敏小家を
八月採て湯浴
すれば香



香薷 節

葉似て葉更
子細く十月
より一二月ハ香葉
を作



茉莉 花

春末より開て
香あり花白
葉の如くわり植
ての節障と
す



藁本 葉

白芷に似て香ハ
甚ク葉弱に似て細
五月白を摘く
七八月子と結ぶ
根此の色なり



蒟醬 木に

縁て生れ其子
糸の如く熟すと
と長き三寸蜜
と藏る食は辛
く香



天門冬 蔓

生て一丈
餘の如く葉
清香の如く
折わり刺多し
わりな花候



菴絲子 夏

苗と生れ絲の
如く草木乃
うはひ六七
月子と結ぶ



和名キニ 益智

和名ルヘス

和名シウ

葎草 葉ハ
莖麻のくくりに
して小く細柳
あり花黄白
子も麻子に類
一猪殃殃
名



和名ムグラ

白薬 苗ハ
苦苣 似て四月
うて赤莖長
蒴蘆の似たり
六月白心と開
八月ふとひよ



紫葍 春生
夏枯 葉蒲萄
似て紫色長丈
大者径二三寸葉
蔓蔓に似て根
皮もに紫色色



赤地利 春夏
苗と生し蔓を
なり草木の上と
まきハ莖赤く葉
多く蕎麥に
似たり七月白心
といわくはまの
下し柳あり



顔知子 蔓
生大木の上
よ葉緑二三
角わり面ふく
背淡一七八月
実あり



千里光 葉ハ
菊に似く枝長
幹圓くして青
背に毛あり秋
莖葉と生して
花あり黄色



使君子 三月
花と生し淡
色久して深
五瓣わり六月
白実と結ふ入
子一形と



繡枝牡丹 枝季
して倚附生
む牡丹の態
度わり甚小
小葉に傳しく
花開ハ細花と
て雅麗なり



鉄線 饒
州に生し三月
根ととり用の
土人腫毒を
消し



和名カガリ

馬兜鈴 苗生
て蔓蔓の如く
葉山芋に似り
六月実と開
七月実と結ふ
大さ終乃



天壽根 台易
に生し毎歳
土貢り
性涼く
甚胸膈の煩
熱と治す



威靈仙 生ら
と衆草に比し
最先葉柳に
似し層て車輪の
とく花浅紫
式頭白く花と
なり



和名カガリ

白英 蔓

生うて葉ま
く白毛わり長
花されどかふ
その実やねとへ
て赤

何首烏 春苗

と生山芋の根
其蔓竹木に延て
夏秋黄白花と
開く子に稜わり
秋冬根とく
大ハ拳のく

蕃薯 根

迎年豆りんを
さうて利多し合
して味く人
登ありくゆは
まふりくは



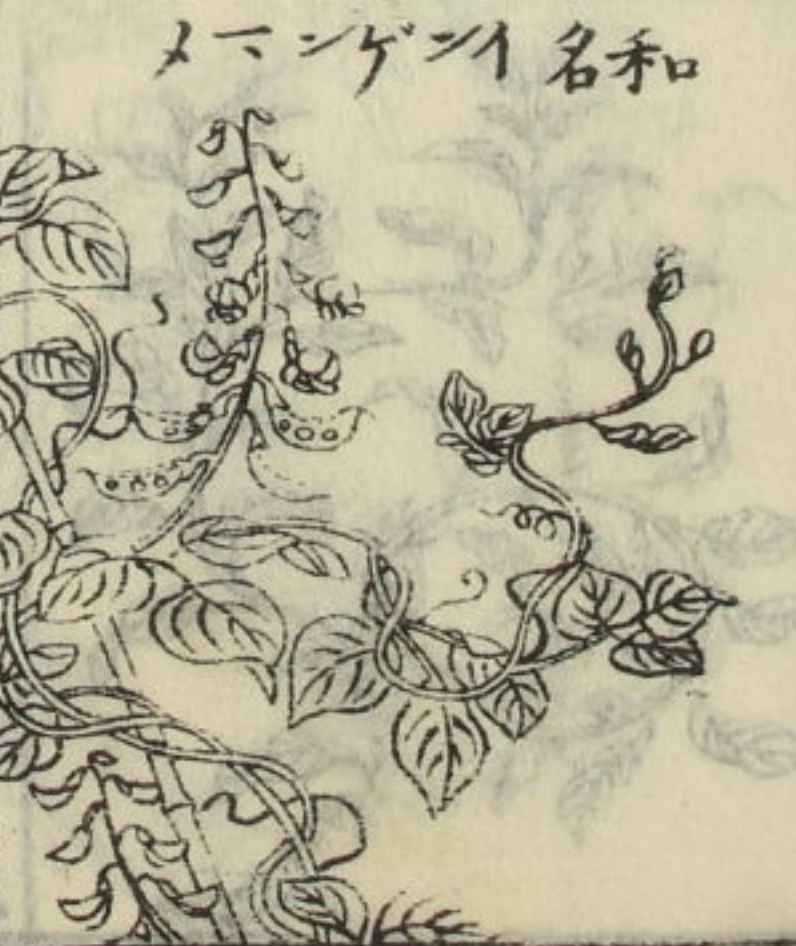
通草 木通
葉石葦草に似
三葉相對に
花白く實小木
此の如くくら
其莖なり

眉兒豆

とう急秋の葉
わたりく實多
一花葉わり
実くさくさ
まふりくは

山豆根

豆根のく葉
まふりくは
八月より用
一種小槐の如
かりわり



南瓜 實

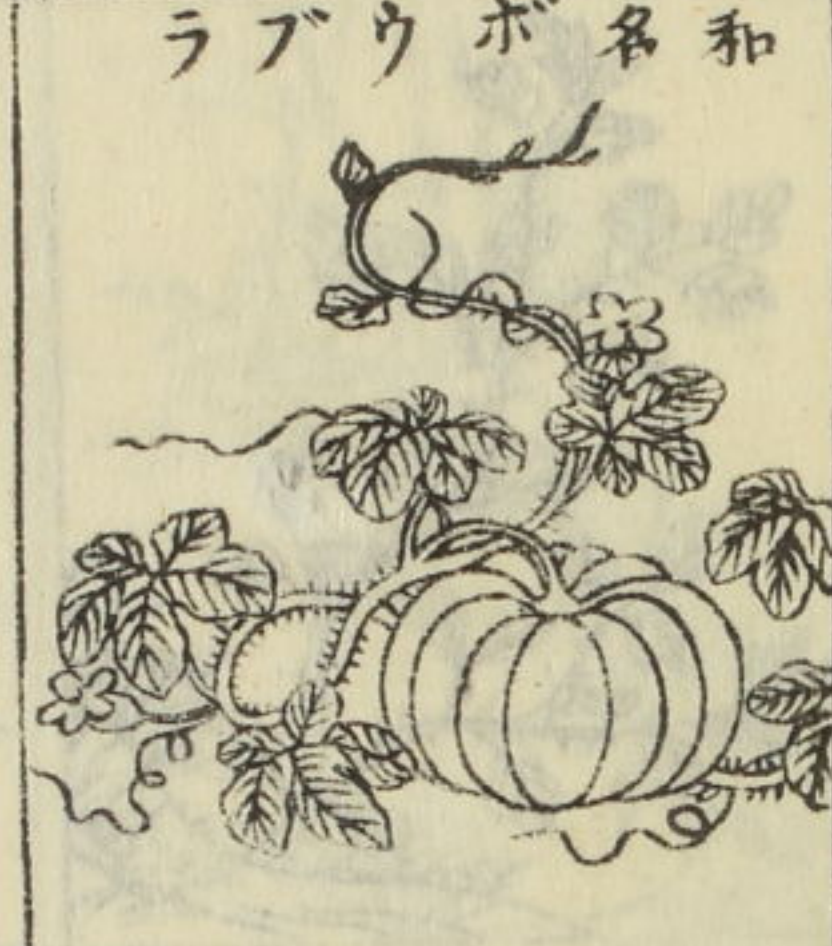
びつ小圓うて
西瓜のく色赤
くも大は蔓
くひふ

金我鳥足虫 瓜

色淡黄かりて形
我鳥の卵のく
味も其美なり
童兒のくを
顔とくく

西瓜 實

結小圓大を
のく色ま
加ふ子金色又
黒さ



楸樹 蔓

生にして甜瓜
の如く細花七
月より実む
の下に在る拳の

蘿摩子 藤

生うても厚し
あれとつりく乳
汁わり子ハ
瓜の葉珠あり
名羊角菜

石南藤 天台

山中に生其
苗のびく木上
ときく四時
かまふ



獨用藤 施功

に生れ四時葉
ありつた花は
葉上に刺
ありつた時



瓜藤 四時

葉わり花は
つらに
時



施功 生れ

會春藤 台加
に生れ 甘田 蔓
木上 三ま
冬夏 五月 一
入葉 一 一
葉 一 入 一



血藤 葉

蒲蘭の如
根 大 指 乃
加 其 色 黃
五月 一



鉤藤 葉

細長 一 節 間
刺 一 一
溝 一



百稜藤 台加

に生れ 春 苗 一
生れ 蔓 一 木 上
冬 一 一 一
葉 一 一 一
一 一 一 一



祢波藤 天合

山中に生れ 其 苗
蔓 一 木 上 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一



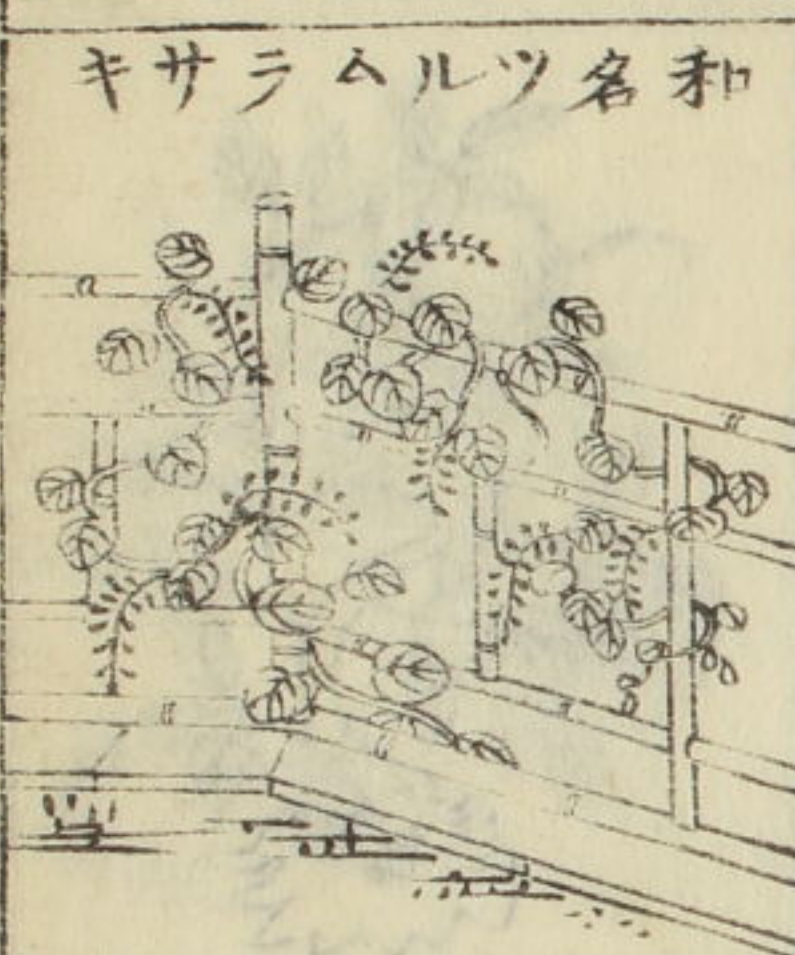
列節 苗葉

俱に 丁公藤 一
似 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一



洛葵 雞壇

蔓 延 一 七月
の 比 蕃 一
葉 圓 一
一 一 一
一 一 一 一



落鳥木 蔓

生 一 一 木 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一



百部 春苗

と 生 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一



石合草 其苗

本 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一
一 一 一 一



和名キキナク

和名ツルムサシ

我鳥抱 山林

の中石に附て
生一蔓と云
葉大豆に似
根ハ菜ガ服
似り大小あり

木鼈子 春苗

と生一莖と云
四月黄ばと生
六月實と結み
拾葉に似大
其核鼈に似
ゆへ名つくこ

千歳薬 葉ハ

葡萄とてその
葉白汁ありて
四月八月と
ひらと七月ま
とじま

麻黄

苗生一夏長
して一尺くら
上に葉あり
実と結て百合
瓣のくく

地黄 二月

葉と生して地
に布て車前
似り葉上り
離文あり花
沈麻花に似て
白此葉あり

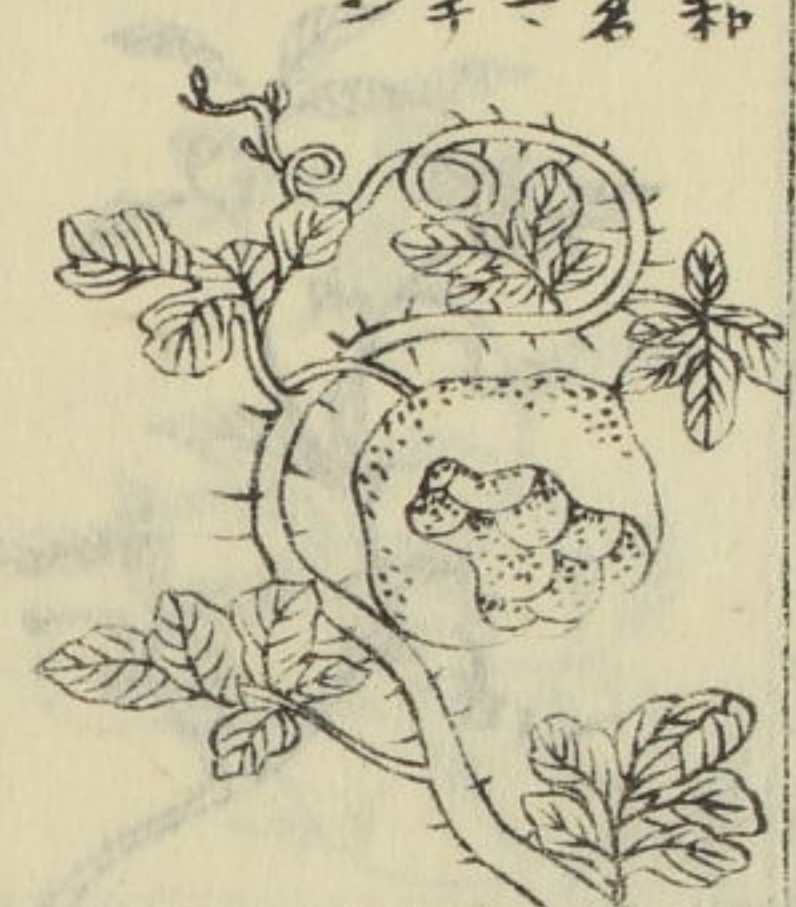
蒟蒻巴 春苗

と生一夏子と結
秋に至てこれ
此種海南諸
番に出

唐土訓家園景卷十一



名和



名和



名和



羊乳根 蔓生
ありて長さ二三尺
茎葉は多かりて三葉
あり茎と根は白
汁は根の蘿蔔
のくくして根を
又丸くもわらわら
根と備

大圭月 苗高
三尺くらり 莖石
竹ノ類一葉圓
長色赤紫
馬蔘ノ似り
根黄色かり

小圭月 三月
花と生れそ乃
月葉とより福
州の土人生て
つこ碎て癌磨
を治

紫苑 苗と

生して其葉三四
相つかり五六月
のうちに葉紫白
花とかりと
活て葉一根と

雞腿兒 苗の

高七八寸細く
鋸齒硬厚く背
白一黄ばと兩
根ハ指の太り
一名ハ翻白草

九牛脚 二月

苗生一独莖
高一尺葉艾
似て圓く長
背に白毛あり
面青

名和



名和



名和



名和



名和



名和



陸英 春苗

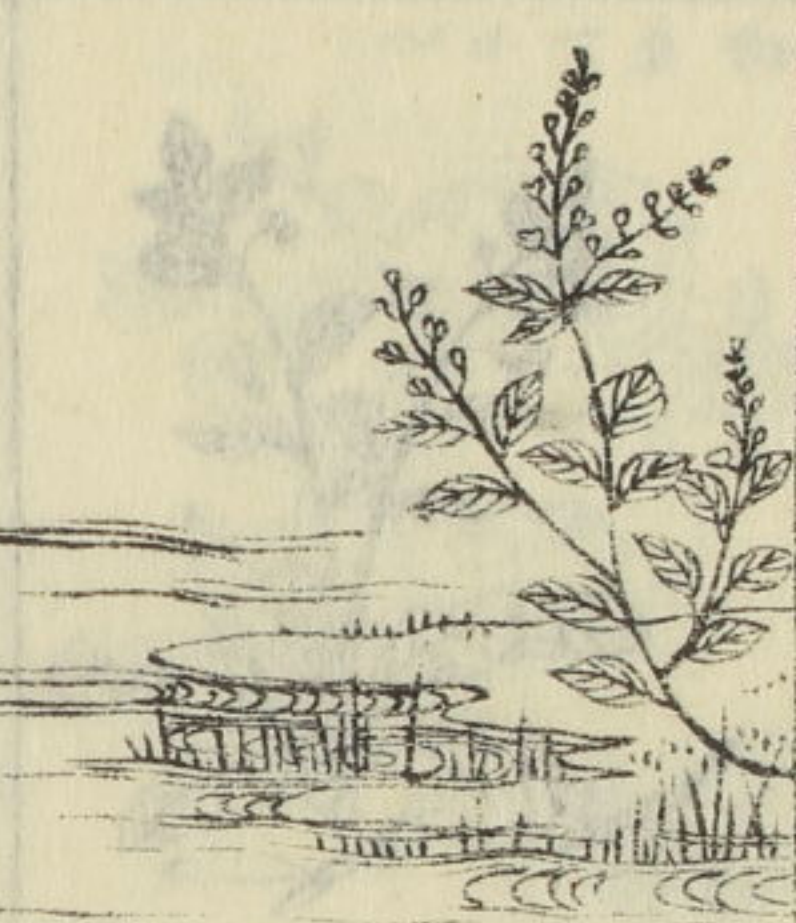
と抽て、莖は節あり、節の間に枝葉と生れ大い水芹に似らる春夏葉とともち

水英 池沢

及の河海をこに生れ、海人呼て牛蒡、人蜀郡の人其花と採て面薬に合は

白葉 葉ハ

沢深に似て小其形鷹を飛了似たり根ハ慈姑乃しく小圓根あり水と合は



穀精草 穀田

の中に生れ葉薺とに青根花並に白色一名戴星草と云ハその葉細く花白く圓く星に似たり故に

曲節草 四月

苗と生れ莖は節あり七八月花とけは荷と似たり子と結

馬鞭草 春苗

と生て狼牙に似たり又穀母り穀して莖圓く三三二尺三四穂と抽つかり



水江 後水

の地は生れ心草に似て三角に織て席と成り薩加七島ヨリ出改ニ七島ト席ヲ名ツク

鱧腸 昂

蓮子草 下濕の地に生れ二程のり葉柳に似て光澤ありて馬齒莧に似る一種ハ桔梗に似たり

陰地 葉ハ

玉莖蒿に似く莖紫色花小穂となく微莢細幸に似り



葶藶 苗と

生れ葉の高六七寸三月葉心と開く子ハ角にして扁小黍粒の如し起夏の後採りし

海金 初生

して小株と成り一ニ人七月採て日中よき依とて乾く其砂と依上と成り

蛇合 土石

の上或ハ下濕の地は生れ莖五又七葉更替わり葉細く花莢と佳し



青箱子 苗長

一、三四尺葉洞
柳に似り莖ハ
玉色紅色莖ハ
くろ七月花を
用く上お下白

敗醬 葉取

生一、二花葉色
根紫色葉紫胡
似て陳敗豆醬
の氣あり故
名はく、白あり
ト云レト云

續斷 甚葉

葉ハ似て莖方
葉ハ似て莖方
葉ハ似て莖方
葉ハ似て莖方

火炭母 莖赤

一、葉ハ細く
葉ハ似て莖方
葉ハ似て莖方
葉ハ似て莖方

海根 山谷

一、生一莖わく
葉ハ似て莖方
葉ハ似て莖方
葉ハ似て莖方

草綿 此草

秋花とひく實の皮
裂く綿と出れ
糸と云レト云
此草ハ胡祖武天皇の
延暦十八年三河國
出雲入漂着し和名
此草ありと云レト云
頭種ハむその根種
と云レト云、永禄年中
再ハ種と云レト云



龍葵 葉
圓く花白く実
牛李子乃如し
生ハ多く熟して
黒く煮て食
へ



王不留行 葉ハ
尖小く七匙形
のく又根葉
ハ似たりわり四
月花といはく
葉ハ莖下段
に生レ



筆頭菜 春初
花と生レ其形
葉ハ似たり
葉ハ似たり
葉ハ似たり



天名精 夏秋
枝と抽て薄荷
のく又根葉
ハ似たり
葉ハ似たり
葉ハ似たり



天明子 苗生
一、高三四尺
六七月花と開
黄白色其子青
绿豆の如く
生レ



連翹 苗生
一、枝長楡葉
の如く莖赤く高
三四尺なり花
葉ハ似たり
葉ハ似たり



和名



和名



和名



和名



和名



和名

山鐵蕉葉

蕨のこく根多
そのののこく
狗脊サ微蕨の
一種なり



和名サクサツ

霸王樹

飛胡風壁の如
して刺ありと
そらうくむら



和名サニホテ イロハル
タウナツ

肉蓯蓉
西卷
より出つ形藕根
のふくし
あり列當
これ同し
人根テ西朝王樹
とスルナカレ



列當

丁香加苗 蔓生

あつて難色
うの茎葉刺多
葉ハ季半葉
むもゆり子
子の小こく



鹹草 扶桑

其の東子
味鹹
此草を以て
写ルハ丈ハたの



黄花菜 形ハ
此草を以て
和ノ七種ニ用ル
タヒラコナリ



唐土訓蒙園彙卷之十二

草木 之下

草木

此部ハ水菜毒濕雜苞瀝果寓
喬之草木のちて

龍鬚漬菜

石子生いて
水と洗ハ白
海石も菜の
れふ水と白く



和名モラン

鷓鴣菜

のうま生は小兒
の良病ニ用れ
古書云おろの
和倍草と同一
也一初生ニ用



和名リクマ

澤瀉

浅水の中に生
葉牛の舌
似り茎長
花黄黄色なり



大藕兒

藕の如くして小
者熟して合
枝葉食へ



燕子花 水沢

子生は花葉共に
又白をもあらし
その形の似らんと
いへ燕子とん
和名カキツバタ



浮菖蒲 夏

入て生れ六七月に
くろく濁る海
晒乾し一舟の泡
塩醃し拌食ふ
生も亦よし



牛尾温 深水

の中に生れ葉ハ
髪の如く甚ハ藤
の如く 冬月魚
と和して煮食ふ
夏秋もよし



我鳥兒腸 地

就て叢生して
長は葉の對し
葉生れ葉間分
て枝と生れ白
花と用く苗葉
食へ



地瓜兒 甘苗の

高二尺餘 莖方に
四稜なり 葉薄
若くに似て 微長
苗根ともよし



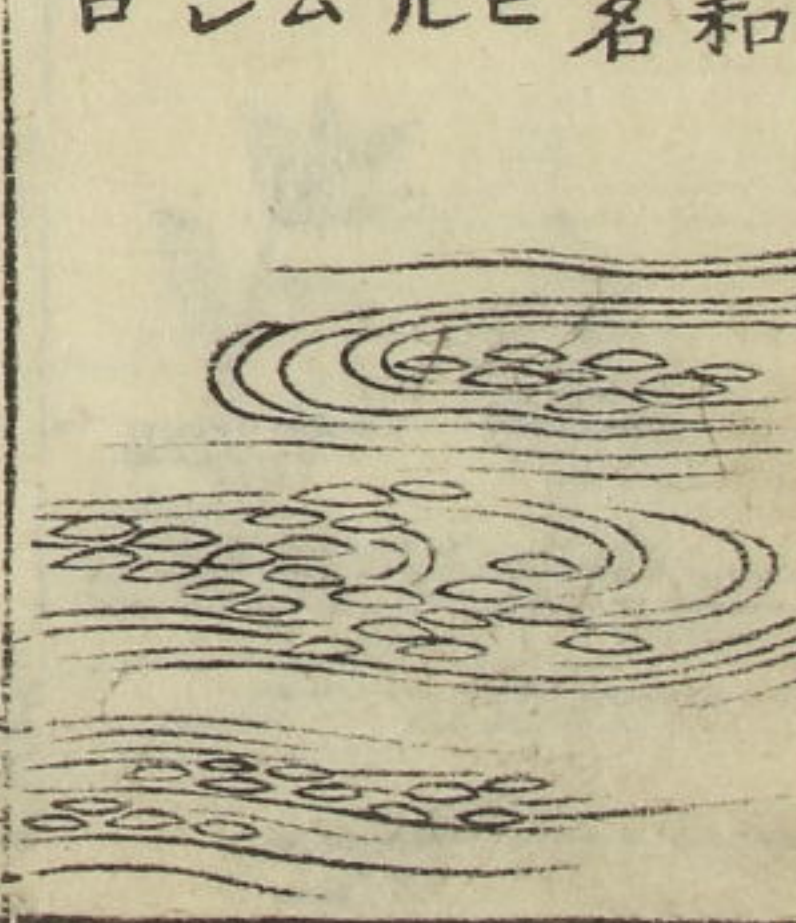
碎米薺 田

多し葉のをもと
ひらく白むらさ
つて小地のり
わきひらき葉と
合して瓜と人



眼子菜 六七

月より水沢乃
中に生れ葉長
長く北月ほらさ
柔滑うて細長
殺入わり湯と漳
晒乾し醃醬に
拌してらへ



燈臺兒 二月

これより洗ひ
さしゆ香油椒
塩に炒て
くふる



水菜 秋水

田に生れ狀白
菜に類と香油
椒塩よりたせ
くふる



苜蓿 二月

苗と生れ一叢
數十莖夏及ひ
秋に入て細黄
花と用く小莢
と結て實あり



蕺菜 山隠

湿地に生れ
蔓生うて莖
葉此赤色葉
乃形喬麥の如
うて微少



牻牛兒 田野

の中に生れ莖蔓
細弱く紅紫うて
五瓣の小紫むと
のこ葉葉と結
上は嘴ありて細
滴の



生瓜菜 苗長

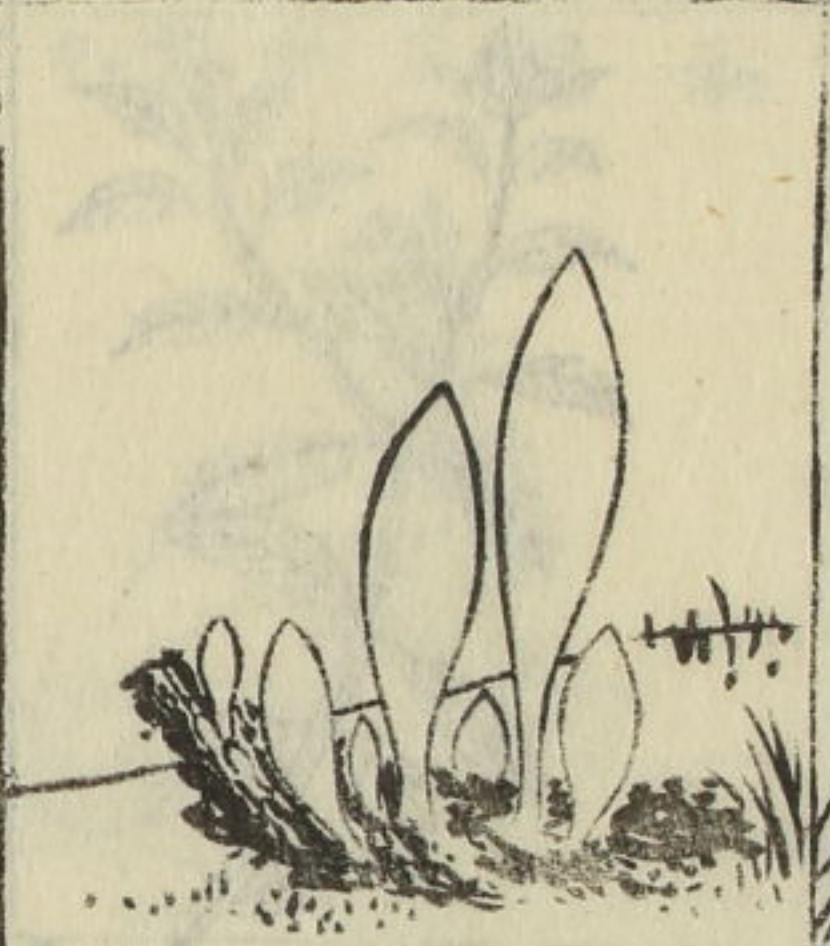
して叢とらん
く三四寸夏の家
白花と用く細
実と併ふ其味
生瓜の氣か

磨菰草 桑猪

名肉草 又雞腿
小孫あり
菰と生瓜の形大

雷聲菌 夏秋

雷の後の後
中に生瓜の葉
のくく味も亦
お似



大黃 春初

苗と生瓜の葉
似て根ハ芋乃
四月芽入
花と用く一種
蹄大黃あり

附子 烏頭

天雄附子 側子
四品都てこれ一
種苗の高三尺
以来莖四稜葉
艾の如く紫碧
色なり

牙子 叩

狼牙し苗地舎
に似くわつ大
二條綠色根黒
して獸の歯牙
の如く故にかつ



狼毒 苗葉

高陸及大葉に
似り莖の上り
毛あり四月と
いらく八月実
と結ぶ

菘若子 苗莖

高二三尺葉地葉
に似り四月と
と用く葉色あり
莖に白毛あり
五月実と結ぶ

烟草 一名

相思草 又淡婆
地と名つ朝鮮
人南草と名つ
煙花烟酒擔
不帰といふし



茵芋 苗長

して三四尺莖
赤系石榴
似て短く厚く又
石楠に似り四月
細芽と用くし

大戟 春お

芽と生一長て
叢とかり一
入る葉初生
の柳に似り三
四月芽入を
いらく

續隨子 苗ハ

大戟の如く花も
まゝ大戟と名を
葉中に幹と
掛く実と名
実と名あり



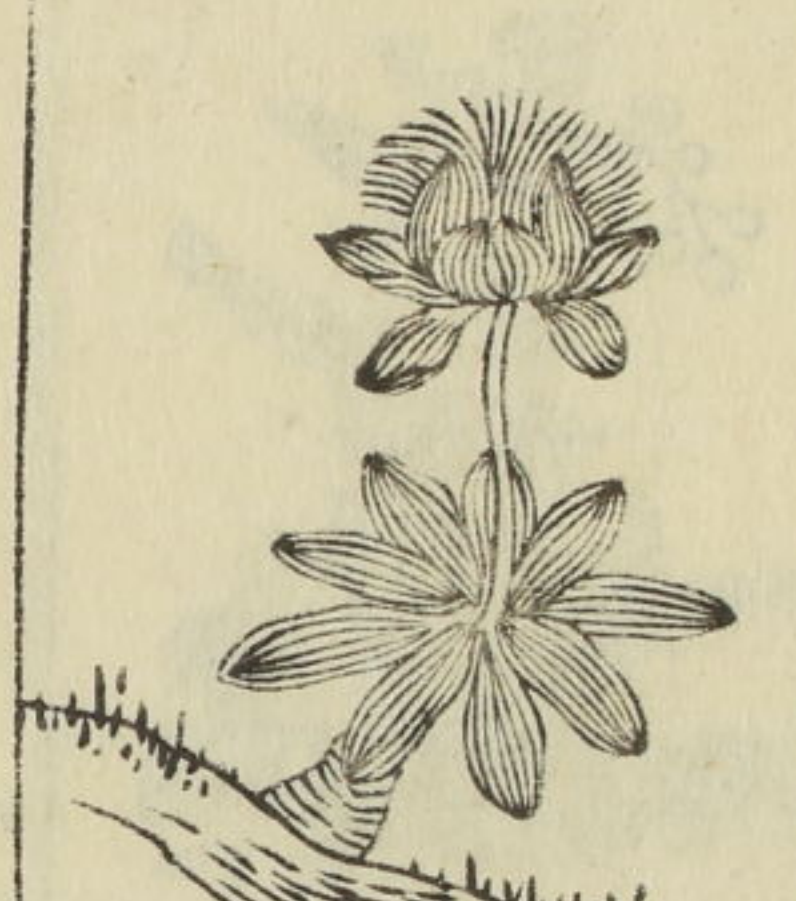
鬼臼 葉ハ

蔓麻に似て初
莖と生じ莖端の
一葉二兩岐わけて
年々一莖一葉
莖枯て一白と成
た赤色莖ちかり



蚤休 苗葉

王孫鬼臼に似たり
六月莖葉蒼白と
用く莖葉赤黄色
上は金線ありく
下は赤くく



海芋 苗と

生じて高四五尺
大葉芋のく莖
と抽くむと用く一
辨蓮のく莖
色く 大毒州ナリ



防葵 葉ハ

莖に似て莖とに
三葉一本の莖
あり中に一幹有
其端のく花と用
て葱のくく白



蔞 苗葉

大戟に似て花葉
色根蘿蔔の
如く皮葉肉白
初め時汁出て
膿と漆のく



坐墊草 六月

紫花とくらし
実と落し其苗
とくしてお櫛
の傷と治り



土紅山 高き

七八尺葉枇杷
に似て毛を
秋白花と生じ
粟粒のく



攀倒甌 莖

春夏葉の加し
研搗て冷み
に浸し汁を
絞り絞れ熱
盛に煩渴と治



毒と解け

いへとも大毒あり
人吐利やまに



水茸草 春苗

と生じ莖葉青色
葉楊柳の如く
水際と生じむ
六月十月八
月とく



甘遂 苗ハ

澤漆に似て莖
短小く葉に
汁あり根皮赤
く肉白く又草
苗麻のく



荒化 二月

皮膏を搽ん赤
腫に大毒あり



和名
ヒトガレユナナ

和名
シニケ

半夏 二月

苗と生一莖一
三葉淺綠色
頗竹葉に似て
光り一種半
眼半夏あり

曼陀羅 高二

三尺綠莖碧葉
八月白花雨
狀牽牛に似
大實と結て
圓なり

劉寄奴 系ハ

蒲公英の一種也
かやう一種柳葉
のくわんわりの葉
畫具の生臘脂と
はまよく血とむ

半天回 春苗

と生は高二尺餘
赤斑色冬
至て苗葉は
枯る夏月
これとよく

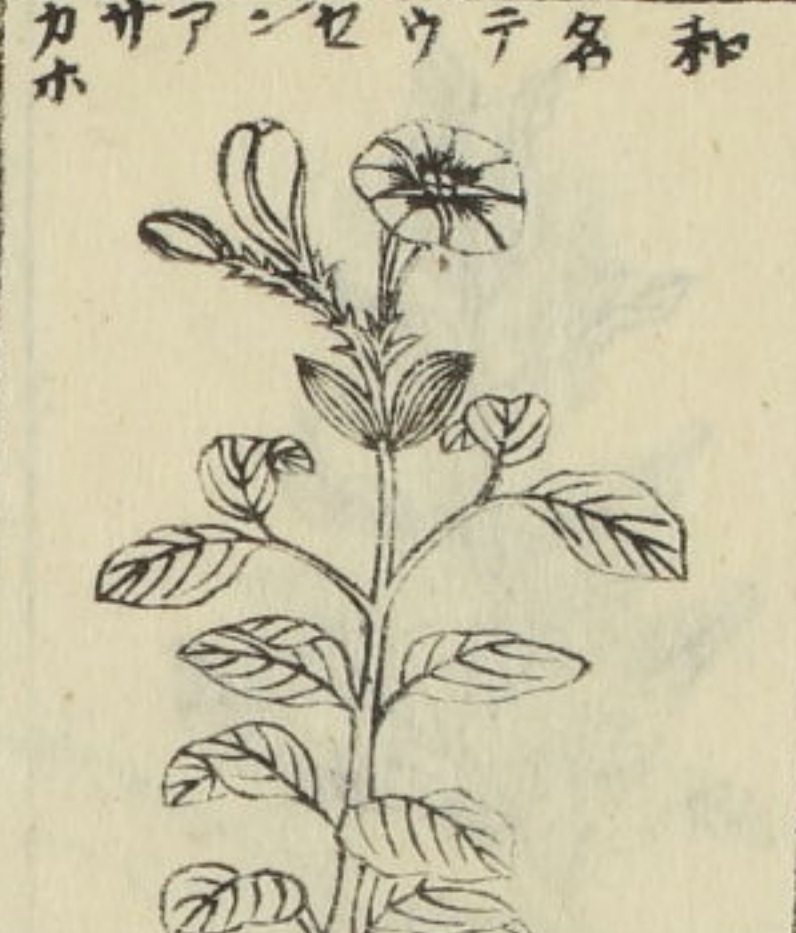
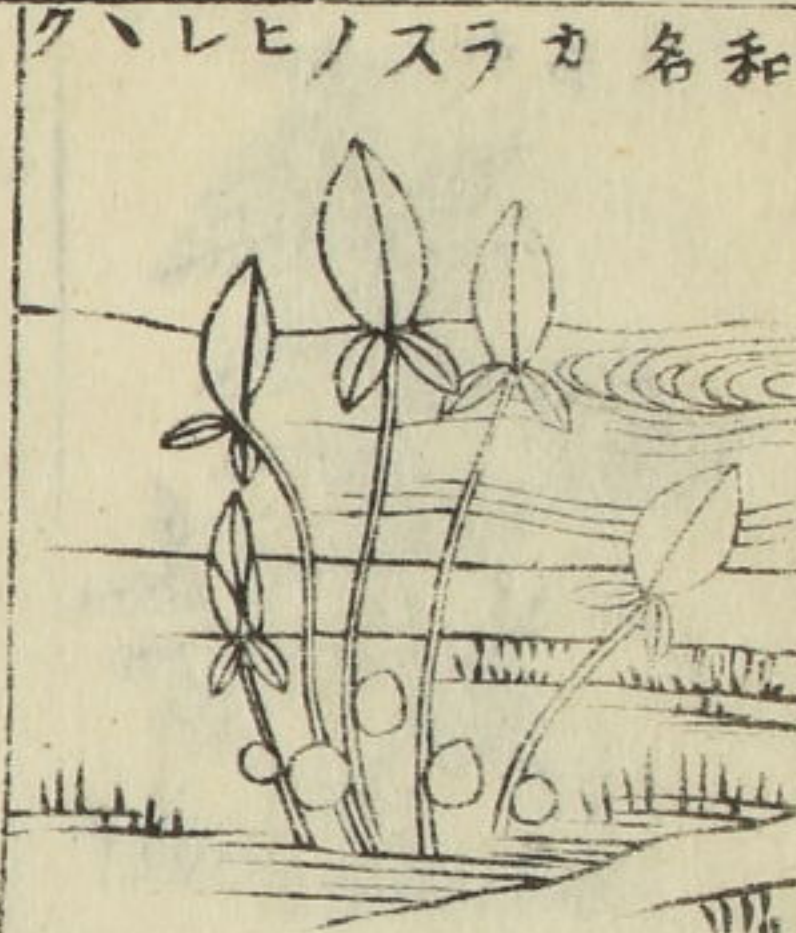
兔兒傘 荒理

の巾に生は
苗二三尺
莖出葉を
生は傘蓋の
乃とよく淡白

甘藷 苗高

二尺餘莖幹
似て葉細長
鋸齒の葉莖
と布して生は苗
葉とよく食

唐土訓家園原卷十二



瓊田草 春苗

葉と生一花
三月根葉
とより并の福
の主人風病と
治は

雞項草 葉ハ

紅花の如く葉
刺あり根ハ小
蘿蔔に似く
枝條直にのり
三四月葉を
生は

野蘭根 叢

生一て高さ二
尺ころり四時葉
ありつたなり
その根とよく

半邊山 葉ハ

苦蕒に似厚
根白木に似
軟なり二八九
月一ねとよく

小兒群 叢

生高さ一尺ころり
春夏生長して
花なり冬枯
其根とよく用

苦蕒 江浙

近京にあり一
名尺二と名
は強蛇傷
其汁とよく
研てつるこ



野落離 二三

月子嫩葉より
陽一俾し過
と塩醋し和
くららふ



百乳草 莖

葉俱にまろく
松葉の如く花
なく三月に苗と
生し四月に長
け



建水州 枝葉

桑に似て四時常
にあり 福列し
出つ土人葉
より倍乾末
たうと用也



催風使 天台

山中に生れ苗
葉又夏常に
まろし其葉と
くら葉入る



藜藜 二月

苗と生し葉初
出ら椽心より
莖ハ葱に似て白
青色上に黒皮
わり裏の莖極
皮花ハ赤色し



百藥祖 天台

山中に生れ苗
葉冬夏ついに
青し土人その
葉と冬くら



露筋草 春苗

と生し随て花
と開き子と結ぶ
四時開き其
子碧色とくら
時なり



大木皮 其高

下大小定らば
四時葉わけて
花なく其皮
と用也



獨脚仙 春苗

と生し秋冬に
至て葉落つ其
葉圓し江青
下系其脚四
五寸夏根葉と
くら



百兩金 苗

高三三寸八幹わり
て木乃加く冬凋
れ其葉其耐俱
にまろし花実と
結て後背赤く
花碧色山実
のこ



石道遥 冬夏

常より花は
実も亦多し其
常州より
くらに
あ



烏藍 鳥ハ

大なり村人大
と呼て鳥と
此菜但宜く
熟食す



都管草 苗生

土當飯に似て根
巻活し似たり三
八月に根とら

黄燎昂 天台

山中に生に苗
葉冬夏常に
青し土人其根
ととり薬入り
入

黄花了 春

三月葉を生し
三月に至ても
あり 辣菜花
に似く黄色
秋実と造ら



刺虎 葉

冬と凌て根と
かきとりし時
あ根葉枝幹
ともに用の

芥心草 蔓

生うして白色
根ハ黄色四月
苗葉ととり
もちめ

苦介子 苗の

高一尺より枝
葉葉莖青色
葉柳のし
白花と開て楡
莢に似たり乃
子ハ黒色なり



無心草 三月

花と用さ五月
実とむす六
七月に根と
とり

茆質派 葉

赤く花白し七
月より信弱
の土人とり
風腫と治ら

鷹爪 花葉

色末鋭て葉の
似たり葉あり
柳に樹ハ連竟
は似たり小樹なり
む開て香し



布里叶 莖の

高三四尺葉ハ
杏に似て大
夏に花さう
して

紫金牛 葉ハ

茶の如く上緑に
下紫し實圓く
紅して丹朱
のし根ハ微
紫色し

子午花 一名

赤く夏に入
用く必日午
いしりしり
名はくし



胡蘆州 枝葉

小蘆に似る花紫
一枝七葉花三
出苗之れ
標して俗菜と
同熟一丸と云

其家 人家

園中多うの
星為初上似て
毛の毛あり
根は附子と云

石棗兒 野圃

多く生れ葉々
葉は似て冬も凋
また根は水仙の
くく ○民に
て飢よいつく
類されぬ



杜蘆山 其苗

高四五尺葉ハ
苦蕒菜に似
り秋紫を
と用く実粉把
のくく丸なり

華澄茄 春夏

葉と生一青滑
色はへ一実と結
て梧桐子に似
り八九月
ころこ

麥李花 小

一と繁おこ
麥熟して實
食へ



望江南 苗の

このさ二尺ころり
長極多うく
肥大し葉むと
ひく丸角とじ
寸小三寸作

白屈菜 田畦

二三人葉葉白
色葉毛刺あり
稍陰し又と分ら
葉むとひらく
紫ハ山林葉は似

科藤 蔓

抽て地を破り枝葉
外皮のく剥きか
つる藤の長数丈
剪てこれ散十里と
瀧へ ○今を物
と細くつると

和名イタチカ



和名サノウ



竹蓐 竹

の液をとりて化
よつて生た鹿
肉のくく白をこ
ららへ一又竹
1月てし生と

雷丸 竹の

冬に葉くつら
かりて丸のく
圓うて皮をく
肉白くくつら

夾竹桃 花ハ

桃のくく葉ハ竹
乃ぬく終く石
片く然も湿と
いつくをを畏
陽起く



迎春花 臘月

黄花と用く根
枝上より結て生
るりしこして
うくはくなり
まをす



笑靨花 木の
高四五尺くろ
春花と用く小
細うて粉采
の



金糸桃 桃の

加して心よ黄
髪わたりた外
に浦敷く
金糸の如くこ



郁李 木の
高五六尺枝葉
皆李の如く唯
子小く梅桃乃
如く赤く味酸



木香花 三種

あり黄白紫三
色あり
糕
へ



錦帯花 蔓
蕾の形小径乃
形れく色粉
紅うと嬌なり
色と屏離り
植て玩し供に



刺桐花 葉ハ

野薔薇の如く
茎子多し
花ハ玫瑰の如
香



茶藨花 藤
身あり茎五月
刺多し花用て
香微り清
人あまら棟棠
よ非



玫瑰 花ハ

薔薇微し似て枝
刺多し花上香
氣あり四月
いらく糕とる
よい



金櫻子 葉取
生薔薇微し形
刺あり四月白
と用く秋子と結
子も亦排わり
形極細し似り



寶相花 薔薇

子較出ん乃赤大
うて千瓣心
とつる大紅と
粉色との二種
あり



波斯菊 一名
西番菊 花
久しうとくそ乃
子肥しおつと
昂生し復も
とる



和名ニヤウハ

和名ハニ

和名ヒマラヤキ

和名イハウワ

和名ラハイフ

和名キクイハラ

和名ハコウツギ

和名ニリムメ

和名ケカハ

木綿 樹

大に抱く... 葉の... 白粉あり... 布のつら

吉利子樹 葉の

野桑葉に似く... 小く春白とひ... 朱して紺

木半夏 樹の

高六七八人... 似て園く... 實ハ圓く

酸東果 其木

高数丈徑圍一... 二尺木の理極... 細密く

山茱萸 木の

高丈餘葉ハ楡... 似て花白... 赤色

蔓荊 高

四五尺葉子數... 似て枝と生... 色莖葉白色

唐土... 十二



賣木子 株

の高五七尺春嫩... 枝と生ハ葉尖... 長ハ四五寸



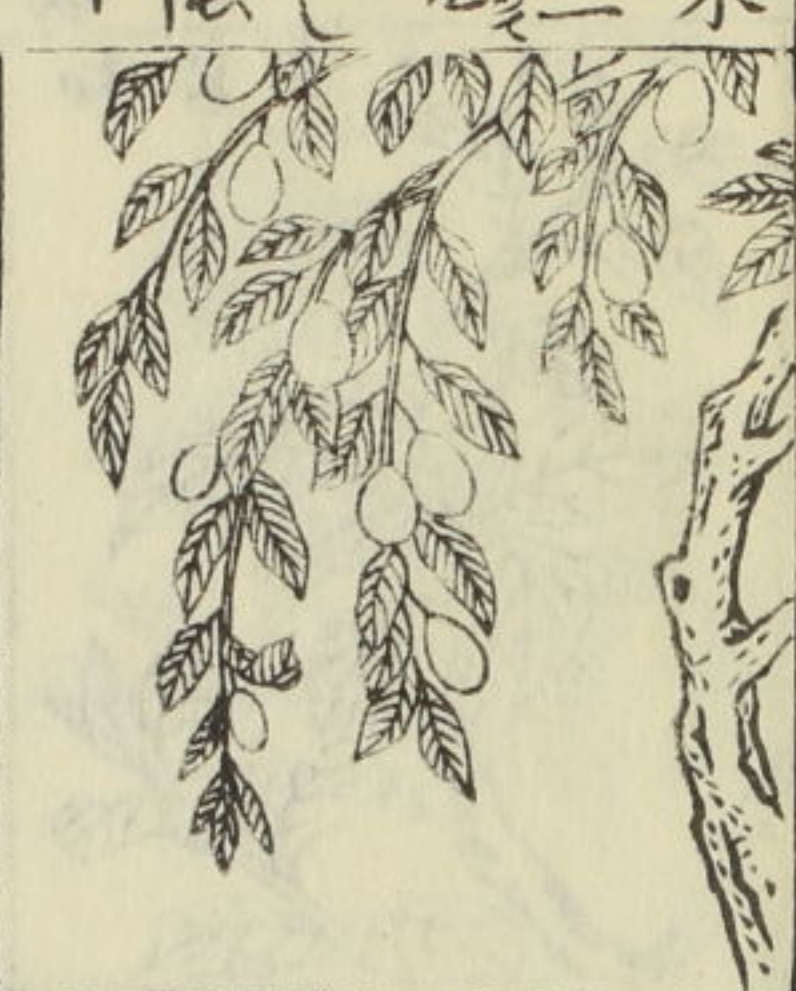
椿樗 二木

の形幹大抵... 相類ハ椿木... 實ハ一と香



珊瑚 葉ハ

山茶の如く小く... 木の高三四尺... 子赤くして冬



蠟梅 臘月

小くと開て黄色... 蜜餠に似る... 名はくちの



文冠花 樹の

高丈餘葉ハ... 似て花小ハ... 藤むに似て色白



蜜虫家 木の

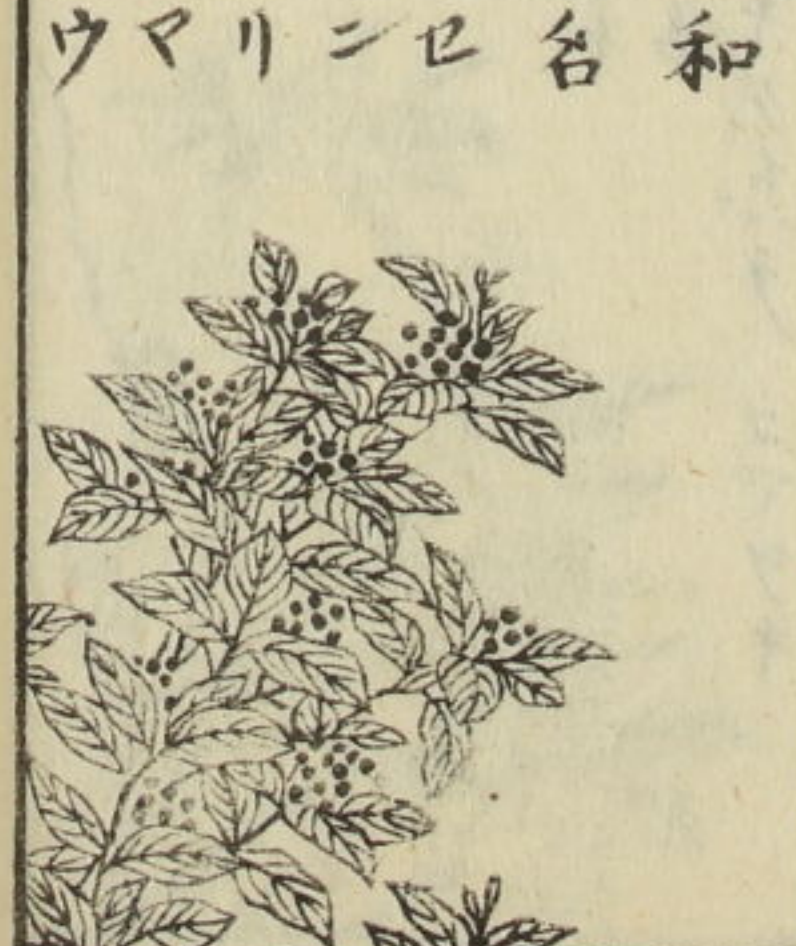
高丈餘葉ハ冬... 背ハ似く厚く... 背白色毛わ



ウマリ 和名



イヌダラ 和名



ウマリ 和名



ウマリ 和名



ウマリ 和名



ウマリ 和名

木葉

橘
橘は似て葉大
其形橘より大
して香あり實
久しくあふ人
家園中これ多
の類あり実大
梅ハニ木此とい
ふれり久し製
して代用するも
功あり故人の考
とす

檳榔

檳榔
檳榔は似て葉大
其形橘より大
して香あり實
久しくあふ人
家園中これ多
の類あり実大
梅ハニ木此とい
ふれり久し製
して代用するも
功あり故人の考
とす

無花果
人家の園中
うの長の根葉
葉は似て長く硬
く果は木の間に
果と生れ初は赤
くして赤子の如
く色ハ赤紫に
龍芳加 三月
小白むとひらく
実交熟は肉味
粘眼と目

櫻桃

櫻桃
櫻桃は春初白
花と開てその如
く赤く熟すと
皮十顆熟くと
おし
五枚するに初より
すりかきとす
故人の考とす



和名アヲキ



和名ダイダイ



和名ハク

棠梨子 三月

棠梨子
花と開く白
隨て實と結
其味酸く
澁く

棠梨

棠梨
蒼木に似たり
花白く實と結
て小棟子の如
く

醋林子

醋林子
高丈樹枝條
志ろ三月花
とひらく白く
四いらに九月
実とひす

菴摩勒

菴摩勒
高二丈枝條甚
軟に葉多く細
密朝し開く暮
に飲つ三月花
用て栗米のし

椰子

椰子
稅棉に似て高
教丈子木末は
わり大く
瓢の如く枝間
に密に

欖榔

欖榔
高五七丈正直
小く枝分り皮
青桐に似たり葉
木顛に生れ其
實三分とあり



開子桐 花葉

實の味甘く
吐きひ多く植
油とれて利あり

波西維得 或云

白木といふわり波
とら波家よわら
此はかりと
拙筆元ニ此説非ナ
今江州ニアルモ人
豐子桐ナリ波羅木
ヲ本州ニテ考ルニ
白木ニアラス此ニ圖
ヲ考ヘテ江加ヨリ
求テウエシ生シマ
クレテ油ヲトリ利アリ

波高維蜜 樹の

高五六丈冬凋す
花をくまわりて枝
回し生けたま冬似
のくまふ皮を栗
樹なり五六月熟す
附重さ五六斤肉の
ありて櫛のくま



藤黃 樹と

海藤と名はく
真臘の人刀と
以て枝を研ぎ汁
をとらば
今畫家ニ用ル藤
シロワコレナリ

没薬 樹

攬し似る木の
膏液結ひ
塊とならば

盧會 波斯

樹に出つ令廣
り来る者あり
其木より
脂涙の滴りて
かろ一取ら採
に時月あり



血竭樹 木乃

高敬大葉六椽
椽一似て三角なり
其脂液木中
より流り滴膠
の如く久くして
變りてゆるて

阿魏 西蕃

及以崑崙命
或云い脂を毒を
こら付羊と樹ト
よけてをとり射
その脂羊よつと
死はもと西魏を
今ハ度るより
昔とて今て録と
あしてつらといふ

龍腦香 婆律

樹といつら木中の
脂白松脂に似
杉の本れ氣を
がやり



菌桂 葉細

三條文あり
白二色葉銀
して枇杷葉の如
かり又葉乃
柄し似るあり和
まじし所あり

月桂 葉桂

辛熱く皮を
花も亦花の
食は法多し
乃花ありと
天竺桂樹なり

丁香 木の

言大俗葉細
似て冬凋す
葉は細黄色
子枝葉の上
に出て釘子と
此葉をかり



側柏

葉側びふと以て
名は三月に
いらくまると後
圓葉片と云は
まの重さあつへ



沉香

節多く葉楸ふ
似や花白く子ハ
檳榔に似て大
桑の如く水より
沉むのよとよ



降真香

番国より出川香
其蘇方木に似
是と諸香を和七
燒ハ鶴と感一
神と降は



檜

わり一種の葉度
して榛に似る
小田崎にて氏
用し利あり



茶梅

物おの二種あり
土月むさく用て
久しく而いり
世ニ山茶花と云ハ
石より山茶花ハ
和ニ云ツギナリ



海桐

手の大乃其皮
棒の如く白皮に
して堅く繩と
なりてまよ今
桐まに



扶移

山谷に生に樹大
枝十圍あり風無
して葉うみけり
詩經に滑唐棣
之華あまなり



蘓方木

根は形と木黄
子黒し
出人
絳色と
浮む



杜仲

高数丈葉辛
夷の如く皮厚
子數にこれを
乃そ内は白絲
と出



烏藥

圓小して尖て三
亞と云は面青く
背白し五月
黄白の細むと用
六月実と結ふ



橄欖

木樨に似る
秋の晩に實を
家々に其木
と橄として換
魚必皆浮出と云



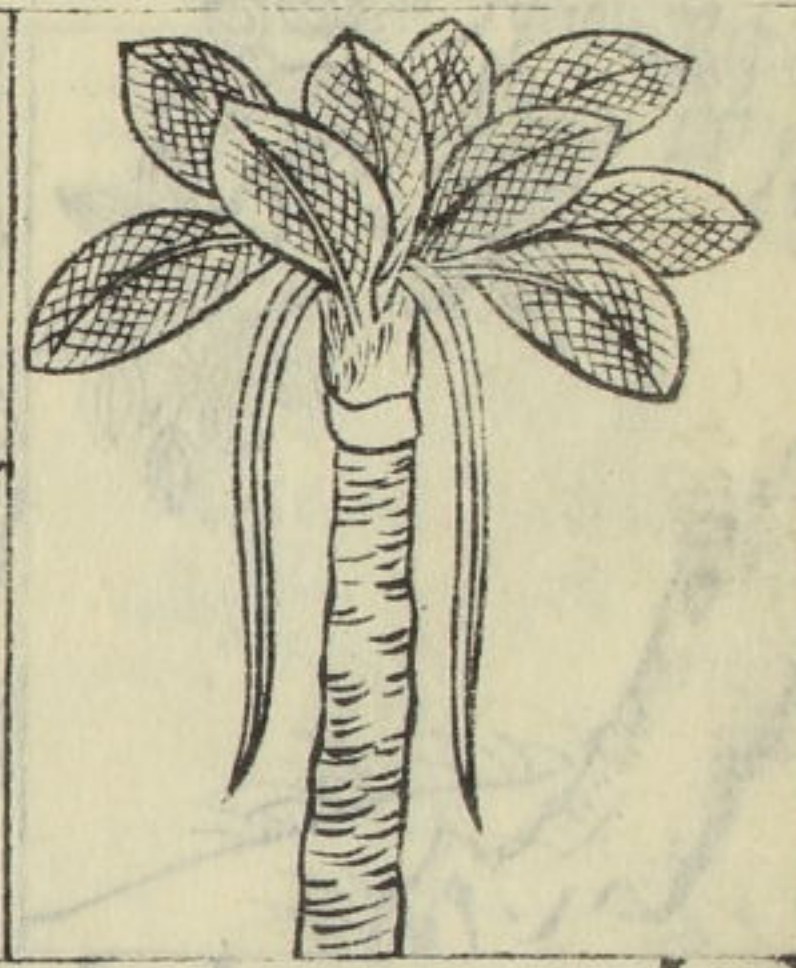
楸樹

大小わり大なり
琴瑟に似る
葉ハ楸桐と云
白むといらく
和名ヒサキ



蘇木麩 樹ハ

梳棉ミ似て多分誰
梳棉衣の状れぬ
木皮中に白粉あり
蘇木ミと命入る
人呼入蘇麩ミと云
蜀兵交趾ミあり



鳥欄木 樹の

色漆黒體重堅
緻ミぬとあて
ふろく葉ハミあり
二似ミあり
性毒と解に



樺木 樹ハ

山桃ミ似り木ハ
小斑點あり皮厚
して軟柔し皮匠
家ミ用て鞆の裏
と云



相思子 樹の

字ハ天餘葉ハミ
子似てハミ葉ハ
似り葉ハミと云
子あり半截ミと
子ありこれと云
腥香と収れミ
らミ



巴豆 木の

高二丈葉ミ
桃の如くミて厚く
大ハ四月ミを發
て五六月實と
生ミる



大風子 大樹

の子狀ミ 柳子ミ
しくみハ圓ミあり
其中に核あり數
十枚中の仁白色
久ミくミれミ能ミる



猪苓 土乃

底ハ生皮皮黒く
塊と云ハ形猪
糞に似らぬミ
名は一名地
烏桃



樺 樹大

高く葉ハ柳樹の
おろく葉ハ種ミ
似て獲長ミ冬ミ
と林ハ紫をこミ
お葉の類ミつら
くミり佳ミなり



訶梨勒 樹白

く子ハ梔子ミ
似て葉黄色皮
肉相ミく七八月
實熟ミるミ
と云



楠 樹大

小して葉桑の如く
其性堅く水
子角ミより故ミ
船ミ造ミ
木ミくくミくミて石
と云



唐土訓蒙圖彙卷之十二

名下
和名

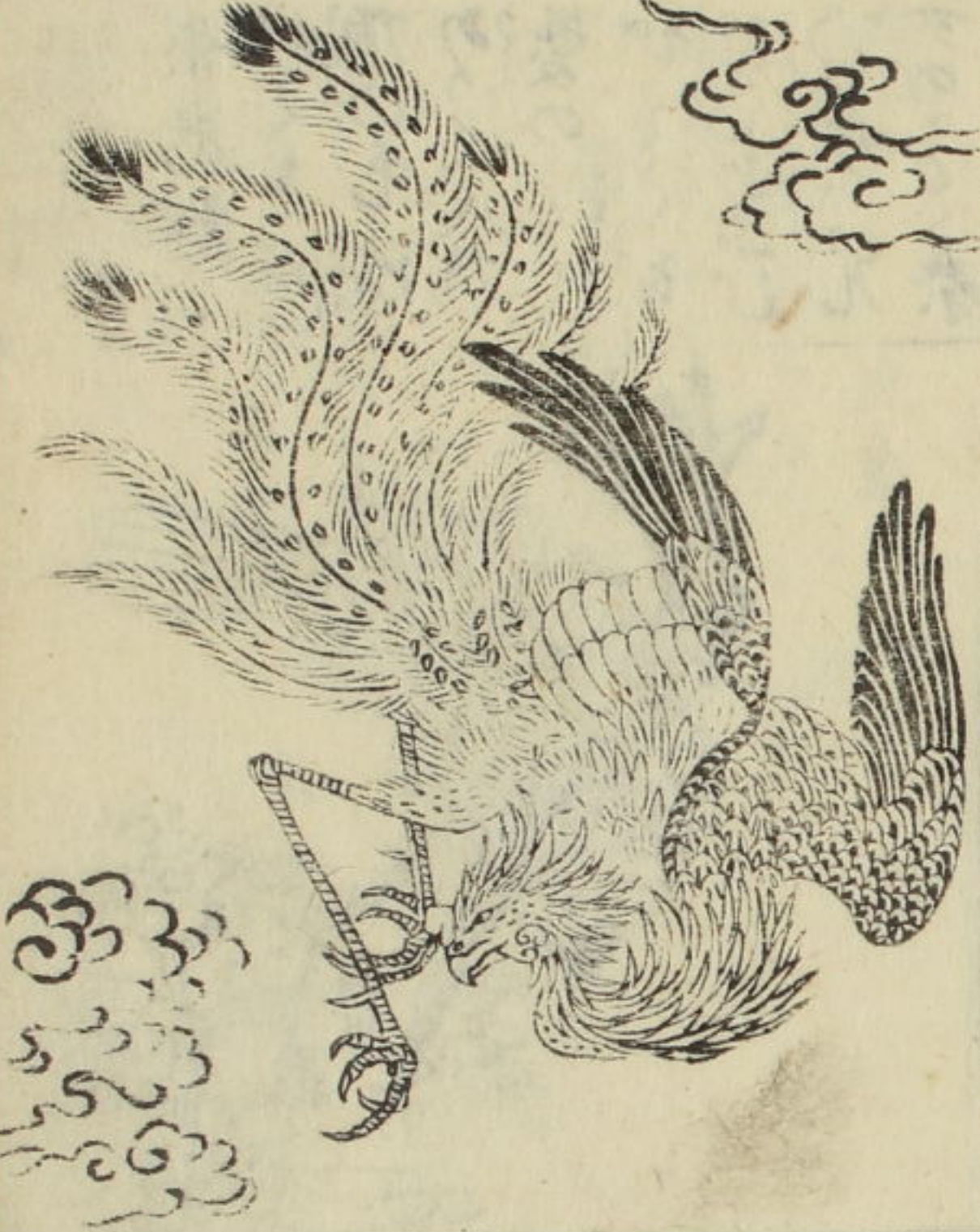
禽獸

此鳥は山川林池水原の畜すべし
とらるるものなり

嶺鳥鶯

嶺鳥鶯 嶺鳥鶯の風のこゝろあり

此鳥多し一國語に周のおろし
岐山よりくるといふ事



世樂鳥

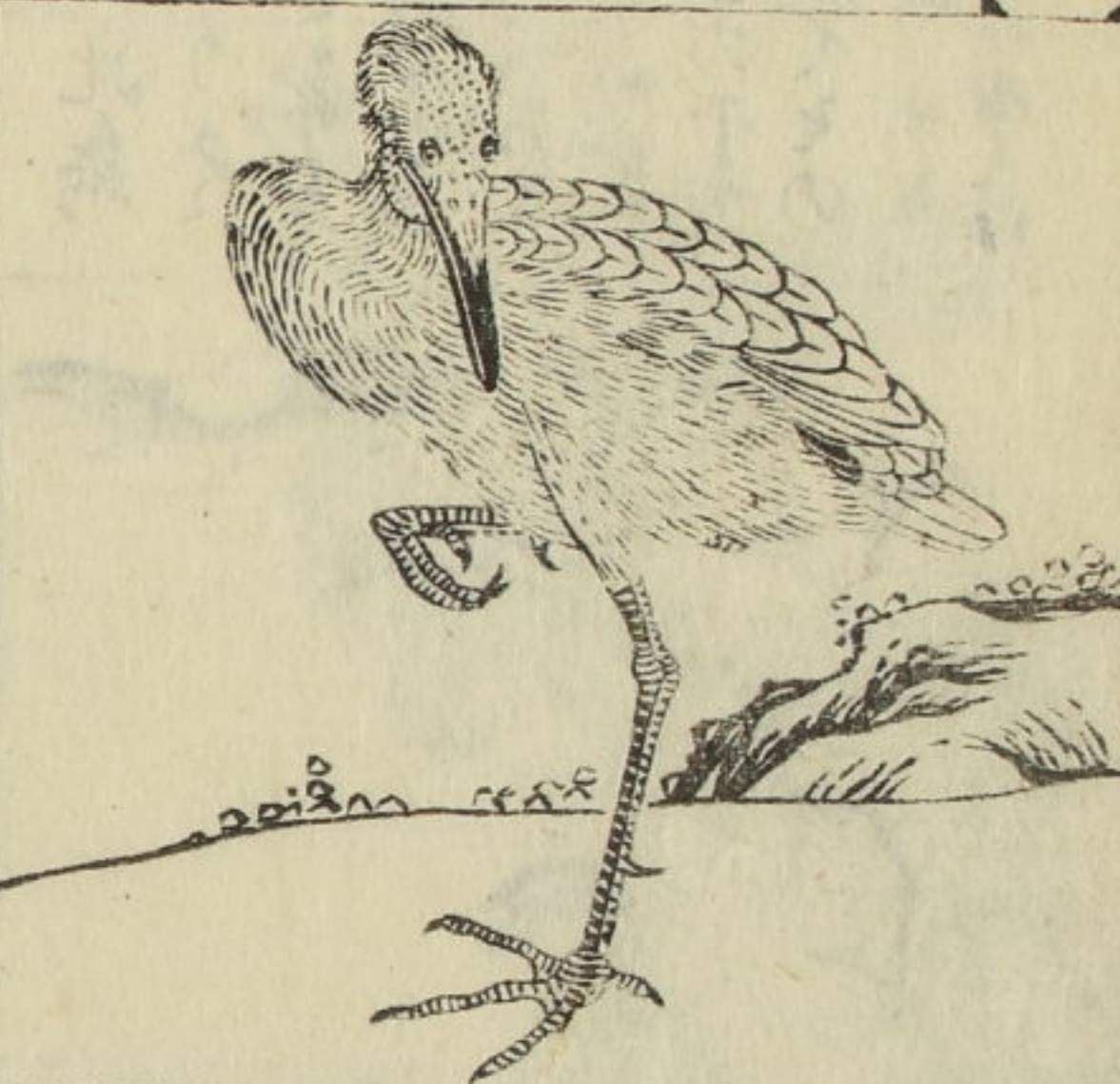
世樂鳥 南方より出づる鳥五色あり

丹喙赤首は冠あり王者明德あり
天下太平なる時あり



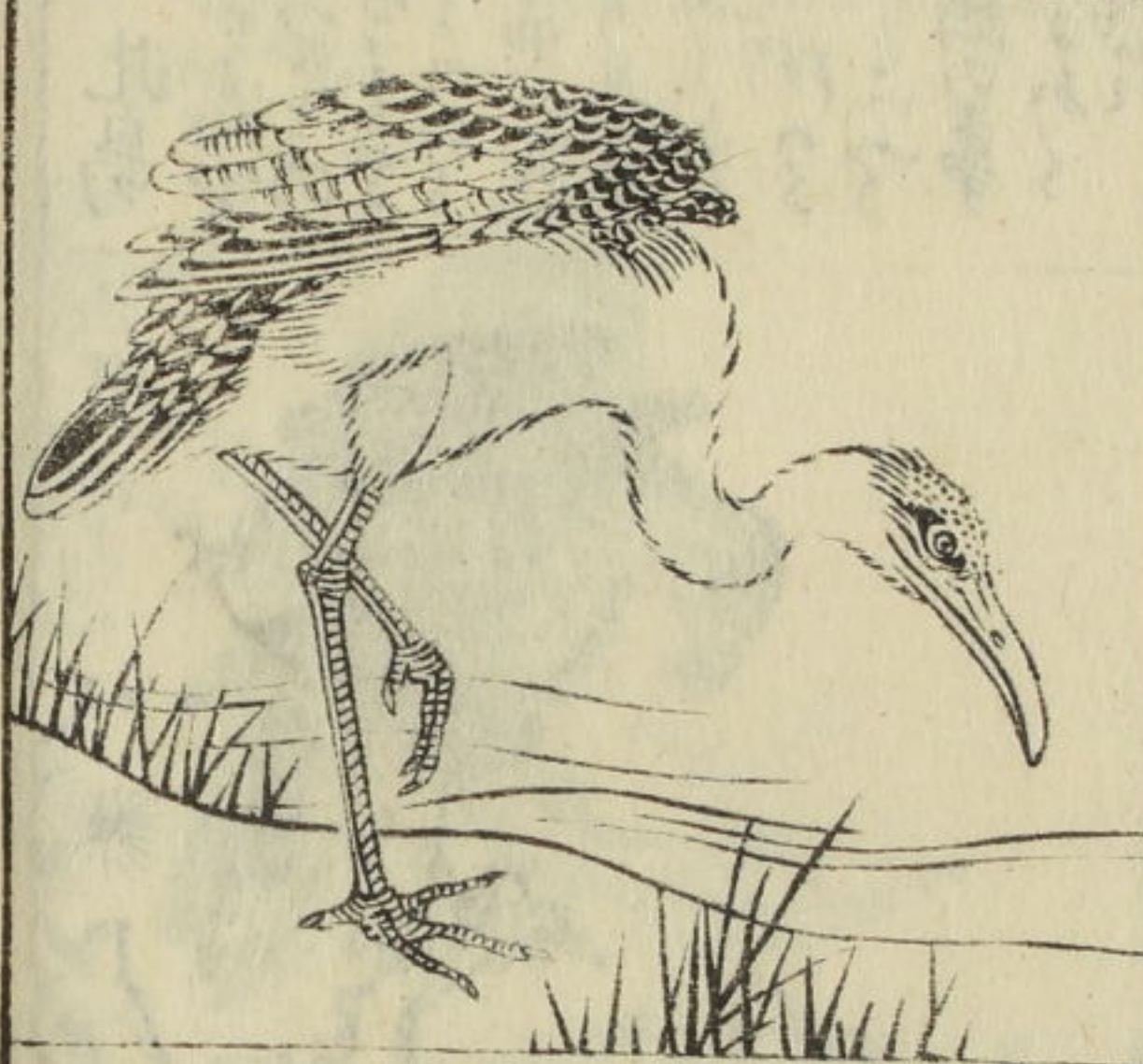
秋鳥

一名扶老
鶴のくし
翼の廣さ
五六尺と
わかれ六七
尺長頸赤
目尻頂より
皆毛た
凡六鶴の
くしと色こ



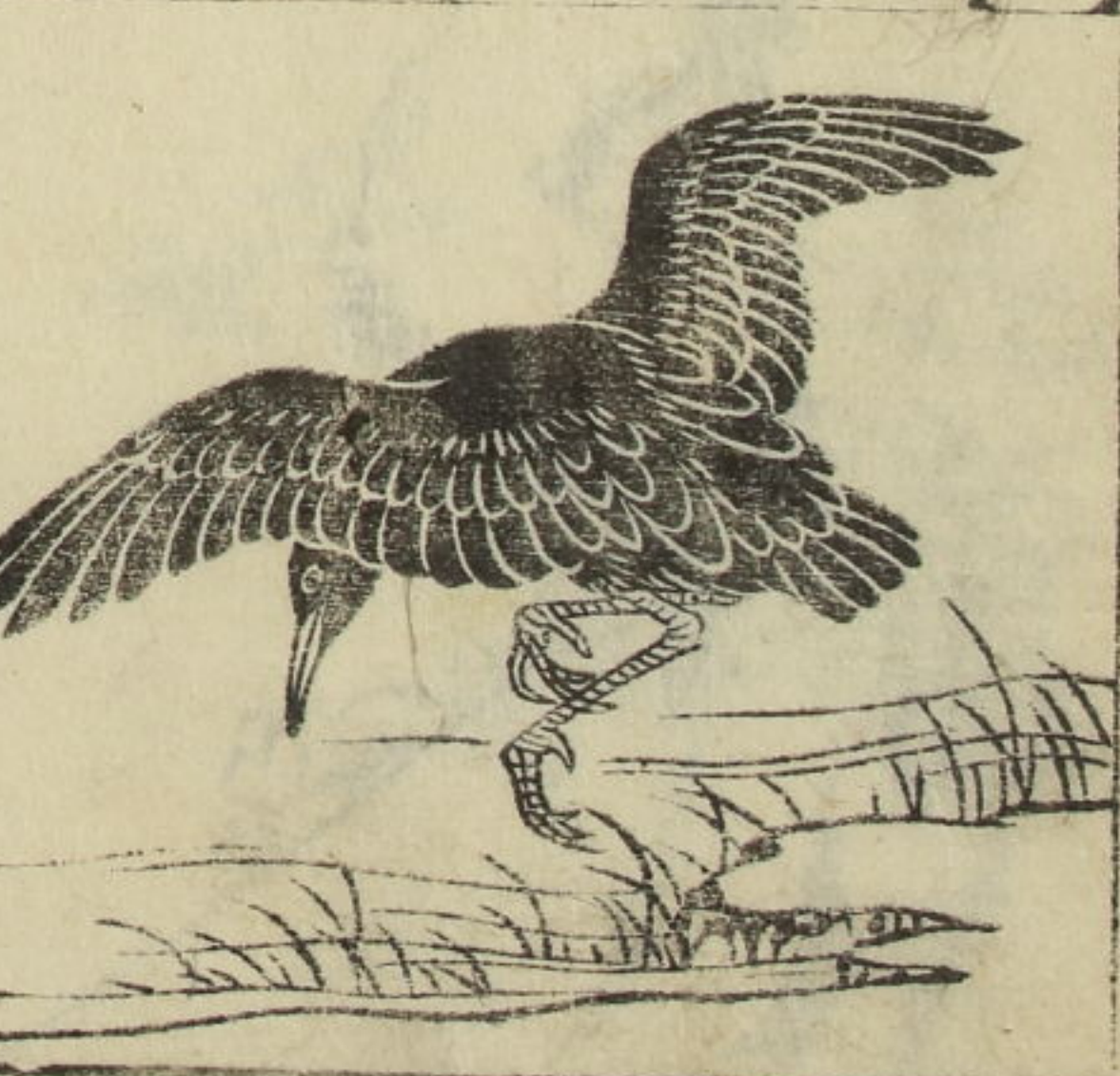
鶯

水禽大さ
孔雀のくし
長入俗は
口切り末冠
のくし二條
糸と入る
酒器と化
ゆとや
木葉と食ふ
糞糞は
香し似たり



鶯

頂金色子
嘴紅く形
滑に軟と
其色ハ物
のくし三月
三日あり
去て九月
ハハハハ
群ハハハ
香のくし



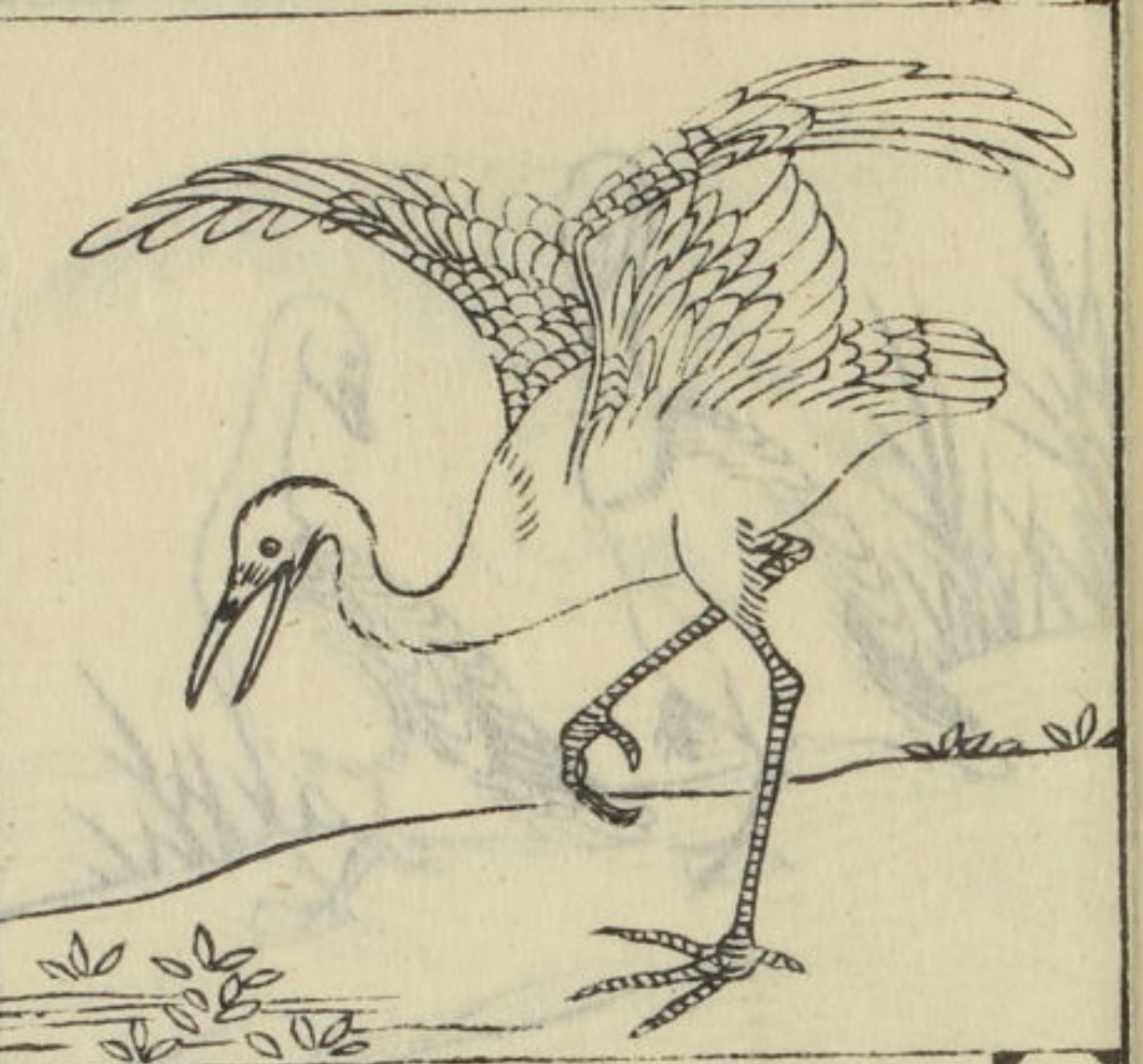
鶯

鶯子似く
殊小く
身黒く
頸長く
て
ハ



昆鷄

鶴に似て
黄白色に
頷長く喙
赤く九辨
啾啾
鳴る



玄鶴

その色正
靑王者
音樂の音
わらわら
びく黄
帝樂を
崑崙山
不若小
ハハハハ
ハハハハ



鷓鴣

鳥の類に
吳中ハ
田間
生る



旋目

大さ鴉に
加りて尾
みハハハ
お白くこ
深淵ハハ
目の旁ハ
毛ハハハ
旋りハハ
選上ハハ
ハハハハ
ハハハハ

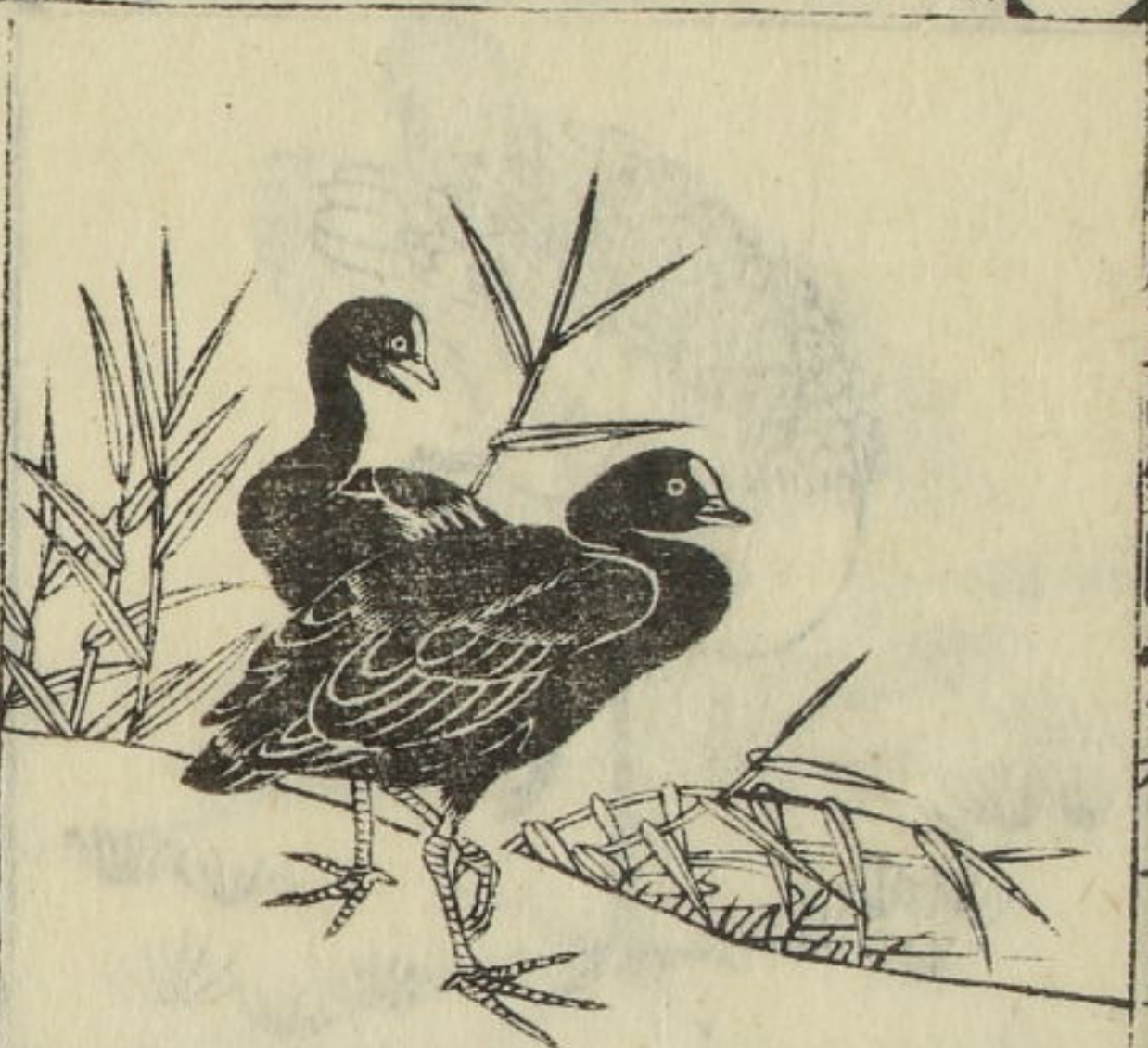


方目

水鳥類
白く自由冠
あり足の指
場は似く
ひらく足
まき鳥一
いさよ大
小あり

蒼鶻

善高く飛
て所は似く
そよ蒼白
なり目相
較て孕む
吐て子を
うむ



白鶻
鶻の類なり
その色白
形ハ鴨に
つらぬい
さしぬ乃
しひひみ
るいひ
る

屬王

水鳥鴨
は似て大
長頸赤目
紫紺鶻
鶻は似ち
漢あり
觀あり
る



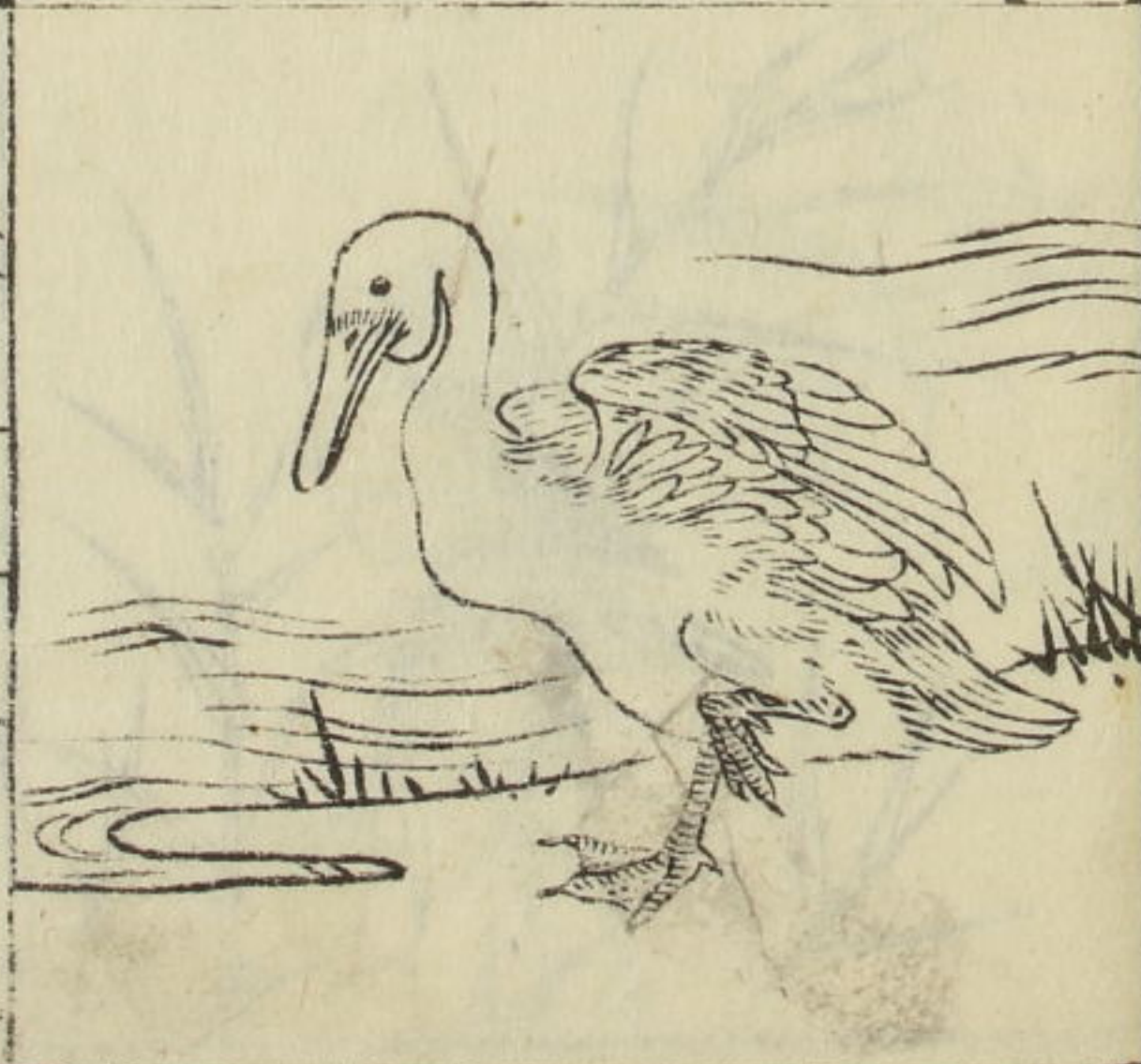
鶻鳥

鶻鳥類
白く人似
て白鶻
と似い鳥
はさるく
凡そ水
鳥は似
首は似
る鶻なり



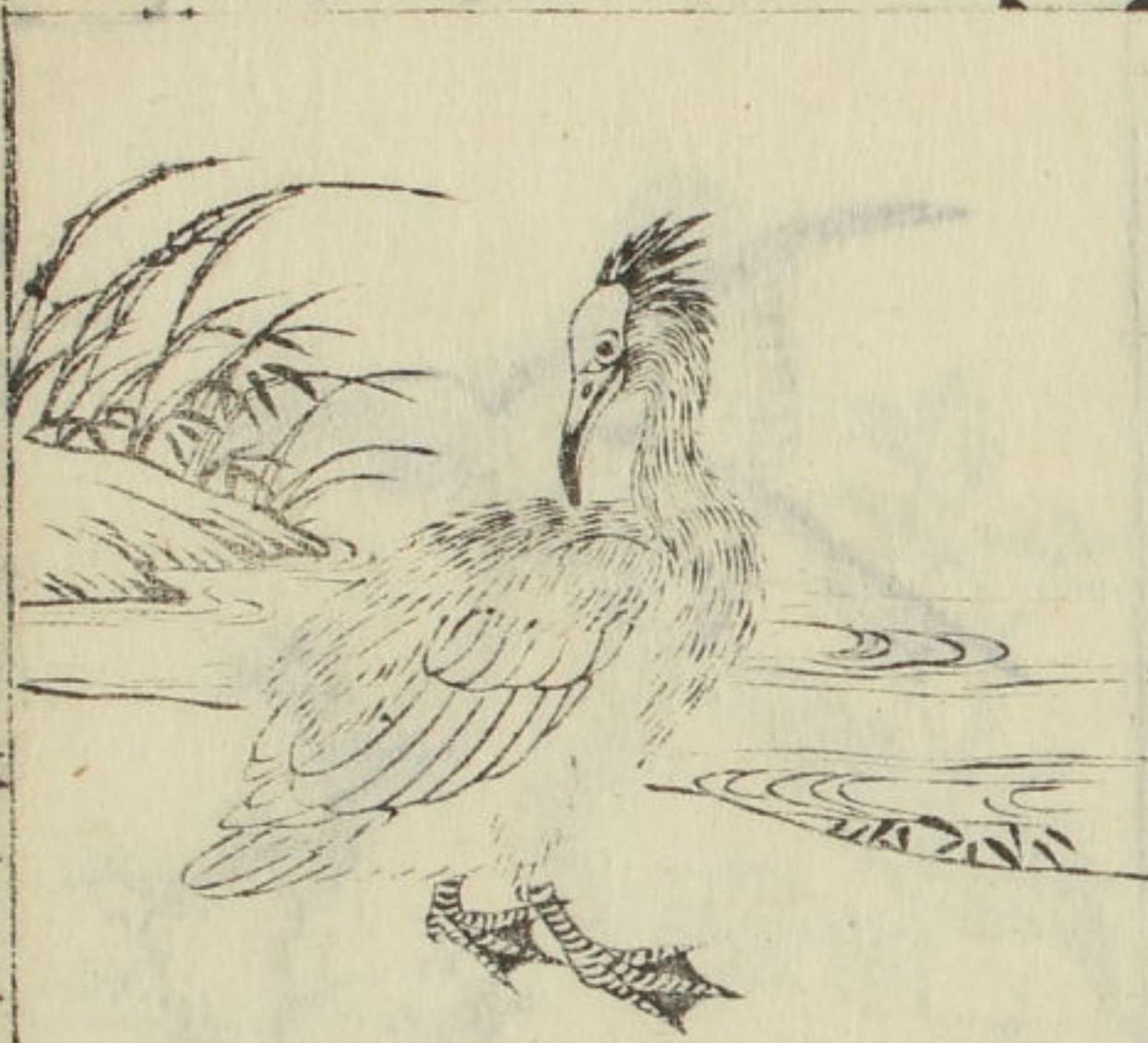
鶻鶻

一名陶河
名鶻澤水
に沈て魚と
なり鶻鶻
は別なり
形鶻より
似て大に
して灰色
なり



鶻

鶻鳥類
指が似
文あり鶻
鳥は似
う糞を
激して是
を御承し



信天翁

狀鶻に似
喙長一水
際を立て
く魚を食
る鶻は似
る日魚と
されぬか
る鶻は似
る信天翁
同類なり
和名アサ
リ



鷓鴣

水鳥雁乃
屬長頸綠
色之形塵
似其羽裘
一種狀如
足短指
尾似之

非羽

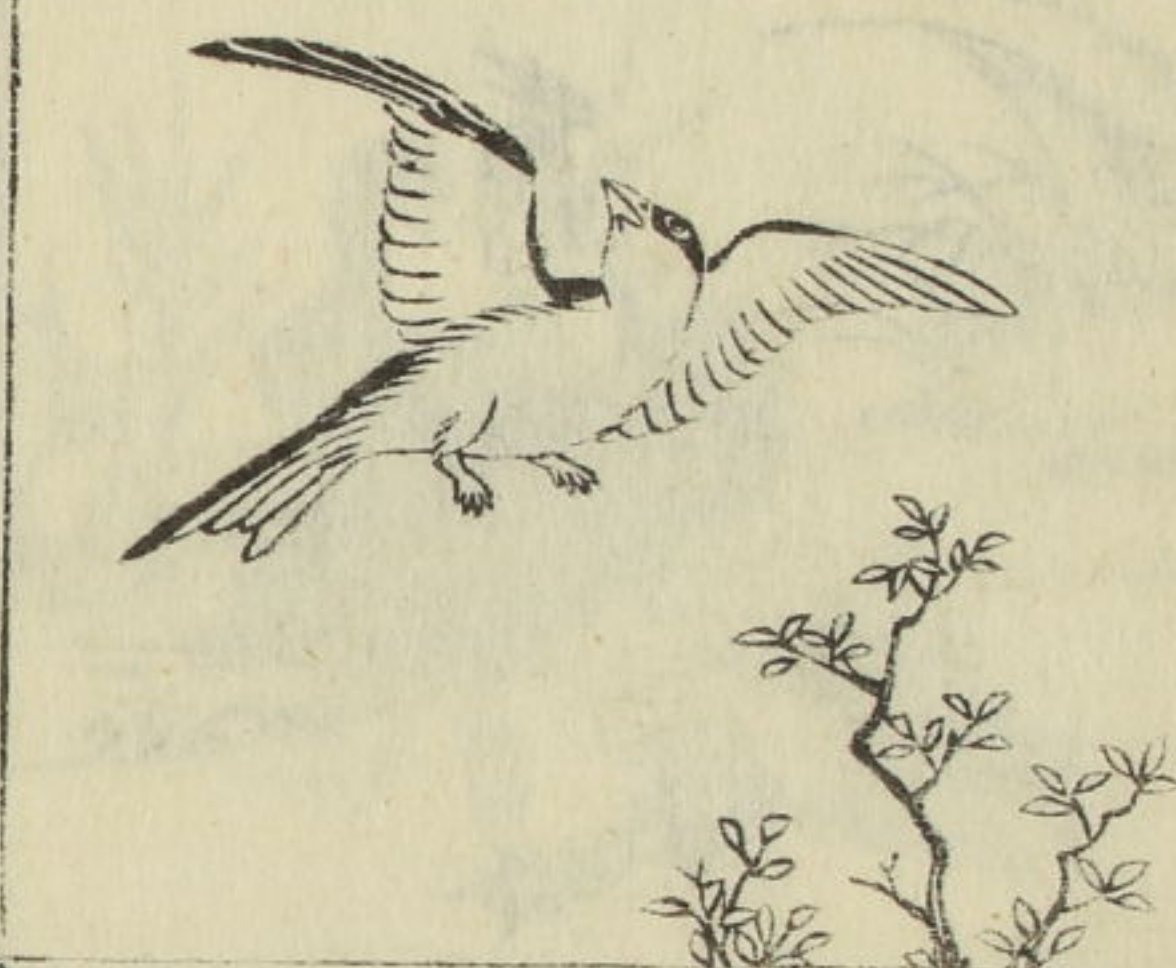
非羽
似魚狗
似之稍大
水色
居之魚
或ハ冠有
灰之
御
或ハ非羽
之羽
非羽

蒿桂

麻雀
似
之
黒色
高
の間
在
故
之
名
之
わ
ん
と
食
之
皆
佳
美
なり

突厥

大
之
鳥
の
如
形
雌
雄
一
後
趾
ふ
し
尾
の
岐
り
の
色
を
群
に
て
る



唐土司馬圖景卷十三

嗽金鳥

昆明國
出
川
形
雀
之
如
色
黃
之
魏
の
明
帝
の
時
本
里
賦
以
真
珠
と
急
織
と
解
を
常
に
金
屑
を
く
る

鷓鴣

形ハ雀
似
テ
尾
長
一
好
く
華
の
皮
と
割
て
中
の
出
と
合
し
四月
の
間
多
し
知
名
なり

黃鳥

形
鷓
鴣
に
似
し
大
毛
相
黄
色
尾
上
黒
色
相
似
し
唇
尖
足
脚
長
日
に
て
は
う
ら
ひ
を
ま
り
あ
ら
る

繡眼兒

形
小
鳥
の
如
く
月
白
く
月
の
色
を
帯
ひ
て
居
る
こ
の
鳥
を
繡
眼
兒
と
呼
ぶ
なり



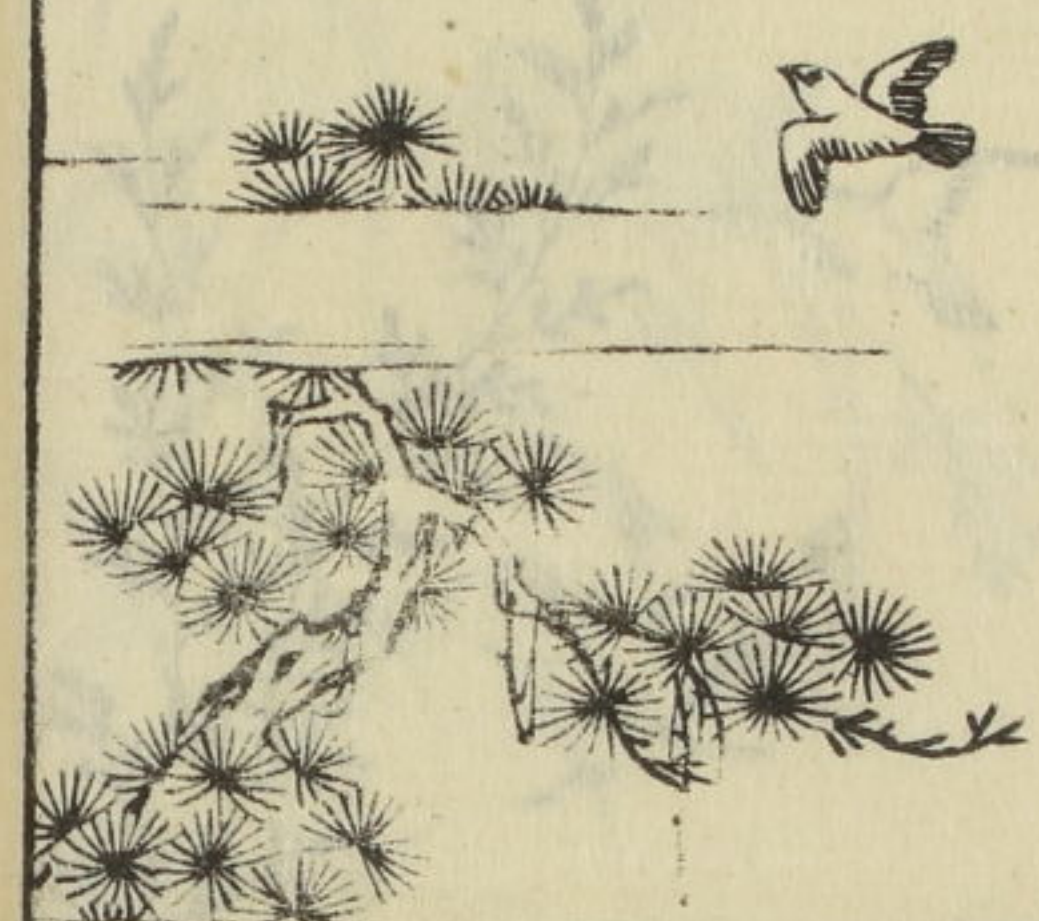
鶺鴒

此鳥小く七
高く挙る
くち中
故に射候
すれ
此鳥と交
くつてうと
すれ



正

正ハナナラ
鶺鴒小く
て飛と疾
して取射
候故
布侯
すれ
みれ



唐土詞家區原卷十三

反舌
五月
至て止
と及易
百鳥の鳴
子效又百
舌と名

杉鷄

杉鷄
の如く
其冠
ありて類
色
赤
杉樹の上



氏眼母

大さ鶴の如
黒色之南
方池澤の
菰草の中
に生れ且色
人の吐する
其
二
と吐



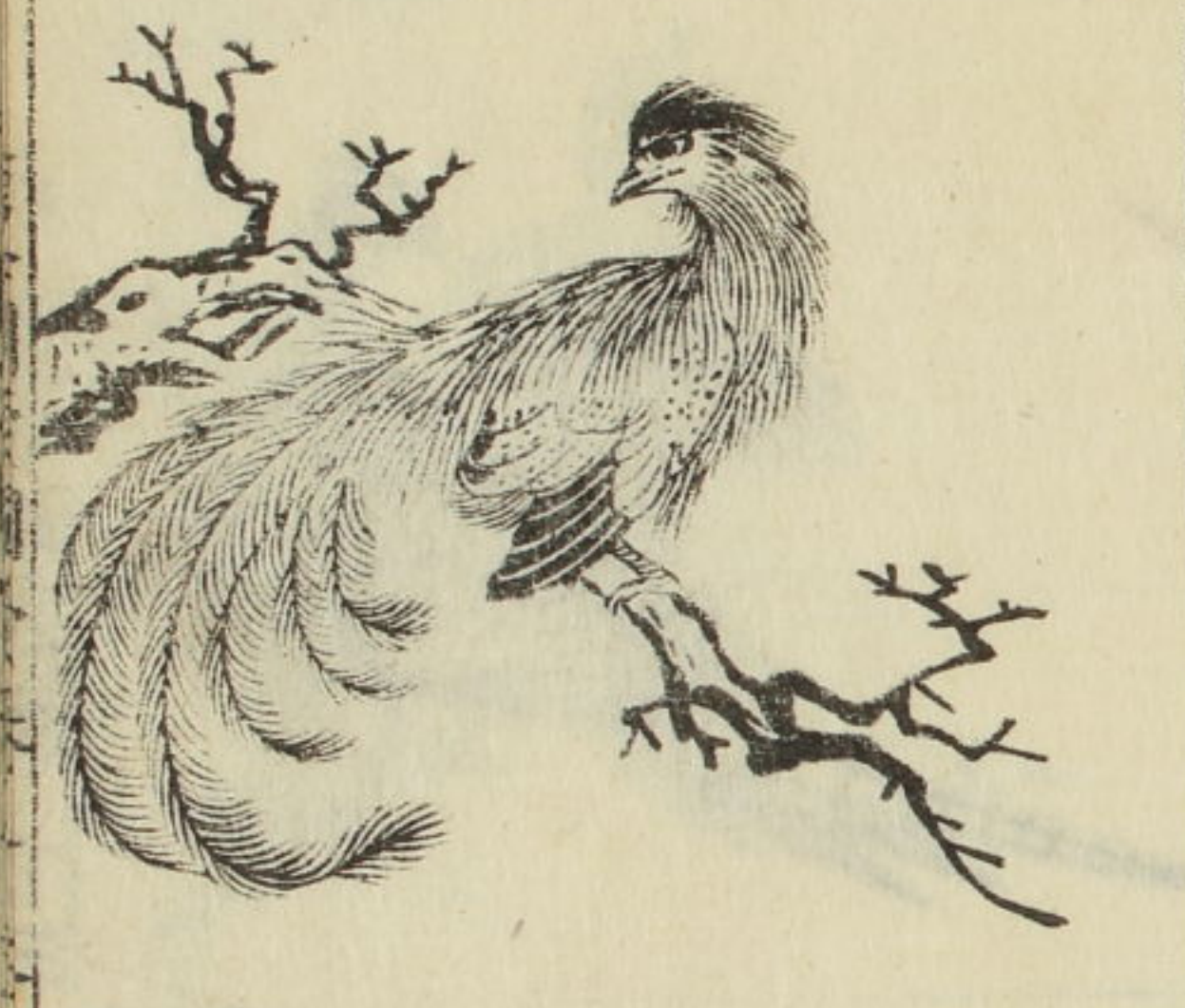
鳴鶺鴒

その形鳥
の如く
赤色
御
一



鶺鴒朝

その形を
鶺鴒
目
屈
縋
の
の
の



鶺鴒

青月
鳥
鬼
身
赤尾
と食
子



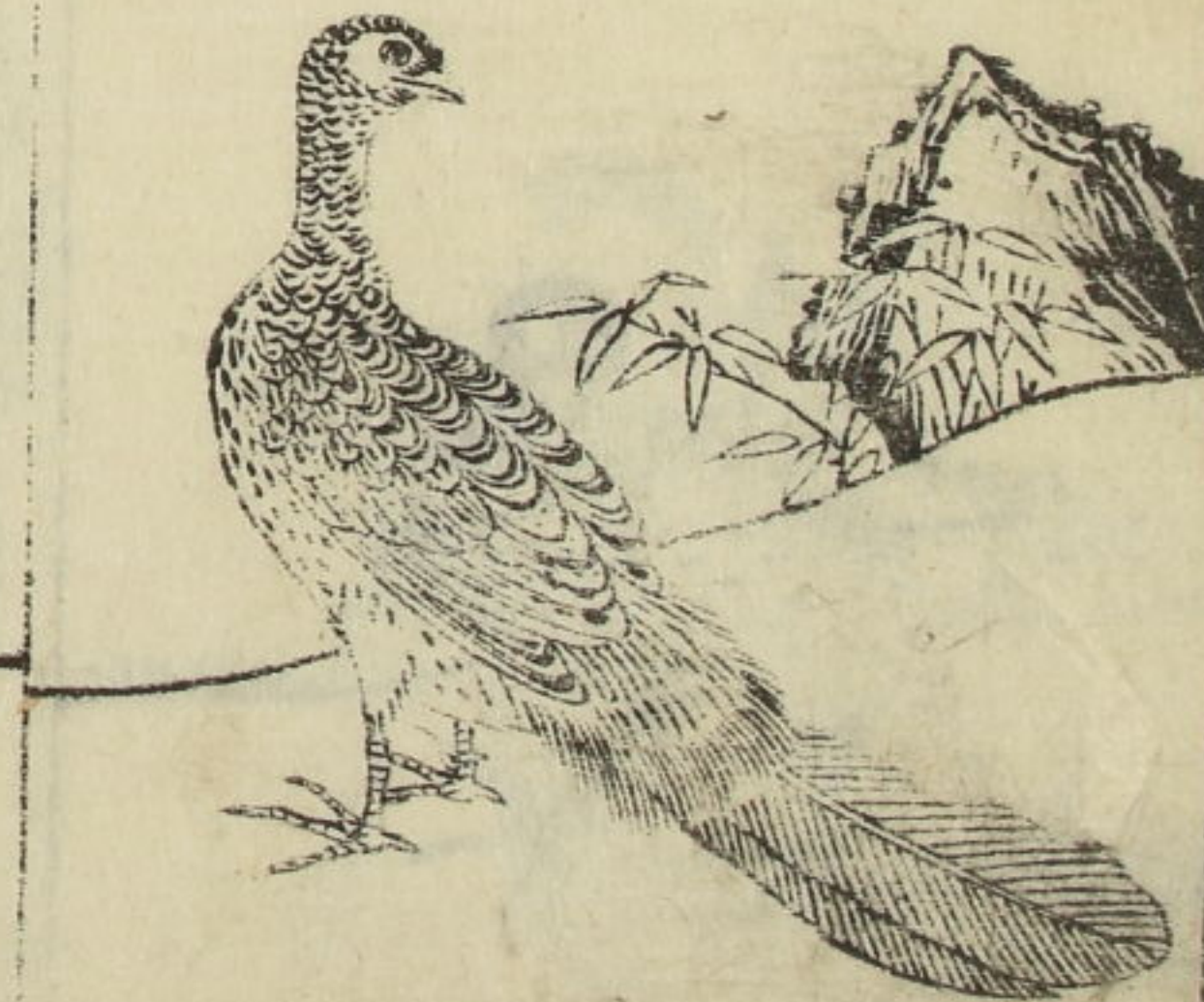
華虫

この鳥は、冠背毛、鮮明、脊腹、洞赤、雉子の、二章、



當扈

その、雉子の、尾、芭蕉、人食、



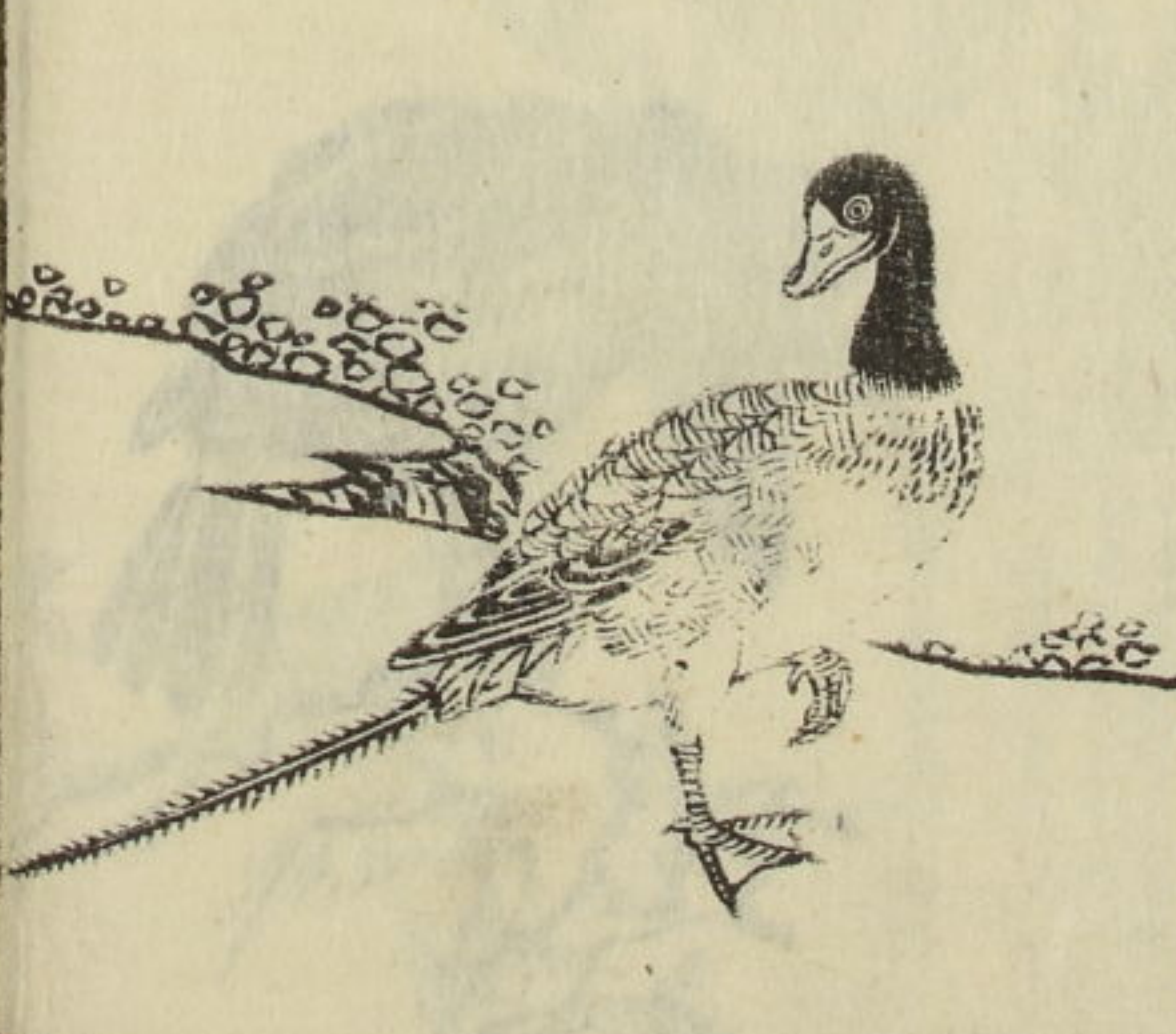
鷓鴣

雉、類七、大、黒色、首、毛角、冠、性、堂を、



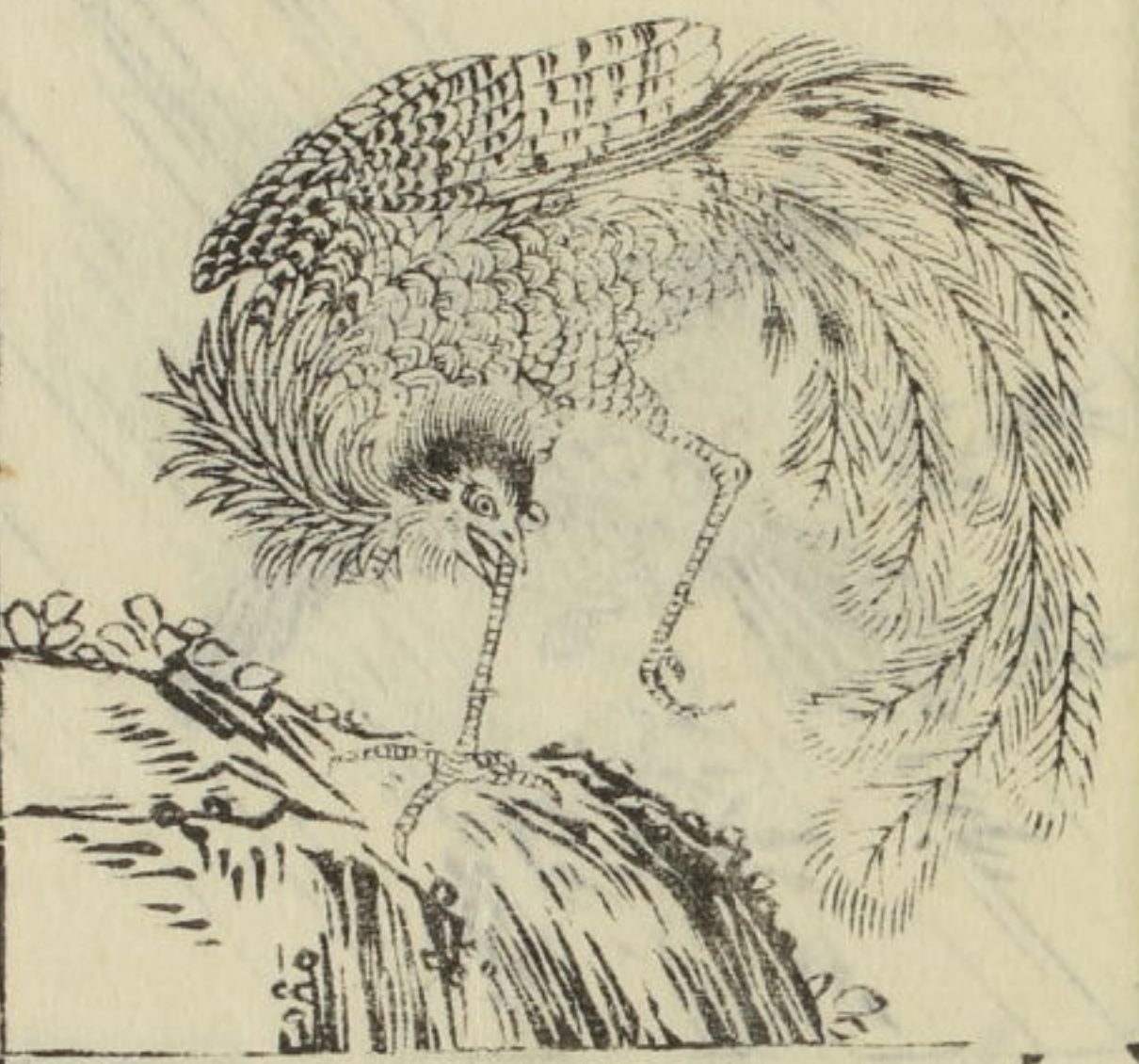
潔鈎

その、鳥の、尾、似、な、



鷓鴣

鳳、神鳥、郁離子曰、南方神鳥、



精衛

神農の、女、姓、名、昔、海、に、溺、死、し、北、に、石、を、積、り、て、橋、を、造、ら、せ、り、



鷓鴣

不祥の鳥、文家、わ、り、



赤月耕

その、尾、白、首、白、尾、以、て、夜、を、



接、ル、ニ、北、越、ニ、イ、ル、サ、ケ、ビ、

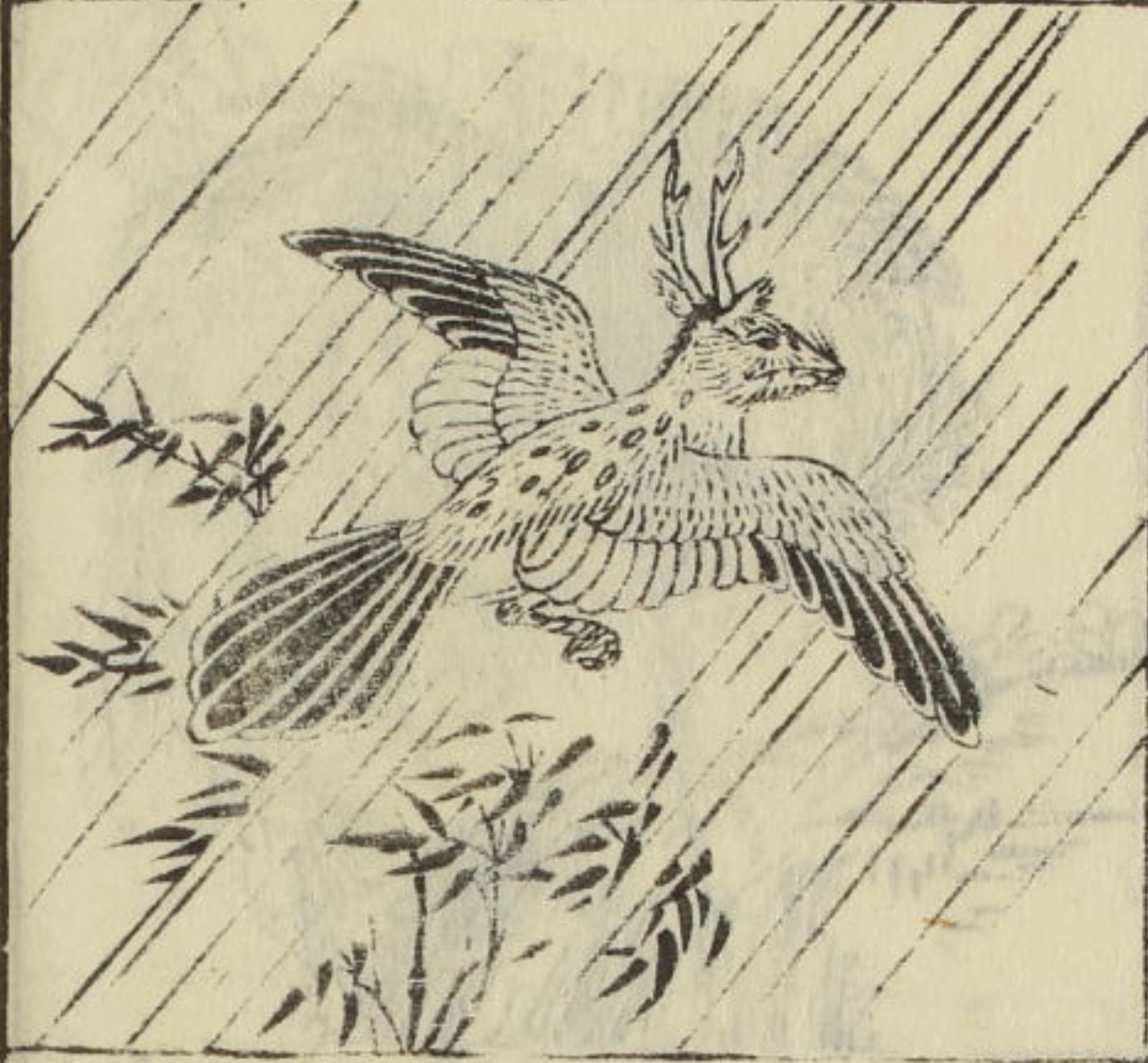
雕

このうら
くくうう
のく、面
へく、く
目、あり
れ、う
わ、
は、



飛燕

飛燕、
鳥、
鹿、
俗、
廉、
と、
い、



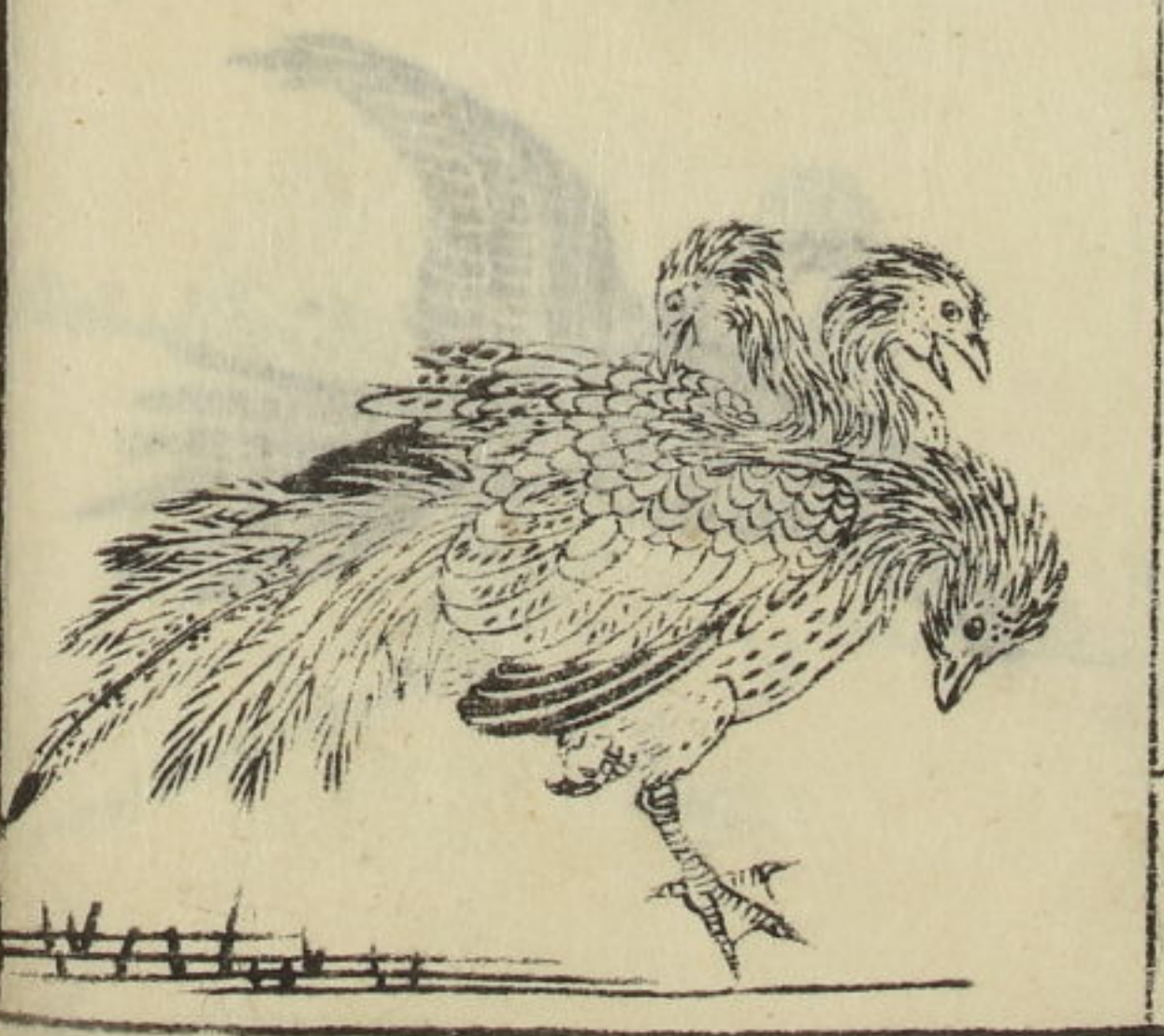
鵝

そのうら
鵝のく
一首、
三、
五、
頭、
お、



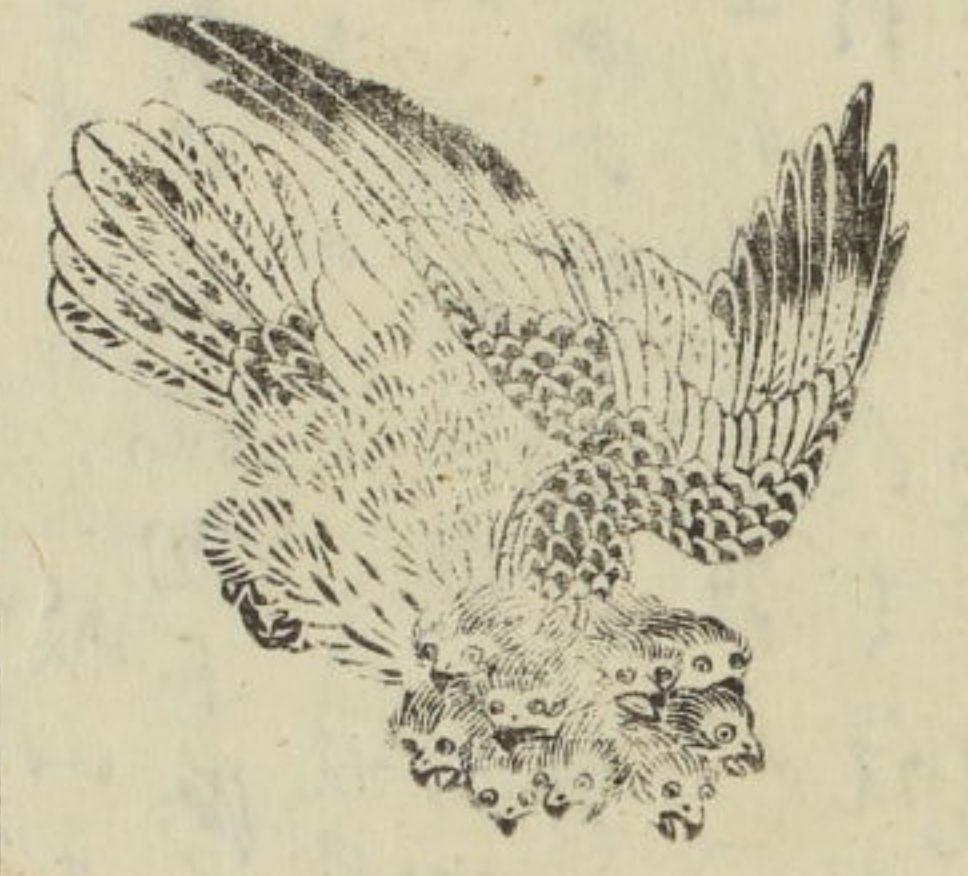
明佳如

そのうら
鶏のく
三首、
足、
尾、
長、



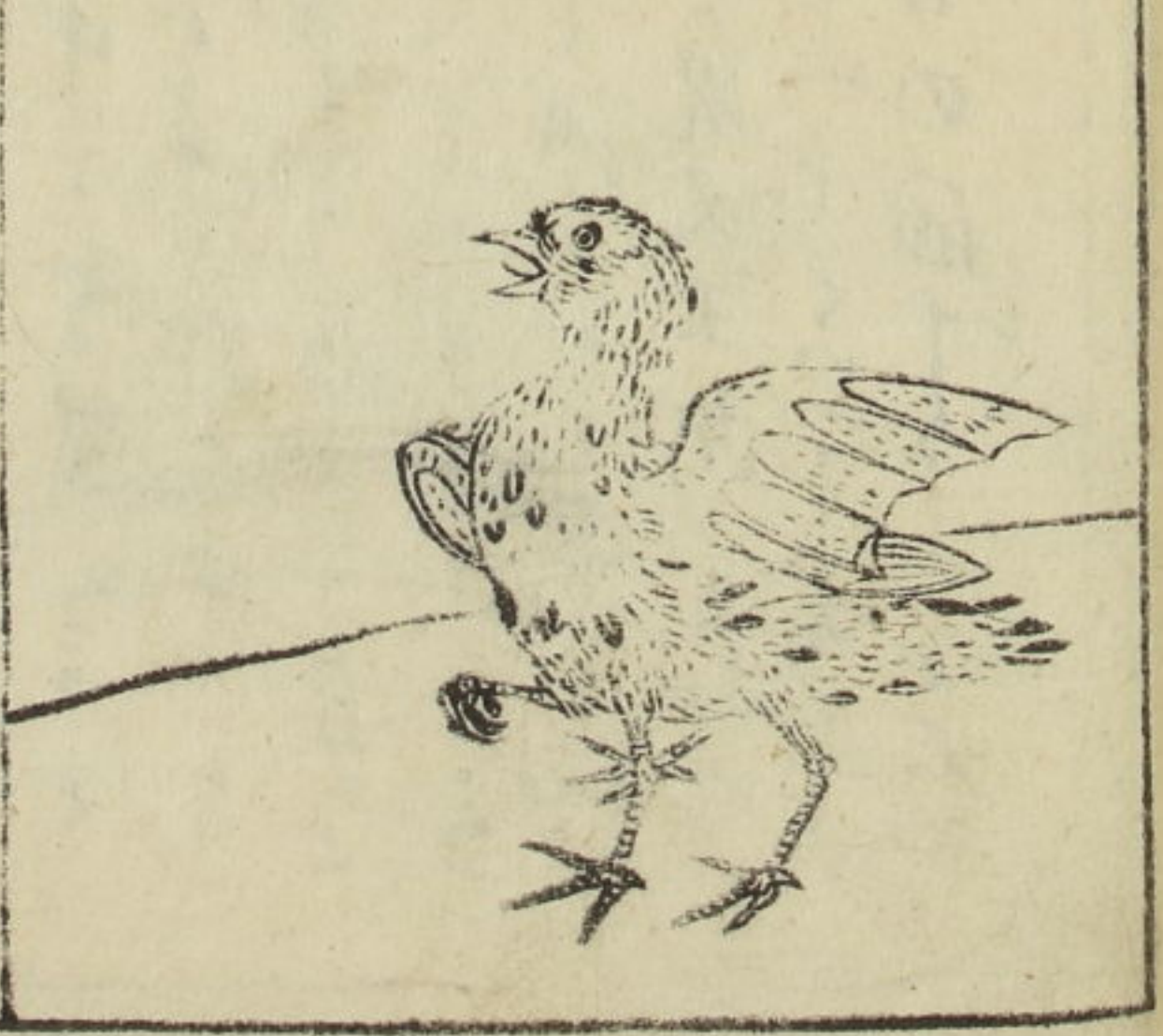
鷓鴣

鷓鴣、
天、
か、
い、
と、
物、
満、
昭、
あ、



寒號虫

寒號虫、
の、
肉、
月、
自、
も、
と、
毛、
名、
且、



治鳥

治鳥、
大、
穿、
六、
の、
聖、
同、
先、
あ、



石燕

石燕、
乳、
の、
狀、
似、
石、
の、
わ、



芸窓日記にて讀耕の供之書冊を枕して宰予と學ん
とん忽ち窓あり桑樞と啓て入る寒暄畢く後机上の冊
稿と撥て閱る禽神といふと巻と掩て嘆息曰怪して日
今此圖の如ふの鳥なりお人論ありて未だ物と云ふもの多し
多しと云ふ多しと云ふ亦彼大鵬の如く此の莊周既して
王切探て圖に今ある載るは遠志の如くはありて
將疑しよと深ら請ふ具汝と問ふと於予佛を以て
曰吾何必大鵬と云ふや夫鸞鳥の禽也其靈秀不
一て聖代は出て岐山をかく騁言人の中に聖賢を以て
大鵬の禽中の怪物と云ふ出て九天と高く於人中有り
壯老と云ふ如くそ流皆去誕其唐たり故に今吾を
屏り疑ふと爾は惟一の質の知やんくして未だ圖を以て
し乃と世の希有にして圖を以て油と云ふりてありて
是も亦格物窮理の一助とするの況又王折も知く
圖すれしわんを説も亦軒渠すしつてつてあるあり
かりと云くしてとる予復書と讀て日の函する事と不知

鹿

此畜なり信じて礼に應は狼
の類赤き目五の蹄仁と合は義
と懐之音鐘呂一中を行知知りあり



白澤

東望山は沢
獸あり能言語
王者徳幽遠と
照以時に至る
黃帝巡狩
東海の時
此獸言語に



龍馬

馬公人の龍を昔伏羲の時より
黄河より出たり其背は龍を有
こまふいまの河圖の世なり



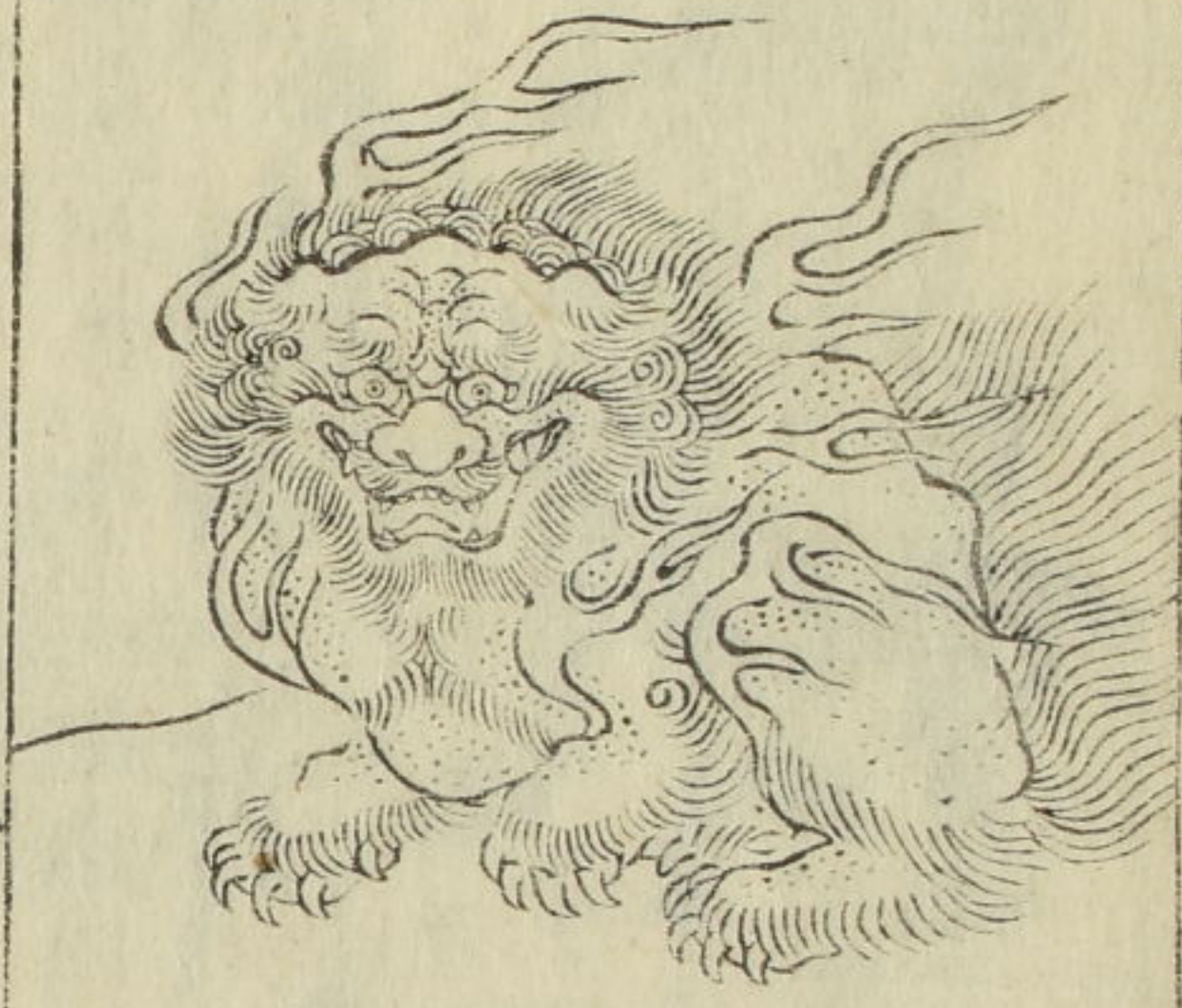
果然

仁獸也後より
大いし体三尺
すは鼻孔
天よひし面
呵ハ木上を登
尾是鼻とふ
さくも長く
柔し白黒文を
天子衣衣十
二章にあつた
宗彙これし



金猊

形獅也
其の性史烟
とこのむ故
香炉の蓋
乃上之まつ
世に獅子の
香炉の蓋
あやめり
猊なり



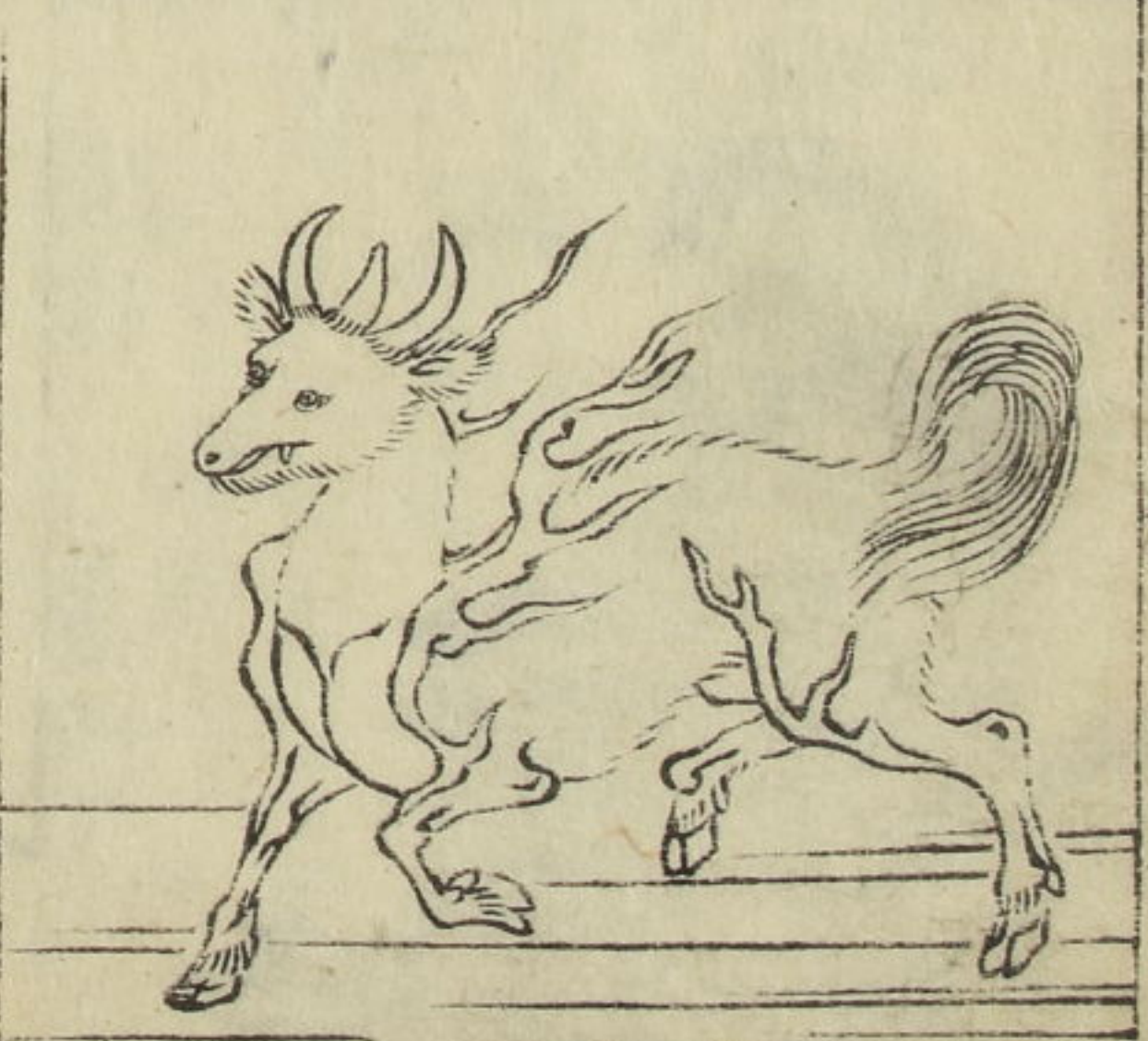
類

狀ハ釋の
髪あり
牝牡を
是とら
はこむ
姑まば



三角獸

西凸山イ
三角獸あり
すれしり
瑞獸なり
先王法度
脩明た
時
い



角端獸

東山三角
獸あり瑞物
わり六合天
下回く太
平あれし
あつるえの
のつらと
い



檮杌

獸の至て
凶者し剛
と好ん死
ううん狀ハ
虎の毛
の長三尺人面
虎爪口牙天
八尺人と食



龜

虎の爲し
立杖の目ふ
獸と交れた
柳文曰龜
ハ虎といれ
虎ハ羅を
畏るといふ
と



豹

豹の類
猛獸なり
國に於て詩
経曰獸其貌
皮陸機曰
豹ハ虎に似
或ハ能く似
たりと
い



赤豹

脊山子多
虎に似て文
采あり毛
赤毛詩
宣王の詩
赤豹黃
斑
と
い



海豹

その色豹の如く五色の文あり水涯にあり一匹の豹とて其の音は水に今和名ヲサラン



海牛

その長丈餘あり其の角は七尺あり其の尾は八尺あり人乃や一人と云れん其の肉は味よく



牦牛

牦牛の如く其の角は一尺あり其の尾は三尺あり其の毛は長き如く其の皮は厚し其の骨は堅し其の肉は味よく其の乳は白し其の糞は黒し其の糞は利し其の糞は乃



水犀

犀に較むる山犀三角水犀二角一角ありて靈あり通天の通天あり其の角は三尺あり其の尾は三尺あり其の毛は長き如く其の皮は厚し其の骨は堅し其の肉は味よく其の乳は白し其の糞は黒し其の糞は利し其の糞は乃



羴牛

西南夷の長毛牛に似て四足腹下及の肘皆赤毛の長尺餘あり其の尾は三尺あり其の毛は長き如く其の皮は厚し其の骨は堅し其の肉は味よく其の乳は白し其の糞は黒し其の糞は利し其の糞は乃



兕

禱過山に多し狀野牛の如く其の角は三尺餘あり其の尾は三尺あり其の毛は長き如く其の皮は厚し其の骨は堅し其の肉は味よく其の乳は白し其の糞は黒し其の糞は利し其の糞は乃



牯牛

牯牛の如く其の角は三尺餘あり其の尾は三尺あり其の毛は長き如く其の皮は厚し其の骨は堅し其の肉は味よく其の乳は白し其の糞は黒し其の糞は利し其の糞は乃



四熊のくぬ

狀は無く似て白く文をあらわする
頭をうたげる
脚をうたげる
性は極く慈し多く
力は人のくらひに
て

人と害をなす

獲とり

色は赤く也
能く人と獲とり
持つ長七尺
人のくらひに
て健く走る
或は獲とり百
歳をくらひに
云ふ



狀は無く似て

方をうたげる
足をうたげる
好く舞をうたげる
又は赤くと重
する故にと重
せし百とも
ゆへ

獬の胡の

後の属をうたげる
正の身をうたげる
腰白と赤
のくくらひに
毛をうたげる
白く色をうたげる
握り版の狀
捷くと重
乃と



野の千ん

狀は本程小
類に似て頭
正の方をうたげる
人のくらひに
髪の長七尺
俗に常にうたげる
向とをうたげ
りのくらひに
いらくらひに

獨り

形は大に似て
て大に似て
とくら似て
とくら似て
後に似て
して似て
とくら似て
獨り



蒙の須の

狀は堆の小の
小の堆の
みてをうたげ
と重
趾をうたげる
と重
氣とと重
猫の須の
と重

魁の物の

狀は三の小の
小の兒の
赤く黒く色を目を
赤く身を長く
くら似て髪を
川の澤の
神をり



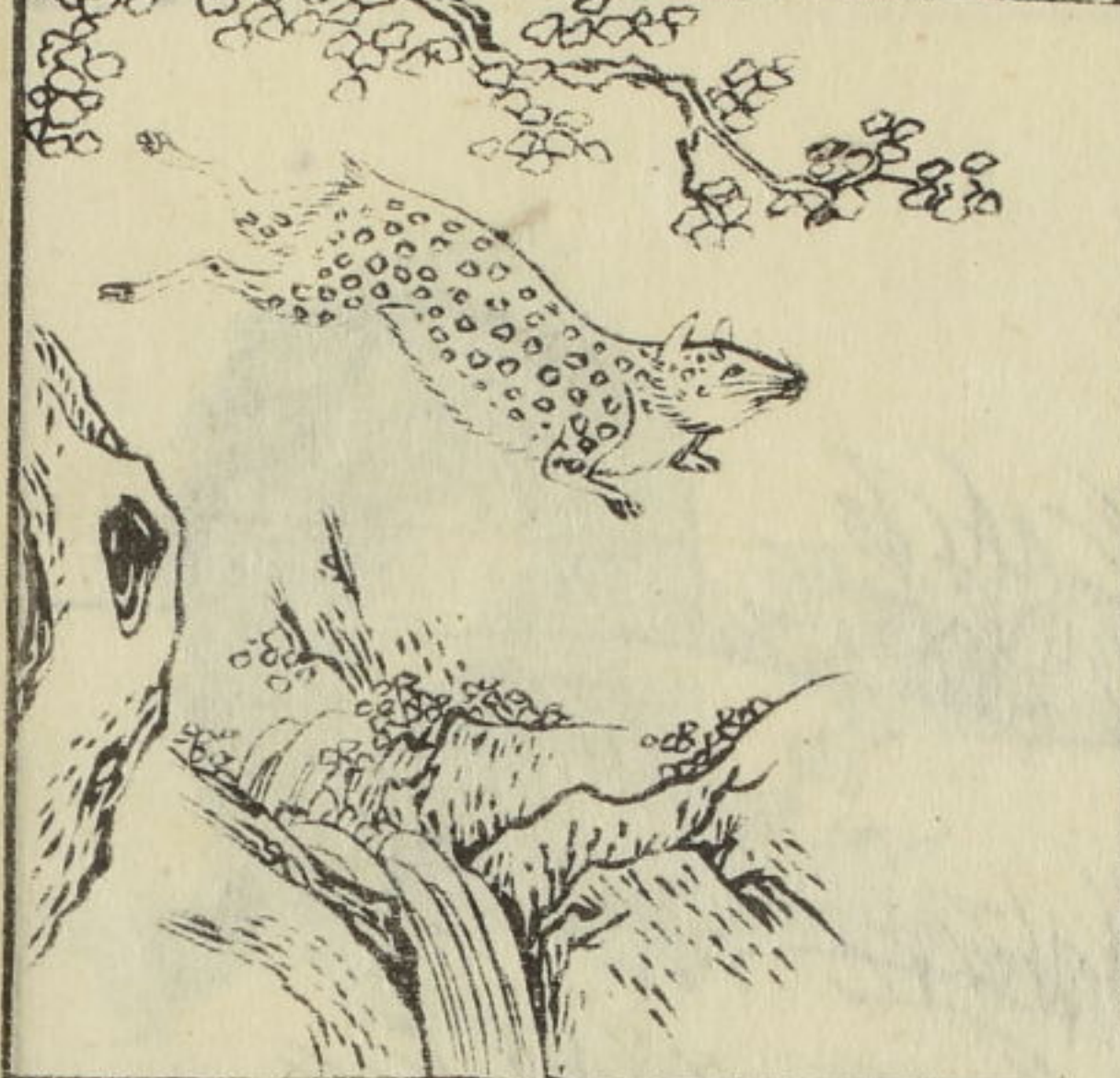
赤狸

西海より
周文王乃
姜里子因
散宜生を
と欲して
逐て西伯
の胤と
すなわ



風狸

その狀た
のくも
毛芒を
和らぐ
うのくも
人定中一
風と
れん
くも



乘黄

西海の外白
民國あり
白身髪を
被り狀狐
の如し其背
上角あり
これ乘黄
壽二千歳



玄貉

玄貉あり
穆天子是
と得て河
まづ周礼
の辨海と
こゆるは
死に此地氣
とて



天狗

陰山は獸
あり狀狸
のくも
蛇と合
其音獨
佩と山
と御



狡

玉ふは獸
犬の狀を
豹の文牛
乃角あり
犬の脊を
に目あり
わらわつ
天下大



新

胡大は狐
似し
悪く
干杯
若子皮
と



黒狐

北山は黒狐
あり神獸
王者
平と致
は獸
四夷
周の成
時い



麋

麋草の類に
く本にち
鹿のあふと
必鳴く鹿
若くは鹿
鹿草より也
長く尾物の
なり



茶百札

その状鹿
似てあ
よく毒草
とくろ
又一種の状
鹿を變ぢ
てあり
一類に食し
一類に甘く
といふも
失と薬に



挑抜

鹿子似く
尾長く角
ひらなり
これと天禄
とに両角
なりとの
辟邪
一名挑抜



麋

鹿子似て大
なり其尾の
麋と辟く
苗帛
中に食
鹿子似て
も色と
といふ



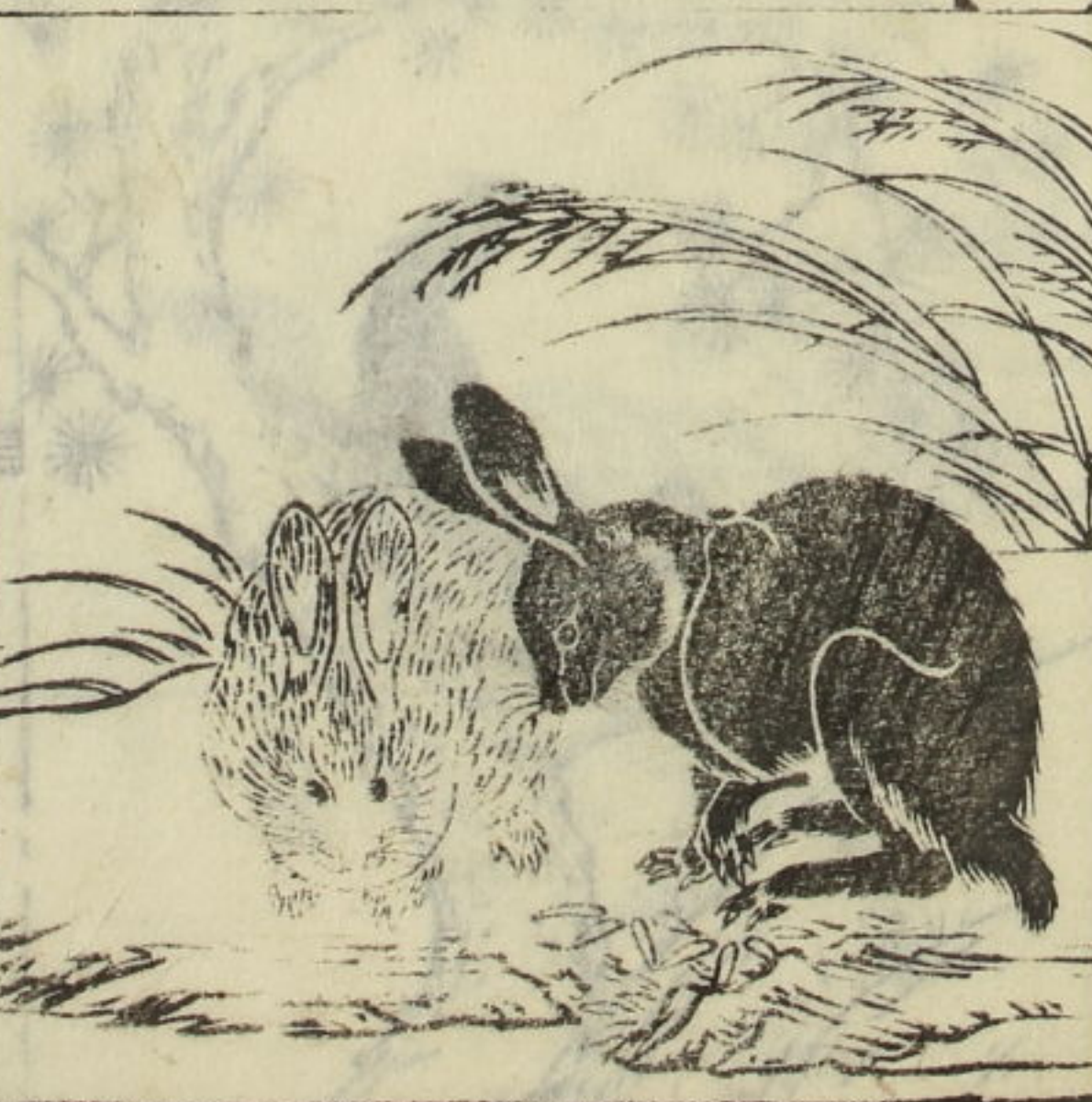
比肩獸

西方に獸
なり其狀
鹿に似て
後ハ兎
一名ハ
恐
癩



狡兎

狀兎の如
雄ハ黄子雌
ハ赤子丹石
銅鉄とく
の武庫の兵
器とらる
後中陶器
は換なり
といふ



隱鼠

大さ牛の
くく飛ハ
鼠に似く
脚ハ鼠に
似く蹄を
似く毛は
灰赤毛絢
赤尾上白
色に力有
てなり



頽鼠

飛ハ兎に
似て眼赤
く夏も
冬も赤
白く冬
くは羽の
反し向
和名
あり



天馬

馬成山子
狀あり如
白犬の如
うく飛の
人との如
くは飛
は獸とや
豊穰し



猛狗

南山：獸
態：似て毛
彩：え澤
あり
之食
洞



短尾狗

番國
いけら
ふ似ては
く身あら
尾まう
長人
一名拂
馬鐘
哈吠



木狗

形物の如
のわら
皮とあら
もふ
氣血と



復犬

天門山
あり天物の
生す
十
風の
光電の
ひく



當庚

欽山中
獸あり狀
豚乃
其鳴
自ら
之
天下
穰



諸捷

單張山
あり狀豹
のめ
尾長
鼻牛の如
目直
く



兼

狀ハ兼乃
黄身
白首
白尾
なり
風



猛棍

譙明の山
は獸あり
狀類
毫あり
鼯鼠



鹿蜀

扭陽の獸
あり狀馬の
白首
虎文あり
尾赤く珍
人此皮子
孫の



臄踈

獸あり狀
馬首
石と
錯へ



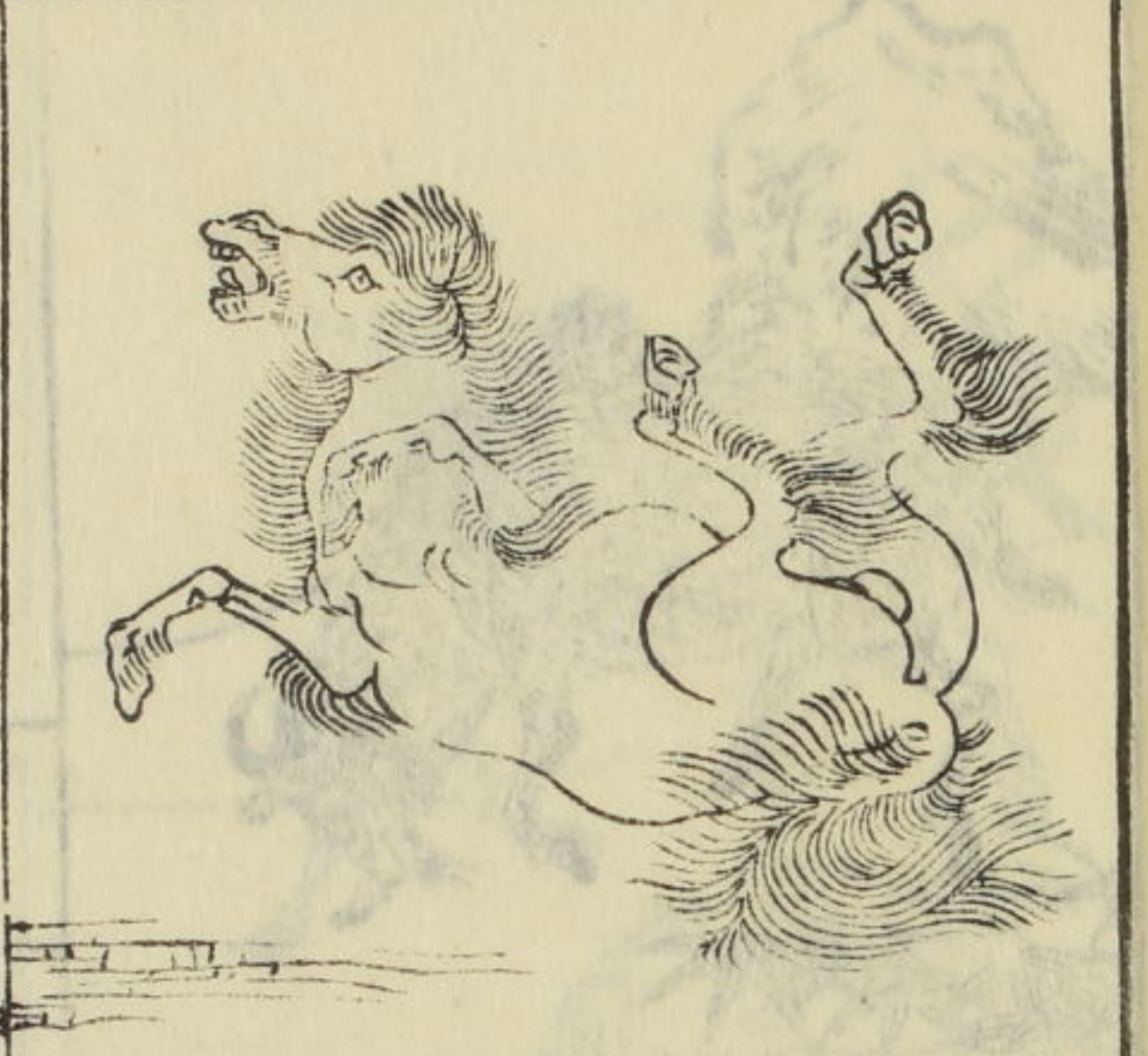
孟駽

駽子似く
馬より
あつなり
舊中
産す
わく
乃奇



旄馬

南海の外
あり狀馬
の如く
毛あり



山驢

角ハ
但
や
か



果下馬

此る
極小
のり
果



海驢

狀
林
の
皮
て
和名トド



羴

西方の野羊狀駝の如共角甚大夏の時塵をその角上こぼして草を生食これとて肉を食はんとせしむ

封羊

飛ハ羊の肉を食はんとせしむ故に飛ハ羊と云ふ



羴羊

羴山之獸なり狀羊にして尾ハ羊の如く

羴

羴山之獸なり狀羊にして尾ハ羊の如く



葱聾

符週山よりくものありて羊一匹を齧りて首を落し

一封駝

形ハ駝に似て脊上は肉こころりて一封あり俗に封駝と云ふ



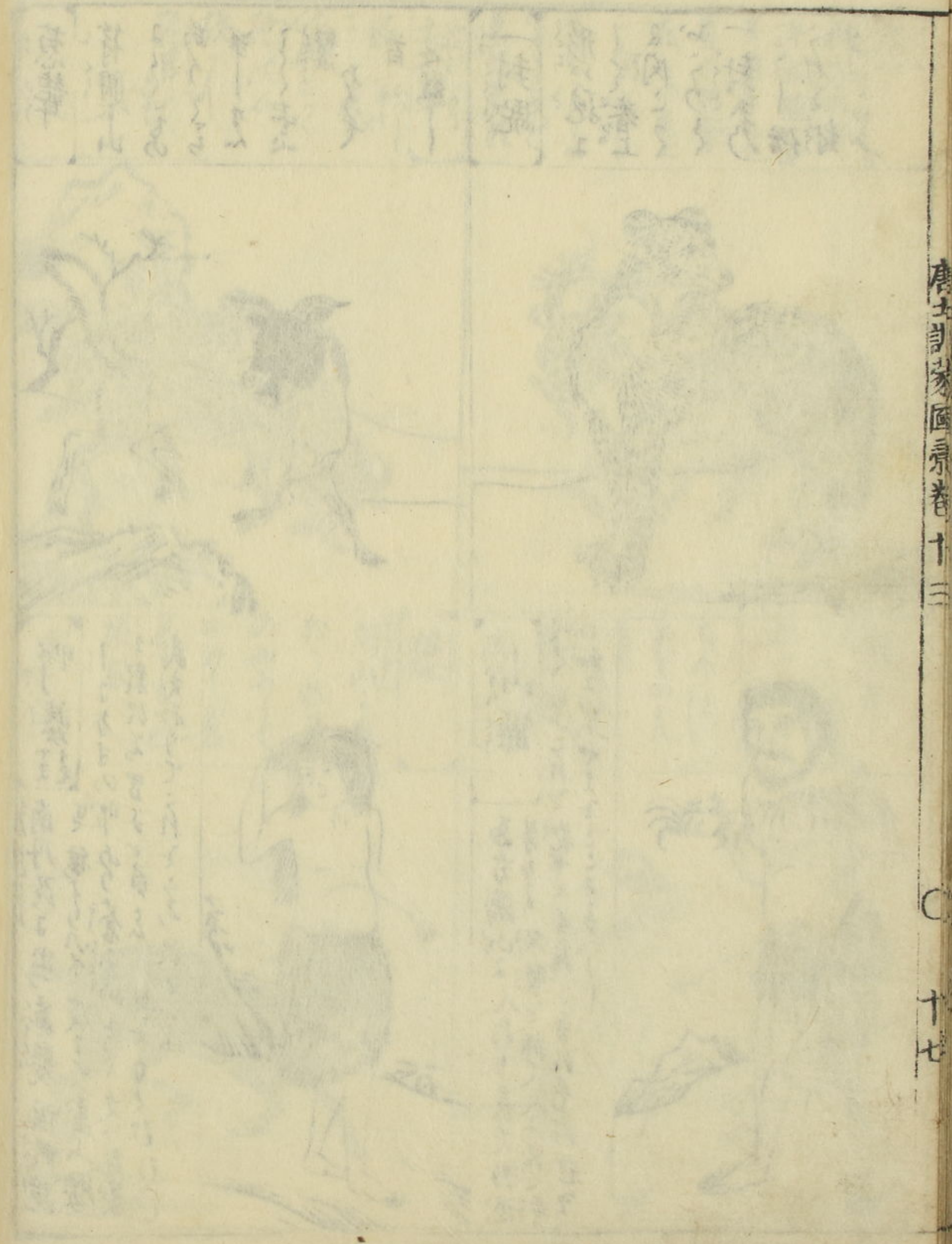
野波

南方丹波に出づ鬣髪保形腕は長し皮膚は厚く腰は軟弱なり男子と負て配とて云ふ武夫ありてこれと云ふ

山猿

南方深山に人あり長髪保形腕は長し皮膚は厚く腰は軟弱なり男子と負て配とて云ふ武夫ありてこれと云ふ





唐土訓蒙圖彙卷之十四

名下
有名

魚介蟲

以於魚鱗甲殼州虫のこここのここ

蜃

その形地は似く大くて角ありて砂の狀ののこここ鬚ありて海の下に鱗のここことありて是と蜃又海市といふ

應龍

恭丘山の應龍あり翼ありたやむり虫尤黃帝を翼の野に御すり



鼈龍

狀字之六
知ふて大
一二文五色
背尾皆鱗
甲ありく
芳とくはる
といひ
夜更に應に
鹽龍
その長一尺
餘あり
銀盤と
し申は玉
乃盃を
おのの
ほと解り
ふつと
おと
おと



斗牛

龍の類なり
甲あり
て但其角
灣其角
三形乳
麟之類
陰雨に雲
霧なり
肥鱧
湯山の神
五身六足
四翼あら
くはくは
其国大
早ひび
湯の内
あ



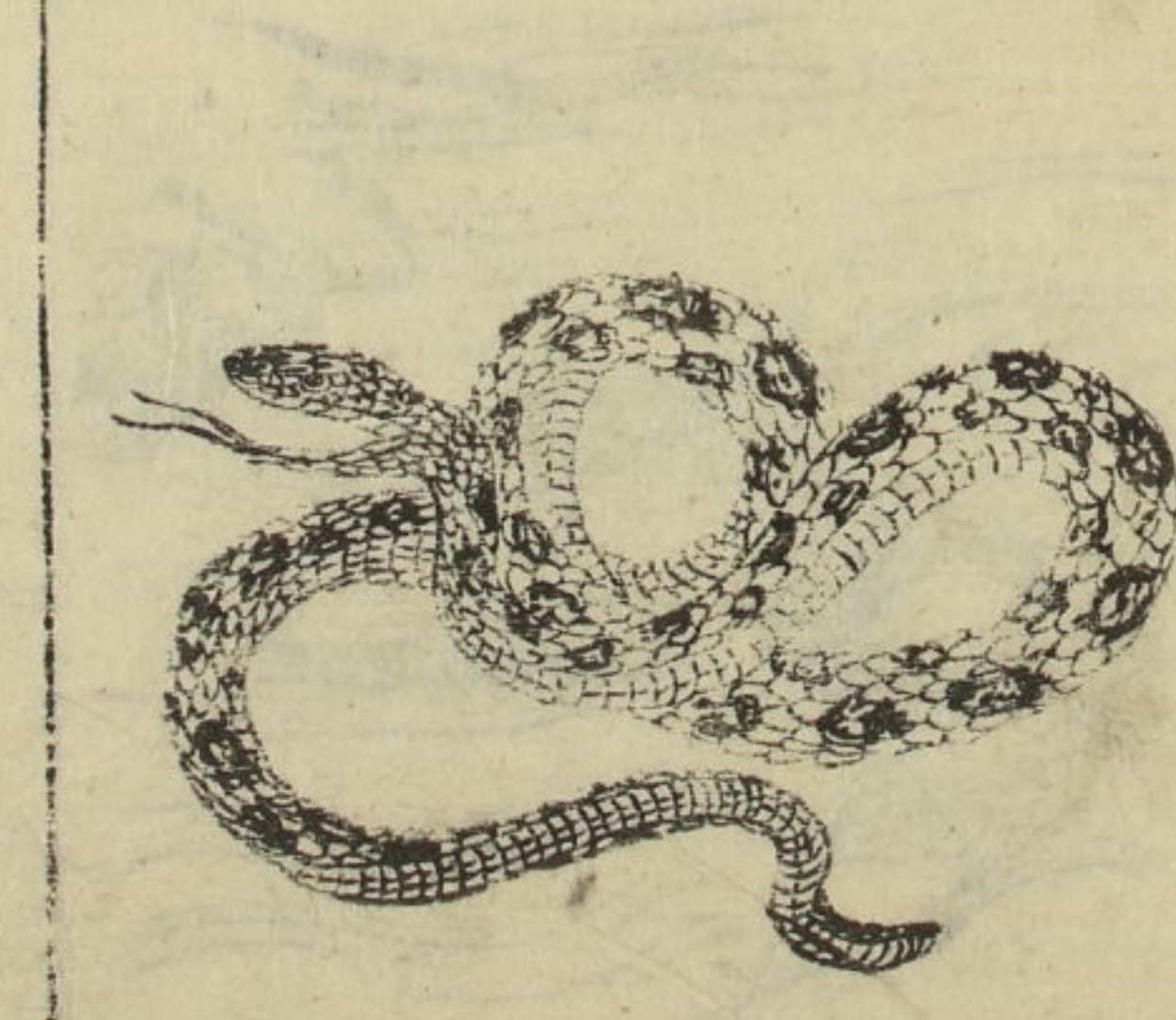
騰蛇

蛇の類なり
雄の凡上
多に雌も
風下にけ
そよく
子日騰蛇遊霧
飛蛇家雲龍
霧除與蛇同
失其所乘故也



蚺蛇

その形大
く鹿山馬
とのひ
錦縵の
雷加の人
騰とあり
お負
一名南蛇



斫木蛇

蛇の類なり
樹上を
人といれ
跳て
又樹上
て
人の哭
と
ちと
の



青蛇

屏山
蛇あり大山
の
高百餘丈
日
と捉
数

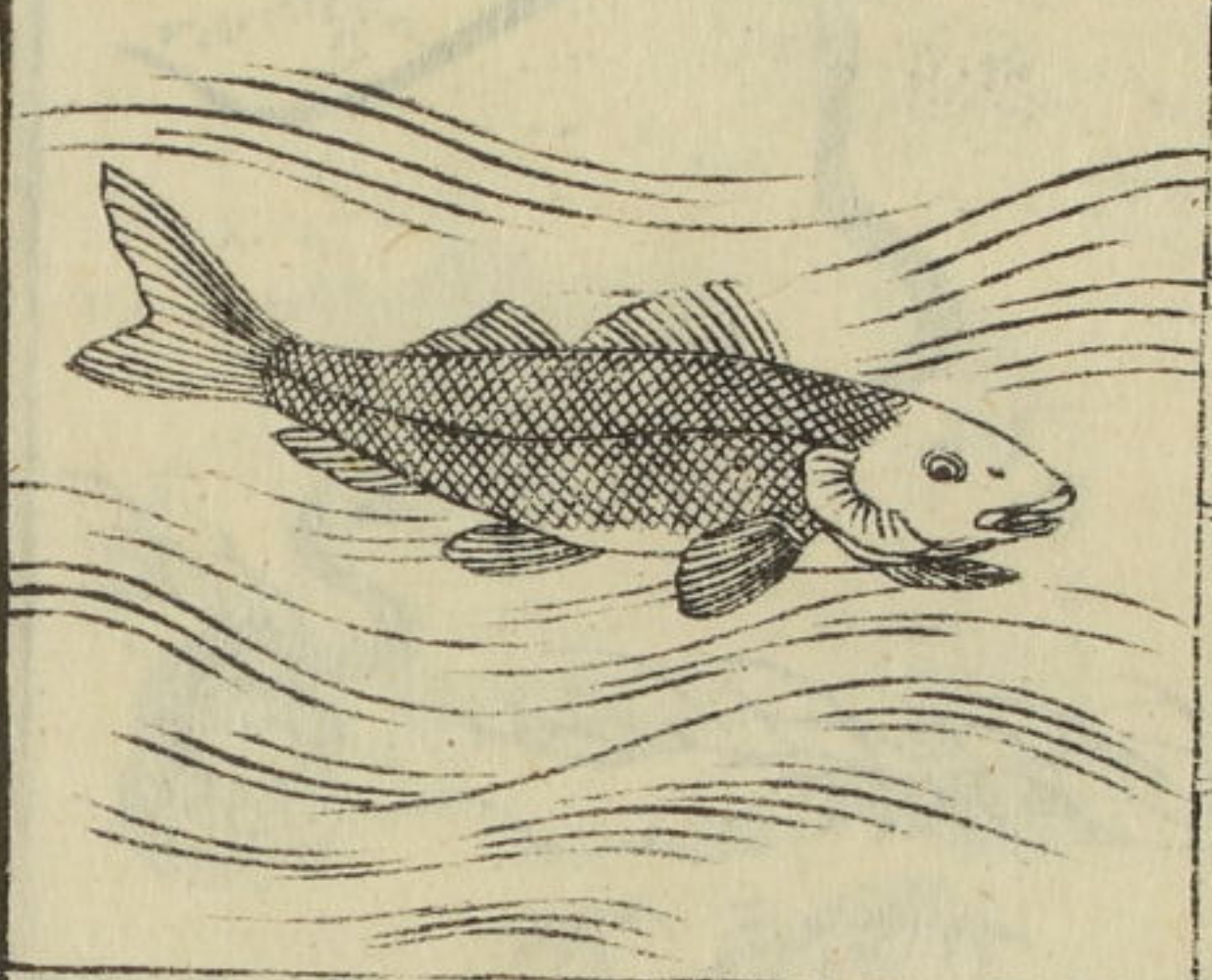
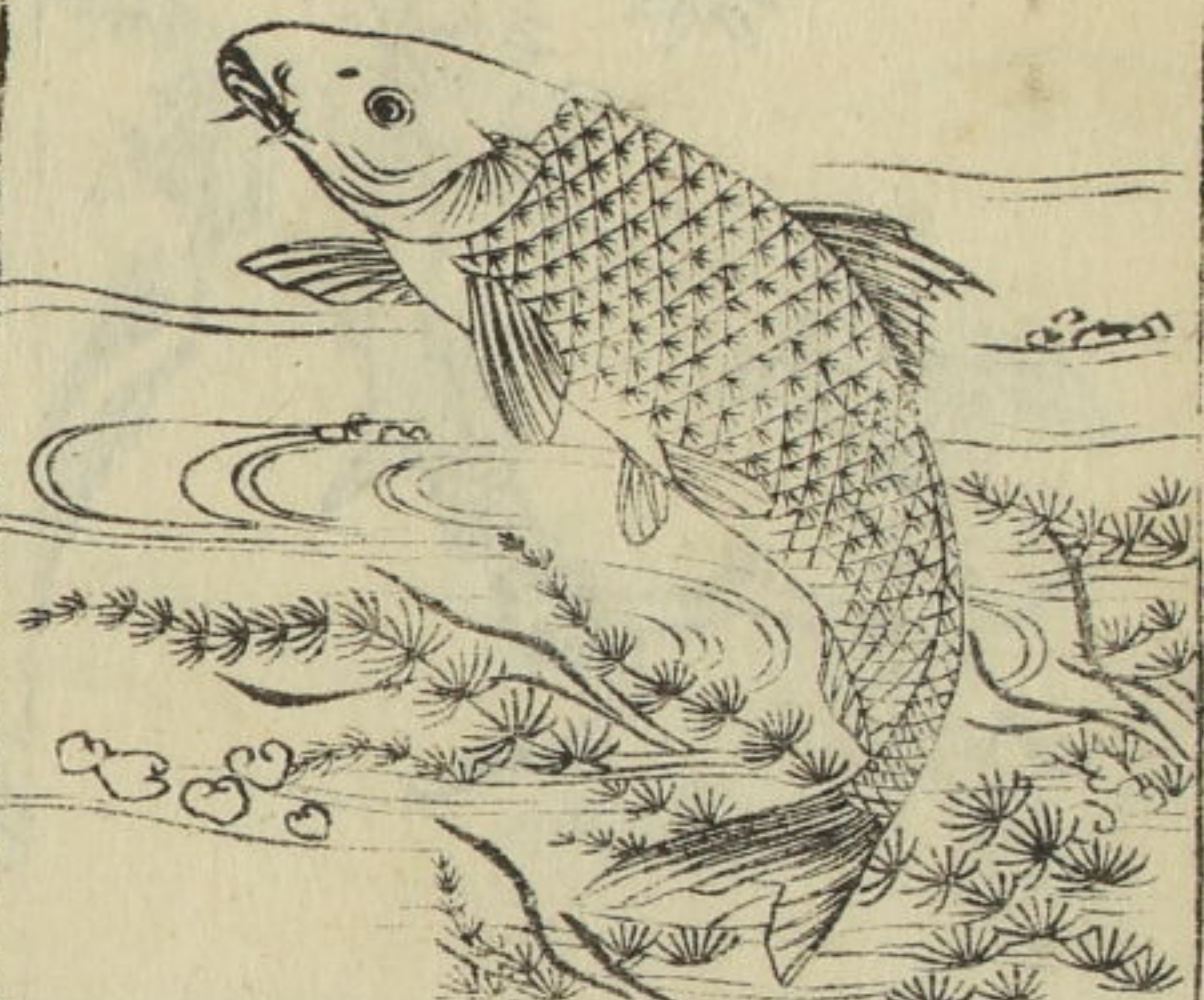


鯢

飛鯉
似く色白
一尾
トク鯢の
をり於し
白湖

石斑魚

其狀白
虎の
去月蛇と
交つ此魚
水面より
人の身を
固く泥を
よる



石鯢魚

溪洞の中
生れ長
形す北前
裏後の下
わすし
とらて食
一名山六工
山六工

吉加魚

其狀
細鱗腹の
下、硬刺
ありて人
を刺す
一名
東海中
四月

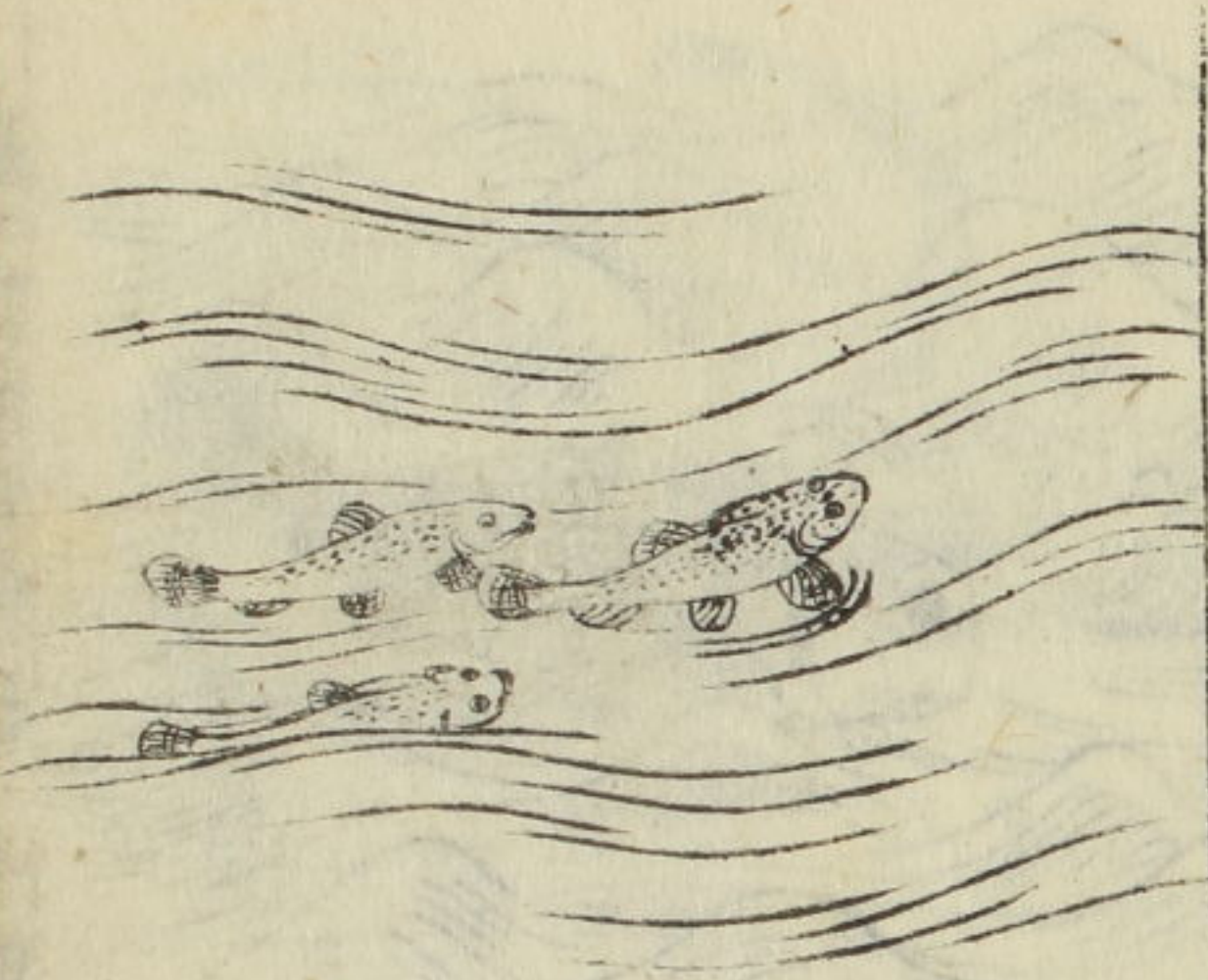
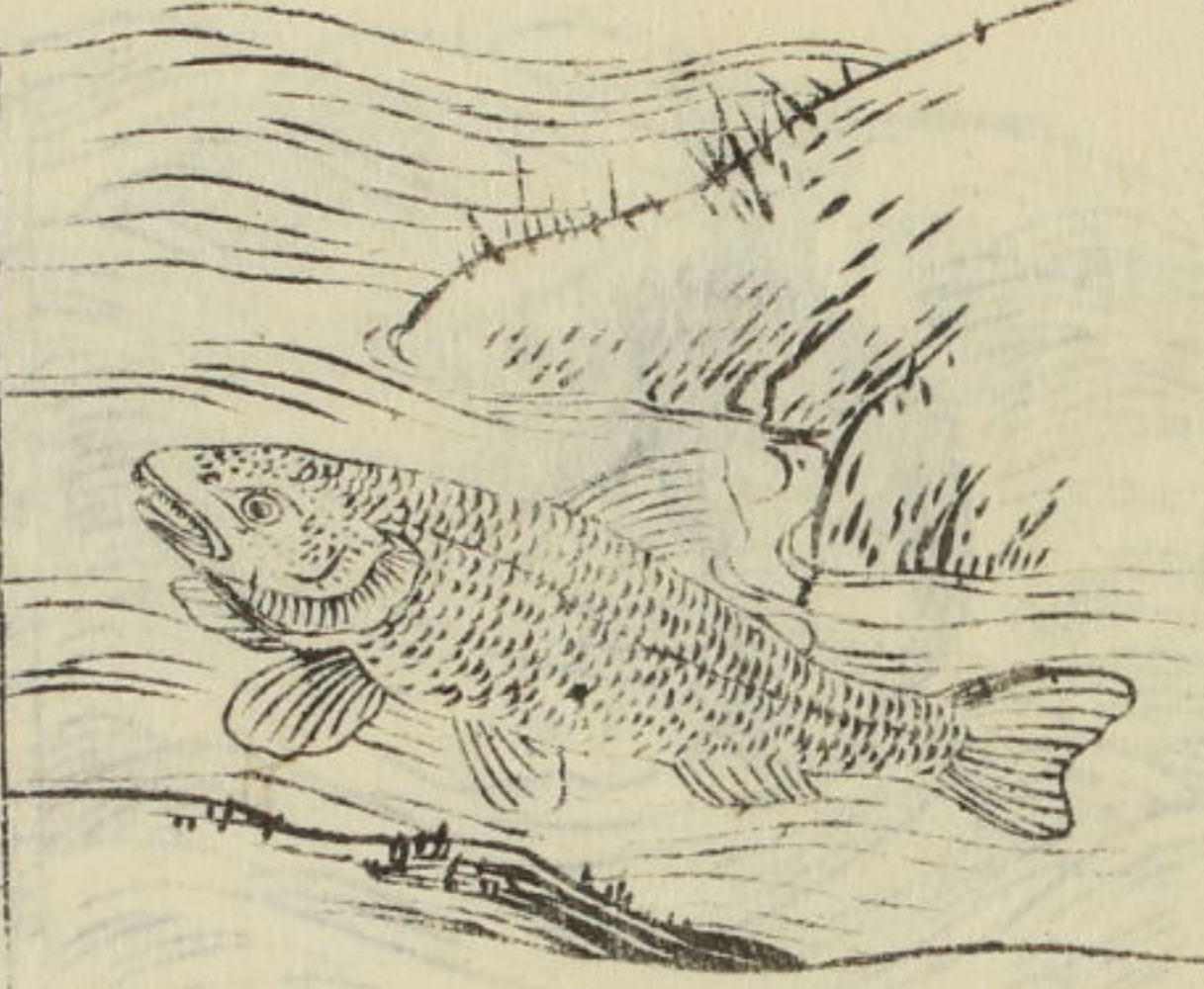


鱒魚

其狀
丈赤尾水
中の遊
水脈
の属

鱒魚

その
海魚
まの
小魚
或は
の苗
と
あ
り

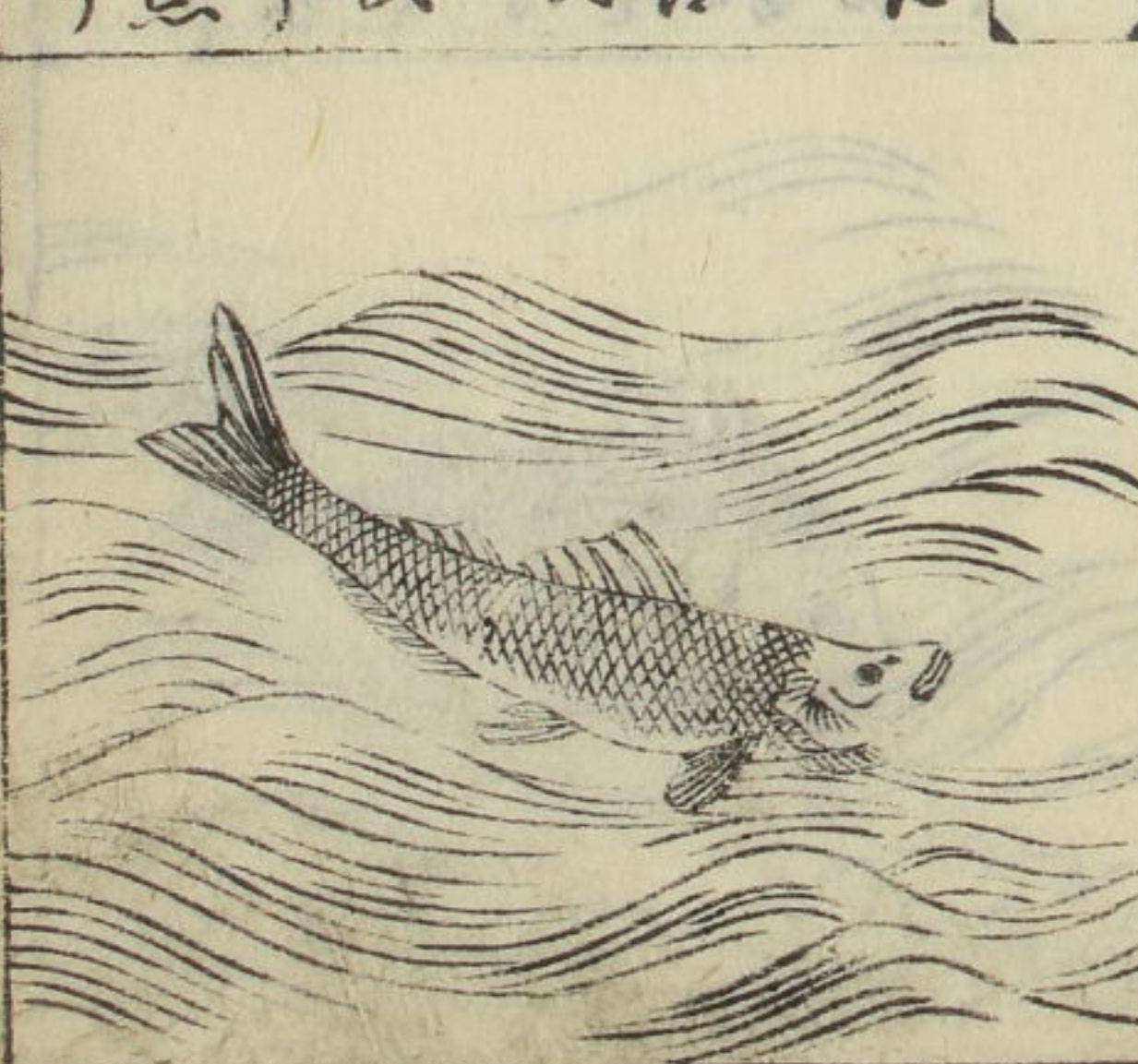


勒魚

其狀
細鱗腹の
下、硬刺
ありて人
を刺す
一名
東海中
四月

鱒魚

其狀
似て長二
尺あり
白
ひ
王の
入
これ

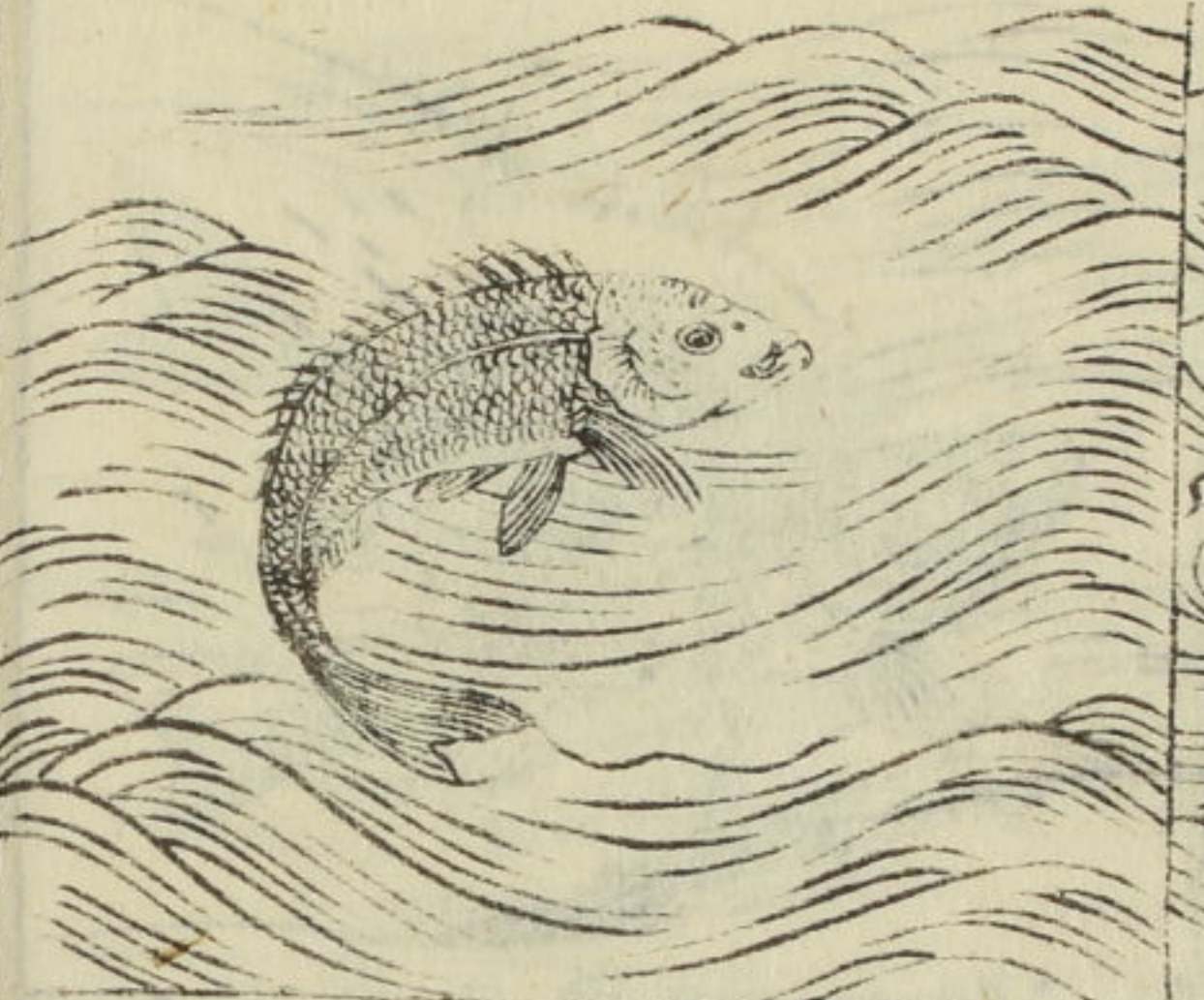
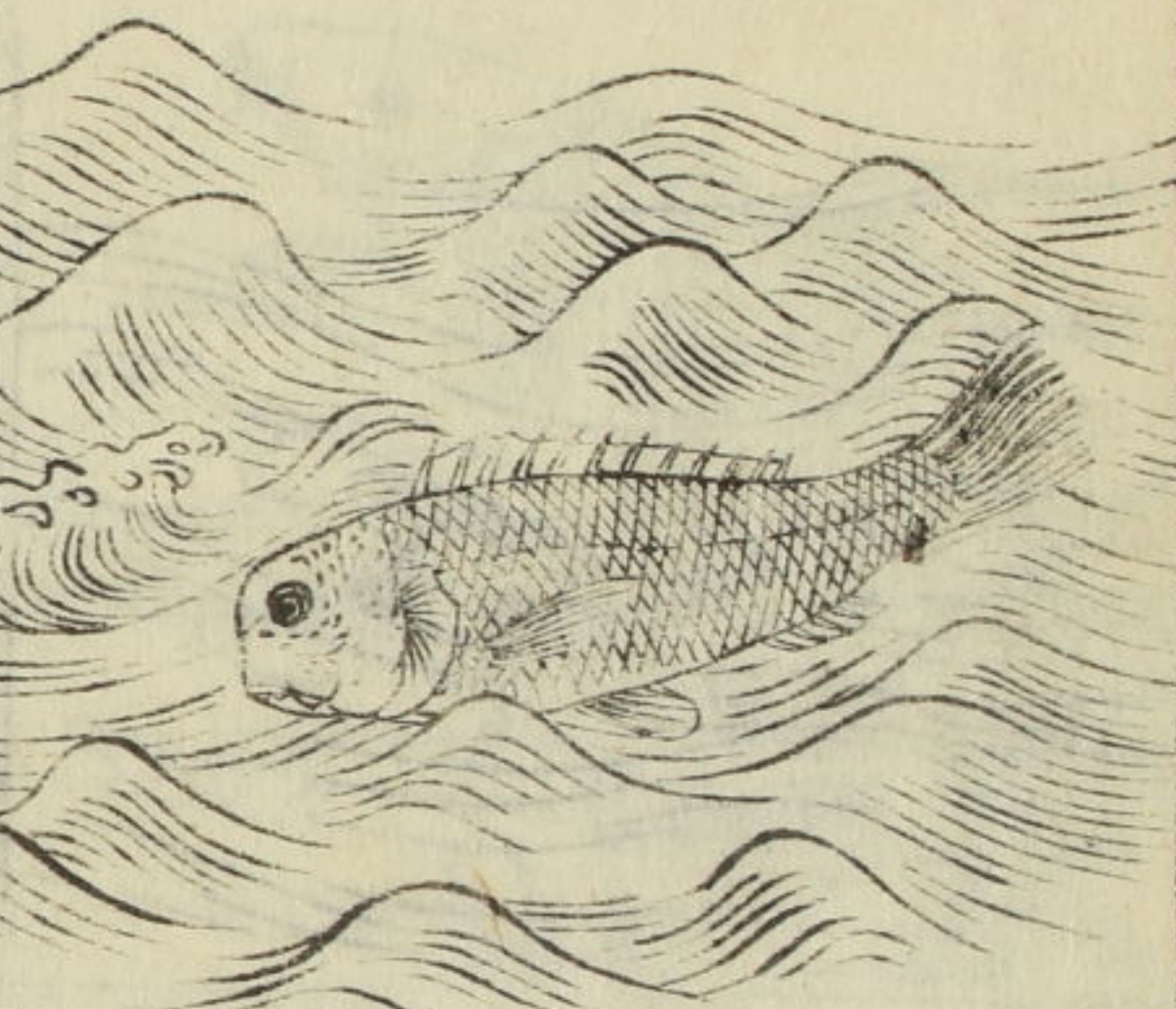


方頭魚

方頭魚は、
鱗の似く
大なりひ
さいの骨
九に岐に
和名あま
さい

金線魚

金線魚は、
鱗の似く
魚れしく
て細長く
さあろく
頬のここ
りり流は
りり合線
をて流線
探利時
糸とよか

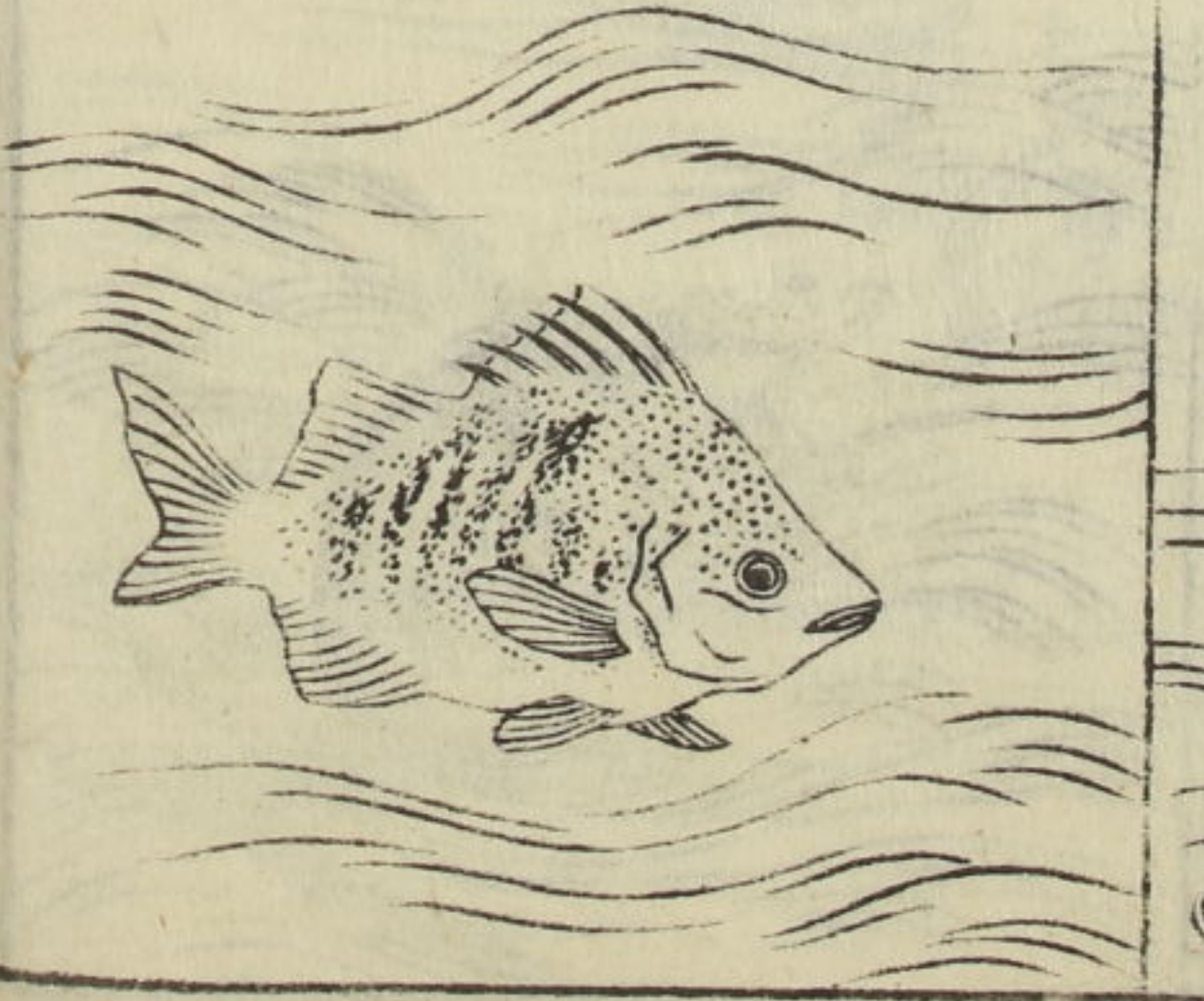


緋魚

緋魚は、
鱗の似く
長入六寸
いりた
紅紫の敷
りわは
目大
さの

火焼鱒

火焼鱒は、
尻尾と
筋の似く
脊骨隆く
赤い鬚を
尾に連て翼
痛福の
正質赤章
と網重

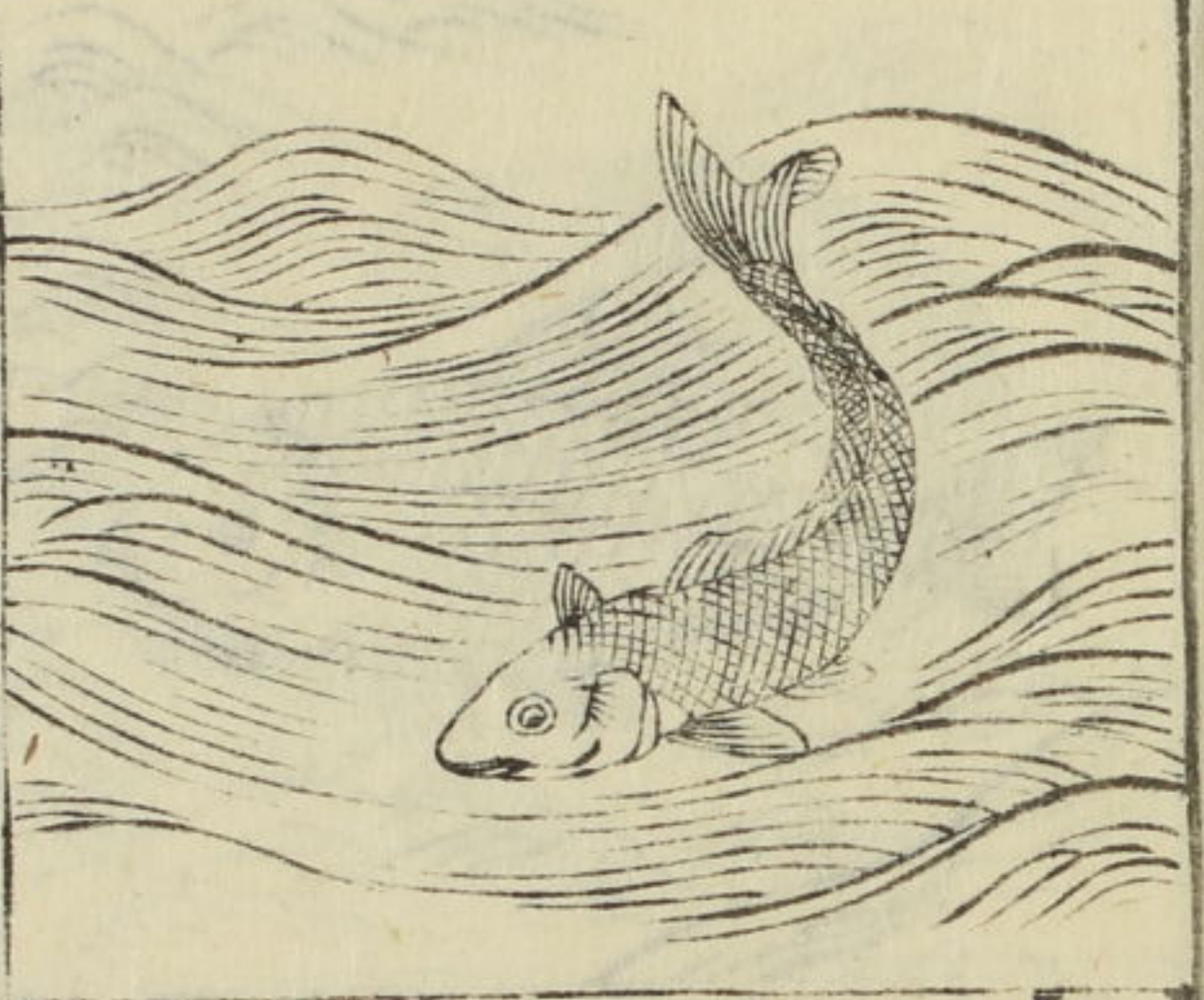


肋魚

肋魚は、
骨の似く
がそ
を
りり
このと雪
映魚と名
は味
佳なり

玉竹肋魚

玉竹肋魚は、
身圓
細の似く
微なり
葉を
時
肥

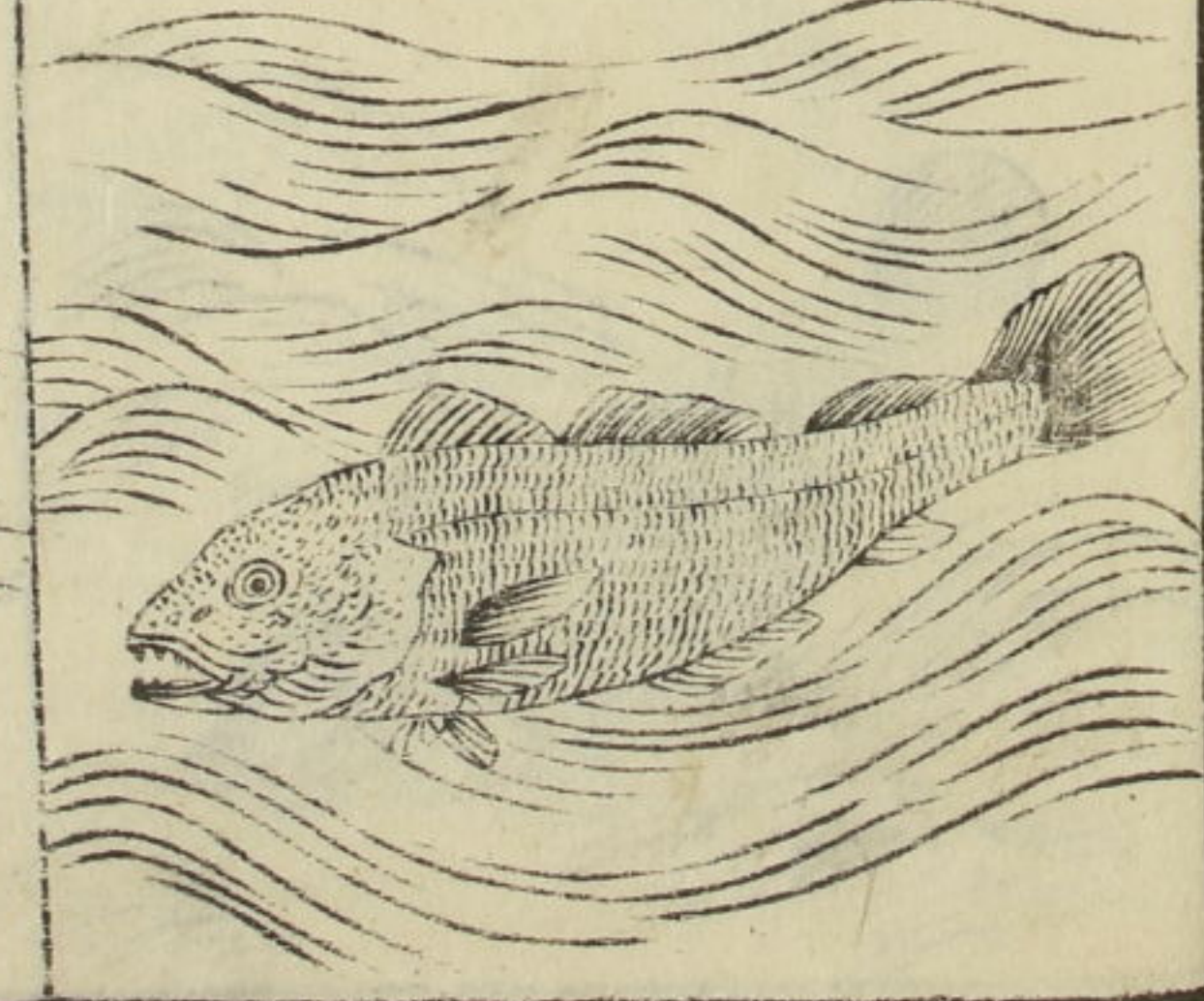


大口魚

大口魚は、
その状鳥
頬の似く
色淡
して大
細筋
は魚水油
り出
肺
佳

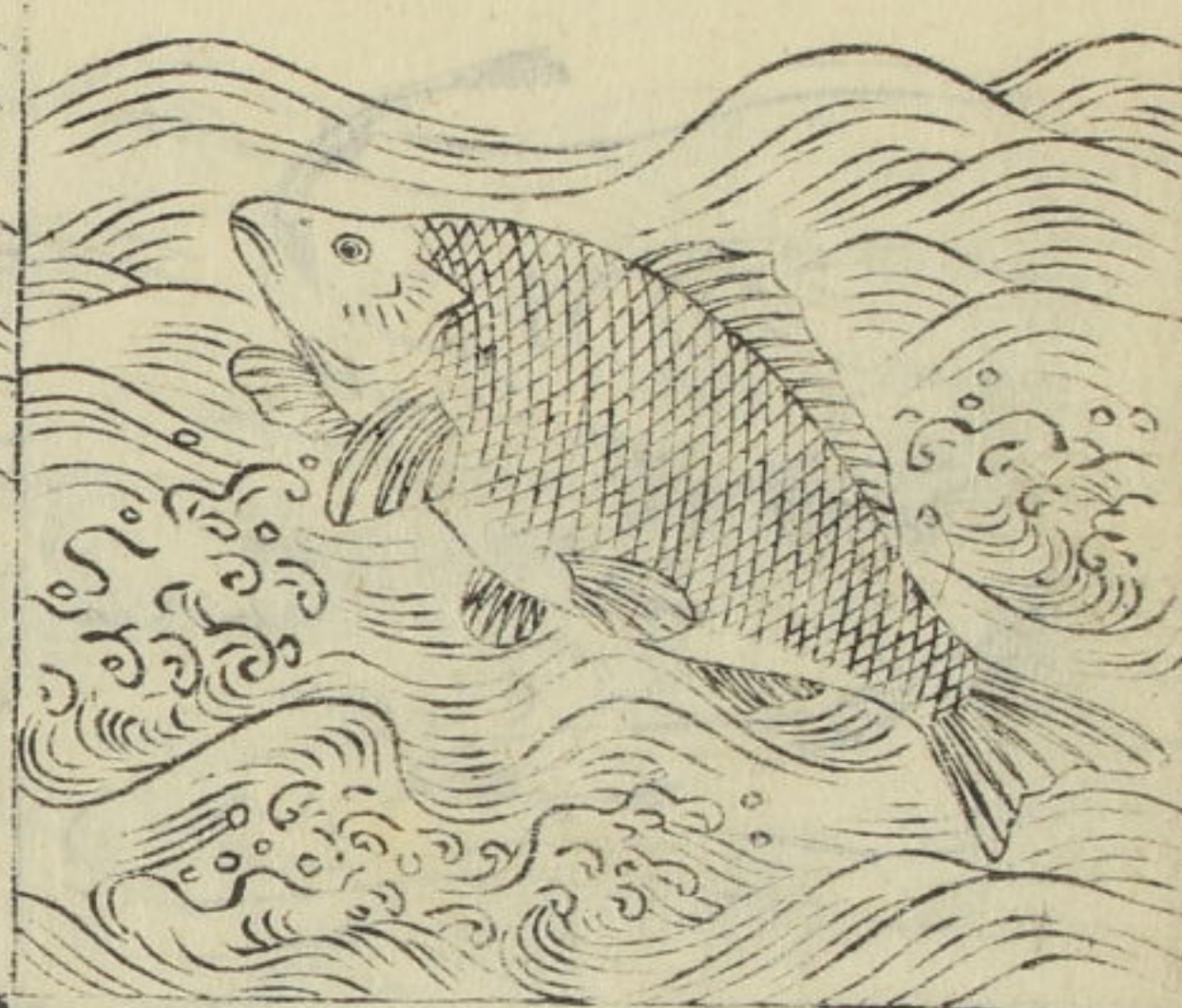
竹魚

竹魚は、
状の似く
の骨
骨刺
色竹
色竹
色竹



鯽魚

狀鱸の如
みして頭
小形扁
細
鱗腹肥の
白
一名連魚



鱸魚

似て鯉
大
骨
臭尸
の



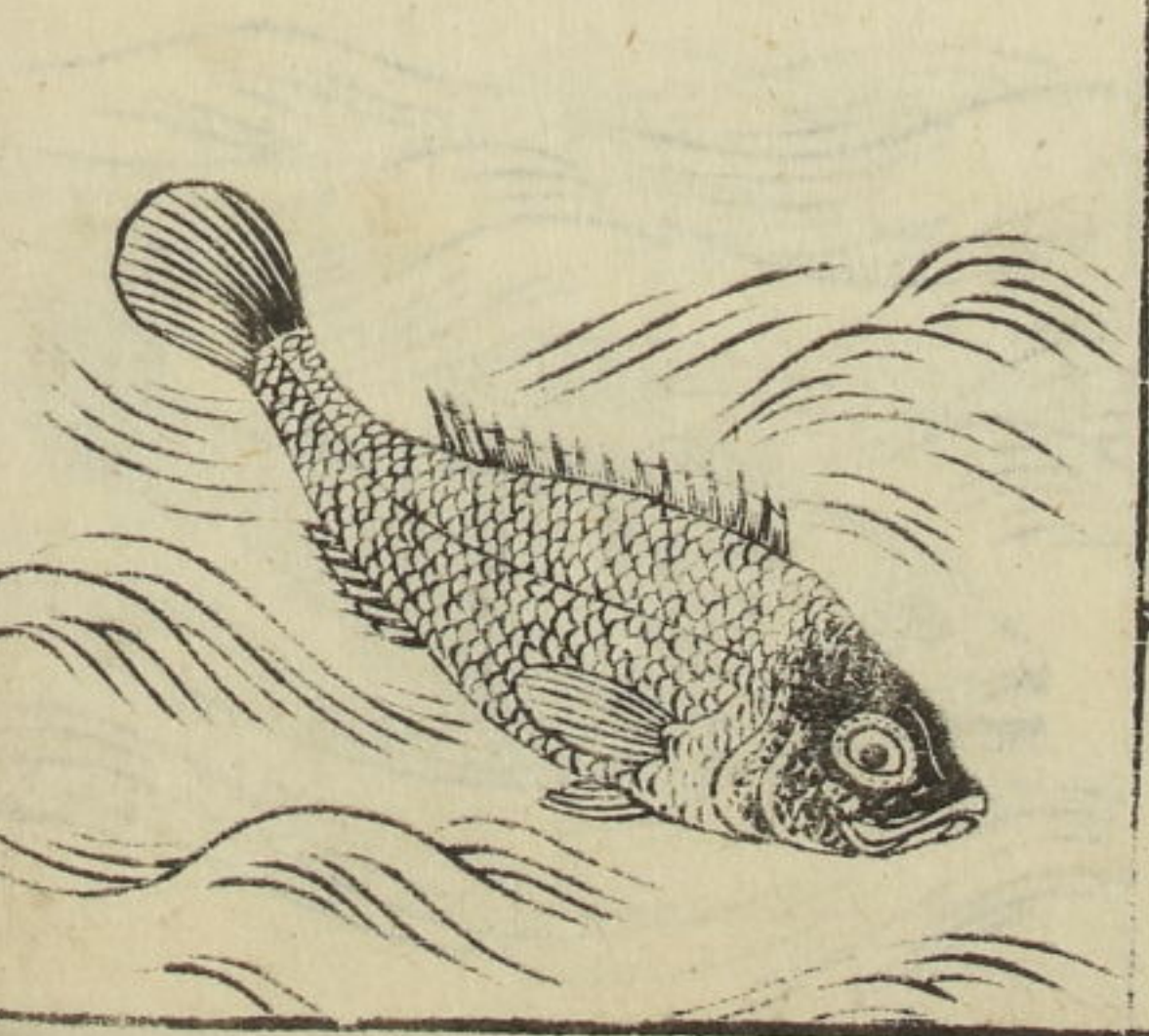
鯽魚

狀ハ鱸子
大
細
十



黑頭魚

一名北斗
魚



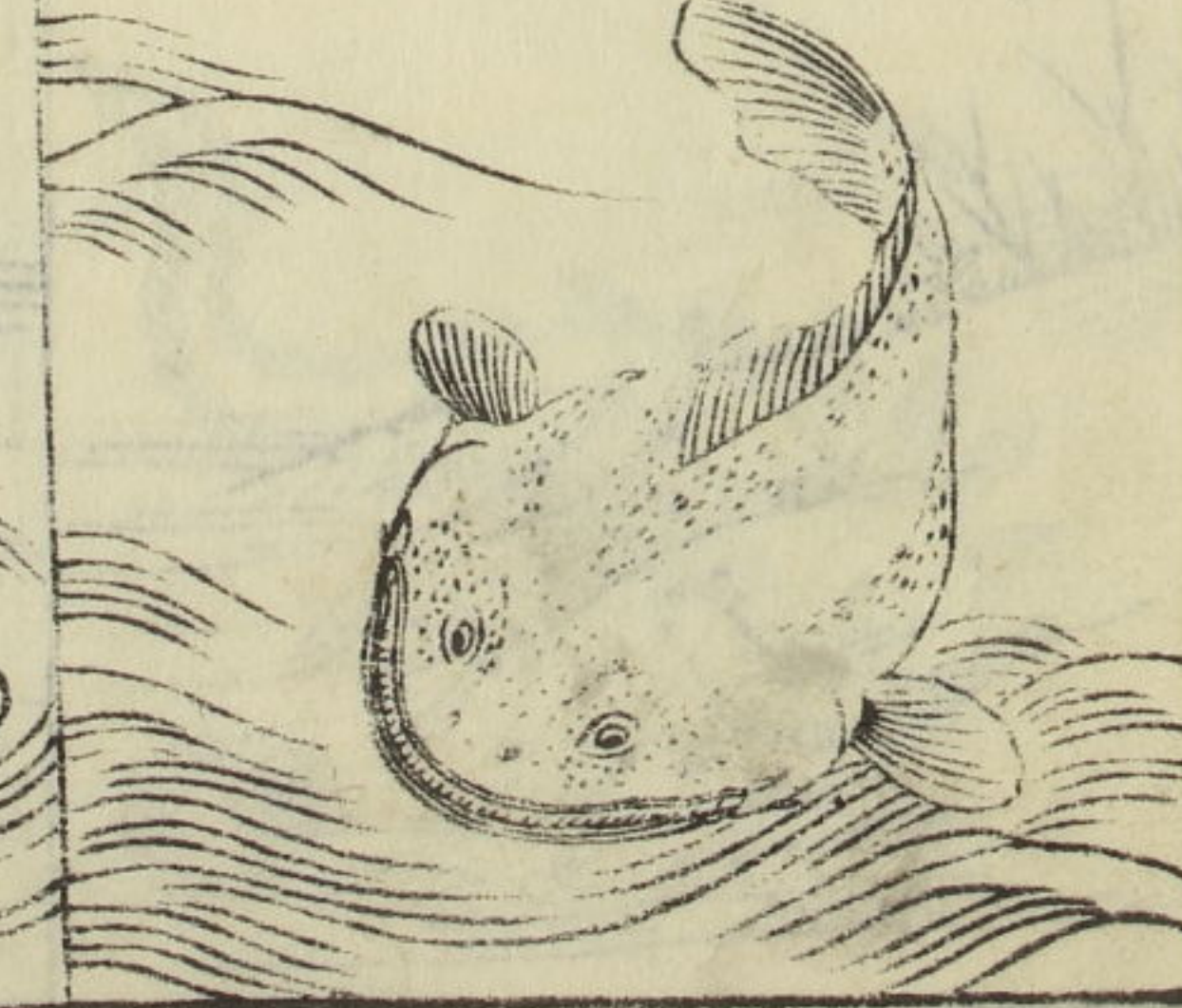
鞋底魚

狀牛脚の
細鱗紫白
一斤の
お目ん
俗
の



華臍魚

大
盤
琵琶魚
而形似琵琶
和ニ鯽鱸ト
名ハ非ナリ



鯽魚

飛ハ馬鞭
尾
肉白
或ハ嘴の
名



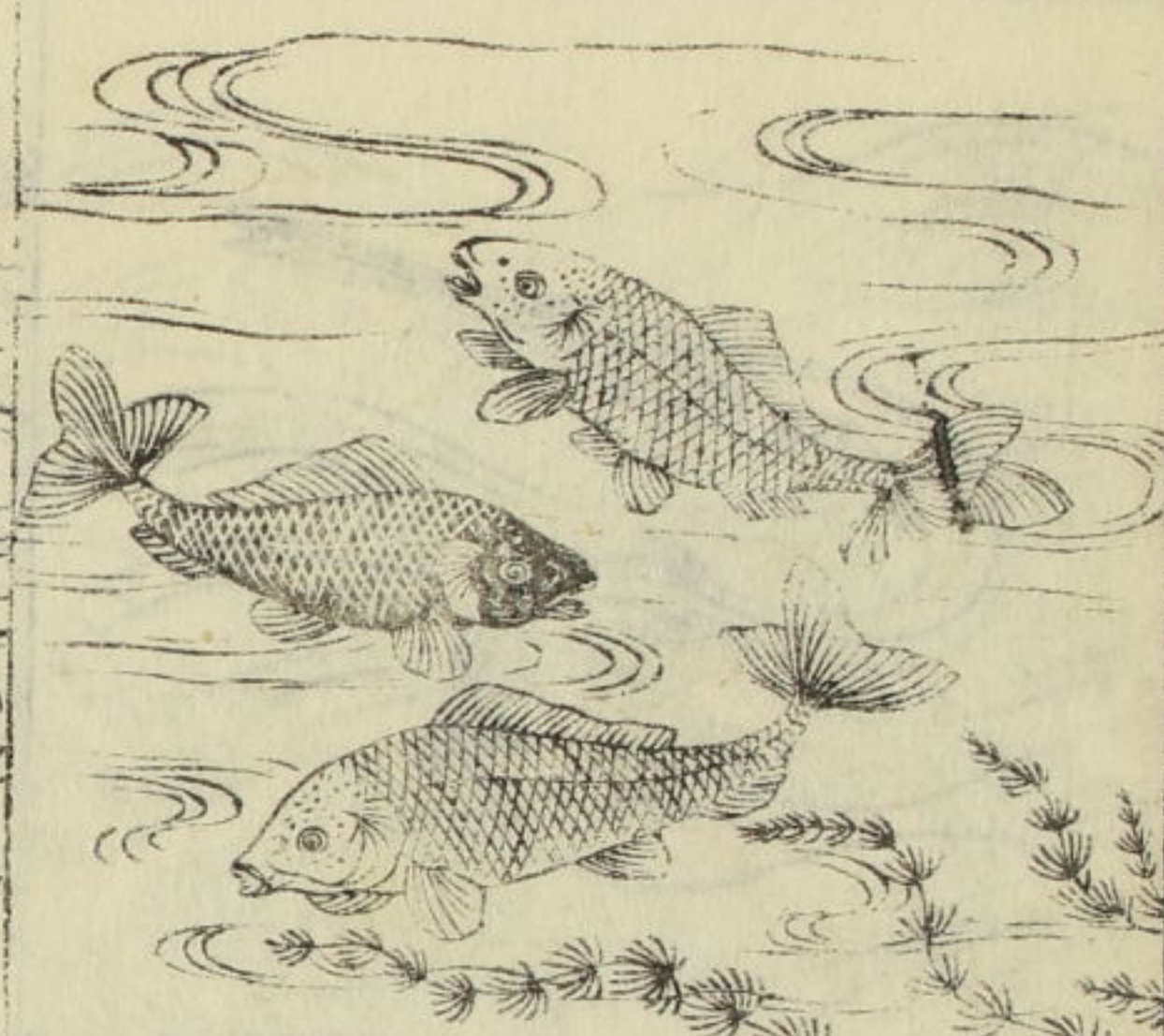
鯽魚

狀長く体
尾
名



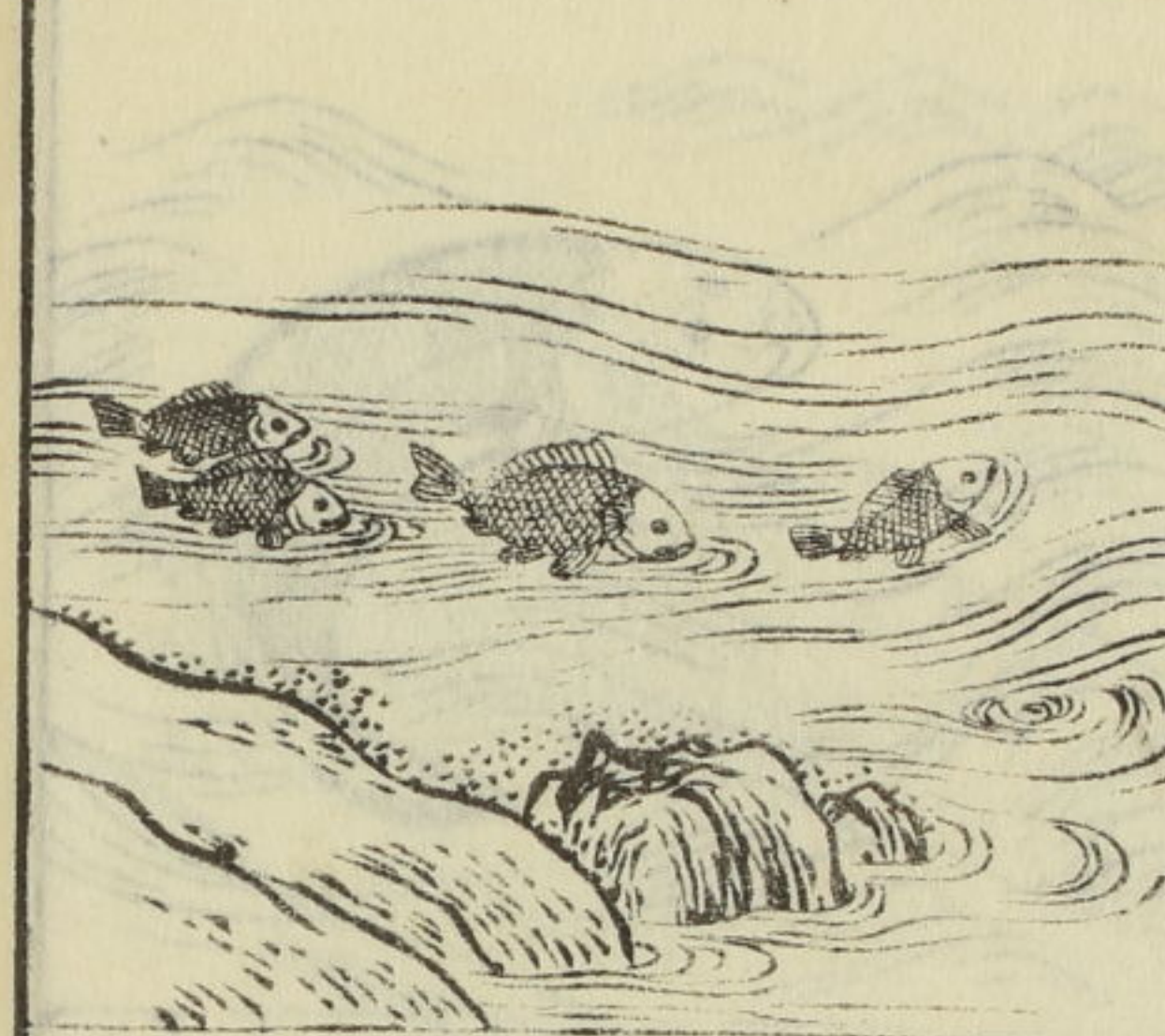
丹魚

飛鰭の
岐の尾
丹の如
尾の隆
金をり
鉄魚の状
同く
と云ふ



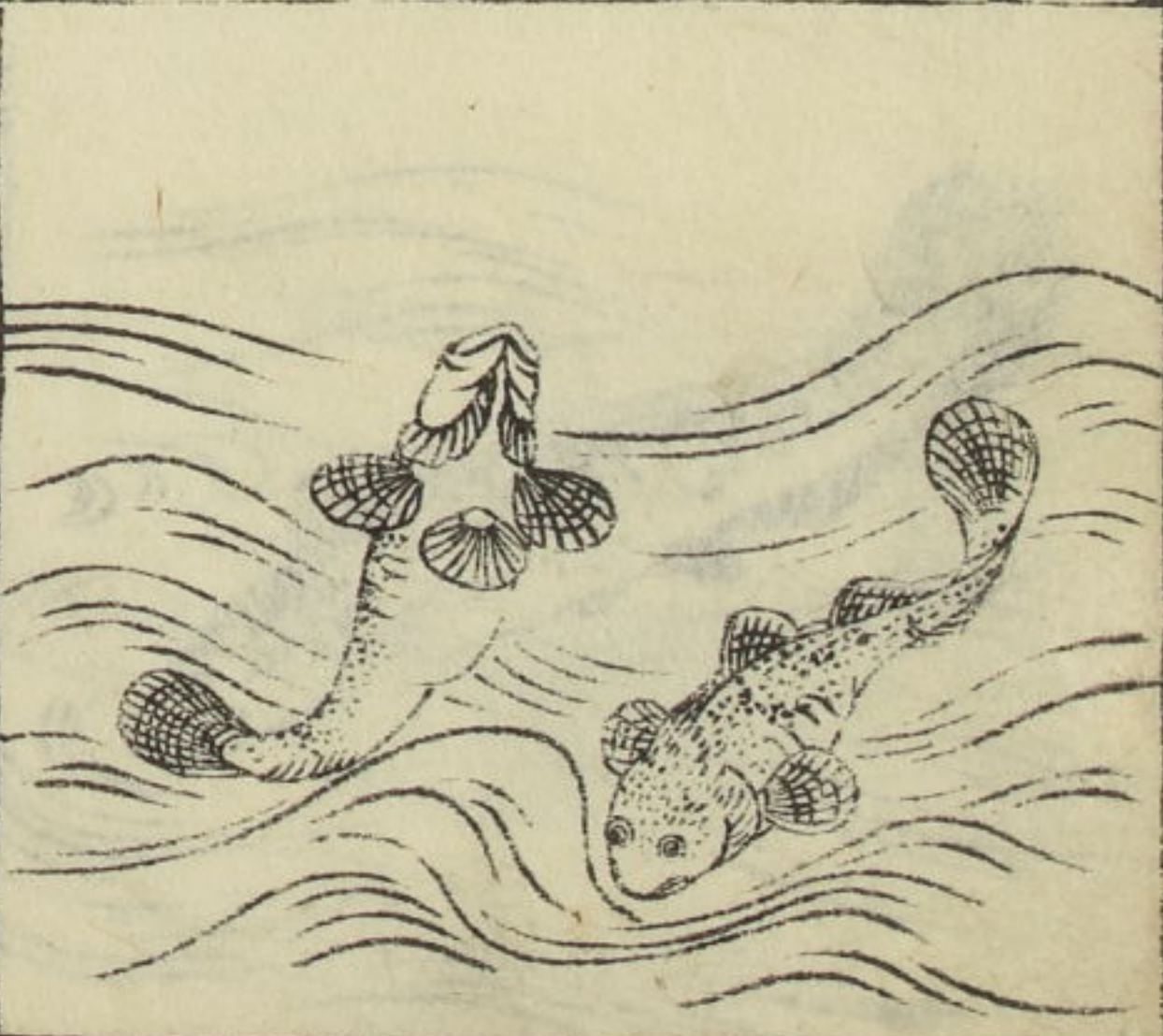
鯽魚

その状鯽
似て小
三と齊
一と二後
一と二後
其の如
改・赤魚
鯽魚あり



鯿魚

肉厚
細は七
文あり
小魚
沙と吹
わふ子の
りし時



彈塗

一名蘭胡
形小鯽
似て短
大なり者
長三五寸
潮退て千
百群とか
して跳



牛魚

状ハ體乃
斑文あり
腹の下
牛に似
とて名
鱧の属



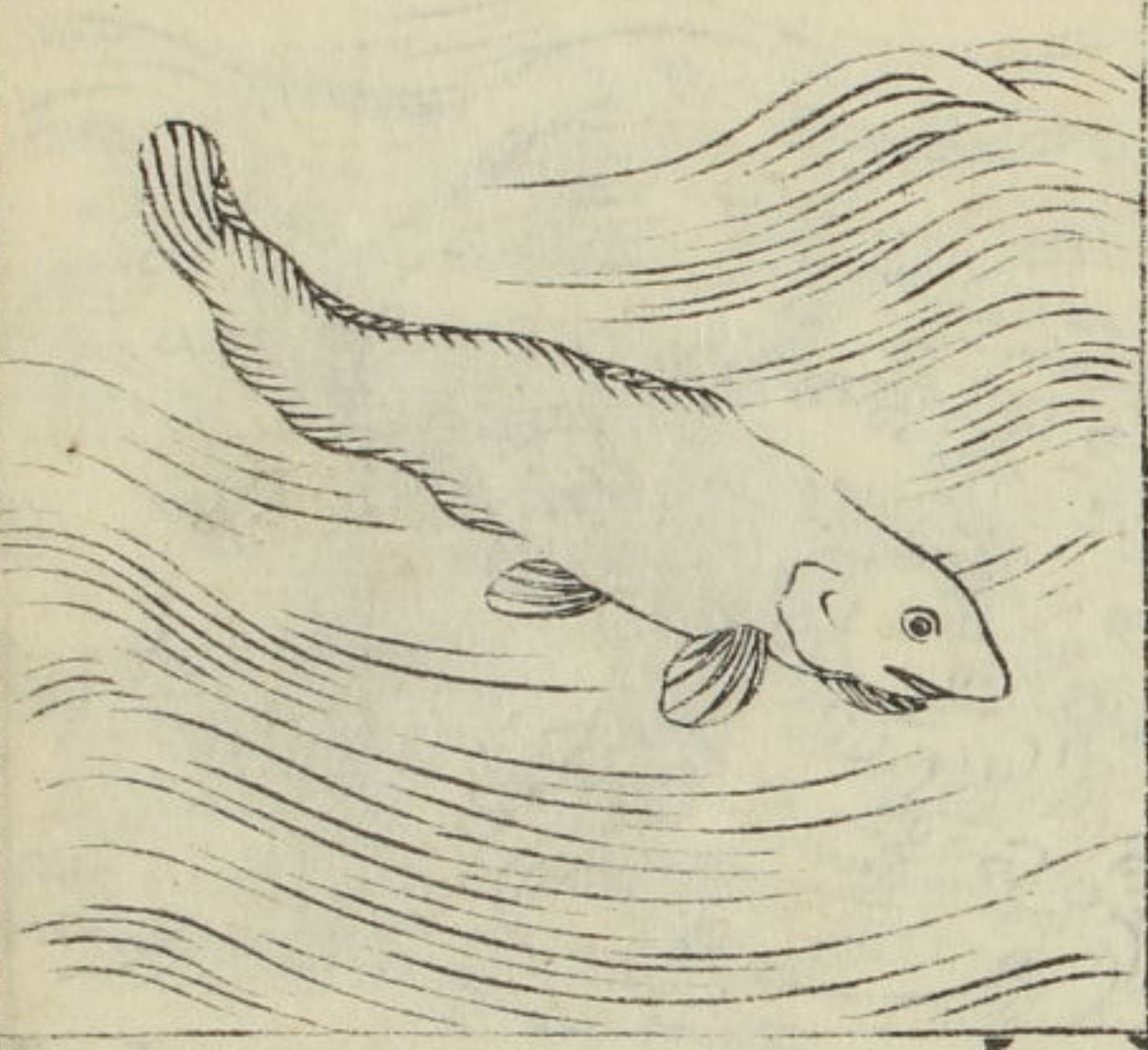
海蠶

その如
龍乃如く
鱗あり
足多く
毒あり
和云む
かいら



鮠魚

飛鰭
似て色白
鼻の如
口頷の下
あり腰
粘り
脊に肉
鱗あり



龍魚

状ハ龍乃
似て
頭多く
骨か
その味
佳なり
明海甲
り出



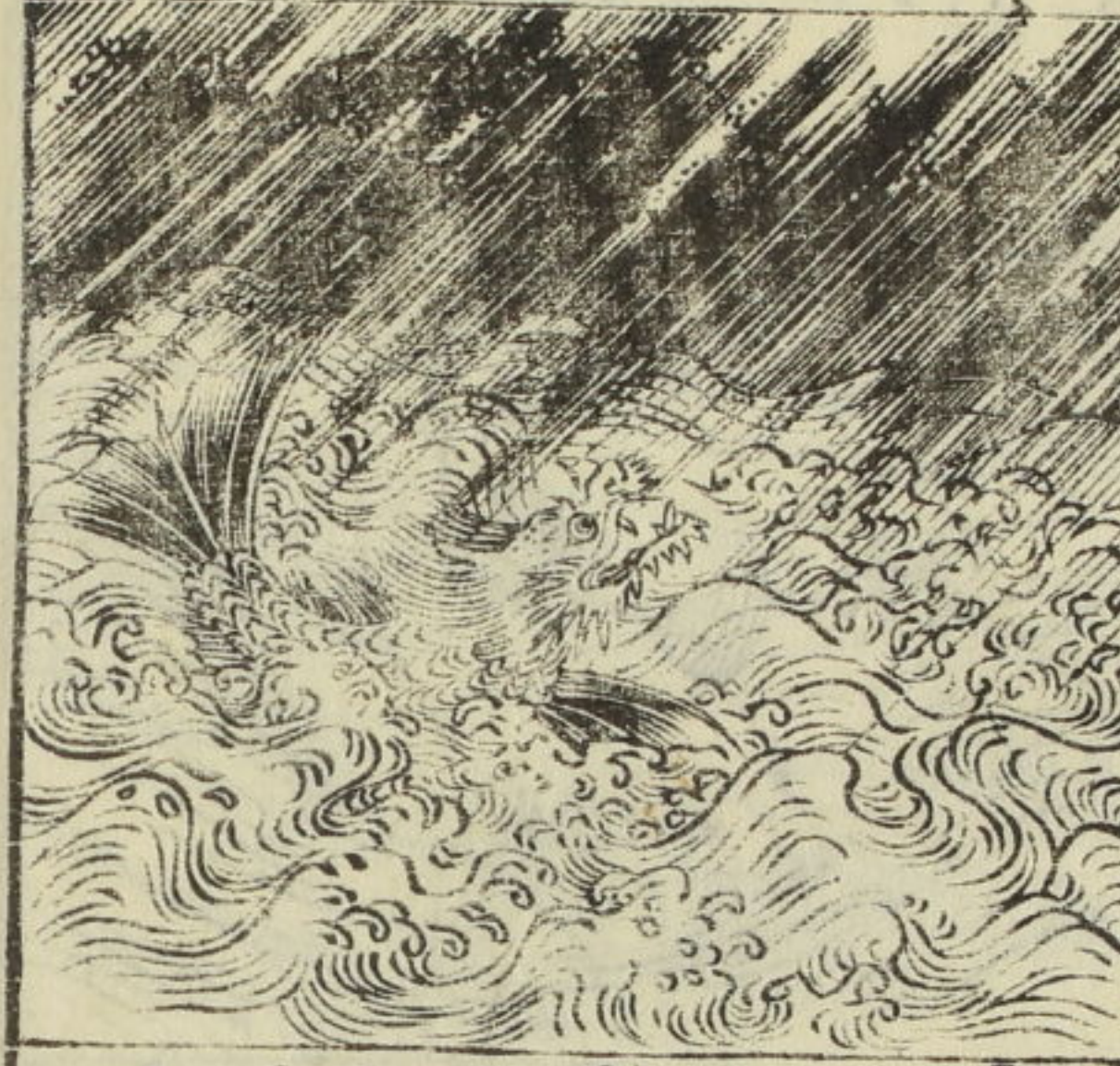
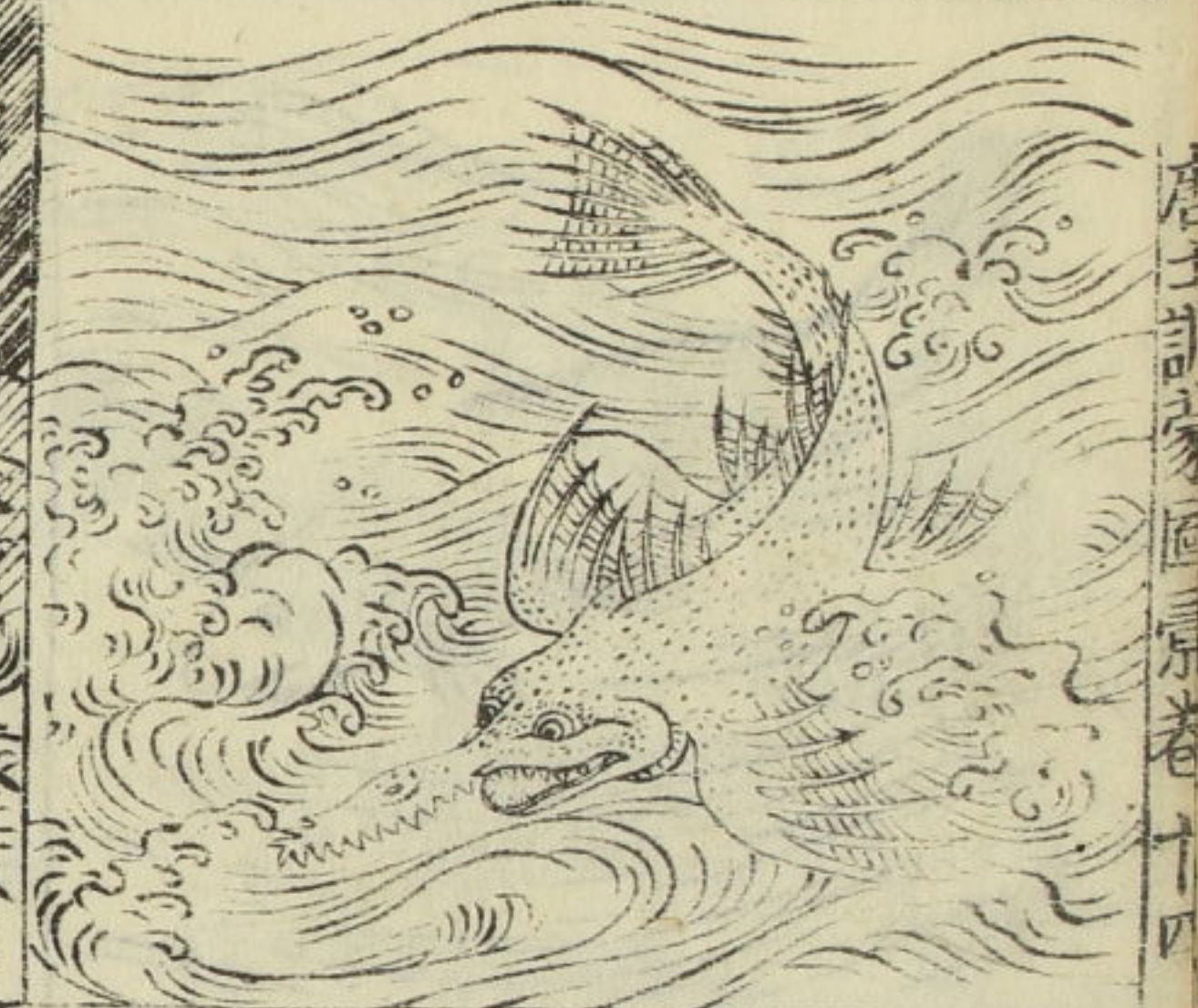
唐土諸家圖傳卷十四

胡魁

そのまは
くは背
上は海
大なる
長一文
小なる
三つ入
糸の

鴟尾

狀ハ龍
浪と激
内なる
屋上の
優と作
火災と
鴟尾
同し

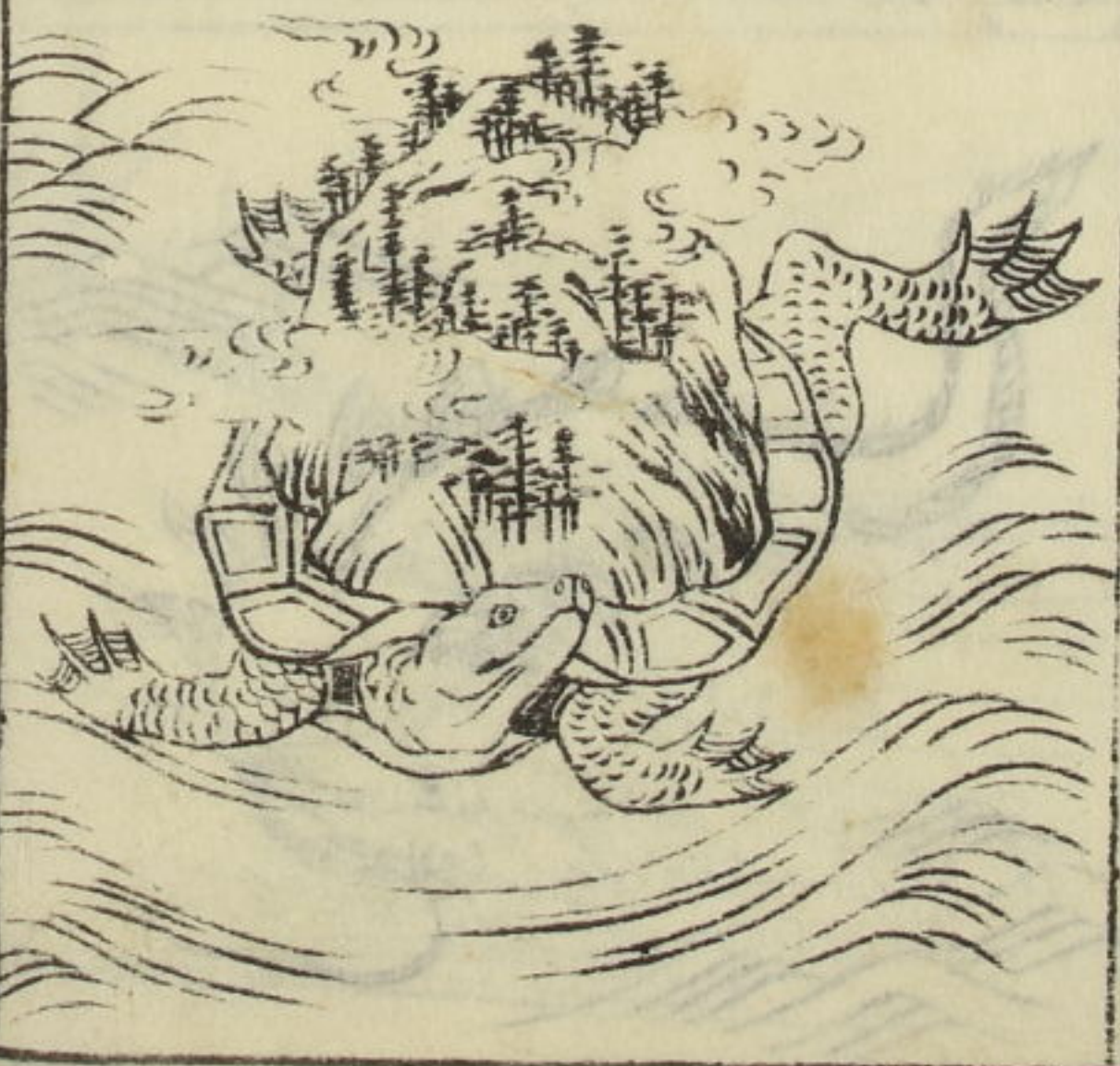
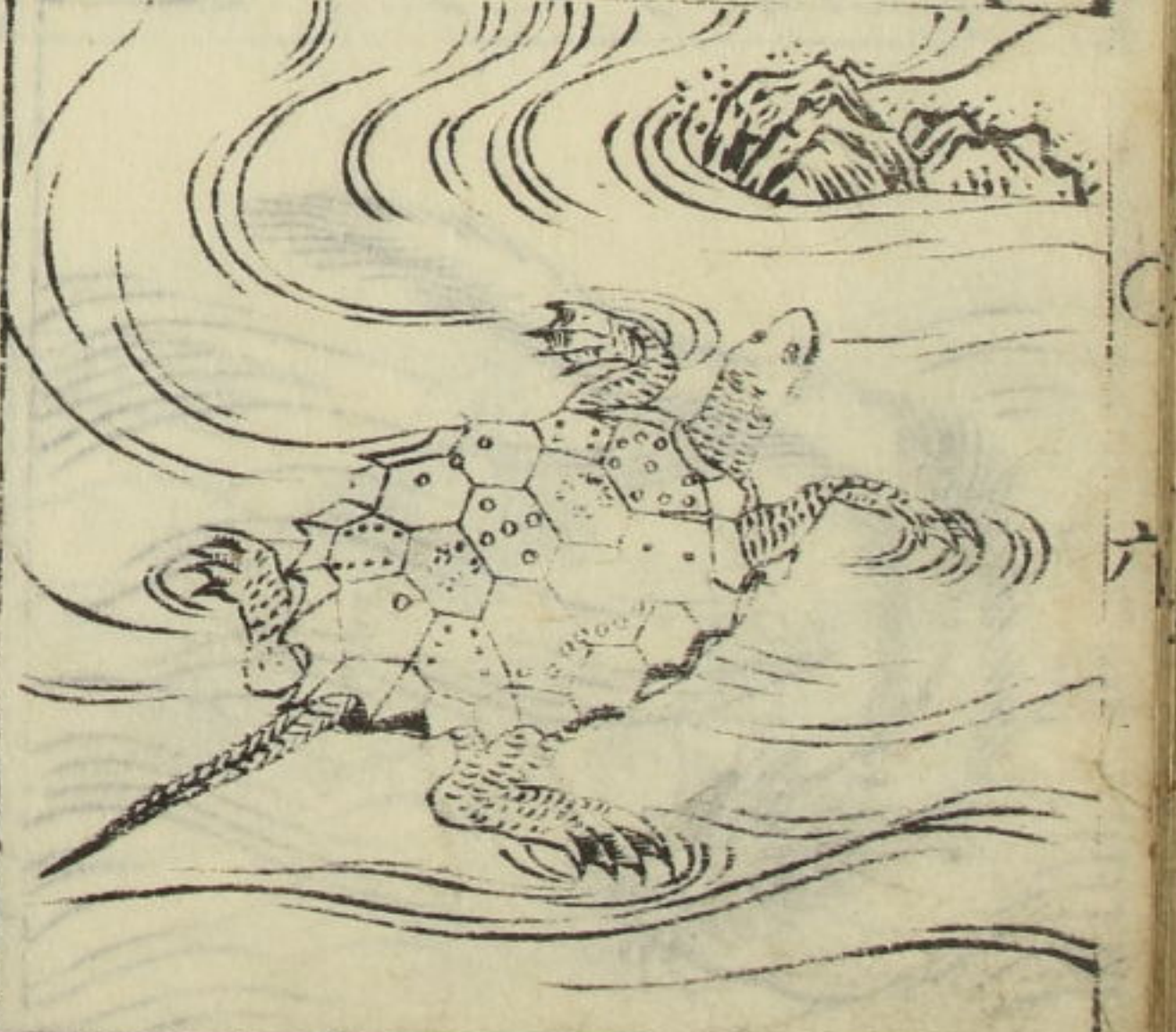


神龜

夏の禹王水
と治王の時
洛水より
龜如く
其甲より
文ありて字
畫の如し
禹王の
知て九龍
の洪範し

黿

曰く海
の東岱嶽
員嶠方壺
瀛洲蓬萊
の五山あり
巨鼈首と
仰てそれと送
るの儀あり

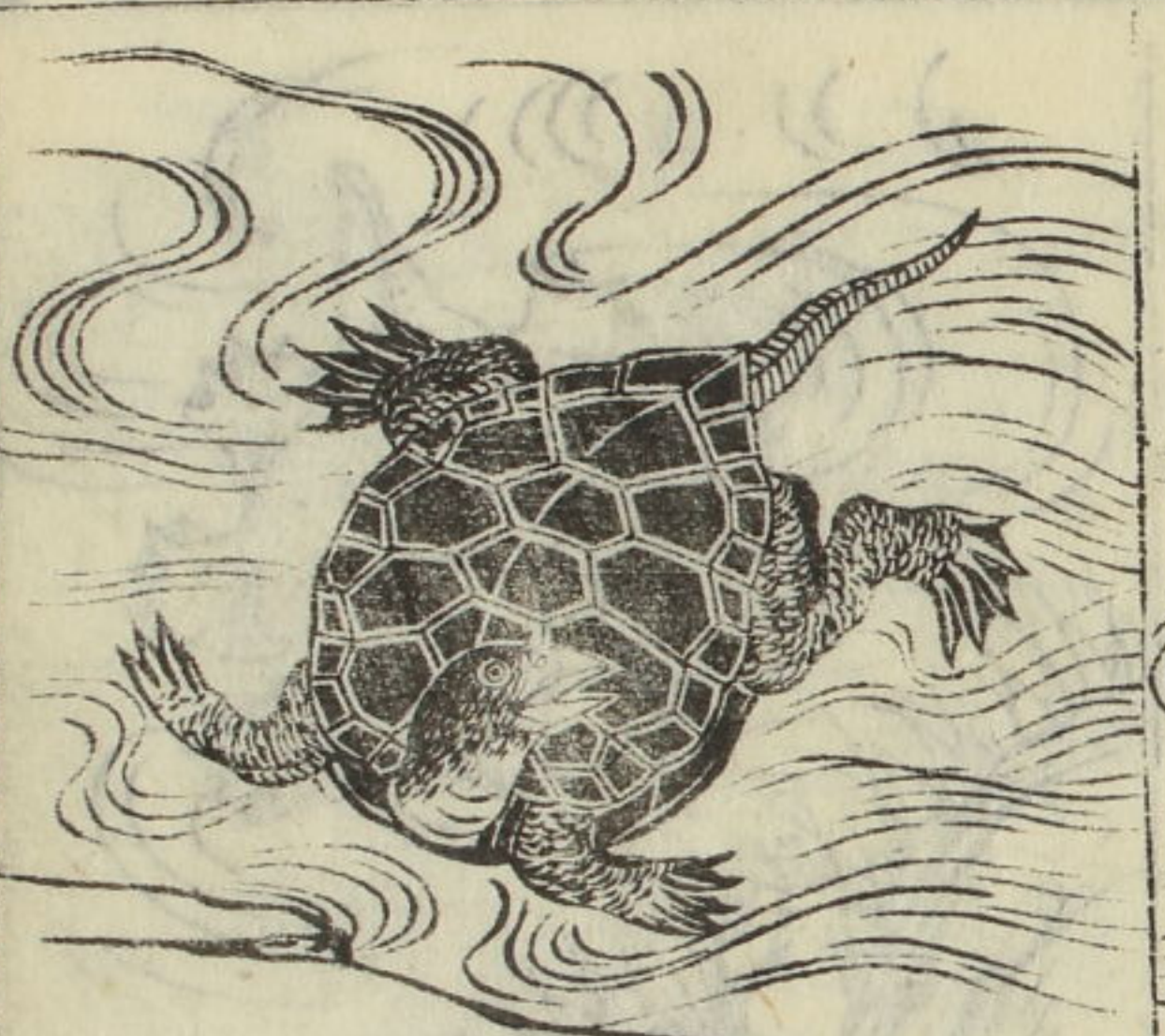
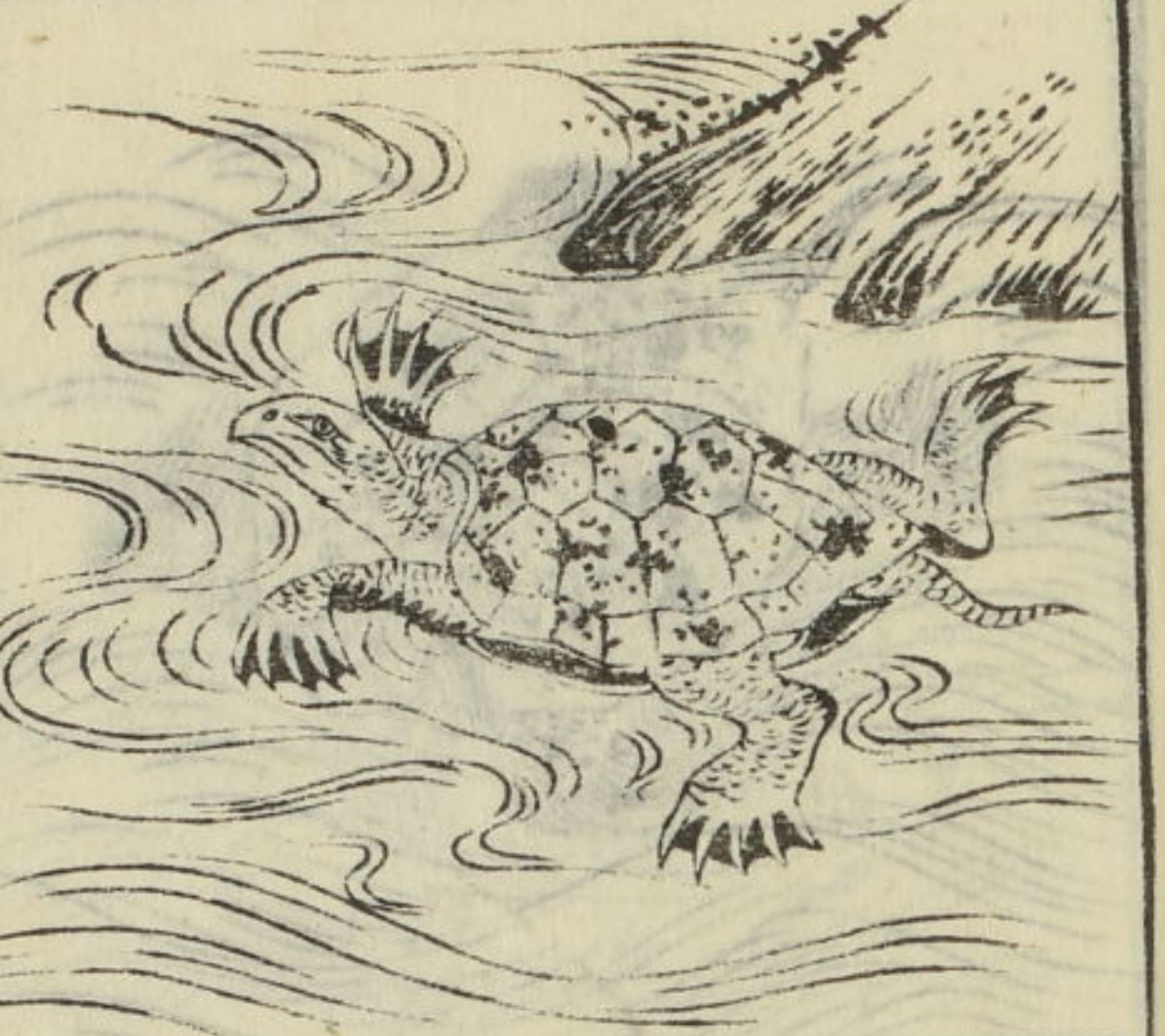


蟠龜

跂踵山
出は
玳瑁と似
交差あり
その甲を
以てトビ
碑の
負員と同
玳瑁の雌

玄龜

扭陽山北
怪水河出
東注水中
玄龜多し
其狀鳥
首魁の尾
音破水の
音の

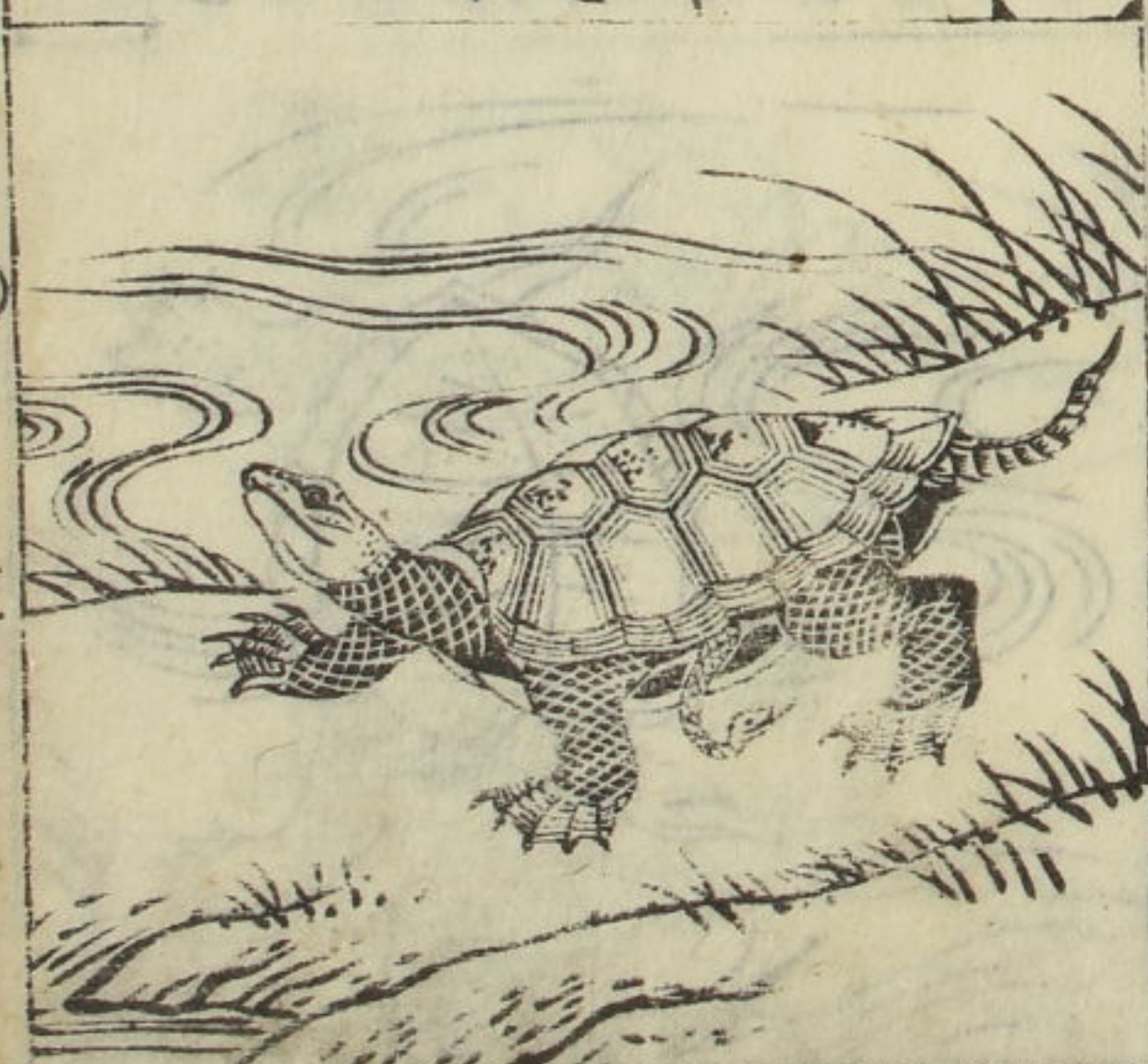
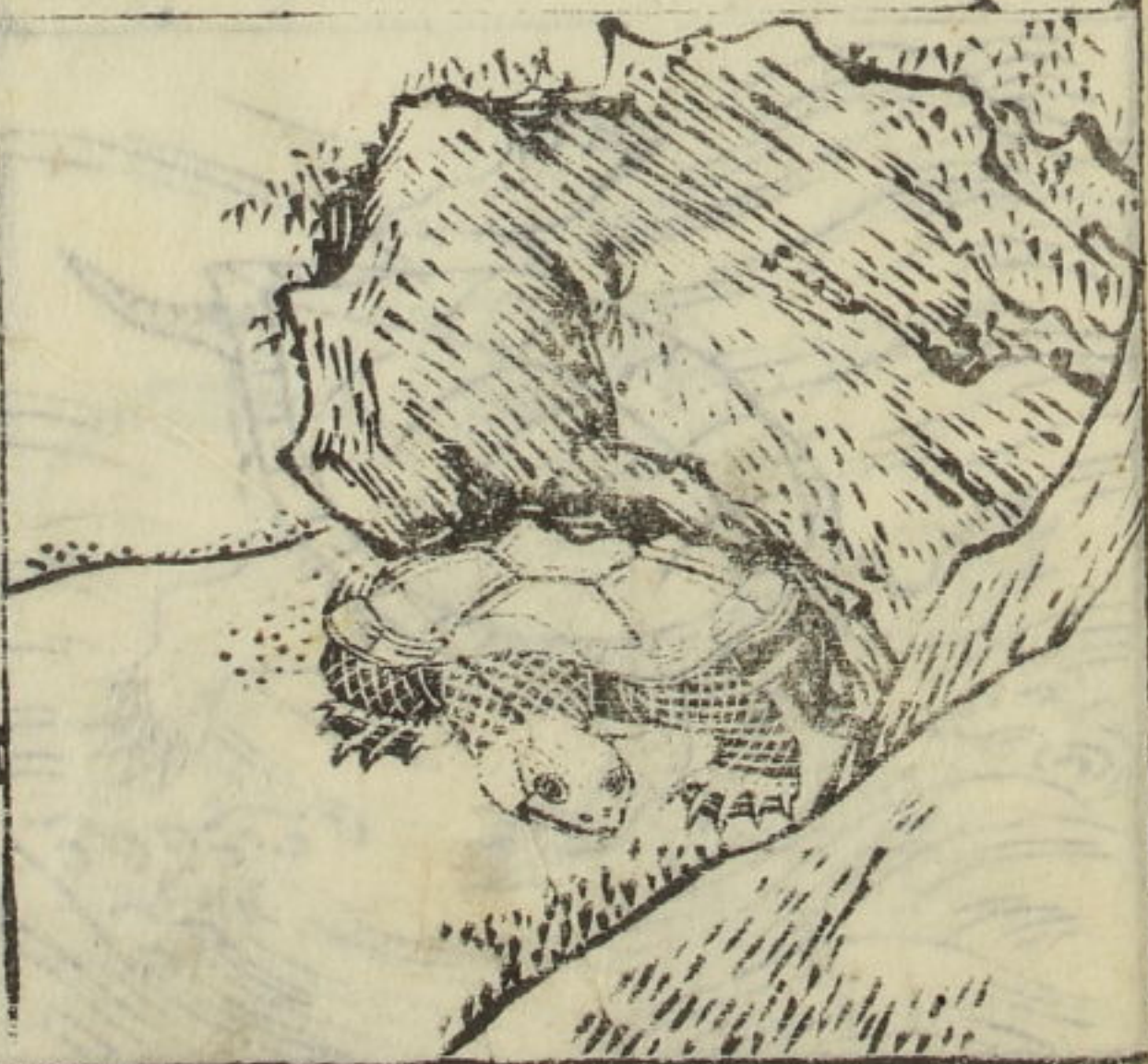


瘡龜

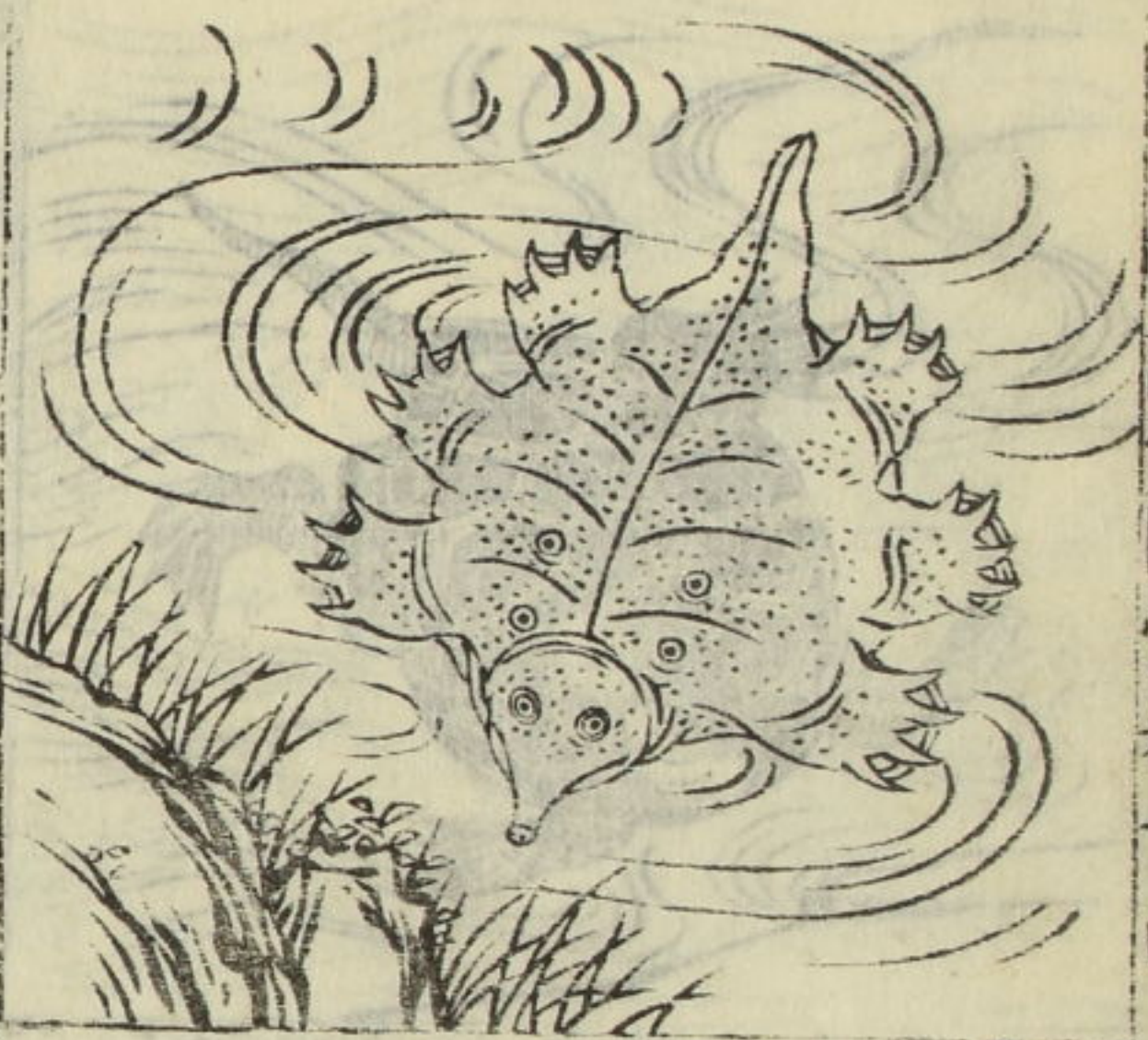
い海
石下よし
とりて狀ハ
偏頭大嘴
老瘡と
或は病人乃
外に欠り
掛たり

攝龜

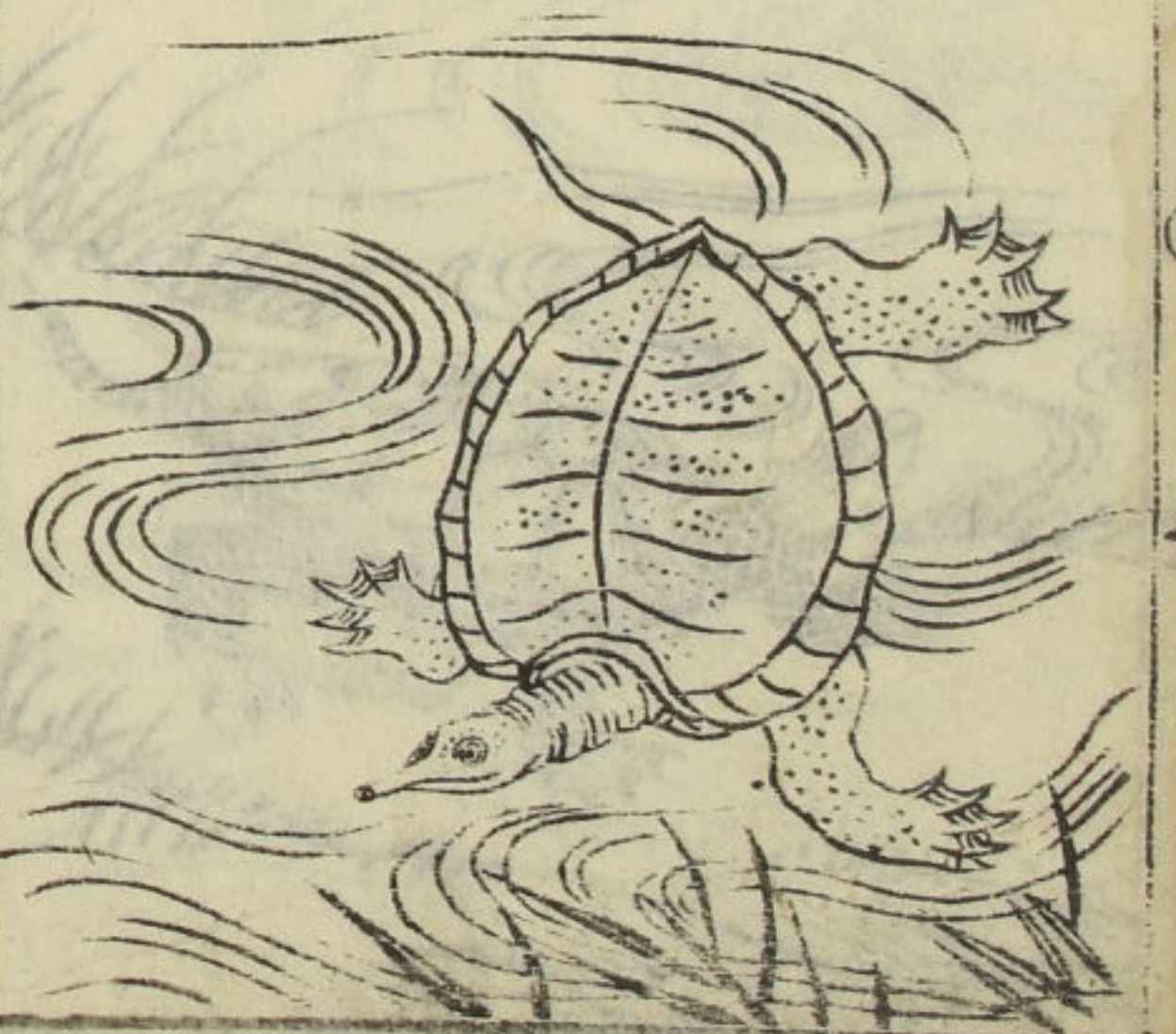
一名
腹小
中心
能自ら
圓川
地と
故に
龜とい



珠鼈
葛山澤
中人多
其狀六月
一珠わり
理味目
酸一食
時氣と避



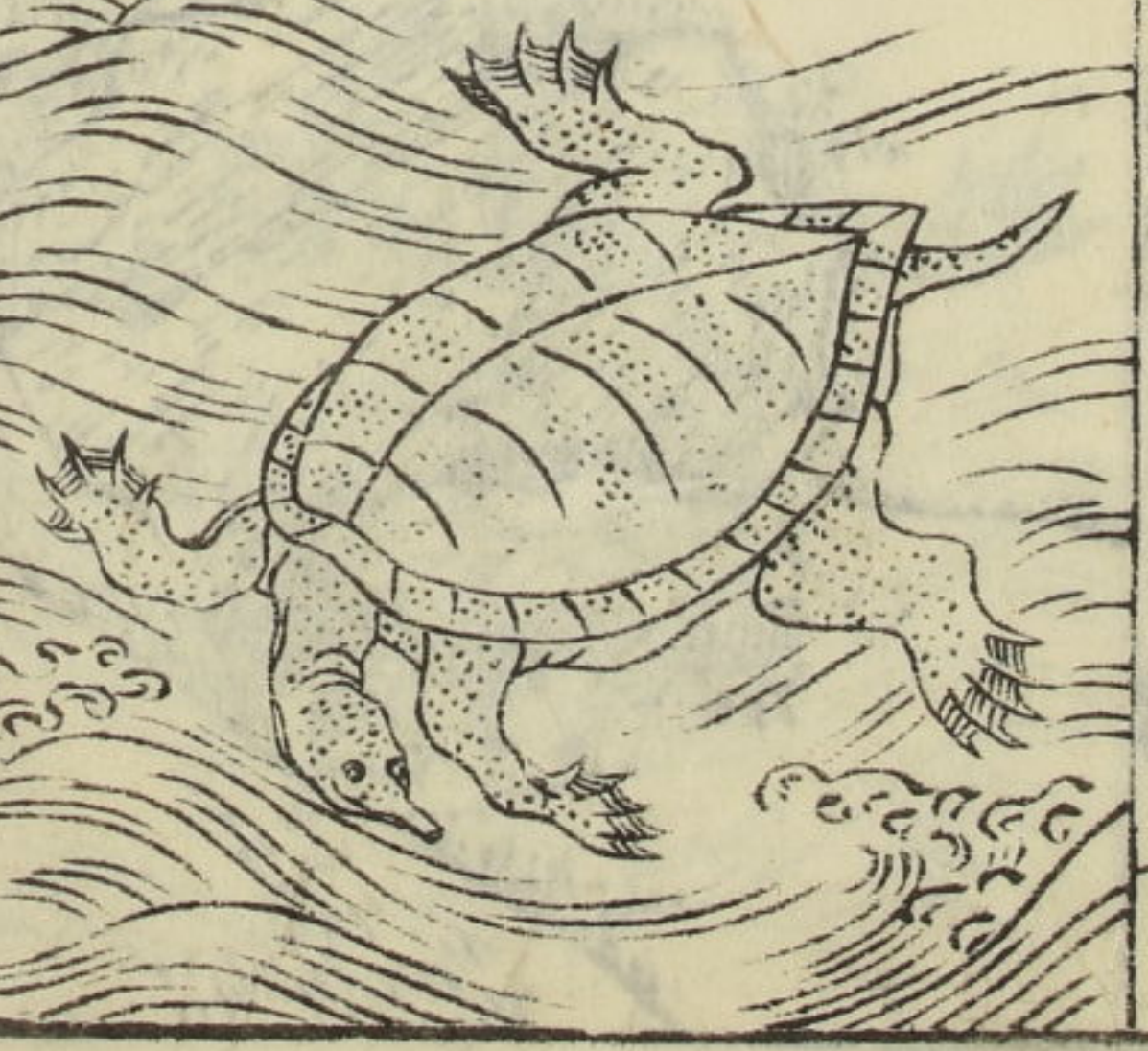
能
其多
池わその
の鼈多



龜鼈
その形
甲は五珠
玳瑁の
玳瑁の



元鼈
其多
鴨の卵



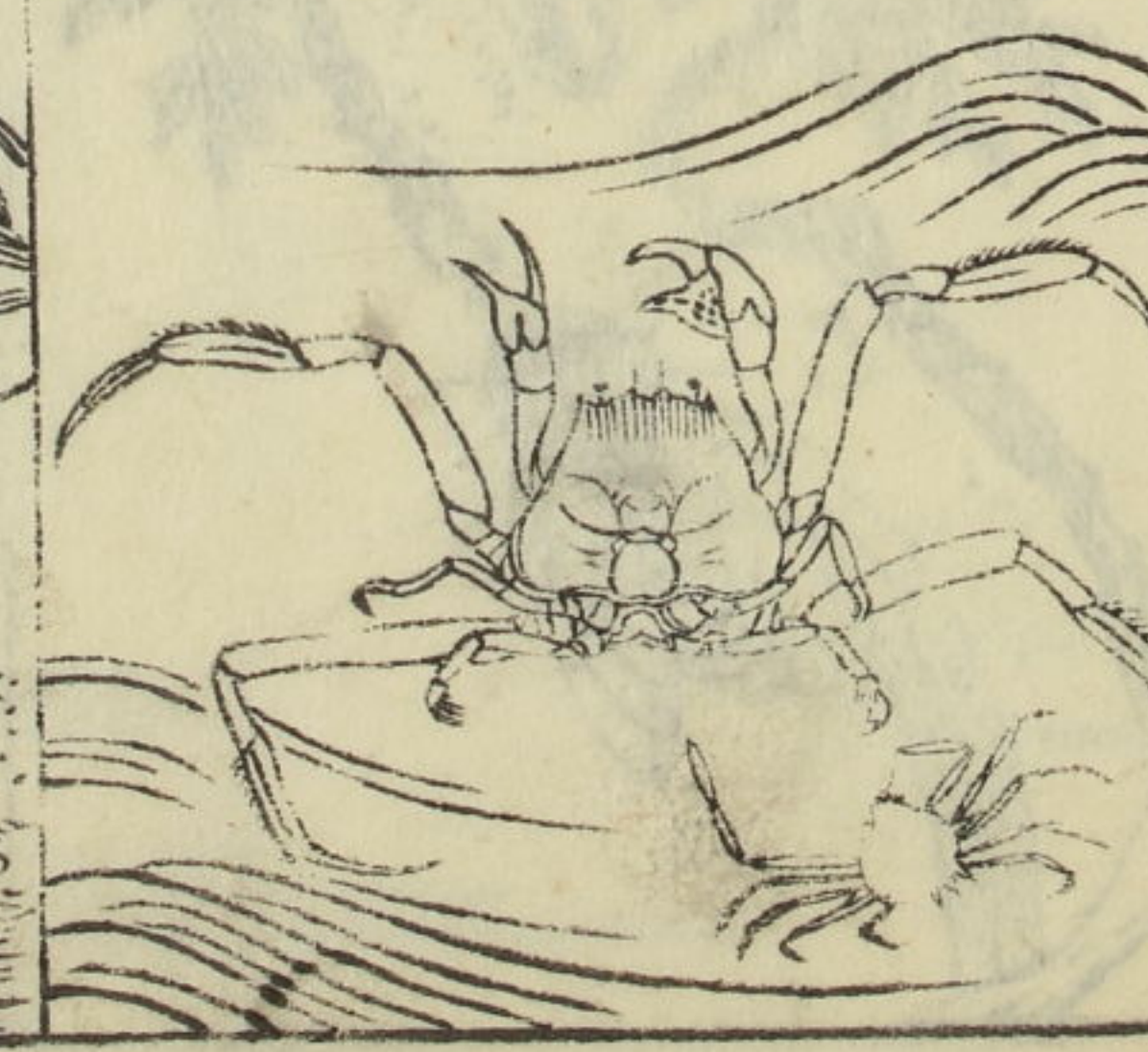
蟹歩

その形蟹
大は一
小は一
蟹の脚小
蟹の脚を
含ふその
蟹赤



鬼蟹

和云
鬼蟹



百足蟹

善花園
百足蟹あり
その名
て膠と
鳳喙膠



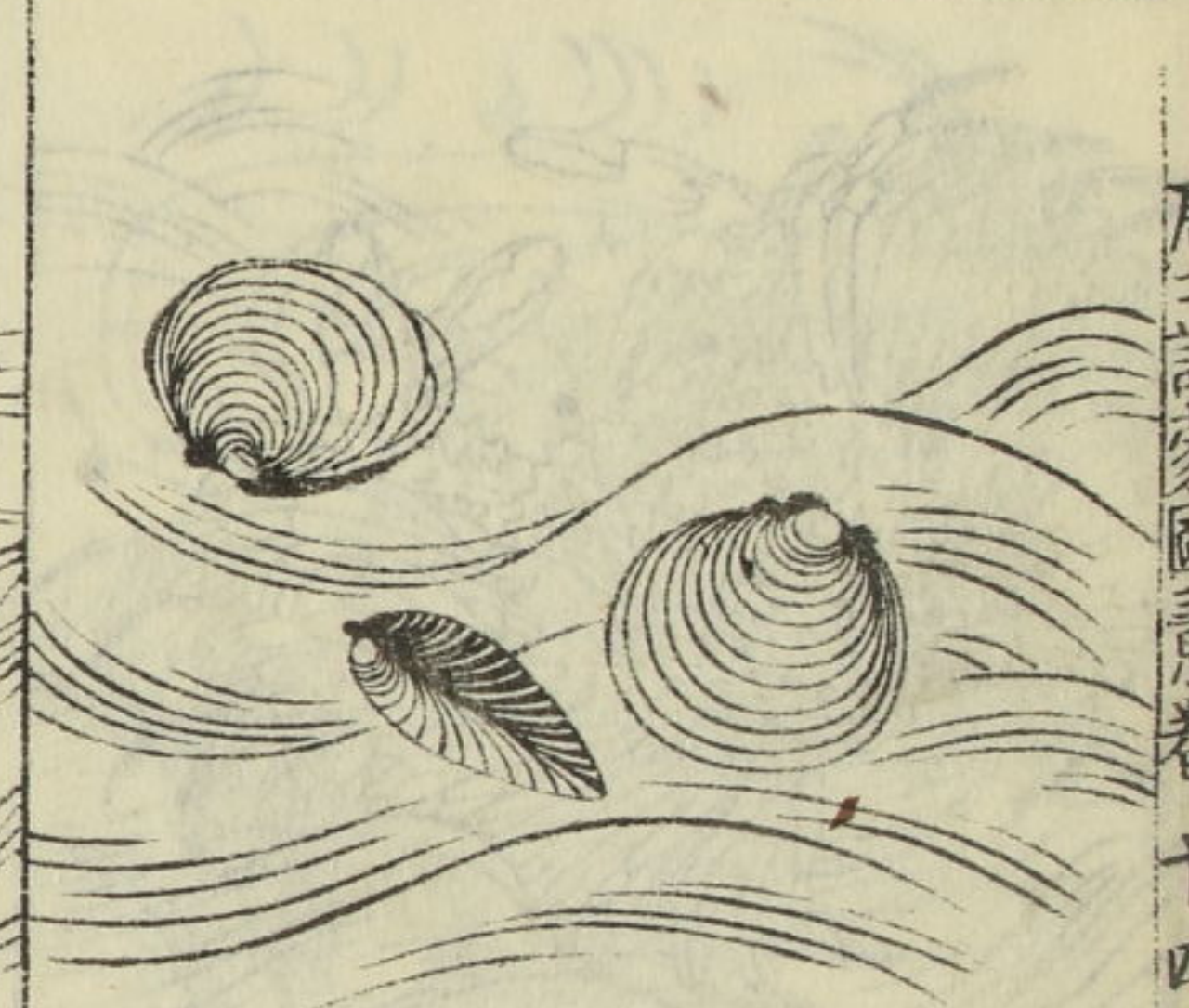
招潮子

小蟹
招潮子



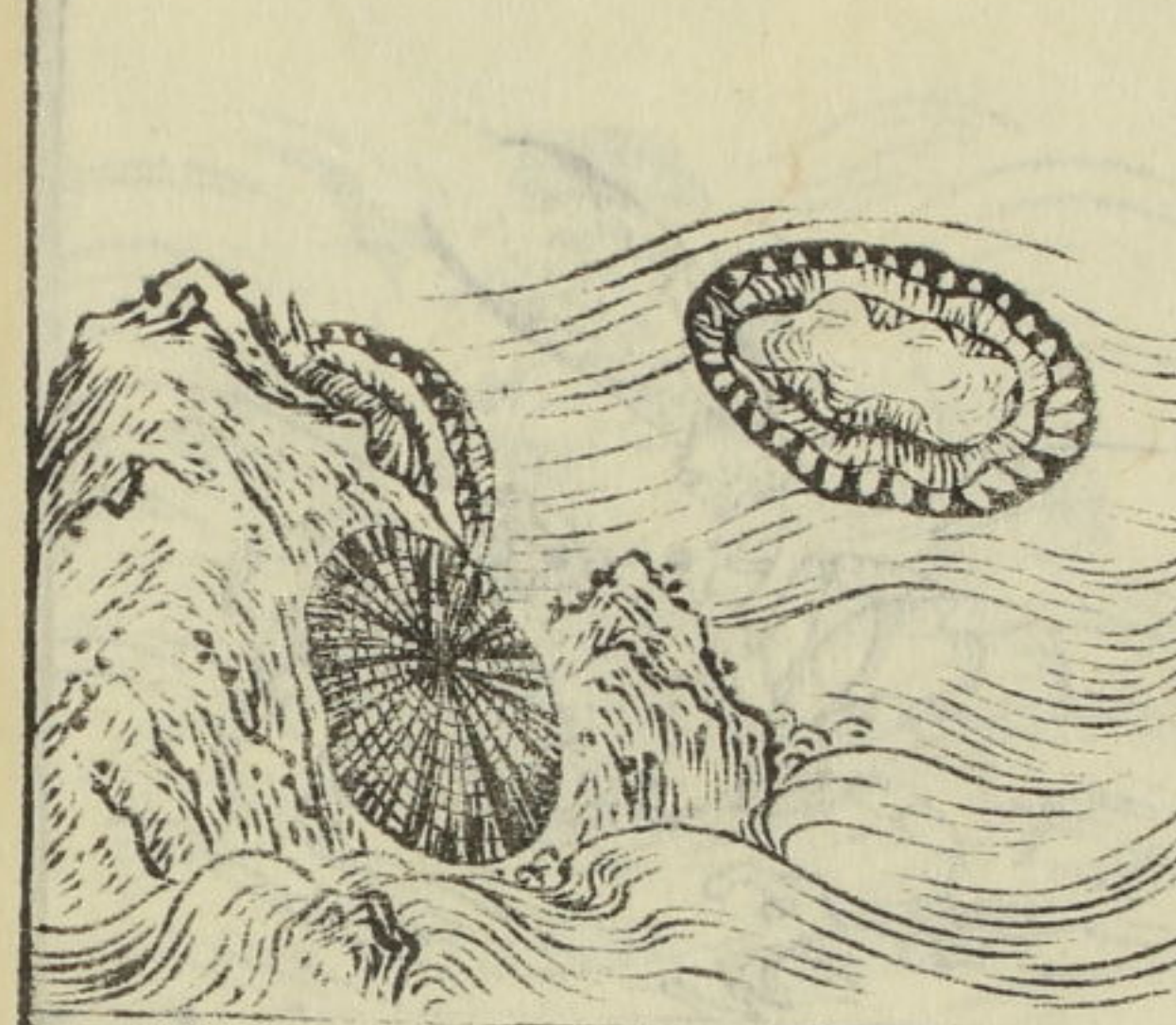
海鏡

此殼五斤の肉一斤の白く一殻の類を和子と解目貝と云ふ



海

海岸の石より著りて生れ肉の飛散し似る味も又



標雞

一名ハ紅子赤足アリ七き外翼あり外翅灰黒く斑點あり内翅ハ



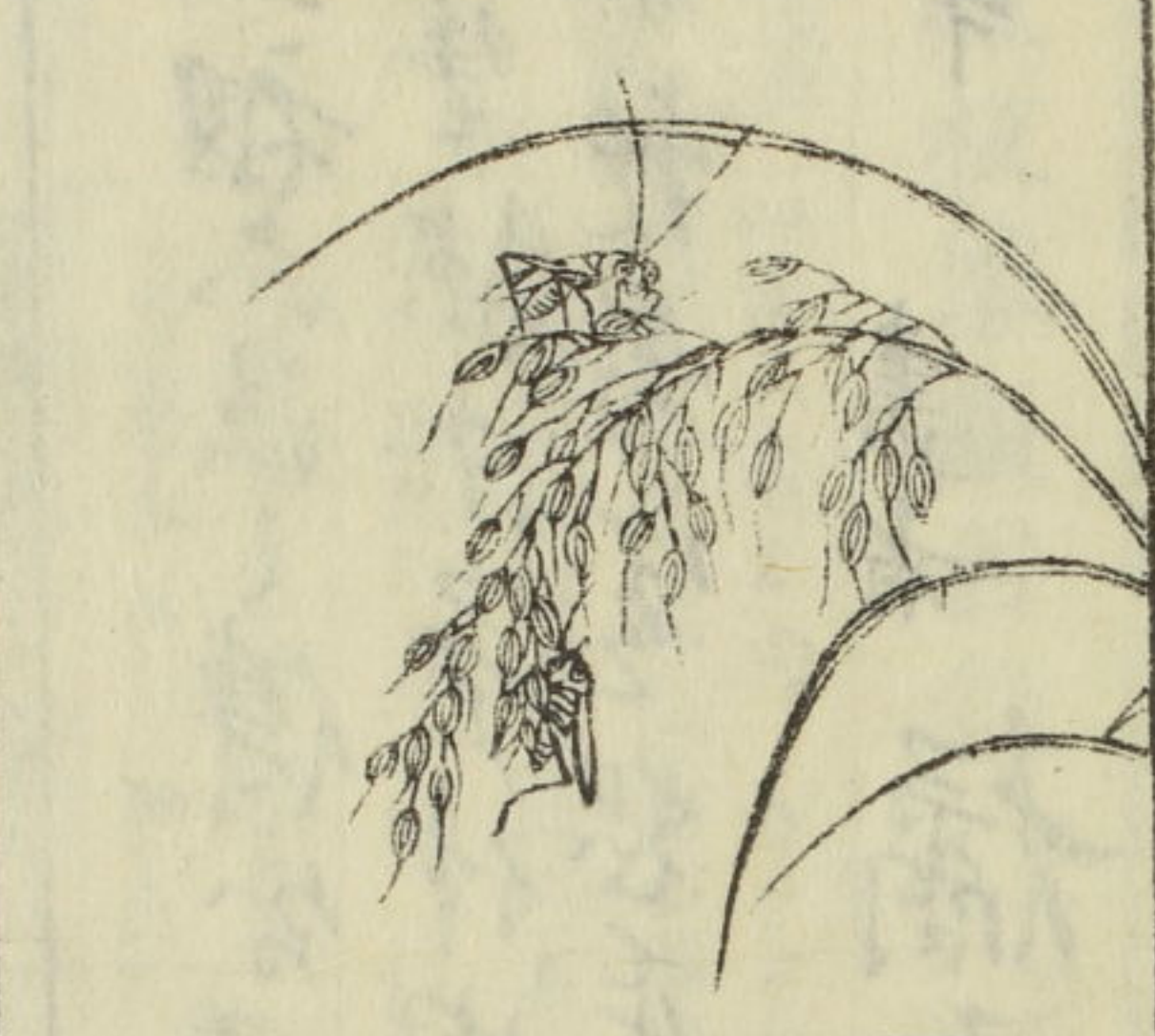
蜩

そのくま首方ハ皮く冠を輝かし鳴く声ハ清亮なり一名ハ短名ハ寧母



蟬

蟬と同一苗と云ふ淮南子曰法令と在れし垂頭多しといひ今全敷と以てとらふ



散虫

飛ハ水龜の如く八足ありて長尾なり節ありて色青大なりもの人と云へん此は毒虫なり



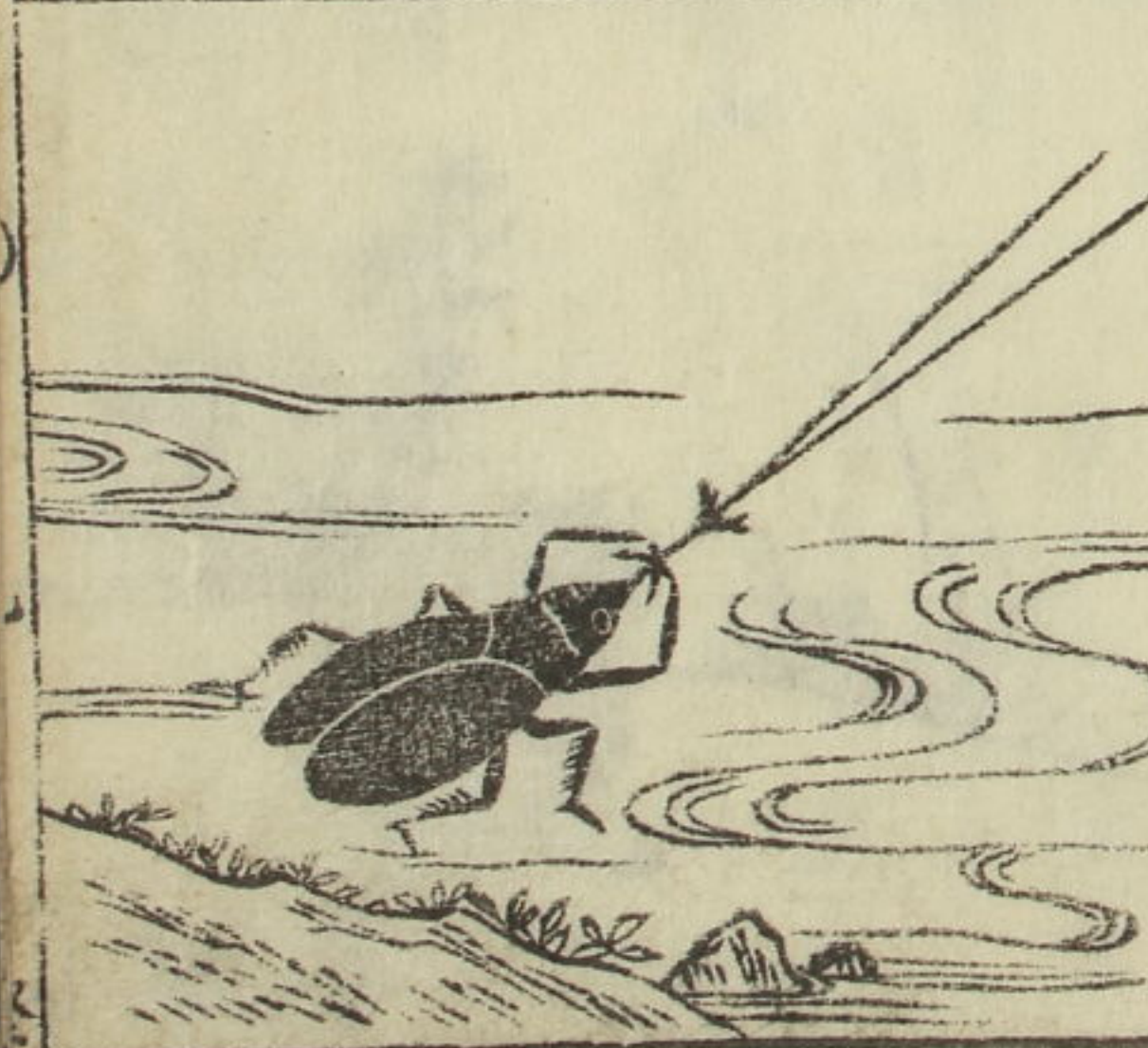
菊虎

その形葉より似たり菊の苗を合せて其の宿根より化すといふ小虫



蟻

飛龍と似て長三寸其色黒し背上有角あり口より毒を吐く如く人にとりて死に



水虎水虎
狀三四歳の
小虎のしし
甲の鱗あり
西のししより
大い虎に似
たり掌の爪
とせしむ
勝と出し
人より小
児弄れし後
喫ひ



謝豹出蟻謝豹出蟻
比伴ふけい
虫くじりし
恥と抱て死
し人の魄
故とけりて
とけいはこ
とせしむ
唐の辰成文
のしし



無二祖六法之傳。皆不能以通神矣。始者才
令所筆。抹末。免仲。由。木。初。昭。君。之。惟。情。
之。病。初。者。宜。怒。正。焉。

浪華 畫者 橘有稅



寶文堂藏板豫顯目錄

大坂心齋橋筋安堂寺町
南江入西側書林秋田屋

大野本市兵衛

唐士訓蒙圖彙十冊

後素軒橋守國画

此書ハ唐去のししと記と天地日月山川名勝け家文及秘案登
人賢人佛像仏家系圖のふる上り捺捺拳ホの家名被被也云海茶
本茶種の粒倉穀粒是物魚粒の粒く異類はあく異形あく初れ
難れ也之り初心のは安き換取はふいどん

畫本故事談九冊

和清の故本屏風繪はる物語
ふあけ家と云西工の一冊と云

畫筌七冊

彩色法具は換人物の画法
ふ水名一切れはなむん

畫典通考十冊

故事法ふりれりし和清乃な
まを集めふあむるくりし

畫本圖編三冊

戲筆の家名法を考へ
りた家と云法の傍りた

佛像圖彙四冊

諸法法佛咽と天竺の家像
佛をたると云くりし

繪本操抄三冊

女の及訓のふき今れは女
賢女と云り出出 國画と云

畫本手鑑六冊

法眼春ト纂
和清のてと手は模案一画の
なまををふり西工の一冊と云

欄間圖式三冊

らるる彫物の家改また彫物
かゆり直るるは信と云り

和漢名畫苑六冊

法眼春ト纂
流名と初分はてまの景と云り

梅道人墨竹譜一冊

梅道人の竹の譜と云り
を法の竹は景と云りふか

畫史會要六冊

名画花は後編和清古事乃
家名と云りあけは法手云

女武勇粧競三冊

法眼春ト纂
法眼春の信ふふと云り
はくんと云武勇の家と云り

和漢三才圖會 全十冊

寺嶋良安著

和漢の善相と出づる天文地理人未だ多材富室草木禽獸魚虫の一切の事
事に及ばず一註を以て其の國と名を旧跡社傳國縁記を細細に記す

四書 全十冊

道春訓長先板を改訂し
文字の誤を讀み改む

畫品 大田春卜集 三冊

和漢の善相乃國畫法
彩色を撰寫し以て

同魚点 全十冊

文字の誤を讀み改む
書へ本をよるより

庶畫便覽 三冊

古画光琳高僧法常の
らしたるも一字一畫

新刻五經 十一冊

文字の誤を讀み改む
素讀本に厚く校訂板

時繪大全 大田春川画 五冊

一切の畫を撰寫し以て
の事と雜形を此に記す

小學句讀 四冊

全部の註を改訂し
新刻す

大明萬國九邊圖考

萬國の全圖を東西
の事と唐紙撰寫す

孟子解 七冊

孟子本文を以て註を
存し周龍海先生他

四書片假名附 三冊

道春点片カナ附し以て
清濁を分ち懷中書と

弁州尺牘解 一冊

王弁州尺牘を解し河加
河世俊先生著周自野先生序

古文片假名附 一冊

道春点片カナ附し以て
清濁を分ち懷中書と

分類故事要語 十冊

古語小引を以て教訓乃
故事を多し以て書

三體詩片假名附 二冊

片假名附改訂し以て
清濁を分ち懷中書と

世説故事苑 八冊

年中の故事を以て書
出づる書世説正統なり

同中本繪入 一冊

片假名附改訂し以て
清濁を分ち懷中書と

掌中詩聯 一冊

折本 唐明時代の文字切韻楚韻
字分に出し懷中の書と

袖玉字林集韻 一冊

字彙西引文字數多し
平仄改訂し以て

小篆和玉篇綱目 一冊

西引小篆字と和玉篇書の
併し小篆を以て

四聲字林集韻大成 一冊

西引文字を諸四書を分ち
おと韻字と附詩を以て

貴貞貞志 一冊

龍州盧著 明地理と國解と十二省書
今地名と記し待考を以て

當流謠本 九冊

親世流の文章平かな
字名入し以て

增續大廣益會玉編大全 十二冊

毛利貞著 画引字彙小首末とこと
文字の整理を以て

大成小諷和合樂 一冊

親世流の文章平かな
字名入し以て

郡玉以呂波韻 一冊

先板小を方余字を以て
改訂し四聲韻字附し

當流小諷梁塵集 一冊

親世流の文章平かな
字名入し以て

四聲以呂波韻 一冊

先板に諸字と四聲韻字
本多附和訓を加し

花道全書 四冊

之花養生花の法と
を以て撰寫す

懷宝以呂波韻 一冊

和訓を附し懷中小本に
以て待考を以て

子昂楷書千字文 一冊

趙子昂先生肉筆
僅小彫刻し以て

庭訓往來 一冊

紗池流宮澤美孫と寫し
彫刻し以て待考を以て

樟葉道心因話錄 三冊

條塚の道心因話の事
記し諸宗初化の事

養拙千字文 二冊

守好長抄を撰寫し石刻
し以て待考を以て

廿五箇所案内記 二冊

園本八所所を撰寫し
案内記を撰寫す

山本序周先生著

文林節用筆海大全

全一冊

書札用文章に甚多板行有れを便利なる今文章子余通をあらび文章の下に二行に分ちて智文章とく人(上)下(下)の字と附て者早の文法成りしむ具外頭出書札常用の字をくくくして書札の傳授をゆくと出さるるの品と集め

大萬節用字海大成

一冊

節用集文字成り一冊に分ちて一冊と一冊とに

女節用文字袋

一冊

先板文字成り一冊に分ちて一冊と一冊とに

寶曆節用字海藏

一冊

十二の節用文字と増補一紙頁をいりて大冊と紙

女源氏教訓鑑

一冊

源氏二十帖の法抄巻(抄)女を注の品とあつり

百萬節用寶乘藏

一冊

節用集文字成り一冊に分ちて一冊と一冊とに

女源氏教訓室鑑

一冊

先板文字成り一冊に分ちて一冊と一冊とに

新編書札指南

一冊

用大集の二冊に分ちて一冊と一冊とに

藏旨百首

六冊

友舟懐秘能教訓の古言にいろいろに故事と引て教訓の

筆法用之智海袋

一冊

御家流用文章に重法乃

吾妻百人一首室草

一冊

百人一首其外女中れま

連玉用文章法藏

一冊

長友松平の文章の二冊

女撰要秘園藏

一冊

百人一首女用文章具外

女節用密粟袋

一冊

女用文章(門)の多し一具外

花福百人一首都深

一冊

百人一首女教訓れま

百人一首浪花海

一冊

百人一首女教訓具外初

湖月百人一首花珍

一冊

百人一首小余の狂具外初女

類葉百人一首千種織

一冊

日交河の末のり出

うとゆり物

二冊

為るるものり出

不断重法記大全

二冊

多代記長曆使宛らん

念佛明導割

二冊

風潭和尚の能く法書の

増補家傳預藥集

七冊

丸散丹練の法成り

念佛明導割

二冊

風潭和尚の能く法書の

刪補家傳預藥集

一冊

増補湯茶のり茶法

金集談

四冊

法書の怪談を後入に

醫方筆記

五冊

先醒丹の法成り

明君寶鑑

三冊

明君の行蹟を引て君子

新製齋記

五冊

茶法の法成り

風狂文章

五冊

古文真室の文成り

藥品辨惑

二冊

久口先生著薬品のり

袖玉年代記

一冊

増補一室のり

醫方歌活

一冊

汪昂詠養丸の法成り

本朝武家系圖

五冊

法系系圖傳記を引て

本朝武家評林 五冊

多田海仲より楊正成を九四百年の居軍功と云々記す保元平治源平盛衰記を記す記す時代を記す附録小法家の系圖を記す

九加諸將軍記 十冊

大友宗元毛利元就同族同族諸將の事記す

平泉實記 五冊

義経奥の事記す

楠一卷書 一冊

楊正成軍法の書軍字陣の事記す

南方艸木帖 二冊

晋書合卷本志成陷して書く書也

傷寒論國字解 六冊

全文を改正し片かなる解以雲林院了作述

金匱要略國字解 六冊

同作合巻要略成

同中編下編 四冊

同作 刻

大魁訓蒙品字選 一冊

節用集文字を増し要用の事記す

諸葛孔明異傳 七冊

孔明討魏一代の軍功の事記す

美談經千本抄 五冊

判本初の事記す

五代古状往來 一冊

古状往來の事記す

立花初心鈔 三冊

立花生花の口傳本

初學用文章 一冊

三つ切小本より中

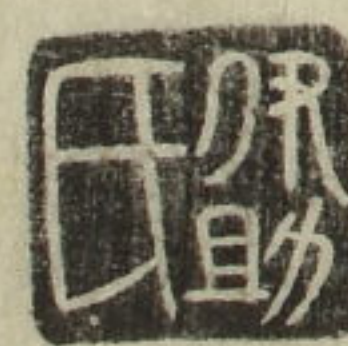
金玉畫府 六冊

法橋月圓雪鳥畫古

畫本千金寶 三冊

越鳥齋山本五菴畫

多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者之所宜潛心也。此書就天地人物圖之說之。裁為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所収載皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆貽嘲。專庵頃有此選。予與校讎。因附一辭于卷尾云。享保己亥。攝江穗積。以貫伊助甫跋。



享保己亥歲
孟陽吉日
書肆

大坂安堂寺町心齋橋
大野木市兵衛
江戸日本橋南一丁目
須原茂兵衛

